リハビリテーション学科

【科目名】	基礎ゼミⅠ			【担当教員】	星野　浩通
【授業区分】	教養分野(導入教育)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	hoshino@nur.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー)	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

大学生である意識を持ち、社会人に必要な心構えと将来の道を明確にするための基礎であることを自覚して取り組むこと。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

積極的に参加し、多くの知識や見解を学ぶこと。

【講義概要】

(目的)

大学教育のはじめにあたり、これからの生活や学習への心構え、学習環境の理解や利用方法、健康的な生活のための知識を学習する。また、臨床実習や就職後の職場環境に柔軟に対応・適応すべく、社会人・職業人としての心構えや行動様式を理解し、実践、習慣化できるようにする。また地域社会への参加などを通じて社会人としての基礎を養う。
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1,P-1,O-1,S-3,R-1

(方法)

本科目は主として「大学生・医療人としての心構え」、「大学生としてのマナーの基本」、「図書館の利用と文献検索の仕方」などを講義する。

【一般教育目標(GIO)】

・大学生や医療人に必要とされる資質を身につける。
・大学生活に必要な知識を身につける。
・目標を達成させるための手段を身につける。

【行動目標(SBO)】

・大学生として必要な行動ができるようになる
・集団活動の中で協調に活動ができる。

【教科書・リザーブドブック】

必要に応じて、資料を配布

【参考書】

特になし

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のGPA 制度に従う。
出席点は評価に含みません。
試験は行わず、レポート、成果発表にて評価を行います。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				50	50				100
評価指標	取り込む力・知識								
	思考・推論・創造の力			10					10
	コラボレーションとリーダーシップ			10	10				20
	発表力			10	20				30
	学修に取り組む姿勢			20	20				40

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	オリエンテーション	講義 星野浩通	配布資料確認	15分
2	オリエンテーション（新入生宿泊研修について）	講義 学生支援企画委員会（栗原）	配布資料（研修のしおり）	15分
3	学生生活について SNS　IT関連	講義 学生支援委員会 星野	配布資料	15分
4	学生生活について 感染症	講義 学生支援委員会 星野	配布資料	15分
5	新入生宿泊研修 グループ活動	演習 学生支援企画委員会	グループでの演習で積極的に議論する	45分
6	新入生宿泊研修 うどんつくり	演習 学生支援企画委員会	グループでの演習で積極的に議論する	45分
7	新入生宿泊研修 グループディスカッション①	演習 学生支援企画委員会	グループでの演習で積極的に議論する	45分
8	新入生宿泊研修 グループディスカッション②	演習 学生支援企画委員会	グループでの演習で積極的に議論する	45分

9	新入生宿泊研修 グループディスカッション③	講義 学生支援企画委員会	グループでの演習で積極的に議論する	45分
10	学生生活について （アルコール・薬物・タバコについて）	講義 学生支援企画委員会 星野	配布資料	15分
11	学生生活について （交通安全指導）	講義 村上警察 新潟県警	配布資料	15分
12	自己啓発 （マイナビ）	講義 マイナビ	配布資料	15分
13	自己啓発 （マイナビ）	講義 マイナビ	配布資料	15分
14	図書館利用方法・文献検索	講義 図書委員会	配布資料	15分
15	図書館利用方法・文献検索	講義 図書委員会	配布資料	15分

リハビリテーション学科

【科目名】	基礎ゼミⅡ			【担当教員】	松林　義人
【授業区分】	教養分野(導入教育)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	matsubayahi@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 火：12時50分～13時20分	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・基礎ゼミⅠを履修していることが条件。
・地域を理解し、イベントに関するルールを遵守すること。秩序を乱し、イベントやボランティア活動に参加しない場合は、履修を認めない場合があるため注意すること。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・オリエンテーションで説明する。
・提出したレポートはゼミ教員が保管し、今後のゼミ活動に使用します。（閲覧はゼミ教員と通じて可能です）

【講義概要】

(目的)

大学教育のはじめにあたり、これからの生活や学習への心構え、学習環境の理解や利用方法、健康的な生活のための知識を学習する。また、臨床実習や就職後の職場環境に柔軟に対応・適応すべく、社会人・職業人としての心構えや行動様式を理解し、実践、習慣化できるようにする。また地域社会への参加などを通じて社会人としての基礎を養う。
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1,2

(方法)

少人数に分かれグループとして「地域に関わる演習」を実施する。内容は地域イベント・ボランティアなどへの参加を体験し、地域の課題解決に向けて結果をレポートとしてまとめる。

【一般教育目標(GIO)】

・今後の地域課題を理解する。
・地域でのイベントやボランティアを通して、社会人・職業人としての心構えを理解することができる。

【行動目標(SBO)】

・地域課題に対して、自ら考えることができるようにする。
・社会人・職業人として必要な行動を実践・習慣化できるようにする。

【教科書・リザーブドブック】

特になし

【参考書】

特になし

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学学則規定のGPA 制度に従う。
・出席点は評価に含みません。
・成績評価は、レポートにより評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				100					100
評価指標	取り込む力・知識								
	思考・推論・創造の力			20					20
	コラボレーションとリーダーシップ			20					20
	発表力			10					10
	学修に取り組む姿勢			50					50

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	オリエンテーション グループ分け	講義・演習：松林	地域のイベント・ボランティアを理解し、どこに参加するかを検討しておくこと。	15分
２～１３	イベント・ボランティア参加	演習・実践	イベント・ボランティアの内容を理解し、積極的に参加するための心構えを考えること。	60分
１４・１５	参加報告（ゼミ単位）	演習	発表にむけた準備を行うこと。	60分

リハビリテーション学科

【科目名】	基礎ゼミⅢ			【担当教員】	浅海　岩生
【授業区分】	教養分野(導入教育)	【授業コード】	1-00-0015-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	igasami@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 月～金 8:30-18:00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・この科目は基礎ゼミⅢ・Ⅳのセット履修となっています。
・この科目は選択科目ですが、これからの学生生活の上で重要となってくる能力を身に付ける科目ですので、できるだけ受講してください。
・指定された担当教員と連絡を取り実施日程を調整すること。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・担当教員別グループ活動の出席は、「学修研修手帳」に検印してもらうこと。(これが出席簿の代わりとなります。)
・試験結果・レポートは他に支障のない限り返却します。

【講義概要】

(目的)

将来の福祉・医療現場では、日々他者と接触しながら、多くの人間関係の中で仕事を行っている。
その場合、基礎学力や専門知識・技術は云うに及ばず、他者とのコミュニケーション能力、及び迅速かつ適切な実行力が求められる。本セミナーを通して、 いわゆる「社会人としての基礎力」、「課題解決していく能力」、「調査・研究の基礎」 を身につけることを目的とする。
・当該科目と学位授与方針等との関連性; A-3

(方法)

本セミナーでは、専攻に関わらず、全学生を少人数グループに分けて実施する。指導教員グループごとに学生自らがテーマを設定し、その調査・研究活動を通して、多様な他者とともに協同・協力し講義を行う。設定するテーマはリハビリテーション医療に関わるものとします。

【一般教育目標(GIO)】

・他者とのコミュニケーションの取り方・協力の重要性について学ぶ。

【行動目標(SBO)】

・他者との円滑なコミュニケーションや協力関係が樹立できる。
・調査・研究の基礎的知識を得る。

【教科書・リザーブドブック】

・必要に応じ資料を配布する。

【参考書】

・必要に応じ資料を配布する。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学学則規定のGPA 制度に従う。
・担当教員による個別評価
・グループ発表得点、最終レポート
・出席点は評価に含みません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				30	30		30	10	100
評価指標	取り込む力・知識			15					15
	思考・推論・創造の力			15					15
	コラボレーションとリーダーシップ				15		20		35
	発表力				15				15
	学修に取り組む姿勢						10	10	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1,2	・オリエンテーション ・研究倫理について(e-learningの方法)	講義・浅海	・各自行いたい研究テーマを3つ考えておく。 ・研究倫理について復習する。	15分 15分
3,4	ゼミ活動-1	担当教員・グループ学修	担当教員の指示に従ってください。	
5,6	ゼミ活動-2	担当教員・グループ学修	担当教員の指示に従ってください。	
7,8	ゼミ活動-3	担当教員・グループ学修	担当教員の指示に従ってください。	
9,10	ゼミ活動-4	担当教員・グループ学修	担当教員の指示に従ってください。	
11,12	ゼミ活動-5	担当教員・グループ学修	担当教員の指示に従ってください。	
13,14	ゼミ活動-6	担当教員・グループ学修	担当教員の指示に従ってください。	
15	ゼミ活動-7(45分) ・ゼミ内での中間発表(試験に替える。)	担当教員・グループ学修	担当教員の指示に従ってください。	

リハビリテーション学科

【科目名】	基礎ゼミⅣ			【担当教員】	浅海　岩生
【授業区分】	教養分野(導入教育)	【授業コード】	1-00-0015-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	igasami@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 月～金 8:30-18:00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・この科目の履修は基礎ゼミⅢを受講していることが前提です。
・この科目は選択科目ですが、これからの学生生活の上で重要となってくる能力を身に付ける科目ですので、できるだけ受講してください。
・指定された担当教員と連絡を取り実施日程を調整すること。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・担当教員別グループ活動の出席は、「学修研修手帳」に検印してもらうこと。
・試験結果・レポートは他に支障のない限り返却します。

【講義概要】

(目的)

将来の福祉・医療現場では、日々他者と接触しながら、多くの人間関係の中で仕事を行っている。
その場合、基礎学力や専門知識・技術は云うに及ばず、他者とのコミュニケーション能力、及び迅速かつ適切な実行力が求められる。本セミナーを通して、 いわゆる「社会人としての基礎力」、「課題解決していく能力」、「調査・研究の基礎」 を身につけることを目的とする。
・当該科目と学位授与方針等との関連性； A-3

(方法)

本セミナーでは、専攻に関わらず、全学生を少人数グループに分けて実施する。指導教員グループごとに学生自らがテーマを設定し、その調査・研究活動を通して、多様な他者とともに協同・協力し講義を行う。設定するテーマはリハビリテーション医療に関わるものとします。

【一般教育目標(GIO)】

・他者とのコミュニケーションの取り方・協力の重要性について学ぶ。

【行動目標(SBO)】

・他者との円滑なコミュニケーションや協力関係が樹立できる。
・調査・研究の基礎的知識を得る。

【教科書・リザーブドブック】

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学学則規定のGPA 制度に従う。
・担当教員による個別評価
・グループ発表得点、最終レポート
・出席点は評価に含みません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				30	30		30	10	100
評価指標	取り込む力・知識			15					15
	思考・推論・創造の力			15					15
	コラボレーションとリーダーシップ				15		20		35
	発表力				15				15
	学修に取り組む姿勢						10	10	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1,2	ゼミ活動-8	講義・浅海	担当教員の指示に従ってください	
3,4	ゼミ活動-1	担当教員	担当教員の指示に従ってください。	
5,6	ゼミ活動-2	担当教員	担当教員の指示に従ってください。	
7,8	ゼミ活動-3	担当教員	担当教員の指示に従ってください。	
9,10	ゼミ活動-4	担当教員	担当教員の指示に従ってください。	
11,12	ゼミ活動-5	担当教員	担当教員の指示に従ってください。	
13,14	発表会-1	浅海・担当教員	・発表の準備 ・まとめレポートの作成	
15	発表会-2	浅海・担当教員	・発表の準備 ・まとめレポートの作成	

リハビリテーション学科

【科目名】	臨床倫理学			【担当教員】	村井　絹子
【授業区分】	教養分野(人文科学)	【授業コード】	1-01-0020-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	murai@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 月曜・木曜　8：30～17：30	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

この科目は、臨床で求められる「医の倫理」感を身に着ける基礎となる。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

特記なし

【講義概要】

(目的)

医療従事者には、一般の人よりも多くの「医の倫理」として守らなければならない約束事がある。臨床現場から外れた行動をしないよう自己啓発に向け修養する。またリハビリテーション学科学生の選択科目ということもあり、生命倫理学を中心に、現代医療をめぐる諸問題を題材に多角的に捉え考えて、視野を広げる機会とする。

(方法)

教科書を中心に講義・GWを行い、様々な視点から「真の医療」ということについて学習する。

【一般教育目標(GIO)】

・医療従事者としての倫理感を身に付ける。
　将来、医療に関わる専門職として、なぜ今、医療において倫理が問われるのか、患者の人権や自立の尊重がなぜ大切なのかについて考える基礎的知識の基盤作りを行う。一人ひとり異なる価値観を有する他者の気持ちをより理解し、医療に携わる専門職として、医療を提供できる柔軟な思考と態度を養うことを教育目標とする。

【行動目標(SBO)】

・今後の医療従事者として倫理ある行動をとる。
・倫理について説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

伏木信次〔他〕編、「生命倫理と医療倫理」 金芳堂 改3 版 ￥2,600

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のGPA 制度に従う。
100 点満点で60 点以上を合格とする。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70			30				100
評価指標	取り込む力・知識	70							70
	思考・推論・創造の力				20				20
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2	医療の歴史と倫理問題の提起	講義		90
3.4	医療者と患者の関係 ﾊﾟﾀｰﾅﾘｽﾞﾑとｲﾝﾌｫｰﾑﾄﾞ・ｺﾝｾﾝﾄ	講義	教科書P.20～P.30	90
5.6	医療倫理と原則 研究と倫理、個人情報の保護と倫理を含む	講義	教科書P.168～ P.194	90
7.8	生命誕生のあらまし 出生前診断、胚選別、妊娠中絶 生殖補助医療と親子関係 子どもの知る権利	講義	教科書P.44 ～P.61 教科書P.63～P.70	90
9.10	臓器移植と脳死、 人工臓器と治療中止 リハビリをいつまで続けるのか	講義	教科書P.96～P.107	90
11.12	終末期医療、安楽死と尊厳死	講義	教科書P.82～P.94 教科書P.108～P114.	90
13.14	救急医療、災害医療と倫理 通信手段の進歩に伴っておこる新しい問題	講義	教科書P.116～P.124	90
15.16	GW/発表 【倫理とは何か】	講義		90

試験				

リハビリテーション学科

【科目名】	地域文化論			【担当教員】	桑原　猛
【授業区分】	教養分野(人文科学)	【授業コード】	1-01-0025-02	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	kuwabara@kbe.biglobe.ne.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー)授業開講日、非常勤控室で対応	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

特に無し

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・試験結果・レポートは他に支障のない限り返却します。

【講義概要】

(目的)

本講義では、地域の様々な社会的事象が歴史の中で変容し、伝統と呼ばれる「文化」を形成してきたことを確認すると同時に伝統文化がもつ諸問題点を考えてみる。

(方法)

本学の所在地である新潟県村上市の歴史と文化を主として取り上げ、さらに日本の文化や社会の知識や理解をより深めていく。

【一般教育目標(GIO)】

身近な社会的事象についての意味を考え、判断する力を身に付ける。

【行動目標(SBO)】

毎回、受講記録としてのレポートを作成させ、身近な関連事象を探らせたり、知識を深めたりする。

【教科書・リザーブドブック】

毎回印刷配布する。

【参考書】

村上地区まちづくり協議会編「城下町探検ガイド」Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

毎時間、講義内容に関するレポートを提出させる。
最終日に課題を提示し、1週間後にレポートを提出させ、内容を評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				100					100
評価指標	取り込む力・知識			40					40
	思考・推論・創造の力			40					40
	コラボレーションとリーダーシップ			0					0
	発表力			0					0
	学修に取り組む姿勢			20					20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	講義概要のガイダンス 村上城下の近世から現代までの変遷 城下町の形成と歴史及び風土から、村上の特性と文化の背景を探る。	提供資料及びパワーポイントスライドによる講義	（復習） 村上市内を歩き城下町の構成を探索する。	
3-4	町谷の構造と伝統行事との関係 伝統行事と町家構造について、他地域の事例との比較から、村上・岩船・瀬波と町家の構造を探る。	提供資料及びパワーポイントスライドによる講義	（復習） 村上・岩船・瀬波の町やを訪ねて、事例を探索する。	
5-6	重要無形民俗文化財としての村上の祭り-Ⅰ しゃぎり屋台 全国の山・鉾・屋台の事例（歴史・構造・分類）から、村上・岩船・瀬波のしゃぎり屋台の特性を探る。	提供資料及びパワーポイントスライドによる講義	（復習） おしゃぎり会館にて実際に屋台を見学して構造を探索する。 ※この場合学生は入場無料とする。	
7-8	重要無形民俗文化財としての村上の祭り-Ⅱ 祭礼行事と屋台巡行 神社の本祭（神事）と付け祭りとしての屋台巡行における村上大祭の特異性を探る。	提供資料及びDVD視聴及びパワーポイントスライドによる講義		
9-10	伝統行事が抱える課題と今後の展望 全国的にも、少子高齢化によって伝統行事等の存続、継承が危機に瀕している。これにどう対応していくかを探る。	提供資料及びパワーポイントスライドによる講義		
11-12	村上の鮭文化を探る-Ⅰ 鮭の生態と漁獲 回帰性、産卵とふ化、今の捕り方 回帰率を高める取組	提供資料及びパワーポイントスライドによる講義	（復習） イヨボヤ会館を見学して村上と鮭との関係を探索する。 ※この場合学生は入館無料とする。	
13-14	村上の鮭文化を探る-Ⅱ 村上藩の政策と漁民 青砥武平治と天然産卵の保護 士族授産と人口ふ化事業	提供資料及びパワーポイントスライドによる講義	（予習課題） 村上の鮭料理について２種類以上調べてくる。	
15	村上の鮭文化を探る-Ⅲ 村上の伝統的な鮭料理 まとめレポートの課題提示	提供資料及びパワーポイントスライドによる講義 調査結果の発表	調べた鮭料理を発表する。	

リハビリテーション学科

【科目名】	日本語表現法			【担当教員】	上松　恵理子
【授業区分】	教養分野(人文科学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	uematsu@star.rcast.u-tokyo.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー)授業開講日、非常勤講師室で対応	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

正しい日本語を話したい、書きたいと思っている人なら誰でも習得可能

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

この科目では毎回の積み重ねで授業を行いますのでなるべく遅刻・欠席をしないようにしてください。

【講義概要】

(目的)

正しい日本語の使い方やその背景等を学習するとともに、情報社会にめられる言語のリテラシー能力を理解する。この授業を受講することで、様々な医学療法における報告レポートや論文等を書いたり、授業のノートテイクしたりするために必要な、基本的な日本語に関する文法や表現法を理解できるようになる。

(方法)

基本的な日本語のルールや使い方を学習し、単文やレポート、学術論文、インターネットの上のニュース記事、プログラミング言語等を題材にして、より正しい日本語を学習する。

【一般教育目標(GIO)】

・大学生として必要な言語スキルを身につけるために様々な日本語の表現を理解する
・講義を理解するために必要なノートテイクができるようになる
・医学療法の実験などのレポートや論文を書く際の方法について理解する

【行動目標(SBO)】

・日本語の使い方を理解することができる
・様々な場面に応じた言語を使いこなすことができる
・様々な文章を目的に応じて書いたり話たりすることができる

【教科書・リザーブドブック】

上松恵理子「小学校にプログラミングがやってきた！超入門編」三省堂、2016年、1200円（税別）

【参考書】

講義内で適宜資料を配布

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う、
出席、授業態度、レポート、試験を総合的に判断、評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80		20					100
評価指標	取り込む力・知識	30		20					50
	思考・推論・創造の力	40							40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢	10							10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	国語表現の課題について メモとノートテイク	講義と実践	講義内で適宜指示	40
2	大学の授業におけるレポートの基本 社会に適応したメールの書き方	講義と実践	講義内で適宜指示 授業外の学習も適宜指示	40
3	課題設定と文章の書き方	講義と実践	講義内で適宜指示	40
4	課題設定とグループディスカッション	講義と実践	講義内で適宜指示 授業外の学習も適宜指示	40
5	文章を書くための資料の収集方法	講義と実践	講義内で適宜指示	40
6	図書館での資料収集 インターネット検索について	講義と実践	講義内で適宜指示 授業外の学習も適宜指示	40
7	小論文を書くための資料の調べ方と調査の方法	講義と実践	講義内で適宜指示	40
8	小論文を書くためのアンケートの取り方	講義と実践	講義内で適宜指示	40

9	レポートの書き方１ 研究計画の立て方	講義と実践	講義内で適宜指示	
10	レポートの書き方２ 表現の方法と引用	講義と実践	講義内で適宜指示	
11	レポートの書き方３ 論理的な文章の書き方	講義と実践	講義内で適宜指示	
12	まとめと校正 発表準備	講義と実践	講義内で適宜指示	
13	発表	講義と実践	講義内で適宜指示	
14	発表と感想文の書き方	講義と実践	講義内で適宜指示	
15	論文提出の方法とまとめ	講義と実践	講義内で適宜指示	

リハビリテーション学科

【科目名】	心理学概論Ⅰ			【担当教員】	宮岡　里美
【授業区分】	教養分野(人文科学)	【授業コード】	1-01-0035-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	miyaoka@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 月～金12:40-13:30,他研究室在室時	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

※本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療及び地域保健機関で言語・高次脳機能障害及び摂食嚥下機能障害等のﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝに従事してきた経験から、人の心や行動の基本的な仕組みとはたらき及び心のケアについて講じていきます。
心理学の基礎知識は、多種多様な専門職のすべての人に必要なものとなっています。特に、将来、医療・保健・福祉・教育等の分野で活躍することを希望する場合には受講していただきたいと思います。
本科目は、リハ心理学専攻の学生にとっては必修、認定心理士または公認心理師の資格を取得するための指定科目です。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

この科目では20分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。
他者に迷惑となる行為が認められた場合は、講義室から退出していただきます。
試験結果・授業中に実施した心理テスト等のデータは、支障のない限り返却します。
資料は全受講生に配付します。欠席した場合には、後日担当者から受け取り、必ず参照しておいて下さい。
講義後にレポートを課す場合があります。また、心理テストも授業時間内に随時実施していきます。

【講義概要】

(目的)

①心理学の成り立ち（心理学の歴史）と、②人の心の基本的な仕組み及び働きについて学んでいきます。
心理学における代表的分野について、それぞれの歴史的経緯と基礎知識を学び、人間の行動についての理解を深めていきます。
医療、保健、福祉等の臨床現場で、対象者の“こころ”を推察し、適切な配慮ができるよう、臨床応用にも触れていきます。
当該科目と学位授与方針との関連性; A-2, P-1, O-1, S-3, R-2

(方法)

Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。
毎回、講義スライド資料を配布します。関連資料がある場合にはそれも配布します。
内容は、原則、指定教科書に準じます。

【一般教育目標(GIO)】

心理学・臨床心理学の成り立ちについて概説できる。
人の心の基本的な仕組み及び働きについて概説できる。

【行動目標(SBO)】

科学としての心理学の成立までの経緯とその後の展開を概説できる。
対象者の“こころ”を推察するために、どのような観点で他者の言動を観察すればよいのかを説明できる。
各領域における心の“問題”や“障害”を知る。
それぞれの問題や障害に対する対処法を説明でき、実践することができる。

【教科書・リザーブドブック】

二宮克美編著「ベーシック心理学」第2版, 医歯薬出版, 2016/9/2,　2,900円＋税

【参考書】

繁枡算男（編集）「心理学概論（公認心理師の基礎と実践　第２巻）」遠見書房, 2018/4/3, 2,592円
フレデリックセン他(著)　内田一成（監訳）「ヒルガードの心理学　第16版」 金剛出版,　2015/9/25, 23,760円
梅本堯夫/大山正編著「心理学への招待 ～ こころの科学を知る ～ 」サイエンス社, 1992年, 1942円＋税

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80				20			100
評価指標	取り込む力・知識	40							40
	思考・推論・創造の力	20							20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力	20							20
	学修に取り組む姿勢					20			20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	心理学の歴史① ・近代心理学の成立について学ぶ	講義	指定教科書p. 204-207 ・構成主義 ・ゲシュタルト心理学、精神分析学、行動主義、新行動主義 ・認知心理学、認知神経科学	10
2	心理学の歴史② ・臨床心理学の成立について学ぶ	講義	・生物心理社会モデル ・精神力動/認知行動/人間性アプローチ　・ナラティブアプローチ、社会構成主義	10
3	「知覚」 ・知覚成立の基礎 ・物理的環境と心理的環境	講義	指定教科書p. 2-5 ・知覚はどのように成り立っているのかを知る	10
4	「知覚」 ・知覚の体制化 ・図と地	講義 一部演習	指定教科書p. 5-9 ・知覚成立の特徴を知る	10
5	「知覚」 ・時間・空間・運動の知覚	講義	指定教科書p. 10-12 ・自己や環境を知覚する際の多感覚相互作用を理解する	10
6	「知覚」 ・知覚の諸相	講義 一部演習	指定教科書p. 12-14 ・注意や欲求が知覚に及ぼす影響を理解する	10
7	「学習」 ・古典的条件づけ/オペラント条件づけ	講義	指定教科書p. 15-19 ・学習の定義を説明できる ・学習成立の主なメカニズムを学ぶ	10
8	「学習」 ・観察学習	講義	指定教科書p. 19-20 ・社会的行動における観察学習の重要性を理解する	10

9	「記憶」 ・記憶のメカニズム	講義	指定教科書p. 20-23 ・記憶のモデル構造やその過程を理解する ・記憶の測定法を学ぶ	10
10	「記憶」 ・忘却/記憶の歪み/病理	講義 一部演習	指定教科書p. 24-26 ・日常場面における記憶現象を知る ・忘却の要因を学ぶ ・記憶の歪みや病理を理解できる	10
11	「動機づけ」 ・動機づけの分類と機能	講義	指定教科書p. 27-34 ・動機づけの分類とメカニズムを学ぶ ・動機づけの適応的機能が理解できる	10
12	「欲求」 ・自己効力/学習性無気力 ・演習　セルフエフィカシーの測定	講義 一部演習	指定教科書p34-38 ・やる気の生起または消失の要因を知る ・セルフエフィカシーを説明できる	10
13	「感情」 ・感情の分類 ・感情発生のメカニズムと機能	講義	指定教科書p. 39-45 ・感情発生の機序を知る ・感情の種類を知る ・感情の適応的機能を理解する	10
14	「感情」 ・フラストレーションとその耐性 ・ストレス	講義 一部演習	指定教科書p. 45-52 ・欲求とコンフリクト場面の関係を説明できる。 ・ストレスとその対処法を理解できる	10
15	まとめ	講義	人の心の基本的な仕組みとその働きを説明できる	10

リハビリテーション学科

【科目名】	心理学概論Ⅱ			【担当教員】	宮岡　里美
【授業区分】	教養分野(人文科学)	【授業コード】	1-01-0035-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	miyaoka@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 月～金9:00-17:30(講義時間帯以外)	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

※本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療及び地域保健機関で言語・高次脳機能障害及び摂食嚥下機能障害等のﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝに従事してきた経験から、人の心や行動の基本的な仕組みとはたらき及び心のケアについて講じていきます。
心理学の基礎知識は、多種多様な専門職のすべての人に必要なものとなっています。特に、将来医療・保健・福祉・教育等の分野で活躍することを希望する場合には受講していただきたいと思います。
本科目は、リハ心理学専攻の学生にとっては必修であり、認定心理士または公認心理師の資格取得のための指定科目です。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

この科目では20分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。
他者に迷惑となる行為が認められた場合は、講義室から退出していただきます。
試験結果・授業中に実施した心理テスト等のデータは、支障のない限り返却します。
資料は全受講生に配付します。欠席した場合には、後日担当者から受け取り、必ず参照しておいて下さい。
講義後にレポートを課す場合があります。また、心理テストも授業時間内に随時実施していきます。

【講義概要】

(目的)

①心理学の成り立ち(歴史)と、②人の心の基本的な仕組み及び働きを学びます。
心理学における代表的分野について、それぞれの歴史的経緯と基礎知識を学び、人間の行動についての理解を深めていきます。
医療、保健、福祉等の臨床現場で、対象者の“こころ”を推察し、適切な配慮ができるよう、臨床応用にも触れていきます。
当該科目と学位授与方針との関連性; A-2, P-1, O-1, S-3, R-2

(方法)

Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。
随時、関連する心理テスト等を演習形式で実施していきます。
内容は、原則指定教科書と参考書に準じます。

【一般教育目標(GIO)】

対象者の“こころ”を推察するために、どのような観点で他者の言動を観察すればよいのかを学ぶ。
他者と適切な対応ができ、必要がある場合には適切な心の支援ができる。

【行動目標(SBO)】

各領域の目的（学習到達目標）を説明できる。
各領域における“問題”や“障害”を知る。
それぞれの問題や障害に対する対処法を自身で考え、実践することができる。

【教科書・リザーブドブック】

二宮克美編著「ベーシック心理学」第2版, 医歯薬出版, 2016年,　2,900円＋税

【参考書】

繁枡算男（編集）「心理学概論（公認心理師の基礎と実践　第２巻）」遠見書房, 2018/4/3, 2,592円
フレデリックセン他(著)　内田一成（監訳）「ヒルガードの心理学」 金剛出版,　2012/5/31, 23,100円
梅本堯夫/大山正編著「心理学への招待 ～ こころの科学を知る ～ 」サイエンス社, 1992年, 1942円＋税

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80				20			100
評価指標	取り込む力・知識	40							40
	思考・推論・創造の力	20							20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力	20							20
	学修に取り組む姿勢					20			20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	「精神的健康」 メンタルヘルス/ストレス	講義	指定教科書p.48-52 ・心が健康とは何かを説明できる ・ストレスとは何かを説明できる	10
2	「精神的健康」 演習　　ストレス度の測定 医療・福祉における「コミュニケーション」 “優しい目、大きな耳、小さい口、広いこころ“	講義 一部演習	指定教科書p.150-153 ・心の健康が損なわれるとどのような状態となるのかを知る ・心の健康を測定できる	10
3	「パーソナリティ」 パーソナリティの記述	講義	指定教科書p.54-59 ・パーソナリティの特徴とその記述法を知る ・パーソナリティの主な分類法を学ぶ	10
4	「パーソナリティ」 パーソナリティの測定法	講義	指定教科書p.60-63 ・パーソナリティの測定はどのように調べられるのかを学ぶ	10
5	「パーソナリティ」 障害：境界性パーソナリティとは？	講義	指定教科書p.63-65 ・パーソナリティの障害を説明できる	10
6	「パーソナリティ」 演習：Y-G性格検査	演習	指定教科書p.60-61 ・パーソナリティを適切に測定できる	10
7	「知能」 知能の定義	講義	指定教科書p.68-71 ・知能の定義を説明できる ・知能の構造を知る	10
8	「知能」 知能の測定/知的障害	講義 一部演習	指定教科書p.71-79 ・知能をどのように測定するのかを学ぶ ・知能検査開発の歴史的経緯を知る	10

9	「思考」 思考とは？/問題解決	講義	指定教科書p. 82-86 ・「考えるとは？」を説明できる ・思考と言語の関係を理解できる ・問題を解決する方略（思考）を知る	10
10	「思考」 創造性	講義 一部演習	指定教科書p. 86-92 ・推論とその誤りを知る ・新たなものを創り出すプロセスを学ぶ	10
11	「人間関係」 対人認知/帰属理論	講義	指定教科書p. 126-131 ・他者の印象形成につて学ぶ ・自身や他者の言動の原因のとらえ方について知る	10
12	「人間関係」 対人魅力	講義	指定教科書p. 131-134 ・人を好きになる、あるいは嫌いになる要因は何かを学ぶ	10
13	「集団」 集団の心理/社会的影響	講義	指定教科書p. 136-143 ・集団の特徴と分類を学ぶ ・他者の存在が個人に及ぼす影響を説明できる	10
14	「集団」 態度	講義	指定教科書p. 143-148 ・態度の適応的機能を知る ・態度の変容を促す手法を学ぶ ・社会と個人の相互関係について理解する	10
15	まとめ			

リハビリテーション学科

【科目名】	医療行動科学Ⅰ			【担当教員】	川原　正広
【授業区分】	教養分野(人文科学)	【授業コード】	1-01-0040-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	kawahara@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー)11:00～13:30（月曜日～木曜日）	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

特になし。
＊1年生にとって入学後、日の浅い時期の講義です。
　大学の講義は自分自身の手で情報(学び)をつかむ場所であることを知ってください。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

テキストとなるプリントを配布します。
テストなどは原則として返却しません。

【講義概要】

(目的)

人間の行動の背景にあるさまざまな法則を科学的に理解する「行動科学」の基礎を身につける。とりわけ、健康を増進し、疾病からの回復を目的とする医療における患者や家族・医療従事者の人間行動特性を多角的に考察し、医療の行動目的の促進を目指す。
当該科目と学位授与方針等との関連性; A-3
当該科目と学位授与方針等との関連性; O-2

(方法)

行動科学は学際性の高い学問であることを踏まえつつ、基礎・臨床の心理学、精神医学、社会学などにおける個人や集団の行動の原理を理解する。

【一般教育目標(GIO)】

人間の行動を科学的に理解することを通して、医療者としての態度を高める。

【行動目標(SBO)】

各講義のテーマに対して主体的に問題意識をもつことができる。
各講義で説明したトピックについて説明することができる。

【教科書・リザーブドブック】

テキストとなるプリントを配布する。

【参考書】

特になし。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。
期末試験を実施する。
出席点は評価に含みません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		90						10	100
評価指標	取り込む力・知識	90							90
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	●イントロダクション-1 行動科学とはどのような学問領域か？	講義	講義ノートの完成	90
3-4	●行動科学と医療：目的・課題・方法 行動科学を医療と結びつけることの意義	講義	講義ノートの完成	90
5-6	●動機 人間の行動は何に支えられているのか	講義	講義ノートの完成	90
7-8	●自己と他者の理解・役割 相手を理解するとは何か？医療のなかで相手を理解することについて	講義	講義ノートの完成	90
9-10	●心の発達と課題 人間の成長に必要なさまざまな条件について	講義	講義ノートの完成	90
11-12	●パーソナリティ 人柄はどのようにして生まれるのか？	講義	講義ノートの完成	90
13-14	●医療者としての適性 対人援助を役割とするために必要なこと	講義	講義ノートの完成	90
15	「医療行動科学Ⅰ」まとめ	講義		45

(16) 15ｺﾏ目に 連続予定	「医療行動科学Ⅰ」試験	試験		

リハビリテーション学科

【科目名】	医療行動科学Ⅱ			【担当教員】	川原　正広
【授業区分】	教養分野(人文科学)	【授業コード】	1-01-0040-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択		
【単位数】	1	【コマ数】	１５コマ	(オフィスアワー) 11:00～13:30（月曜日～木曜日）	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

＊1年生にとって入学後、日の浅い時期の講義です。
　大学の講義は自分自身の手で情報(学び)をつかむ場所であることを知ってください。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

テキストとなるプリントを配布します。
テストなどは原則として返却しません。

【講義概要】

(目的)

人間の行動の背景にあるさまざまな法則を科学的に理解する「行動科学」の基礎を身につける。とりわけ、健康を増進し、疾病からの回復を目的とする医療における患者や家族・医療従事者の人間行動特性を多角的に考察し、医療の行動目的の促進を目指す。
当該科目と学位授与方針等との関連性; A-3
当該科目と学位授与方針等との関連性; O-2

(方法)

行動科学は学際性の高い学問であることを踏まえつつ、基礎・臨床の心理学、精神医学、社会学などにおける個人や集団の行動の原理を理解する。

【一般教育目標(GIO)】

人間の行動を科学的に理解することを通して、医療者としての態度を高める。

【行動目標(SBO)】

各講義のテーマに対して主体的に問題意識をもつことができる。
各講義で説明したトピックについて説明することができる。

【教科書・リザーブドブック】

テキストとなるプリントを配布する。

【参考書】

特になし。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。
期末試験を実施する。
出席点は評価に含まれない。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		90						10	100
評価指標	取り込む力・知識	90							90
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	●医療者のストレス 援助者自身の健康管理について	講義	講義ノートの完成	90
3-4	●医療場面での性別役割化 対人援助にみられやい性別役割について	講義	講義ノートの完成	90
5-6	●心理学的アプローチによる医療事故防止 人間は誤りをおこす存在であることを知る	講義	講義ノートの完成	90
7-8	●医療者の教育 対人援助の職業人育成に必要なこと	講義	講義ノートの完成	90
9-10	●医療場面における研究と倫理的配慮 研究を進める上で必要な約束事について	講義	講義ノートの完成	90
11-12	●社会と家族の変容 その時代の影響を受ける集団について	講義	講義ノートの完成	90
13-14	●患者とのコミュニケーション 訴えを正確に引き出し円滑な関係を築くために	講義	講義ノートの完成	90
15	「医療行動科学Ⅱ」まとめ	講義		45

(16) 15ｺﾏ目に 連続予定	「医療行動科学Ⅱ」試験	試験		

リハビリテーション学科

【科目名】	社会と健康Ⅰ			【担当教員】
【授業区分】	教養分野(社会科学)	【授業コード】	1-02-0055-0-2	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	佐々木) sasaki@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー)月木　12:40-13:30

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

医療者として、健康に対する意識を高める科目です

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

レポートを課す場合には、ほかに支障のない限り返却します。
講義の中で、実際に身体を動かしてもらう場面があるため、適宜服装を指示します。
学外での活動も含まれます。
＊当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1,2
＊当該科目と学位授与方針等との関連性：P-1,2、O-1,2、S-1,2、R-1,2

【講義概要】

(目的)

人びとの健康や病気が、社会的、経済的、政治的、環境的な条件に影響を受けることが広く認められるようになり、
その研究が進んでいる。いくつかの保健機関は、健康の社会的要素が集団や個人の快適な暮らしに大きな影響を
もたらすことを表明しており、本科目では社会と健康の関係を学習する。

(方法)

社会の仕組みと健康や病気との関わり合いを歴史的に考察し、健康に影響する社会的要因を挙げ考察してゆく。

【一般教育目標(GIO)】

・社会が健康や病気とどう関係するのかを理解する。

【行動目標(SBO)】

・健康科学と社会学系諸分野との関連について明確なイメージを所有する。

【教科書・リザーブドブック】

資料を必要に応じて配布

【参考書】

資料を必要に応じて配布

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う
出席点は評価に含まない

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				50		50			100
評価指標	取り込む力・知識			5		20			25
	思考・推論・創造の力			20		5			25
	コラボレーションとリーダーシップ			5		5			10
	発表力								
	学修に取り組む姿勢			20		20			40

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	オリエンテーション 現代社会が抱える健康問題、日常生活での活動量（1）	講義 佐々木・木村	現代の健康問題を知る 日常生活の活動量を理解できる	30分
2	現代社会が抱える健康問題、日常生活での活動量（2）	講義 佐々木・木村	現代の健康問題を知る 日常生活の活動量を理解できる	30分
3	生活習慣と糖尿病、高齢者向けの体力測定法（1）	講義 佐々木・木村	生活習慣病、糖尿病について理解できる 高齢者向けの体力測定について理解できる	30分
4	生活習慣と糖尿病、高齢者向けの体力測定法（2）	講義 佐々木・木村	生活習慣病、糖尿病について理解できる 高齢者向けの体力測定について理解できる	30分
5	高齢者向け体力測定（1）	演習 佐々木・木村	高齢者向けの体力測定を実施できる	30分
6	高齢者向け体力測定（2）	演習 佐々木・木村	高齢者向けの体力測定を実施できる	30分
7	体力測定の結果から考える運動療法（1）	演習 佐々木・木村	体力測定の結果から、必要な運動を考えられる	30分
8	体力測定の結果から考える運動療法（2）	演習 佐々木・木村	体力測定の結果から、必要な運動を考えられる	30分

9	介護予防事業における摂食嚥下障害・高次脳機能障害（１）	講義・演習 佐藤・高橋	健康寿命延伸における認知機能・食べる力の大切さを説明できる。	30分
１０	介護予防事業における摂食嚥下障害・高次脳機能障害（２）	講義・演習 佐藤・高橋	健康寿命延伸における認知機能・食べる力の大切さを説明できる。	30分
１１	第15回新潟福祉機器展への参加してのレポート作成	参加 佐藤・高橋	福祉機器とQOLとの関係について述べることができる （レポート提出）	30分
１２	第15回新潟福祉機器展への参加してのレポート作成	参加 佐藤・高橋	福祉機器とQOLとの関係について述べることができる （レポート提出）	30分
１３	第15回新潟福祉機器展への参加してのレポート作成	参加 佐藤・高橋	福祉機器とQOLとの関係について述べることができる （レポート提出）	30分
１４	第15回新潟福祉機器展への参加してのレポート作成	参加 佐藤・高橋	福祉機器とQOLとの関係について述べることができる （レポート提出）	30分
１５	まとめ	座学		30分

リハビリテーション学科

【科目名】	社会と健康Ⅱ			【担当教員】	佐々木　理恵子
【授業区分】	教養分野(社会科学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	佐々木) sasaki@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー)月木　12:40-13:30	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

医療者として、健康に対する意識を高める科目です
社会と健康Ⅰを受講していること

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

レポートを課す場合には、ほかに支障のない限り返却します。
講義の中で、実際に身体を動かしてもらう場面があるため、適宜服装を指示します。
学外での活動も含まれます。
＊当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1,2
＊当該科目と学位授与方針等との関連性：P-1,2、O-1,2、S-1,2、R-1,2

【講義概要】

(目的)

人びとの健康や病気が、社会的、経済的、政治的、環境的な条件に影響を受けることが広く認められるようになり、
その研究が進んでいる。いくつかの保健機関は、健康の社会的要素が集団や個人の快適な暮らしに大きな影響を
もたらすことを表明しており、本科目では社会と健康の関係を学習する。

(方法)

社会の仕組みと健康や病気との関わり合いを歴史的に考察し、健康に影響する社会的要因を挙げ考察してゆく。

【一般教育目標(GIO)】

・社会が健康や病気とどう関係するのかを理解する。

【行動目標(SBO)】

・健康科学と社会学系諸分野との関連について明確なイメージを所有する。

【教科書・リザーブドブック】

資料を必要に応じて配布

【参考書】

資料を必要に応じて配布

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う
出席点は評価に含まない

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				100					100
評価指標	取り込む力・知識			50					50
	思考・推論・創造の力			40					40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								
	学修に取り組む姿勢			10					10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	オリエンテーション ストレスとは？（1）	講義 阿久津・大矢	ストレッサー，ストレス反応，認知的評価，コーピングを理解できる	30分
2	ストレスとは？（2）	講義 阿久津・大矢	ストレッサー，ストレス反応，認知的評価，コーピングを理解できる	30分
3	ストレスマネジメント（1）　リラクゼーション法	講義・演習 阿久津・大矢	生リラクセーション法を実施できる	30分
4	ストレスマネジメント（1）　リラクゼーション法	講義・演習 阿久津・大矢	リラクセーション法を実施できる	30分
5	ストレスマネジメント（2）　アンガーマネジメント	講義・演習 阿久津・大矢	アンガーマネジメントを実施できる	30分
6	ストレスマネジメント（2）　アンガーマネジメント	講義・演習 阿久津・大矢	アンガーマネジメントを実施できる	30分
7	ストレスマネジメント（3）　認知的再構成法	講義・演習 阿久津・大矢	認知的再構成法を実施できる	30分
8	ストレスマネジメント（3）　認知的再構成法	講義・演習 阿久津・大矢	認知的再構成法を実施できる	30分

9	認知症予防の施策（1）	講義 長谷川・藤本	認知症予防の施策について調べる	90分
１０	認知症予防の施策（2）	講義 長谷川・藤本	認知症予防の施策について理解する	90分
１１	認知症養成サポーター（1）	講義 長谷川・藤本	認知症サポーター養成講座について調べる	90分
１２	認知症養成サポーター（2）	講義 長谷川・藤本	認知症サポーター養成講座の意義を理解する	90分
１３	介護予防の事例①	講義 長谷川・藤本	事例を通して介護予防を学ぶ	90分
１４	介護予防の事例②	講義 長谷川・藤本	事例を通して介護予防を学ぶ	90分
１５	介護予防の事例③	講義 長谷川・藤本	事例を通して介護予防を学ぶ	90分

リハビリテーション学科

【科目名】	法律と医療Ⅰ			【担当教員】	加藤　豊広
【授業区分】	教養分野(社会科学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	k3027867@kadai.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) メールにて質問・相談に応じます。	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

医療従事者として必要とされる法律の基礎知識を修得する科目です。法律の知識は医療の場だけでなく日常生活の中でも必要です。可能な限り受講するのが望ましいです。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

ノートと筆記用具を必ず持参すること。試験結果・レポートは他に支障がない限り返却します。

【講義概要】

(目的)

科学が進歩することで、医療技術が発達し、それに伴い様々な法的・倫理的問題が生じている。本科目では、主に憲法の基礎知識とそれに関連する医療上の問題を学ぶことで、医療上の法的・倫理的問題に対応できる知識を習得することを目的とする。

(方法)

授業は PowerPointのスライドを用いた説明を中心に行い配布資料を補助的に用いる。黒板は使用しない。

【一般教育目標(GIO)】

医療従事者として必要な医療に関する法学の基本的な知識を修得する。

【行動目標(SBO)】

法学について説明出来る。
憲法について説明できる。
憲法の基本的な考え方に基づき患者の権利と自己決定権について説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

教科書は用いません。資料を配布します。

【参考書】

野崎和義　「コ・メディカルのための医事法学概論」　ミネルヴァ書房　本体２５００円

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含めません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		75		20				5	100
評価指標	取り込む力・知識	65		10					75
	思考・推論・創造の力	5		5					10
	コラボレーションとリーダーシップ	5		5					10
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							5	5

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
１・２	法学の価値・特質について学びます。法と生活・法と医療の関係について学びます。	講義	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	１５分 １５分
３・４	法の目的・裁判と法の適用について学びます。法の解釈、法の体系について学びます。	講義	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	１５分 １５分
５・６	憲法とは何か（憲法の定義・意義・内容・役割）について学びます。憲法の特質について学びます。	講義	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	１５分 １５分
７・８	法の支配と法治国家について学びます。立憲主義の展開と立憲主義の現代的意義について学びます。	講義	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	１５分 １５分
９・１０	基本的人権の原理について（人権宣言の歴史と人権の観念・人権の内容と人権の主体）について学びます。	講義	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	１５分 １５分
１１・１２	基本的人権の限界である公共の福祉について学びます。私人間における人権の保障と医療パターナリズムについて学びます。	講義	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	１５分 １５分
１３・１４	私人間における人権の保障と患者の権利について学びます。患者の権利（自己決定権）をテーマとした医療ドラマを鑑賞します。	講義・DVD鑑賞	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。ドラマを鑑賞して学んだことをノートにとっておくこと。	１５分 １５分
１５	人権を守るための手段としての統治について学びます。	講義	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	１５分

リハビリテーション学科

【科目名】	法律と医療Ⅱ			【担当教員】	加藤　豊広
【授業区分】	教養分野(社会科学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	k3027867@kadai.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) メールにて質問・相談に応じます。	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

医療従事者として必要とされる法律の基礎知識を修得する科目です。法律の知識は医療の場だけでなく日常生活の中でも必要です。可能な限り受講することが望ましいです。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

ノートと筆記用具を必ず持参すること。試験結果・レポートは他に支障がない限り返却します。

【講義概要】

(目的)

科学が進歩することで、医療技術が発達し、それに伴い様々な法的・倫理的問題が生じている。本科目では、主に民法、刑法の基礎知識とそれに関連する医療上の問題を学ぶことで、医療上の法的・倫理的問題に対応できる知識を習得することを目的とする。

(方法)

授業は PowerPointのスライドを用いた説明を中心に行い配布資料を補助的に用いる。黒板は使用しない。

【一般教育目標(GIO)】

医療従事者として必要な医療に関する法学の基本的な知識を修得する。

【行動目標(SBO)】

民法について説明出来る。
民法と医療行為の関連性について説明できる。
刑法について説明出来る。
刑法と医療行為の関連性について説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

教科書は用いません。資料を配布します。

【参考書】

野崎和義　「コ・メディカルのための医事法学概論」　ミネルヴァ書房　本体２５００円

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含めません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		75		20				5	100
評価指標	取り込む力・知識	65		10					75
	思考・推論・創造の力	5		5					10
	コラボレーションとリーダーシップ	5		5					10
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							5	5

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
１・２	民法総説について学びます。民法の役割・考え方について学びます。	講義	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	１５分 １５分
３・４	財産法の仕組みである人と物、人と人の関係（医療人と患者）について学びます。財産法の仕組みである物権法と債権法の概略・民法の全体図について学びます。	講義	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	１５分 １５分
５・６	財産法の主体について学びます。医療契約を理解するために契約の成立要件と有効要件について学びます。	講義	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	１５分 １５分
７・８	医療契約の基礎となる委任について学びます。医療契約・医療事故・医療過誤について学びます。	講義	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	１５分 １５分
９・１０	刑法の機能・犯罪の定義について学びます。犯罪の成立要件について学びます。	講義	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	１５分 １５分
１１・１２	構成要件の該当性について学びます。医療行為と関連する違法性阻却事由と犯罪の成立要件としての責任について学びます。	講義	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	１５分 １５分
１３・１４	修正された構成要件（未遂・共犯）と刑法総論の全体像について学びます。生命・身体に対する罪と関連する脳死・臓器移植・尊厳死・安楽死・ＤＮＲ・医療過誤について学びます。医療者の守秘義務について学びます。	講義	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	１５分 １５分
１５	ＤＮＲ（Ｄｏ ｎｏｔ ｒｅｓｕｓｃｉｔａｔｅ）は蘇生措置拒否のことをいいます。ここではＤＮＲがテーマの医療ドラマを鑑賞します。	講義・DVD鑑賞	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	１５分

リハビリテーション学科

【科目名】	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ心理学Ⅰ			【担当教員】 川原　正広
【授業区分】	教養分野(社会科学)	【授業コード】		(メールアドレス)
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	kawahara@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 11:00～13:30（月曜日～木曜日）

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

特になし。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

テキストとなるプリントを配布しますが、「講義ノート」を作成し多くの情報を記録するよう心がけること。
テストなどは原則として返却しません。

【講義概要】

(目的)

人間の社会生活の基礎をなすコミュニケーションについて、そのさまざまな特徴や理論を心理学の視点から理解する。
コミュニケーション自体は日常の一コマであるが、それを学問的に整理し医療者・支援者としての対人関係やその研究の切り口を身につける。
当該科目と学位授与方針等との関連性; A-2
当該科目と学位授与方針等との関連性; O-2

(方法)

主として配布資料を使用して講義を行います。また必要に応じて文献を読み進めます。

【一般教育目標(GIO)】

授業で学習したことをもとに、医療者・支援者の視点からの円滑なコミュニケーションのポイントを理解する。

【行動目標(SBO)】

授業で取り上げるキーワードを説明できる。
学びを日常のコミュニケーションで意識し、実践する。

【教科書・リザーブドブック】

テキストとなるプリントを配布する。

【参考書】

特になし。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。
定期試験を実施する。
出席点は評価に含みません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		90						10	100
評価指標	取り込む力・知識	90							90
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	●イントロダクション	講義	講義ノートの完成	90
3-4	●対人コミュニケーションの社会心理学 コミュニケーション研究の切り口	講義	講義ノートの完成	90
5-6	●言語的コミュニケーション 主に言語による情報伝達	講義	講義ノートの完成	90
7-8	●非言語的コミュニケーション むしろ言語を用いない情報伝達	講義	講義ノートの完成	90
9-10	●自己開示 個人の情報をどのように伝達するか 開示と呈示の違い	講義	講義ノートの完成	90
11-12	●自己呈示-1 個人の情報をどのように伝達するか 開示と呈示の違い	講義	講義ノートの完成	90
13-14	●説得-1 相手を納得させる情報伝達	講義	講義ノートの完成	90
15	「コミュニケーション心理学Ⅰ」まとめ	講義		45

(16) 15ｺﾏ目に 連続予定	「コミュニケーション心理学Ⅰ」試験	試験		

リハビリテーション学科

【科目名】	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ心理学Ⅱ			【担当教員】	川原　正広
【授業区分】	教養分野(社会科学)	【授業コード】	1-02-0080-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	kawahara@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 11:00～13:30（月曜日～木曜日）	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

特になし。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

テキストとなるプリントを配布します。テストは原則として返却しません。

【講義概要】

(目的)

人間の社会生活の基礎をなすコミュニケーションについて、そのさまざまな特徴や理論を心理学の視点から理解する。
コミュニケーション自体は日常の一コマであるが、それを学問的に整理し医療者・支援者としての対人関係やその研究の切り口を身につける。
当該科目と学位授与方針等との関連性; A-2
当該科目と学位授与方針等との関連性; O-2

(方法)

主として配布資料を使用して講義を行います。また必要に応じて文献を読み進めます。

【一般教育目標(GIO)】

授業で学習したことをもとに、医療者・支援者の視点からの円滑なコミュニケーションのポイントを理解する。

【行動目標(SBO)】

授業で取り上げるキーワードを説明できる。
学びを日常のコミュニケーションで意識し、実践する。

【教科書・リザーブドブック】

テキストとなるプリントを配布する。

【参考書】

特になし。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。
定期試験を実施する。
出席点は評価に含みません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		90						10	100
評価指標	取り込む力・知識	90							90
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	●命令・強制 相手の意思を無視したコミュニケーション	講義	講義ノートの完成	90
3-4	●他者を欺くコミュニケーション1 いわゆる悪徳商法など	講義	講義ノートの完成	90
5-6	●他者を欺くコミュニケーション2 いわゆるマインドコントロールなど	講義	講義ノートの完成	90
7-8	●他者と取り引きするコミュニケーション 要請のための技法	講義	講義ノートの完成	90
9-10	●対人交渉 要請のための技法	講義	講義ノートの完成	90
11-12	●集団・社会・文化とコミュニケーション-1 情報の伝達(うわさ・ゴシップ・流言)	講義	講義ノートの完成	90
13-14	●集団・社会・文化とコミュニケーション-2 日本と海外における情報伝達の違い	講義	講義ノートの完成	90
15	「コミュニケーション心理学Ⅱ」まとめ	講義		45

(16) 15ｺﾏ目に 連続予定	「コミュニケーション心理学Ⅱ」試験	試験		

リハビリテーション学科

【科目名】	統計学Ｉ			【担当教員】 八木　稔
【授業区分】	教養分野(自然科学)	【授業コード】		(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	yagiprev@dent.niigata-u.ac.jp
【単位数】	1	【コマ数】	１５コマ	(オフィスアワー) 授業終了後，質問・相談に応ずる。

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

統計学と数学とは，互いに異なる学術分野であることを前提とします。
統計学は，実際的な問題解決を目指す実践的な学術分野です。そのため，問題解決のための方法論の一つと見なされます。統計学が「科学の文法である（カール・ピアソン）」といわれる所以です。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

シラバスを参照して，授業の全体像を把握しておくこと。
簡単な電卓(通信機能・統計関数の機能がなく，平方根を求める機能が付いている)を用意することが望ましい。
なお，この電卓は，演習・試験において有用です。
試験結果・小テスト・レポートについては，他に支障のない限り返却します。

【講義概要】

(目的)

この講義では，統計学の始まりから現在までを概括し，統計に関する基礎的な知識，および統計における独特の用語や基本的な分析方法を学ぶと共に，それら分析方法の意味と実用に即したデータ処理に役立つことを目的としています。

当該科目と学位授与方針等との関連性；Ａ−２，３

(方法)

主として，教科書と配付資料を使用して講義を行います。
また，講義の内容の理解を深めるために，与えられた課題を自ら解く形式の演習・小テストを行います。
さらに，レポートの提出を求めます。

【一般教育目標(GIO)】

「記述統計と確率分布」に関するデータ処理のために，統計学の専門用語を理解し,基本的な統計計算ができるようになり,そのことによって定量的な考え方および評価方法を修得する。

【行動目標(SBO)】

記述統計学の基礎的な考え方を説明できる。
データの度数分布，代表値（平均値など），および散らばり（分散など）を算定できる。
一つの変数に限らず二つの変数間の相関係数を算定し，その意義について説明できる。
確率変数，正規分布および二項分布の実際的な適用の仕方について説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

小寺平治：はじめての統計学１５講，講談社，2017年（第5刷），￥2,000（税別）

【参考書】

福富和夫・橋本修二：保健統計・疫学，南山等，2018年（第6版1刷），￥2,400（税別）
盛山和夫:統計学入門，ちくま学芸文庫，筑摩書房，2015年），￥1,404

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は，本学学即規定のGPA制度に従う。
成績評価は，期末試験，小テスト，およびレポートにより総合的に評価する。
出席状況は，評価に含みません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50	25	25					100
評価指標	取り込む力・知識	50	20						70
	思考・推論・創造の力			20					20
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢		5	5					10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
１・２ 前期	授業の進め方：シラバスの内容についての説明 度数分布：記述疫学の概要と，簡明なデータの整理の仕方について学ぶ。	講義・演習	予習：度数分布表，ヒストグラムについて調べる。 教科書２-７頁を読む。 復習：教科書になかった講義の内容を確認する。	３０ ３０
３・４ 前期	代表値:平均値、中央値、最頻値について学ぶ。	講義・演習	予習：平均の性質，平均、中央値および最頻値の求め方について調べる。教科書８-１３頁を読む。 復習：教科書になかった講義の内容を確認する。	３０ ３０
５・６ 前期	分散：データのバラツキと、バラツキの指標である分散について学ぶ。	講義・演習	予習：散布度，分散，標準偏差，四分偏差の性質と求め方について調べる。教科書１４-１９頁を読む。 復習：教科書になかった講義の内容を確認する。	３０ ３０
７・８ 前期	相関係数：対応のある２つの変量の統計的な関係（例えば、身長と体重との関係）について学ぶ。	講義・演習	予習：散布図（相関図）、相関係数，共分散の性質と求め方について調べる。教科書２０-２７頁を読む。 復習：教科書になかった講義の内容を確認する。	３０ ３０
９・１０ 前期	確率変数：取る値が偶然によって決まり、決り方の確率が定まっている変量について学ぶ。	講義・演習	予習：確率変数，確率分布，および期待値について調べる。 教科書２８-３５頁を読む。 復習：教科書になかった講義の内容を確認する。	３０ ３０
１１・ １２ 前期	正規分布：期待値と分散で決ってしまう、統計学において重要な分布である正規分布について学ぶ。	講義・演習	予習：正規分布の型，正規曲線、および標準正規分布について調べる。 教科書３６-４３頁を読む。 復習：教科書になかった講義の内容を確認する。	３０ ３０
１３・ １４ 前期	二項分布：試行をくり返した回数と、それによる事象が生起する確率に関する分布について学ぶ。	講義・演習	予習：二項分布の期待値と分散，ラプラスの定理，半数補正について調べる。教科書４４-４９頁を読む。 復習：教科書になかった講義の内容を確認する。	３０ ３０
１５・ １６ 前期	母集団と標本：母集団と標本との関係、および標本抽出について学ぶ。 試験を行う。	講義・演習 試験	予習：標本調査，およびデータの抽出方法について調べる。 教科書５１-５９頁を読む。 復習：教科書になかった講義の内容を確認する。	３０ ３０

リハビリテーション学科

【科目名】	統計学Ⅱ			【担当教員】	八木　稔
【授業区分】	教養分野(自然科学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	yagiprev@dent.niigata-u.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	１５コマ	(オフィスアワー)授業終了後，質問・相談に応ずる。	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

統計学と数学とは，互いに異なる学術分野であることを前提とします。
統計学は，実際的な問題解決を目指す実践的な学術分野です。そのため，問題解決のための方法論の一つと見なされます。統計学が「科学の文法である（カール・ピアソン）」といわれる所以です。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

シラバスを参照して，授業の全体像を把握しておくこと。
簡単な電卓(通信機能・統計関数の機能がなく，平方根を求める機能が付いている)を用意することが望ましい。
なお，この電卓は，演習・試験において有用です。
試験結果・小テスト・レポートについては，他に支障のない限り返却します。

【講義概要】

(目的)

この講義では，統計に関する基礎的な知識，統計で用いられる独特の用語や定義，および基本的な統計的推計と検定に関する分析方法を学ぶと共に，それら分析方法の意味と実用に即したデータ処理に役立つことを目的としています。

当該科目と学位授与方針等との関連性；Ａ−２，３

(方法)

主として，教科書と配付資料を使用して講義を行います。
また，講義の内容の理解を深めるために，与えられた課題を自ら解く形式の演習・小テストを行います。
さらに，レポートの提出を求めます。

【一般教育目標(GIO)】

「推測統計」に関するデータ処理のために，統計学の専門用語を理解し,基本的な統計的推計，および検定ができるようになり,そのことによって定量的な考え方および評価方法を修得する。

【行動目標(SBO)】

推測統計学の基礎的な考え方を説明できる。
母集団と標本との関係，無作為抽出について説明できる。
統計的な区間推定，母平均・母比率，平均値の差に関する統計的な有意差検定ができる。
適合度・独立性などに関する統計的な有意差検定，および無相関検定ができる。

【教科書・リザーブドブック】

小寺平治：はじめての統計学１５講，講談社，2017年（第5刷），￥2,000（税別）

【参考書】

福富和夫・橋本修二：保健統計・疫学，南山等，2018年（第6版1刷），￥2,400（税別）
盛山和夫:統計学入門，ちくま学芸文庫，筑摩書房，2015年），￥1,404

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は，本学学即規定のGPA制度に従う。
成績評価は，期末試験，小テスト，およびレポートにより総合的に評価する。
出席状況は，評価に含みません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50	25	25					100
評価指標	取り込む力・知識	50	20						70
	思考・推論・創造の力			20					20
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢		5	5					10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
１・２ 前期	授業の進め方：シラバスの内容についての説明 母集団と標本：母集団と相似であるべき標本について学ぶ。	講義と演習	予習：標本調査，データの抽出方法，標本平均の平均と分布について調べる。教科書５１-５９頁を読む。 復習：教科書になかった講義の内容を確認する。	３０ ３０
３・４ 前期	区間検定・１：平均値を推測する方法について学ぶ。	講義と演習	予習：標本平均の分布，母平均の信頼限界，ｔ分布について調べる。教科書６０-６７頁を読む。 復習：教科書になかった講義の内容を確認する。	３０ ３０
５・６ 前期	区間検定・２：母集団における比率を推測する方法について学ぶ。	講義と演習	予習：カイ二乗分布，母比率の信頼限界について調べる。 教科書６８-７３頁を読む。 復習：教科書になかった講義の内容を確認する。	３０ ３０
７・８ 前期	母平均の検定：仮説の検定について学ぶ。	講義と演習	予習：仮説検定，有意水準，棄却域，第１種／第２種の誤りについて調べる。教科書７４-８１頁を読む。 復習：教科書になかった講義の内容を確認する。	３０ ３０
９・１０ 前期	母分散・母比率の検定：バラツキによる検定について学ぶ。	講義と演習	予習：母比率の検定，片側／両側検定について調べる。 教科書８２-８７頁を読む。 復習：教科書になかった講義の内容を確認する。	３０ ３０
１１・ １２ 前期	有意差検定：平均の差，あるいは比率の違いに意味があるかについて学ぶ。	講義と演習	等平均仮説，母比率の有意差検定，正規分布の再生性について調べる。 教科書８８-９５頁を読む。 復習：教科書になかった講義の内容を確認する。	３０ ３０
１３・ １４ 前期	適合度・独立性の検定：メンデルの法則の検証について学ぶ。	講義と演習	予習：適合度の検定，カイ二乗検定，右側検定，２×２表について調べる。教科書９６-１０１頁を読む。 復習：教科書になかった講義の内容を確認する。	３０ ３０
１５・ １６ 前期	無相関検定：二つの変量の関係は意味があるかについて学ぶ。 試験	講義と演習	予習：母相関係数＝０の意味，相関と因果関係について調べる。 教科書１０２-１０９頁を読む。 復習：教科書になかった講義の内容を確認する。	３０ ３０

リハビリテーション学科

【科目名】	基礎生命科学			【担当教員】	平田　恒彦
【授業区分】	教養分野(自然科学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	qqe83zfd@snow.ocn.ne.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 来校時に対応	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

高校での「生物基礎」を選択したか否かをアンケート調査する。
高校で「生物基礎」を選択していなかった学生はこの科目を必ず選択していただきたい。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

食べ物・飲み物の持ち込みは厳禁する。講義中の無言勝手な出入りを禁ずる。
教師と学生との対話を心掛ける。
講義中に試験問題等を提供する。
試験内容をプリント・コピーし、予め問題内容を簡単に解説する。

【講義概要】

(目的)

本講義は基礎生物学に関する導入講義であり、医療学部の医生物科学の履修に向けて必要となる基礎的知識の修得を目的とする。

(方法)

高等学校にて「生物基礎」及び「化学基礎」を履修してこなかった学生を対象に、医生物科学を学ぶにあたって必須な学習事項を中心に概説する。

【一般教育目標(GIO)】

世間一般で話題となっている「生命（いのち）＝生き物」の在り方などについて常識的に語れるようになること。

【行動目標(SBO)】

「生命（いのち）＝生き物」に関する話題について自分の考えをまとめられるようになること。

【教科書・リザーブドブック】

特に使用せずプリントを提供する。

【参考書】

高校レベルの内容が記されている書籍、新聞等。
必要な場合にその都度紹介する。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。
成績評価は期末試験およびレポート点等により総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		85	5	5				5	100
評価指標	取り込む力・知識								0
	思考・推論・創造の力	50							50
	コラボレーションとリーダーシップ	10							10
	発表力	15	5						20
	学修に取り組む姿勢	10		5				5	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	強科目「基礎生命科学」の内容紹介。 「生物〇」の高校での学習の有無についてのアンケート調査。	講義	新聞マスメディアの生命（いのち）＝生き物に関する記事を読むこと。	10
2	からだをつくる物質・単位・溶液	同上	同上	同上
3	からだの中の（化学）反応（系） ～　①　加水分解・酸化還元・酸と塩基	同上	同上	同上
4	からだの中の（化学）反応（系） ～　②　酵素	同上	同上	同上
5	細胞・細胞分裂…そして、生命の起源との関連	同上	同上	同上
6	遺伝と遺伝子⇒情報伝達機構	同上	同上	同上
7	動物・ヒトの組織・器官	同上	同上	同上
8	刺激と反応…そして、生活空間＝環境との関連	同上	同上	同上

9	循環　～　①　体液	同上	同上	同上
10	循環　～　②　気体	同上	同上	同上
11	免疫	同上	同上	同上
12	神経・ホルモン…そして、生活空間＝環境	同上	同上	同上
13	排泄	同上	同上	同上
14	解剖生理学・生化学等との関連。病気に対して。 その他	同上	同上	同上
15	英語で学ぶ基礎生命科学	同上	同上	同上
16	試験			

リハビリテーション学科

【科目名】	医生物科学Ⅰ			【担当教員】	平田　恒彦
【授業区分】	教養分野(自然科学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	qqe83zfd@snow.ocn.ne.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 来校時に対応	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

高校等で「生物基礎」を選択履修したものとして講義を執り行う。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

食べ物・飲み物の持ち込みは厳禁する。講義中の無言勝手な出入りを禁ずる。
教師と学生との対話を心掛ける。
講義概要をプリント・コピーし、予め問題内容を簡単に説明する。

【講義概要】

(目的)

リハビリテーションという現実に直面するヒトの肉体と心の関係を知る基礎を学ぶ。生命科学から見た人について考えるきっかけを得る。

(方法)

生命現象を呈する生物の姿かたち、生活の在り方を考えながら、生物体の基本単位である細胞、細菌学、その中で特に医療分野で必要な感染症についても学んでいく。本科目は主として、「生物（学）の世界」、「生物と環境の変化」、「万能細胞～ヒトのiPS細胞～」などを講義し、生物学と医療との相関について考える。

【一般教育目標(GIO)】

常識程度の医生物科学（生物学の基礎知識を基にした医学・医療領域の自然科学）を語れるようになること。

【行動目標(SBO)】

基礎医学及び医療に関する昨今の話題をまとめ、語れるようになること。

【教科書・リザーブドブック】

平田恒彦著「人間・生き物科学」　考古堂　2012年

【参考書】

高校の教科書・参考書、新聞
必要な場合にその都度紹介する。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。
試験評価は期末試験およびレポート点等により総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		85	5	5				5	100
評価指標	取り込む力・知識								0
	思考・推論・創造の力	50							50
	コラボレーションとリーダーシップ	10							10
	発表力	15	5						20
	学修に取り組む姿勢	10		5				5	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2	生物（学）の世界	講義	新聞等マスメディアの生命に関する記事を熟読すること。	10分
3.4	生命の誕生～オパーリンの世界～	同上	同上	同上
5.6	生物と環境の変化	同上	同上	同上
7.8	化石の世界	同上	同上	同上
9.10	野生生物の世界	同上	同上	同上
11.12	クストーの世界	同上	同上	同上
13.14	DNAとは	同上	同上	同上
15	万能細胞～ヒトのIPS細胞～	同上	同上	同上

16	試験			

リハビリテーション学科

【科目名】	医生物科学Ⅱ			【担当教員】	平田　恒彦
【授業区分】	教養分野(自然科学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	qqe83zfd@snow.ocn.ne.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 来校時に対応	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

医生物科学Ⅰを履修したものとして講義を執り行う。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

食べ物・飲み物の持ち込みは厳禁する。講義中の無言勝手な出入りは禁ずる。
教師と学生との対話を心掛ける。

【講義概要】

(目的)

リハビリテーションという現実に直面する人の肉体と心の関係を知る基礎を学ぶ。
生命科学から見た人について特に人の内面の在り方や個としての人の行く末について考えるきっかけを得る。

(方法)

生命現象を呈する生物の姿かたち、生活の在り方を考えながら、生物体の基本単位である細胞、細菌学、その中で特に医療分野で必要な感染症についても学んでいく。本科目は主として、「感性～音と絵の世界」、「死とは」、「人間・からだのたたかい」などを講義する。

【一般教育目標(GIO)】

社会一般における医療とのつながる医生物科学的な話題に関心を抱き、
その話題を自分のものとして取り扱えるようになること。

【行動目標(SBO)】

現代的医生物科学に関する話題について語れるようになること。

【教科書・リザーブドブック】

特に使用せずプリントを提供する

【参考書】

高校の教科書・参考書、
必要な場合にはその都度紹介する。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のGAP制度に従う。
試験評価は期末試験およびレポート点等により総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		85	5	5				5	100
評価指標	取り込む力・知識								
	思考・推論・創造の力	50							50
	コラボレーションとリーダーシップ	10							10
	発表力	15	5						20
	学修に取り組む姿勢	10		5				5	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	健康なからだづくりの基本・・・・・胎内期	講義	新聞マスメディアに載るについて感心を抱くこと。	10分
2	健康なからだづくりの基本・・・・・幼児期	同上	同上	同上
3	こころの健康、そして休養・・・・・胎内期	同上	同上	同上
4	こころの健康・・・・・幼児期	同上	同上	同上
5	社会生活への道・・・・・社会生活技術訓練SST	同上	同上	同上
6	社会生活への道・・・・・モノづくり	同上	同上	同上
7	モバイルヘルス	同上	同上	同上
8	認知症予防のための脳トレ ・・・・・認知症へ・・・なる？？？！！！	同上	同上	同上

9	認知症予防のための脳トレ ・・・・・計算をためしてみよう。	同上	同上	同上
10	感染症とのたたかいとそれへの予防	同上	同上	同上
11	食との調和、そして自然	同上	同上	同上
12	日常生活におけるヒト・・・・・生活の在り方	同上	同上	同上
13	日常生活におけるヒト・・・・・自己そのもの	同上	同上	同上
14	日常生活におけるヒト・・・・・他との関係における欲求	同上	同上	同上
15	最後の日々へ	同上	同上	同上
16	試験			

リハビリテーション学科

【科目名】	人間支援科学Ⅰ			【担当教員】	木村　和樹
【授業区分】	教養分野(自然科学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	k.kimura@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 平日9時～17時（火曜日は除く）	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

演習時には動きやすい服装で行うこと。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

演習を多く含まれているため、積極的に講義に参加すること。

【講義概要】

(目的)

人と人の支援方法だけでなく、ことばやモノを使った支援を体験して学ぶ講義。多職種からの考え方を学びながら人を支えられることをことを目的とする。
当該科目学位授与方針等との関連性；P-1、O-1、A-1、A-2

(方法)

自身の所属する専門領域以外にも関心を持つことができるように、各専門領域の教員から人を支えるための支援方法（人から人、物を使用）を演習を踏めて講義します。
オレンジカフェは11月16日（土）、11月30日（土）に開催されます。2日間のうち1日は参加する必要があります。
第1回目のオリエンテーションでグループ分けを説明します。

【一般教育目標(GIO)】

人と人の支援方法だけでなく、ことばやモノを使った支援を体験して学ぶ講義。多職種からの考え方を学びながら人を支えられることをことを目的とする。
当該科目学位授与方針等との関連性；P-1、O-1、A-1、A-2

【行動目標(SBO)】

自身の所属する専門領域以外にも関心を持つことができるように、各専門領域の教員から人を支えるための支援方法（人から人、物を使用）を演習を踏めて講義します。

【教科書・リザーブドブック】

人から人に正確に情報を伝えることができる。
オレンジカフェを通じて地域在住者と自身からコミュニケーションをとれる。

【参考書】

必要に応じて資料を配布します。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

出席は2/3以上しなければならない。
成績はレポート課題とする。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				100					100
評価指標	取り込む力・知識			50					50
	思考・推論・創造の力			30					30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢			20					20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2	オリエンテーション オレンジカフェの事前学習について	座学（木村、OT教員）	講義のオリエンテーションを行います。オレンジカフェの事前学習について説明します。	60分
3.4	ことばを上手く使って相手に伝える	演習（木村）	正確に情報をとらえて人に伝えることができる。	30分
5.6	社会で求められる語彙力とは　基礎編	座学（長島）	ことばを使って正確に物事と伝えることでができる。	60分
7.8	社会で求められる語彙力とは　応用編	座学（長島）	ことばを使って正確に物事と伝えることでができる。	30分
9.10	VRを用いた機器の紹介	座学（浅海）	視覚情報と通じて情報を共有できることを理解する。	30分
11.12	オレンジカフェ体験	演習（OT教員）	オレンジカフェの取り組みを体験して理解する。	30分
13.14	オレンジカフェ体験 オレンジカフェ体験を振り返る	座学（OT教員）	オレンジカフェの取り組みを体験して理解する。 オレンジカフェについてまとめることでができる。	60分
15	総復習	座学（木村）	講義を振り返り、課題レポートを作成して提出する。	60分

リハビリテーション学科

【科目名】	人間支援科学Ⅱ			【担当教員】	木村　和樹
【授業区分】	教養分野(自然科学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	k.kimura@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 平日9時～17時（火曜日は除く）	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

演習時には動きやすい服装で行うこと。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

演習を多く含まれているため、積極的に講義に参加すること。

【講義概要】

(目的)

人と人の支援方法だけでなく、ことばやモノを使った支援を体験して学ぶ講義。多職種からの考え方を学びながら人を支えられることをことを目的とする。
当該科目学位授与方針等との関連性；R-1、A-1、A-2

(方法)

自身の所属する専門領域以外にも関心を持つことができるように、各専門領域の教員から人を支えるための支援方法（人から人、物を使用）を演習を踏めて講義します。

【一般教育目標(GIO)】

幅広い専門領域からの視点から人を支援できる方法を身に付けることで、さまざまな場面に応じた対応ができる。
社会人において必要なコミュニケーションスキルを身に付ける。

【行動目標(SBO)】

講義を通じて人とのつながりに意識することができる。
コミュニケーションツールの使用法を理解する。
基礎的な文章表現を理解してもらい、実際に文章を書く練習を通じて、文章表現の技術を身に付ける。

【教科書・リザーブドブック】

必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

出席は2/3以上しなければならない。
成績はレポート課題とする。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合			50	40				10	100
評価指標	取り込む力・知識		40	10					50
	思考・推論・創造の力		10	20					30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢			10				10	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2	オリエンテーション コミュニケーションと人間関係	演習（川原）	適切な自己表現ができる。	60分
3.4	自己主張の方法	座学・演習（阿久津）	適切な自己表現ができる。	60分
5.6	文章表現の技法	座学・演習（阿久津）	適切な自己表現ができる。文章表現を磨く。	90分
7.8	難聴者の支援	座学・演習（高橋圭三）	言語聴覚領域の支援機器等についてその目的を知る。	30分
9.10	嚥下補助食品	座学・演習（高橋圭三）	言語聴覚領域の支援機器等についてその目的を知る。	30分
11.12	拡大・代替コミュニケーション方法①	座学・演習（佐藤）	言語聴覚領域の支援機器等についてその目的を知る。	30分
13.14	拡大・代替コミュニケーション方法②	座学・演習（佐藤）	言語聴覚領域の支援機器等についてその目的を知る。	30分
15	総復習	座学（木村）	提出物などの返却を行い、講義を振り返る	60分

リハビリテーション学科

【科目名】	物理学Ⅰ			【担当教員】	藤本　聡
【授業区分】	教養分野(自然科学)	【授業コード】	1-03-0110-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	fujimoto.s@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 月～木曜日13時00分～13時25分	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・物理が苦手な人、高校で物理を学ばなかった人に合わせて授業を行う。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・演習は理解するまで行い、わからないことは質問に来てください。
・試験・レポートは他に支障のない限り返却します。
・試験結果・演習問題については、必要応じて解説を行います。
・遅刻は授業開始後20分まで、早退は終了20分前まで、それ以上の遅刻・早退はすべて欠席扱いとなります。

【講義概要】

(目的)

・リハビリテーションに関連する物理学を学ぶことを目的にする。
・高校で物理学を学ぶ機会がなかった学生や苦手だった学生が、リハビリテーションに必要な物理学の基礎を習得する。
・当該科目と学位授与方針等との関連性；　A-2

(方法)

教科書と配布資料などによる講義と演習を行う。

【一般教育目標(GIO)】

・リハビリテーションに必要な物理学の基礎を学ぶ。
・物理学を学ぶのに必要な数学についても学ぶ。

【行動目標(SBO)】

リハビリテーションに関連する物理学を学び、今後の学習や臨床で活用できるようになる。

【教科書・リザーブドブック】

江原義弘、山本澄子、中川昭夫・『【ＰＴ】【ＯＴ】【ＰＯ】身体運動の理解につなげる物理学』南江堂、2015年. ¥2800

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・出席点は評価に含みません。
・成績評価基準は本学学則規定のGAP制度に従う。
・小テストと期末試験の実施とポートフォリオの取り組む姿勢を総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		40	40				20		100
評価指標	取り込む力・知識	20	20						40
	思考・推論・創造の力	20	20						40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢						20		20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1,2	オリエンテーション 物理学を学ぶのに必要な数学①	講義・演習	演習した内容を復習	60
3,4	物理学を学ぶのに必要な数学②	講義・演習	演習した内容を復習	60
5,6	物理学を学ぶのに必要な数学③ 小テスト なぜ物理が必要か バネの伸びと力の合成	講義・演習	演習した内容を復習	60
7,8	テコの原理と第一のテコ	講義・演習	演習した内容を復習	60
9,10	第2のテコ・第3のテコ	講義・演習	演習した内容を復習	60
11,12	輪じく・滑車・歯車	講義・演習	演習した内容を復習	60
13,14	まとめ演習	講義・演習	演習した内容を復習	60
15	まとめ演習の解説	講義・演習	授業の内容を復習	60

リハビリテーション学科

【科目名】	物理学Ⅱ			【担当教員】	藤本　聡
【授業区分】	教養分野(自然科学)	【授業コード】	1-03-0110-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	fujimoto.s@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 月～木曜日13時00分～13時25分	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

物理学Ⅰを学んだ人を対象とする。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・演習は理解するまで行い、わからないことは質問に来てください。
・試験・レポートは他に支障のない限り返却します。
・試験結果・演習問題については、必要に応じて解説を行います。
・遅刻は授業開始後20分まで、早退は終了20分前まで、それ以上の遅刻・早退はすべて欠席扱いとなります。

【講義概要】

(目的)

・リハビリテーションに関連する物理学を学ぶことを目的にする。
・高校で物理学を学ぶ機会がなかった学生や苦手だった学生が、リハビリテーションに必要な物理学の基礎を習得する。
・物理学Ⅰで学んだことを、生体に応用できるようにする。
・当該科目と学位授与方針等との関連性；　A-2

(方法)

教科書と配布資料などによる講義と演習を行う。

【一般教育目標(GIO)】

・リハビリテーションに必要な物理学の基礎を学ぶ。
・物理学を学ぶのに必要な数学についても学ぶ。

【行動目標(SBO)】

リハビリテーションに関連する物理学を学び、今後の学習や臨床で活用できるようになる。

【教科書・リザーブドブック】

江原義弘、山本澄子、中川昭夫・『【ＰＴ】【ＯＴ】【ＰＯ】身体運動の理解につなげる物理学』南江堂、2015年. ¥2800

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・出席点は評価に含みません。
・成績評価基準は本学学則規定のGAP制度に従う。
・小テストと期末試験を実施、ポートフォリオの取り組む姿勢を総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		40	40				20		100
評価指標	取り込む力・知識	20	20						40
	思考・推論・創造の力	20	20						40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢						20		20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1,2	物理Ⅰ期末試験の解説 生体の中のテコ①	講義・演習	演習した内容を復習	60
3,4	生体の中のテコ②	講義・演習	演習した内容を復習	60
5,6	下肢に存在するテコ	講義・演習	演習した内容を復習	60
7,8	作用・反作用，力の分解，斜面，振り子、摩擦力	講義・演習	演習した内容を復習	60
9,10	後半まとめ演習	講義・演習	演習した内容を復習	60
11,12	後半まとめ演習の解説 後半内容の小テスト	講義・演習	演習した内容を復習	60
13,14	後半小テストの解説 物理ⅠとⅡの総まとめ演習	講義・演習	演習した内容を復習	60
15	総まとめ演習の解説	講義・演習	授業の内容を復習	60

リハビリテーション学科

【科目名】	レクリエーション			【担当教員】	田嶋　雄洋
【授業区分】	教養分野(体育学関連)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	tajima.katsuhiro@opal.plala.or.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 授業終了後、随時メールで応じます	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・この科目では、レクリエーションに関する知識・指導の技術を学び、学生自身のレクリエーション活動における基礎的な指導能力の向上を図ります。
・この科目では、楽しさをとおして元気な心を育てるので、休まずに出席していただきたい。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・この科目では、レクリエーションに関する講義とレクリエーション実技実習を中心に行います。
・実技試験は、グループでの指導演習を行います。授業をとおして学んだことを、レポートにして提出していただきます。筆記試験では、レクリエーションに関する基礎的な内容の確認を行います。
・試験結果及びレポートは、返却するので、返却後、確認・点検してください。

【講義概要】

(目的)

・レクリエーション活動に関する基本的な知識や技術等の理論を学び、将来、勤務する病院や施設等で、患者様等を対象に実施するレクリエーション事業の企画力・実技等の指導力を身につける。
・患者様等、小児から高齢者まで幅広い対象者に応じた指導理論を学び、目的に応じた適応力を身につける。

(方法)

・主に、講師が作成する資料を基に、座学である理論を学びます。
・実技実習についても、講師が作成する資料を基に、講師から指導を受けて、各種実技に関する指導の技術を学び、指導力等を高めていきます。

【一般教育目標(GIO)】

・レクリエーションに関する基礎的な理論・指導の技術等を踏まえ、福祉・保健・医療の現場につながる知識・技術の基礎的能力を習得する。

【行動目標(SBO)】

１）レクリエーションに関する基礎的な理論について説明できる。２）レクリエーションの機能・効能について説明できる。３）幅広い対象者に応じたレクリエーション事業の企画を立てることができる。４）歌を使ったレクリエーション活動実習をとおして、音楽療法を学び、実践指導できる。５）福祉レクリエーションに関する基礎的な理論・考え方を説明し、指導ができる。６）高齢者の特性を踏まえたレクリエーション計画を立て、指導ができる。８）レクリエーションの実践報告をまとめ、発表することができる。

【教科書・リザーブドブック】

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・試験（筆記試験30%、レポート50%）実技20%で総合的評価を行い100点満点で60点以上を合格とする。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		30		50		20			100
評価指標	取り込む力・知識	30							30
	思考・推論・創造の力			50					50
	コラボレーションとリーダーシップ					20			20
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2	オリエンテーション　レクリエーション科目の全体像の説明 レクリエーションに関する基礎理論１ 主に、レクリエーションとは何かを中心に学ぶ	講義		90
3・4	レクリエーション実技１ 主に、指導技術、指導の法則を学ぶ	実技		90
5・6	レクリエーション事業の企画 主に、高齢者・福祉レクリエーションを中心に	講義		90
7・8	歌を使ったレクリエーション１ 音楽療法の基礎を学ぶ	実技		90
9・10	福祉レクリエーション１ 主に、高齢者・障がい者を対象に考えて	実技		90
11・12	学習クイズ１ 主に、小児・高齢者を対象に考えて	実技		90
13・14	指導実習・実技試験 レポート課題の出題	実技		90
15・16	授業アンケート 筆記試験 レポートの提出	試験		90

リハビリテーション学科

【科目名】	スポーツ実践			【担当教員】	粟生田　博子
【授業区分】	教養分野(体育学関連)	【授業コード】	1-04-0125-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	aoda@nur.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 水曜日12：45〜13：15	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・グループに分けて実施するので，各自，自分の配属グループを確認しておくこと.
・授業内容，スケジュール詳細などは初回ガイダンスにて確認すること.

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・学外体育施設を使用する際は，施設使用規則を遵守すること.
・学外体育施設（パルパーク神林）を使用する場合は，現地集合・解散となります.
・実施種目や会場を変更する場合があるので，事前にポータルサイトを確認すること.
・体育・スポーツを行うのに相応しい身だしなみや服装を整え，館内では内履きを必ず着用すること.
・水分補給の準備やタオル，着替え等を持参し，体調管理，安全管理に配慮すること.

【講義概要】

(目的)

・様々な運動やスポーツを経験し，健康や身体活動に関する知識や相互理解を深める
＊当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1,2,3

(方法)

・様々な運動・スポーツ種目を実践するとともに，健康や障がいについて考える

【一般教育目標(GIO)】

・身体活動を通じ，健康の保持・増進および障がいに対する知識や認識を高め，相互理解を深める.

【行動目標(SBO)】

・運動・スポーツ活動の運営やサポート方法を考え，実践することができる.
・健常者・障がい者ともに楽しめる体育・スポーツ種目を考え，実践することができる.
・学習活動を通して，協調性，リーダーシップ，チームワーク，コミュニケーション能力を養い，発揮することができる.
・レポートを作成して自己評価を行い，活動を振り返ることができる.

【教科書・リザーブドブック】

・特に指定しない

【参考書】

・必要に応じて提示する

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う.
・学内規定に基づく出席回数，授業態度，レポートを総合的に評価する.

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				20	20	60			100
評価指標	取り込む力・知識			10		20			30
	思考・推論・創造の力			10					10
	コラボレーションとリーダーシップ				10	20			30
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢					20			20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1,2	ガイダンス，アイスブレイク（学内）	講義・演習		
3,4	障がい者とスポーツについて（学内）	講義・演習		
5,6	スポーツ実践（学内，学外）	演習		
7,8	スポーツ実践（学内，学外）	演習		
9,10	スポーツ実践（学内，学外）	演習		
11,12	スポーツ実践（学内，学外）	演習		
13,14	活動内容発表	演習	発表する課題の内容をまとめておく	30
15	活動内容発表，まとめ	演習，レポート作成	発表した課題について，振り返りをまとめておく	30

リハビリテーション学科

【科目名】	保健体育Ⅱ			【担当教員】	粟生田　博子
【授業区分】	教養分野(体育関係学)	【授業コード】	1-04-0130-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	aoda@nur.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	8コマ	(オフィスアワー) 水曜日12：45〜13：15	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・身体活動に興味を持って自ら積極的に参加する学生の受講を望む.
・事前の聴講希望調査に従って履修手続を行うこと.
・集中講義の形式となる.

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・学内施設および学外施設を使用する場合がある．また，活動内容によっては，実施に関する費用や用具の準備等は個人負担となる場合がある.
・新潟県特別支援学校スポーツ大会に学生サポート・リーダーとして参加する.
・ポータルサイトのポートフォリオ機能を使用してレポート提出・フィードバックなどを行う.

【講義概要】

(目的)

・地域包括システムやインクルーシブ教育など，医療福祉教育分野を取り巻く社会背景の変化を踏まえ，将来，セラピストとして臨床現場で活動するために有益な，身体活動をツールとした実践的な活動を通じた支援者経験を得ることを目的とする.
＊当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1,2,3

(方法)

・学内での活動のみならず，学外での活動を主に実施するまた，自分自身が多くの種目を経験して実践するだけでなく，多種多様な対象者と環境に即した身体活動を考案し，対象者に指導したり支援したりする．実施後は各自が振り返りを行いポートフォリオを作成する.

【一般教育目標(GIO)】

・年齢，性別，障がいの有無等にかかわらず，身体活動を提供するためのプランを考え，実施することができる.

【行動目標(SBO)】

・地域におけるインクルーシブ・スポーツの概念を理解する
・活動環境に応じた体力作り，健康づくりに関するプランを作成・実施することができる
・実施後，プランについて振り返りを行い，よりよいプランを検討することができる
・活動内容をポートフォリオにまとめ，報告することができる

【教科書・リザーブドブック】

特になし

【参考書】

随時紹介する

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う.
・ポートフォリオレポート評価規準を初回講義時に提示する.

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合					40	30	30		100
評価指標	取り込む力・知識						10		10
	思考・推論・創造の力				10		10		20
	コラボレーションとリーダーシップ				10	15			25
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢				10	15	10		35

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	ガイダンス，インクルーシブ・スポーツ講義	講義，グループワーク（GW）		
2	インクルーシブ・スポーツ実践（1）	GW，実技	種目検討，事前準備	30
3	インクルーシブ・スポーツ実践（2）	GW，実技	種目検討，事前準備	30
4	インクルーシブ・スポーツ実践（3）	GW，実技	種目検討，事前準備	30
5	インクルーシブ・スポーツ実践（4）	GW，実技	種目検討，事前準備	30
6	インクルーシブ・スポーツ実践（5）	GW，実技	種目検討，事前準備	30
7	インクルーシブ・スポーツ実践（6）	GW，実技	種目検討，事前準備	30
8	インクルーシブ・スポーツ実践（7） 振り返りとまとめ	GW，実技	種目検討 まとめ（レポート）	60

リハビリテーション学科

【科目名】	情報処理技法Ⅰ			【担当教員】 山田　修司
【授業区分】	教養分野(情報)	【授業コード】		(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	syuuyamada@gmail.com
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー)授業開校日、非常勤講師室で対応

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

USBメモリを授業の際には持参すること。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

課題レポートは担当教員作成のホームページを使って提出してもらう。ホームページのアドレスは授業中に指示する。

【講義概要】

(目的)

情報処理技法では、基本的なPC 操作について学習をし、今後の臨床実習、サークル活動やボランティア活動にも必要となるスキルを身につける。特に大学生活や病院や施設等で使用頻度が高いMicrosoft office を使用して実践的な能力を学修する。

(方法)

「Word」「Excel」「PowerPoint」を中心に実践的に、ビジネス文書作成、表計算、プレゼンテーション技術、情報発信方法、ネットワークの基礎、セキュリティなどについて学ぶ。さらに各ソフト間のデータの連携や共有方法なども合わせて学ぶ。その他、ポスターやチラシの作成なども行う。本科目は主として、「コンピュータの基本操作」、「Word」などを講義・実習する。

【一般教育目標(GIO)】

現代の社会人として必要な情報リテラシーの習得を目指す。

【行動目標(SBO)】

基本的なソフトウェアの活用方法を学習する。

【教科書・リザーブドブック】

草薙 信照・植松康祐著「文科系のためのコンピュータリテラシ」第5版(978-4-7819-1277-6)(2011年)¥1,950

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は大学学則規定のGPA制度に従う。
ほぼ毎回課題を出す。課題レポート80%、授業態度20%の割合で総合的に評価を行う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				80				20	100
評価指標	取り込む力・知識			40					40
	思考・推論・創造の力			40					40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	コンピュータの基本操作：起動とシャットダウン	講義	教科書2-33ページの内容を予習する	30分
2	コンピュータの基本操作：ファイルとフォルダの管理	講義	教科書2-33ページの内容を予習する	30分
3	インターネットの利用方法：電子メールの使い方	実習	教科書34-41ページの内容を予習する	30分
4	インターネットの利用方法：情報検索	実習	教科書32-41ページの内容を予習する	30分
5	Word実習（１）：文字変換と文章入力	実習	教科書44-59ページの課題に取り組む	30分
6	Word実習（２）：文章の体裁のそろえ方	実習	教科書44-59ページの課題に取り組む	30分
7	Word実習（３）：フォントの設定	実習	教科書60-67ページの課題に取り組む	30分
8	Word実習（４）：段落の設定	実習	教科書60-67ページの課題に取り組む	30分

9	Word実習（５）：文字列からの表作成	実習	教科書68-73ページの課題に取り組む	30分
10	Word実習（６）：列の幅と罫線の設定	実習	教科書68-73ページの課題に取り組む	30分
11	Word実習（７）：表での計算式の設定	実習	教科書74-75ページの課題に取り組む	30分
12	Word実習（８）：表組みによるレイアウト（１）	実習	教科書76-83ページの課題に取り組む	30分
13	Word実習（９）：表組みによるレイアウト（２）	実習	教科書76-83ページの課題に取り組む	30分
14	Word実習（１０）：グラフの利用（１）	実習	教科書84-91ページの課題に取り組む	30分
15	Word実習（１１）：グラフの利用（２）	実習	教科書84-91ページの課題に取り組む	30分

リハビリテーション学科

【科目名】	情報処理技法Ⅱ			【担当教員】	山田　修司
【授業区分】	教養分野(情報)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	syuuyamada@gmail.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー)授業開校日、非常勤講師室で対応	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

USBメモリを授業の際には持参すること。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

課題レポートは担当教員作成のホームページを使って提出してもらう。ホームページのアドレスは授業中に指示する。

【講義概要】

(目的)

情報処理技法では、基本的なPC 操作について学習をし、今後の臨床実習、サークル活動やボランティア活動にも必要となるスキルを身につける。特に大学生活や病院や施設等で使用頻度が高いMicrosoft office を使用して実践的な能力を学修する。

(方法)

「Word」「Excel」「PowerPoint」を中心に実践的に、ビジネス文書作成、表計算、プレゼンテーション技術、情報発信方法、ネットワークの基礎、セキュリティなどについて学ぶ。さらに各ソフト間のデータの連携や共有方法なども合わせて学ぶ。その他、ポスターやチラシの作成なども行う。本科目は主として、「Excel」、「PowerPoint」などを講義・実習する。

【一般教育目標(GIO)】

現代の社会人として必要な情報リテラシーの習得を目指す。

【行動目標(SBO)】

基本的なソフトウェアの活用方法を学習する。

【教科書・リザーブドブック】

草薙 信照・植松康祐著「文科系のためのコンピュータリテラシ」第5版(978-4-7819-1277-6)(2011年)¥1,950

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は大学学則規定のGPA制度に従う。
ほぼ毎回課題を出す。課題レポート80%、授業態度20%の割合で総合的に評価を行う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				80				20	100
評価指標	取り込む力・知識			40					40
	思考・推論・創造の力			40					40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	Excel実習（１）：セル番地と数式	実習	教科書118-125ページの内容を予習する	30分
2	Excel実習（２）：相対参照と絶対参照	実習	教科書118-125ページの内容を予習する	30分
3	Excel実習（３）：関数を使った数式（１）	実習	教科書126-133ページの内容を予習する	30分
4	Excel実習（４）：関数を使った数式（２）	実習	教科書126-133ページの内容を予習する	30分
5	Excel実習（５）：関数の活用（１）	実習	教科書134-141ページの課題に取り組む	30分
6	Excel実習（６）：関数の活用（２）	実習	教科書134-141ページの課題に取り組む	30分
7	Excel実習（７）：グラフの作成（１）	実習	教科書142-149ページの課題に取り組む	30分
8	Excel実習（８）：グラフの作成（２）	実習	教科書142-149ページの課題に取り組む	30分

9	Excel実習（９）：グラフ機能の活用（１）	実習	教科書150-157ページの課題に取り組む	30分
10	Excel実習（１０）：グラフ機能の活用（２）	実習	教科書150-157ページの課題に取り組む	30分
11	Excel実習（１１）：データベース機能（１）	実習	教科書158-167ページの課題に取り組む	30分
12	Excel実習（１２）：データベース機能（２）	実習	教科書158-167ページの課題に取り組む	30分
13	PowerPoint実習（１）：スライドの編集	実習	教科書186-193ページの課題に取り組む	30分
14	PowerPoint実習（２）：SmartArtグラフィックの活用	実習	教科書194-200ページの課題に取り組む	30分
15	PowerPoint実習（３）：スライドショーとアニメーション	実習	教科書201-209ページの課題に取り組む	30分

リハビリテーション学科

【科目名】	コンピューターと人間の接点Ⅰ			【担当教員】	浅海　岩生
【授業区分】	教養分野(情報)	【授業コード】	1-05-0155-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	igasami@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー)月曜～金曜　9時～18時	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・毎回Windowsパソコンを操作します。パソコン操作に慣れておきましょう。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・課題はOffice365のOneNoteで提出します。大学より配布されたメールアドレス・パスワードを確認しておいてください。
・授業で小テスト・資料の閲覧などでパソコンあるいはタブレット端末を使用する機会があります。
・試験結果・レポートは他に支障のない限り返却します。

【講義概要】

(目的)

・人間とコンピューターとの関係がどうあるべきかについて学ぶことにより、技術をどのように活かすべきかを考える。
・人間とコンピュータを結ぶインターフェースについて学ぶ。
・当該科目と学位授与方針等との関連性;　A-3

(方法)

・人間とコンピュータを結ぶインターフェイスの具体例について講義する。
・音声合成・認識機器、VRゴーグルを体験しその応用について考えてみる。
・簡単なプログラムを作成することによりコンピュータを制御する。

【一般教育目標(GIO)】

・音声合成・認識の利用を理解する。
・バーチャルリアリティ技術がどのように生活に役立っているか理解する。
・インターネット社会でのセキュリティの重要性を理解する。

【行動目標(SBO)】

・音声合成・認識の活用法を説明できる。
・バーチャルリアリティ技術を障がい者にどのように活用することができるか説明できる。
・インターネット社会でのセキュリティの重要性を説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

必要に応じ資料を配布する。

【参考書】

必要に応じ資料を配布する。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・出席点は評価に含みません。
・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。
・成績評価は、期末試験およびレポート点により総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合			30	50	10			10	100
評価指標	取り込む力・知識		20	20					40
	思考・推論・創造の力		10	20					30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢			10				10	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1,2	コンピュータと人間を結ぶ技術(オリエンテーションを含む)	講義(マルチメディア教室)・グループ学修	・シラバスを確認しておく ・ノート整理	10分 30分
3,4	音声合成・認識とその活用(1)	講義(マルチメディア教室)・グループ学修	・配布資料の確認 ・ノート整理	10分 30分
5,6	音声・合成認識とその活用(2)	講義(マルチメディア教室)・グループ学修	・配布資料の確認 ・ノート整理	10分 30分
7,8	バーチャルリアリティーの活用(1)	講義(マルチメディア教室)・グループ学修	・配布資料の確認 ・ノート整理	10分 30分
9,10	バーチャルリアリティーの活用(2)	講義(マルチメディア教室)・グループ学修	・配布資料の確認 ・ノート整理	10分 30分
11,12	インターネットセキュリティ(1)	講義(マルチメディア教室)・グループ学修	・配布資料の確認 ・ノート整理	10分 30分
13,14	インターネットセキュリティ(2)	講義(マルチメディア教室)・グループ学修	・配布資料の確認 ・ノート整理	10分 30分
15 試験	まとめ 科目試験	講義(マルチメディア教室) 試験	・これまでの授業の復習	1時間

リハビリテーション学科

【科目名】	コンピューターと人間の接点Ⅱ			【担当教員】	浅海　岩生
【授業区分】	教養分野(情報)	【授業コード】	1-05-0155-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	igasami@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	１５	(オフィスアワー)月曜～金曜　9時～18時	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・毎回Windowsパソコンを操作します。パソコン操作に慣れておきましょう。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・課題はOffice365のOneNoteで提出します。大学より配布されたメールアドレス・パスワードを確認しておいてください。
・授業で小テスト・資料の閲覧などでパソコンあるいはタブレット端末を使用する機会があります。
・試験結果・レポートは他に支障のない限り返却します。

【講義概要】

(目的)

・人間とコンピューターとの関係がどうあるべきかについて学ぶことにより、その技術をどのように活かすべきかを考える。
・人間とコンピュータを結ぶインターフェースについて学ぶ。
・当該科目と学位授与方針等との関連性;　A-3

(方法)

・人間とコンピュータを結ぶインターフェイスの具体例について講義する。
・マイクロコンピュータを使用し簡単なインターフェイスを作成してみる。
・簡単なプログラムを作成することによりコンピュータを制御する。

【一般教育目標(GIO)】

・マイクロコンピュータの基本構造について理解する。
・各種センサーの活用方法を理解する。
・マイクロコンピュータとセンサーを用いた簡単なインターフェイスについて理解する。

【行動目標(SBO)】

・マイクロコンピュータの基本構造について説明できる。
・各種センサーの機能と活用法について説明できる。
・マイクロコンピュータとセンサーを用いた簡単なインターフェイスを作成できる。

【教科書・リザーブドブック】

必要に応じ資料を配布する。

【参考書】

必要に応じ資料を配布する。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・出席点は評価に含みません。
・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。
・成績評価は、期末試験およびレポート点により総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合			30	50	10			10	100
評価指標	取り込む力・知識		20	20					40
	思考・推論・創造の力		10	20					30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢			10				10	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
１，２	マイクロコンピュータの基本構造について	講義(マルチメディア教室)・グループ学修	・シラバスを確認しておく ・ノート整理	10分 30分
３，４	発光ダイオードを制御する。	講義(マルチメディア教室)・グループ学修	・配布資料の確認 ・ノート整理	10分 30分
５，６	ブザーで音階を鳴らす。	講義(マルチメディア教室)・グループ学修	・配布資料の確認 ・ノート整理	10分 30分
７，８	スイッチの入力と出力 反応時間を測定する。	講義(マルチメディア教室)・グループ学修	・配布資料の確認 ・ノート整理	10分 30分
９，１０	圧センサーを使用する。 ピンチ力の測定	講義(マルチメディア教室)・グループ学修	・配布資料の確認 ・ノート整理	10分 30分
１１，１２	自由課題制作(1)	講義(マルチメディア教室)・グループ学修	・配布資料の確認 ・ノート整理	10分 30分
１３，１４	自由課題制作(2)	講義(マルチメディア教室)・グループ学修	・配布資料の確認 ・ノート整理	10分 30分
１５ 試験	まとめ 科目試験(課題発表)	講義(マルチメディア教室) 試験	・自由課題の発表資料を作成しておく。	1時間

リハビリテーション学科

【科目名】	医療英語Ⅰ・初級			【担当教員】 佐藤　愛子
【授業区分】	教養分野(外国語)	【授業コード】		(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 授業前、教室にて

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

試験結果の返却及びその解説をもってフィードバックとする。

【講義概要】

(目的)

医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定４級に関連したトピックを基に、『書く』『読む』の演習を中心とした授業行い学外検定試験に対応できるようする。

(方法)

専門用語集を使用し基礎語彙を導入し、定着化のため『書く』『読む』の演習で使用していく。テキストの会話文を読解すると同時にターゲット基礎文法の解説及び演習を行う。例文を参考にセンテンスを書く演習を行う。

【一般教育目標(GIO)】

医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定４級合格レベルの英語力獲得を目標とする。又、学外検定試験にも対応できるようにする。

【行動目標(SBO)】

医療現場における基礎的な言い回しを理解できるようになる。検定合格に必要とされる基礎文法力を高める。導入した基礎専門語彙や文法を使用し日常的な医療現場において想定されるパッセージを読解できるようになる。検定合格だけでなく医療現場における基礎英語運用能力向上をする。

【教科書・リザーブドブック】

医療福祉英語検定協会出版『Let's Study Welfare English: 英語で福祉を学ぼう』及び『福祉英語専門用語集』

【参考書】

辞書（英和、和英）を必ず持参のこと。スマートフォンの使用は禁ずる。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

小テスト(文法・表現テスト及び単語テスト）及び期末試験結果を総合的に評価する。
成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。
出席点は評価に含まない。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70	30						100
評価指標	取り込む力・知識	70	30						100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	オリエンテーション 教科書： 第１部レッスン１、第２部１．１	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
3-4	教科書： 第１部レッスン２、第２部１．２ 単語テスト１	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
5-6	教科書： 第１部レッスン３、第２部１．３ 単語テスト２	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
7-8	教科書： 第１部レッスン４、第２部１．４ 単語テスト３	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
9-10	教科書： 第１部レッスン５、第２部１．５ 単語テスト４	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
11-12	教科書： 第１部レッスン６、第２部１．６ 単語テスト５	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
13-14	教科書： 第１部レッスン７、第２部２．１ 単語テスト６	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
15	まとめ	講義及び演習	総復習	45分

16	期末試験	筆記試験	総復習	45分

リハビリテーション学科

【科目名】	医療英語Ⅰ・中級			【担当教員】 佐藤　愛子
【授業区分】	教養分野(外国語)	【授業コード】		(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 授業前、教室にて

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

試験結果の返却及びその解説をもってフィードバックとする。

【講義概要】

(目的)

医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定３級に関連したトピックを基に、『書く』『読む』の演習を中心とした授業行い学外検定試験に対応できるようする。

(方法)

専門用語集を使用し基礎語彙を導入し、定着化のため『書く』『読む』の演習で使用していく。テキストの会話文及び長文を読解すると同時にターゲット基礎文法の解説及び演習を行う。例文を参考にセンテンスを書く演習を行う。

【一般教育目標(GIO)】

医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定３級合格レベルの専門的な英語力獲得を目標とする。また、学外検定試験にも対応できるようにする。

【行動目標(SBO)】

医療現場における基礎的な言い回しを理解できるようになる。検定合格に必要とされる基礎文法力を高める。導入した基礎専門語彙や文法を使用し日常的な医療現場において想定されるパッセージや長文を読解し、実用的な英文が書けるようになる。医療現場における基礎英語運用能力向上も目的とする。

【教科書・リザーブドブック】

医療福祉英語検定協会出版『Let's Study Welfare English: 英語で福祉を学ぼう』及び『福祉英語専門用語集』

【参考書】

辞書（英和、和英）を必ず持参すること。スマートフォンの使用は禁ずる。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

試験及び小テスト(単語テスト）結果を総合的に評価する。
成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。
出席点は評価に含まない。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70	30						100
評価指標	取り込む力・知識	70	30						100
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	オリエンテーション 教科書： 第１部レッスン１、第２部１．１ 長文読解	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
3-4	教科書： 第１部レッスン２、第２部１．２ 長文読解 単語テスト１	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
5-6	教科書： 第１部レッスン３、第２部１．３ 長文読解 単語テスト２	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
7-8	教科書： 第１部レッスン４、第２部１．４ 長文読解 単語テスト３	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
9-10	教科書： 第１部レッスン５、第２部１．５ 長文読解 単語テスト４	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
11-12	教科書： 第１部レッスン６、第２部１．６ 長文読解 単語テスト５	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
13-14	教科書： 第１部レッスン７、第２部２．１ 長文読解 単語テスト６	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
15	まとめ	講義及び演習 総復習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分

16	期末試験	試験	予習： 教科書のダイアログを理解。 総復習	45分

リハビリテーション学科

【科目名】	医療英語Ⅱ・初級			【担当教員】	佐藤　愛子
【授業区分】	教養分野(外国語)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択		
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 授業前、教室にて	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

医療英語I・初級を履修した学生のみ。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

試験結果の返却及びその解説をもってフィードバックとする。

【講義概要】

(目的)

医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定４級に関連したトピックを基に、学外検定試験に対応できるよう英語による『書く』『読む』の演習を中心とした授業を行い学外検定試験に対応できるようにする。また効率の良い受験方法の知識を提供する。

(方法)

医療英語I・初級に引き続き専門用語集を使用し基礎語彙及び文法を更に導入、『書く』『読む』の演習で定着化させていく。会話文を読解すると同時にターゲット基礎文法の解説及び演習を行う。例文を参考にセンテンスを書く演習を行う。多くの検定試験練習問題を解くことにより得点に結びつくような実戦的な訓練する。

【一般教育目標(GIO)】

医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定４級合格レベルの英語力獲得を目標とする。また、学外検定試験にも対応できるようにする。

【行動目標(SBO)】

医療英語I・初級 で学んだ内容を強化・補強し、学外検定試験合格のために不足している力を補い、医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定４級合格レベルの専門的な英語力獲得を目指す。医療分野の初歩的な知識を学び英文読解力を高める。検定の勉強方法を学ぶとともにその問題形式に慣れ、効果的な攻略法を身に付ける。

【教科書・リザーブドブック】

医療福祉英語検定協会出版『Let's Study Welfare English: 英語で福祉を学ぼう』及び『福祉英語専門用語集』

【参考書】

辞書（英和、和英）を必ず持参のこと。スマートフォンの使用は禁ずる。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

小テスト（文法・表現テスト及び単語テスト）及び授業内参加を総合的に評価する。
成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。
出席点は評価に含まない。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70	30						100
評価指標	取り込む力・知識	70	30						100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	教科書： 第１部レッスン８、第２部２．２	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
3-4	英語I初級期末テスト解説 教科書： 第１部レッスン９、第２部２．３ 単語テスト１	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
5-6	教科書： 第１部レッスン１０、第２部２．４ 単語テスト２	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
7-8	教科書： 第１部レッスン１１、第２部３．１ 単語テスト３	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
9-10	教科書： 第１部レッスン１２、第２部３．２ 単語テスト４	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
11-12	教科書： 第２部３．３、３．４ 単語テスト５	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
13-14	教科書： 第２部３．５、４．１ 単語テスト６	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
15	教科書：出発 まとめ	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。 総復習	45分

16	期末試験	試験	総復習	45分

リハビリテーション学科

【科目名】	医療英語Ⅱ・中級			【担当教員】	佐藤　愛子
【授業区分】	教養分野(外国語)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択		
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 授業前、教室にて	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

医療英語I・中級を履修した学生のみ。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

試験結果の返却及びその解説をもってフィードバックとする。

【講義概要】

(目的)

医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定３級に関連したトピックを基に、学外検定試験に対応できるよう英語による『書く』『読む』の演習を中心とした授業を行い学外検定試験に対応できるようにする。また効率の良い受験方法の知識を提供する。

(方法)

医療英語I・中級に引き続き専門用語集を使用し語彙及び文法を更に導入し、『書く』『読む』の演習で定着化させていく。テキストのパラグラフを読解すると同時にターゲット文法の解説及び演習を行う。また短いパラグラフを書く演習を行う。多くの検定試験練習問題を解くことにより得点に結びつくような実戦的な訓練する。

【一般教育目標(GIO)】

医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定３級合格レベルの英語力獲得を目標とする。また、学外検定試験にも対応できるようにする。

【行動目標(SBO)】

医療英語I・中級 で学んだ内容を強化・補強し、学外検定試験合格のために不足している力を補い、医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定3級合格レベルの専門的な英語力獲得を目指す。医療分野の知識を身に付け英文読解力を高め、その内容を問う英語質問文を即座に理解できるようになる。検定の勉強方法を学ぶとともにその問題形式に慣れ、効果的な攻略法を身に付ける。

【教科書・リザーブドブック】

医療福祉英語検定協会出版『Let's Study Welfare English!: 英語で福祉を学ぼう』及び『福祉英語専門用語集』

【参考書】

辞書（英和・和英）を必ず持参のこと。スマートフォンの使用は禁ずる。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

小テスト（文法・表現テスト及び単語テスト）及び授業内参加を総合的に評価する。
成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。
出席点は評価に含まない。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70	30						100
評価指標	取り込む力・知識	70	30						100
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	医療英語I中級　期末試験解説 教科書： 第１部レッスン８、第２部２．２ 長文読解	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
3-4	教科書： 第１部レッスン９、第２部２．３ 長文読解 単語テスト１	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
5-6	教科書： 第１部レッスン１０、第２部２．４ 長文読解 単語テスト２	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
7-8	教科書： 第１部レッスン１１、第２部３．１ 長文読解 単語テスト３	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
9-10	教科書： 第１部レッスン１２、第２部３．２ 長文読解 単語テスト４	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
11-12	教科書： 第２部３．３、３．４ 長文読解 単語テスト５	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
13-14	教科書： 第２部３．５、４．１ 長文読解 単語テスト６	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。	45分
15	教科書：出発 長文読解 まとめ	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。	45分

16	期末試験	試験	総復習	45分

リハビリテーション学科

【科目名】	医療英会話Ⅰ・初級			【担当教員】	Sam Suleiman
【授業区分】	教養分野(外国語)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	sulsuz@yahoo.co.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 電子メールで質問を受け付ける	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

試験結果の返却及びその解説をもってフィードバックとする。

【講義概要】

(目的)

医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定４級に関連したトピックを基に『聴く』『話す』の演習を中心とした授業を行い学外検定試験に対応できるようにする。

(方法)

医療福祉英語検定協会の教材で導入した基礎専門用語・表現の対話内での使用を促し、その定着を図る。ディクテーション演習により正しい発音及び聞き取り能力を向上させる。簡単な医療現場での会話をモデルに、自分で会話文が作り使用できるようにする。擬似環境における対話練習により英語を聴く・話すことに慣れる。

【一般教育目標(GIO)】

医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定４級合格レベルの英語による会話力及び聴解力獲得を目標とする。

【行動目標(SBO)】

様々な日常医療現場における簡単な内容の会話を聴き理解できるようになる。また同現場での基礎的な対話ができるようになる。福祉英語検定４級のリスニングセクションにおいて高得点をとる。

【教科書・リザーブドブック】

医療福祉英語検定協会出版『Let's Study Welfare English: 英語で福祉を学ぼう』及び『福祉英語専門用語集』

【参考書】

辞書（英和、和英）を必ず持参すること。スマートフォンの使用は禁ずる。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

試験・小テストの結果及び授業内参加度等を総合的に評価する。
成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。
出席点は評価に含まない。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		40	40					20	100
評価指標	取り込む力・知識	40	40						80
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	オリエンテーション 教科書： 第１部レッスン１、第２部１．１	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
3-4	教科書： 第１部レッスン２、第２部１．２	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
5-6	教科書： 第１部レッスン３、第２部１．３	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
7-8	教科書： 第１部レッスン４、第２部１．４	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
9-10	教科書： 第１部レッスン５、第２部１．５	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
11-12	教科書： 第１部レッスン６、第２部１．６	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
13-14	教科書： 第１部レッスン７、第２部２．１	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
15	まとめ	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分

16	期末試験	試験	総復習	30分

リハビリテーション学科

【科目名】	医療英会話Ⅰ・中級			【担当教員】	Glenn Steven
【授業区分】	教養分野(外国語)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択		
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 授業後、教室にて	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

試験結果の返却及びその解説をもってフィードバックとする。

【講義概要】

(目的)

医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定３級に関連したトピックを基に『聴く』『話す』の演習を中心とした授業を行い学外検定試験に対応できるようにする。

(方法)

医療福祉英語検定協会の教材で導入した３級程度専門用語・表現の対話内での使用を促し、その定着を図る。ディクテーション演習により正しい発音及び聞き取り能力を向上させる。医療現場での会話をモデルにした演習を繰り返す行い、英語による会話継続力を身に付ける。擬似環境における対話練習により英語を聴く・話すことに慣れる。

【一般教育目標(GIO)】

医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定３級合格レベルの英語による会話力及び聴解力獲得を目標とする。

【行動目標(SBO)】

医療現場における様々な領域の知識を身に付ける。様々な医療現場における会話を聞き理解できるようになるとともに、それを会話で応用できるようになる。また同場面でのコミュニケーションを無理なく継続できるようになる。福祉英語検定３級のリスニングセクションにおいて高得点をとる。

【教科書・リザーブドブック】

医療福祉英語検定協会出版『Let's Study Welfare English: 英語で福祉を学ぼう』及び『福祉英語専門用語集』

【参考書】

辞書（英和・和英）を必ず持参のこと。教員を除きスマートフォンの使用は禁ずる。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

試験結果及び授業内参加度等を総合的に評価する。
成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。
出席点は評価に含まない。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70						30	100
評価指標	取り込む力・知識	70							70
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							30	30

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	オリエンテーション 教科書： 第１部レッスン１、第２部１．１	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
3-4	教科書： 第１部レッスン２、第２部１．２	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
5-6	教科書： 第１部レッスン３、第２部１．３	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
7-8	教科書： 第１部レッスン４、第２部１．４	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
9-10	教科書： 第１部レッスン５、第２部１．５	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
11-12	教科書： 第１部レッスン６、第２部１．６	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
13-14	教科書： 第１部レッスン７、第２部２．１	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
15	まとめ	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分

16	期末試験	試験	総復習	30分

リハビリテーション学科

【科目名】	医療英会話Ⅱ・初級			【担当教員】	Sam Suleiman
【授業区分】	教養分野(外国語)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	sulsuz@yahoo.co.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 電子メールで質問を受け付ける	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

医療英会話I・初級を履修した学生のみ。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

試験結果の返却をもってフィードバックとする。

【講義概要】

(目的)

医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定４級合格を目標とする。日常医療現場における英語による『聴く』『話す』の演習を中心とした授業をおこない学外検定試験に対応できるようにする。医療領域における公用語として実際に用いることができる基礎英会話力を身に付ける。英語で話そう、英語を聴こうという自律的・積極的態度を身に付ける。また効率の良い受験方法の知識を提供する。

(方法)

医療英会話I・初級に引き続き検定協会の教材で導入した基礎専門用語・表現の対話内での使用を促し、その定着を図る。４級検定試験において取り上げられる医療現場設定を中心に対話練習を繰り返しおこなう。同時に多くの検定試験リスニング類似問題を解くことにより得点に結びつくよう実戦的な訓練する。

【一般教育目標(GIO)】

医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定４級合格レベルの英語による会話力及び聴解力獲得を目標とする。

【行動目標(SBO)】

医療英会話I・初級 で学んだ内容を強化・補強し、学外検定試験合格のために不足しているリスニング力を補い、医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定４級合格を目指す。検定のリスニングセクション勉強方法を学ぶとともにその問題形式に慣れ、効果的な攻略法を身に付ける。医療分野の初歩的な知識を身に付け、日常医療現場における会話力を高める。

【教科書・リザーブドブック】

医療福祉英語検定協会出版『Let's Study Welfare English: 英語で福祉を学ぼう』及び『福祉英語専門用語集』

【参考書】

辞書（英和・和英）を必ず持参すること。スマートフォンの使用は禁ずる。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

試験・小テストの結果及び授業内参加度を総合的に評価する。
成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。
出席点は評価に含まない。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		40	40					20	100
評価指標	取り込む力・知識	40	40						80
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	教科書： 第１部レッスン８、第２部２．２	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
3-4	教科書： 第１部レッスン９、第２部２．３	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
5-6	教科書： 第１部レッスン１０、第２部２．４	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
7-8	教科書： 第１部レッスン１１、第２部３．１	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
9-10	教科書： 第１部レッスン１２、第２部３．２	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
11-12	教科書： 第２部３．３、３．４	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
13-14	教科書： 第２部３．５、４．１	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
15	まとめ	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分

16	期末試験	試験	総復習	30分

リハビリテーション学科

【科目名】	医療英会話Ⅱ・中級			【担当教員】 Glenn Steven
【授業区分】	教養分野(外国語)	【授業コード】		(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 授業前、教室にて

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

医療英語I・中級を履修した学生のみ。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

試験結果の返却及びその解説をもってフィードバックとする。

【講義概要】

(目的)

医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定３級に関連したトピックを基に、学外検定試験に対応できるよう英語による『書く』『読む』の演習を中心とした授業を行い学外検定試験に対応できるようにする。また効率の良い受験方法の知識を提供する。

(方法)

医療英語I・中級に引き続き専門用語集を使用し語彙及び文法を更に導入し、『書く』『読む』の演習で定着化させていく。テキストのパラグラフを読解すると同時にターゲット文法の解説及び演習を行う。また短いパラグラフを書く演習を行う。多くの検定試験練習問題を解くことにより得点に結びつくような実戦的な訓練する。

【一般教育目標(GIO)】

医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定３級合格レベルの英語力獲得を目標とする。また、学外検定試験にも対応できるようにする。

【行動目標(SBO)】

医療英語I・中級 で学んだ内容を強化・補強し、学外検定試験合格のために不足している力を補い、医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定3級合格レベルの専門的な英語力獲得を目指す。医療分野の知識を身に付け英文読解力を高め、その内容を問う英語質問文を即座に理解できるようになる。検定の勉強方法を学ぶとともにその問題形式に慣れ、効果的な攻略法を身に付ける。

【教科書・リザーブドブック】

医療福祉英語検定協会出版『Let's Study Welfare English!: 英語で福祉を学ぼう』及び『福祉英語専門用語集』

【参考書】

辞書（英和・和英）を必ず持参のこと。スマートフォンの使用は禁ずる。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

小テスト（文法・表現テスト及び単語テスト）及び授業内参加を総合的に評価する。
成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。
出席点は評価に含まない。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70	30						100
評価指標	取り込む力・知識	70	30						100
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	医療英語I中級　期末試験解説 教科書： 第１部レッスン８、第２部２．２ 長文読解	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
3-4	教科書： 第１部レッスン９、第２部２．３ 長文読解 単語テスト１	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
5-6	教科書： 第１部レッスン１０、第２部２．４ 長文読解 単語テスト２	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
7-8	教科書： 第１部レッスン１１、第２部３．１ 長文読解 単語テスト３	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
9-10	教科書： 第１部レッスン１２、第２部３．２ 長文読解 単語テスト４	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
11-12	教科書： 第２部３．３、３．４ 長文読解 単語テスト５	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
13-14	教科書： 第２部３．５、４．１ 長文読解 単語テスト６	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。	45分
15	教科書：出発 長文読解 まとめ	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。	45分

16	期末試験	試験	総復習	45分

リハビリテーション学科

【科目名】	総合医療英語Ｉ・上級			【担当教員】
【授業区分】	教養分野(外国語)	【授業コード】		(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	kajiura@nur.ac.jp
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 水曜日３時～３時３０分

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

試験結果の返却及び解説をもってフィードバックとする。

【講義概要】

(目的)

将来、海外留学や学会発表をするのに必要な英語能力を養う。

(方法)

自分でまとめた英文エッセイを明瞭な発音や適切なリズム・イントネーションで効果的にプレゼンテーションを行う実践的演習を行う。

【一般教育目標(GIO)】

日常英会話ではなく医療に関連するテーマにおいて科学的根拠に基づいた情報資料を用い効果的な情報提示を目的としたプレゼンテーションができるようになる。

【行動目標(SBO)】

医療分野における英語で効果的に情報提示するプレゼンテーションができるようになる。

【教科書・リザーブドブック】

指定教科書なし

【参考書】

辞書（英和、和英）を必ず毎授業持参する。スマートフォンの使用は禁ずる。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

実技及び授業参加度等を総合的に評価する。
成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。
出席点は評価に含まない。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合						70		30	100
評価指標	取り込む力・知識					20			20
	思考・推論・創造の力					15			15
	コラボレーションとリーダーシップ					5			5
	発表力					30		30	60
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	オリエンテーション	講義	導入単語・表現の予習及び復習	45分
2-3	講義（口頭発表構成）	講義及び演習	導入単語・表現の予習及び復習	45分
4-6	準備（口頭発表１）	演習	導入単語・表現の予習及び復習	45分
7-8	実技（口頭発表１）	実技演習	口頭発表練習	45分
9-12	準備（口頭発表２）	演習	導入単語・表現の予習及び復習	45分
13-14	実技（口頭発表２）	実技演習	口頭発表練習	45分
15	まとめ	演習	導入単語・表現の復習	45分

リハビリテーション学科

【科目名】	総合医療英語Ⅱ・上級			【担当教員】
【授業区分】	教養分野(外国語)	【授業コード】		(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	kajiura@nur.ac.jp
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 水曜日３時～３時３０分

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

総合医療英語I・上級を履修した学生のみ

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

試験結果の返却及び解説をもってフィードバックとする。

【講義概要】

(目的)

将来、海外留学や学会発表をするのに必要な英語能力を養う。

(方法)

自分でまとめた英文エッセイを明瞭な発音や適切なリズム・イントネーションで効果的にプレゼンテーションを行う実践的演習を行う。

【一般教育目標(GIO)】

日常英会話ではなく医療に関連するテーマにおいて科学的根拠に基づいた情報資料を用い効果的な情報提示を目的としたプレゼンテーションやディスカッションができるようになる。

【行動目標(SBO)】

医療分野における英語で効果的に情報提示するプレゼンテーションやディスカッションができるようになる。

【教科書・リザーブドブック】

指定教科書なし

【参考書】

辞書（英和、和英）を必ず毎授業持参する。スマートフォンの使用は禁ずる。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

実技及び授業参加度等を総合的に評価する。
成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。
出席点は評価に含まない。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合						70		30	100
評価指標	取り込む力・知識					20			20
	思考・推論・創造の力					15			15
	コラボレーションとリーダーシップ					5			5
	発表力					30		30	60
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	オリエンテーション	講義	導入単語・表現の予習及び復習	45分
2-4	準備（口頭発表１）	講義及び演習	導入単語・表現の予習及び復習	45分
4-5	実技（口頭発表１）	実技演習	導入単語・表現の予習及び復習	45分
6	講義（ディスカッションの進め方と必要な表現）	講義	講義内容の復習	45分
7-9	準備（ディスカッション１準備）	講義及び演習	導入単語・表現の予習及び復習	45分
10	実技（ディスカッション１）	実技演習	ディスカッション練習	45分
11-13	準備（ディスカッション２準備）	講義及び演習	導入単語・表現の予習及び復習	45分
14	実技（ディスカッション２）	実技演習	ディスカッション練習	45分

15	まとめ	演習	導入単語・表現の復習	45分

リハビリテーション学科

【科目名】	医療英文抄読法			【担当教員】	梶浦　麻子
【授業区分】	教養分野(外国語)	【授業コード】	1-06-0220-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	kajiura@nur.ac.jp	
【単位数】	2	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 水曜3時～4時	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

試験結果の返却及び解説をもってフィードバックとする。

【講義概要】

(目的)

英語で書かれた学術論文に慣れ親しむ。また、英語を医療分野の公用語としてとらえ、将来、英語で書かれた文献を苦手意識なしに手にできる基盤を身につける。

(方法)

解剖学や生理学などの基礎医学用語、医療現場でよく用いられる専門用語、疾患名、医療関係者が用いる略語、薬剤名や検査法／検査機器名、英語で記載されたカルテや報告書に触れる機会を多数設ける。また、学術雑誌に掲載される症例報告や研究論文（臨床研究および基礎研究）を個々の学生の興味や専門分野に合わせて選択し、グループ作業も含めて読みこなす練習をする。

【一般教育目標(GIO)】

英語で書かれた学術論文に慣れ親しみ、将来、英語で書かれた文献を苦手意識なしに読む基盤を身につける。

【行動目標(SBO)】

学術論文の形式を示すことができる。学術論文を読むポイントがわかる。文献ﾘｽﾄの意義がわかる。

【教科書・リザーブドブック】

指定教科書無し
辞書（和英・英和）は毎授業持参のこと。スマートフォンの使用は禁ずる。

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

小テスト及びレポートの結果を総合的に評価する。
成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。
出席点は評価に含みまない。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合			50	50					100
評価指標	取り込む力・知識		50	25					75
	思考・推論・創造の力			10					10
	コラボレーションとリーダーシップ			10					10
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢			5					5

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	オリエンテーション	講義及び演習	授業内容の復習	30分
2	学術論文・英語論文とは	講義及び演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習	30分
3-4	論文題目の読み方	講義及び演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習	30分
5-6	PubMedの使い方	講義及び演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習	30分
7-9	オンライン情報の検索及び分析	講義及び演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習	30分
10-12	Research Topic 及び Research Questionについて	講義及び演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習	30分
13-15	IMRADについて	講義及び演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習	30分

リハビリテーション学科

【科目名】	国際理解演習Ⅰ			【担当教員】	張馬　梅蕾
【授業区分】	教養分野(外国語)	【授業コード】	1-06-0225-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	harima@nur.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 水曜日14：00～17：00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・海外研修に行くことを前提とします。
・研修費用は自己負担となります。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・海外での団体行動であるため、参加者の協力が重要である。
・試験結果・レポートは他に支障のない限り返却します。

【講義概要】

(目的)

各自の研究テーマに沿った事前研究、外国における実地体験、レポート作成を通して、物事に対する探究心、諸外国の社会や文化への理解を深めることを目標とする。
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2

(方法)

本学企画の海外研修旅行に参加、あるいは個人旅行、ホームスティなどを行う学生が履修できる。
履修申告ののち、研究テーマと指導教員を決め、事前研究を行う。そして外国での実地体験を経たうえで、事後指導を受けレポートを作成する。

【一般教育目標(GIO)】

・授業を通して国際理解・異文化を理解し、社会や国内外の人々とコミュニケーションできる能力を高める。
・旅行を通して集団行動に関するマナーの習得、旅行計画の立案などを学習する。

【行動目標(SBO)】

・他国での社会ルールを知る。
・言語の違いを克服する。

【教科書・リザーブドブック】

・必要応じ資料を配布します。

【参考書】

・授業の中で参考となる本を紹介していく。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。
・成績評価は、レポート点により評価する。
・出席点は評価に含みません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				60	20			20	100
評価指標	取り込む力・知識			20					20
	思考・推論・創造の力			10					10
	コラボレーションとリーダーシップ			30					30
	発表力			0	20				20
	学修に取り組む姿勢			0				20	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	オリエンテーション：海外研修の目的	講義	予習：海外旅行に関する知識を身に着けておくこと。外務省HPで治安状況を調べておくこと。	30分
2	国際社会とリハビリテーション 国際社会における日本の位置付け：WCPT・WFOT	講義	予習：国際社会における日本の役割について調べておくこと。	30分
3	海外研修の紹介 （主に中国の紹介）	講義	予習：国際社会における日本の役割について調べておくこと。	30分
4	各国のリハビリテーションの現状（1）	講義 チーム活動	予習：米国およびアジアにおける医療について自己学習しておくこと	60分
5	各国のリハビリテーションの現状（2）	講義 チーム活動	予習：口頭発表の準備 復習：グループワーク内容の確認	60分
6	海外研修	実習		
7	海外研修	実習		
8	海外研修	実習		

9	海外研修	実習		
10	海外研修	実習		
11	海外研修	実習		
12	海外研修	実習		
13	海外研修	実習		
14	海外研修	実習		
15	発表会	講義 チーム活動	予習：口頭発表の準備 復習：グループワーク内容の確認	120分

リハビリテーション学科

【科目名】	国際理解演習Ⅱ			【担当教員】	張馬　梅蕾
【授業区分】	教養分野(外国語)	【授業コード】	1-06-0225-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	harima@nur.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 水曜日14：00～17：00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・海外研修に行くことを前提とします。
・研修費用は自己負担となります。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・海外での団体行動であるため、参加者の協力が重要である。
・試験結果・レポートは他に支障のない限り返却します。

【講義概要】

(目的)

各自の研究テーマに沿った事前研究、外国における実地体験、レポート作成を通して、物事に対する探究心、諸外国の社会や文化への理解を深めることを目標とする。
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2

(方法)

本学企画の海外研修旅行に参加、あるいは個人旅行、ホームスティなどを行う学生が履修できる。
履修申告ののち、研究テーマと指導教員を決め、事前研究を行う。そして外国での実地体験を経たうえで、事後指導を受けレポートを作成する。

【一般教育目標(GIO)】

・授業を通して国際理解・異文化を理解し、社会や国内外の人々とコミュニケーションできる能力を高める。
・旅行を通して集団行動に関するマナーの習得、旅行計画の立案などを学習する。

【行動目標(SBO)】

・他国での社会ルールを知る。
・言語の違いを克服する。

【教科書・リザーブドブック】

・必要応じ資料を配布します。

【参考書】

・授業の中で参考となる本を紹介していく。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。
・成績評価は、レポート点により評価する。
・出席点は評価に含みません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				60	20			20	100
評価指標	取り込む力・知識			20					20
	思考・推論・創造の力			10					10
	コラボレーションとリーダーシップ			30					30
	発表力			0	20				20
	学修に取り組む姿勢			0				20	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	オリエンテーション：海外研修の目的	講義	予習：海外旅行に関する知識を身に着けておくこと。外務省HPで治安状況を調べておくこと。	30分
2	国際社会とリハビリテーション 国際社会における日本の位置付け：WCPT・WFOT	講義	予習：国際社会における日本の役割について調べておくこと。	30分
3	海外研修の紹介 （主に中国の紹介）	講義	予習：国際社会における日本の役割について調べておくこと。	30分
4	各国のリハビリテーションの現状（1）	講義 チーム活動	予習：米国およびアジアにおける医療について自己学習しておくこと	60分
5	各国のリハビリテーションの現状（2）	講義 チーム活動	予習：口頭発表の準備 復習：グループワーク内容の確認	60分
6	海外研修	実習		
7	海外研修	実習		
8	海外研修	実習		

9	海外研修	実習		
10	海外研修	実習		
11	海外研修	実習		
12	海外研修	実習		
13	海外研修	実習		
14	海外研修	実習		
15	発表会	講義 チーム活動	予習：口頭発表の準備 復習：グループワーク内容の確認	120分

リハビリテーション学科

【科目名】	国際理解演習			【担当教員】	張馬　梅蕾
【授業区分】	教養分野(外国語)	【授業コード】	1-06-0225-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	通年(前期)	【選択必修】	選択	harima@nur.ac.jp	
【単位数】	2	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 水曜日14：00～17：00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・海外研修に行くことを前提とします。
・研修費用は自己負担となります。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・海外での団体行動であるため、参加者の協力が重要である。
・試験結果・レポートは他に支障のない限り返却します。

【講義概要】

(目的)

各自の研究テーマに沿った事前研究、外国における実地体験、レポート作成を通して、物事に対する探究心、諸外国の社会や文化への理解を深めることを目標とする。
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2

(方法)

本学企画の海外研修旅行に参加、あるいは個人旅行、ホームスティなどを行う学生が履修できる。

【一般教育目標(GIO)】

・授業を通して国際理解・異文化を理解し、社会や国内外の人々とコミュニケーションできる能力を高める。
・旅行を通して集団行動に関するマナーの習得、旅行計画の立案などを学習する。

【行動目標(SBO)】

・他国での社会ルールを知る。
・言語の違いを克服する。

【教科書・リザーブドブック】

・必要応じて資料を配布します。

【参考書】

・授業の中で参考となる本を紹介していく。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。
・成績評価は、レポート点により評価する。
・出席点は評価に含みません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				60	20			20	100
評価指標	取り込む力・知識			20					20
	思考・推論・創造の力			10					10
	コラボレーションとリーダーシップ			30					30
	発表力			0	20				20
	学修に取り組む姿勢			0				20	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	オリエンテーション：海外研修の目的	講義	予習：海外旅行に関する知識を身につけておくこと。外務省HPで治安状況を調べておくこと。	30
2	国際社会とリハビリテーション 国際社会における日本の位置付け：WCPT・WFOT	講義	予習：国際社会における日本の役割について調べておくこと。	30
3	海外研修の紹介 （主に中国の紹介）	講義	予習：国際社会における日本の役割について調べておくこと。	30
4	各国のリハビリテーションの現状（1）	講義 チーム活動	予習：米国およびアジアにおける医療について自己学習しておくこと。	60
5	各国のリハビリテーションの現状（2）	講義 チーム活動	予習：口頭発表の準備 復習：グループワーク内容の確認	60
6	海外研修	実習		
7	海外研修	実習		
8	海外研修	実習		

9	海外研修	実習		
10	海外研修	実習		
11	海外研修	実習		
12	海外研修	実習		
13	海外研修	実習		
14	海外研修	実習		
15	発表会	講義 チーム活動	予習：口頭発表の準備 復習：グループワーク内容の確認	120

リハビリテーション学科

【科目名】	国際理解演習			【担当教員】	張馬　梅蕾
【授業区分】	教養分野(外国語)	【授業コード】	1-06-0225-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	通年(後期)	【選択必修】	選択	harima@nur.ac.jp	
【単位数】	2	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 水曜日14：00～17：00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・海外研修に行くことを前提とします。
・研修費用は自己負担となります。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・海外での団体行動であるため、参加者の協力が重要である。
・試験結果・レポートは他に支障のない限り返却します。

【講義概要】

(目的)

各自の研究テーマに沿った事前研究、外国における実地体験、レポート作成を通して、物事に対する探究心、諸外国の社会や文化への理解を深めることを目標とする。
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2

(方法)

本学企画の海外研修旅行に参加、あるいは個人旅行、ホームスティなどを行う学生が履修できる。

【一般教育目標(GIO)】

・授業を通して国際理解・異文化を理解し、社会や国内外の人々とコミュニケーションできる能力を高める。
・旅行を通して集団行動に関するマナーの習得、旅行計画の立案などを学習する。

【行動目標(SBO)】

・他国での社会ルールを知る。
・言語の違いを克服する。

【教科書・リザーブドブック】

・必要応じて資料を配布します。

【参考書】

・授業の中で参考となる本を紹介していく。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。
・成績評価は、レポート点により評価する。
・出席点は評価に含みません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				60	20			20	100
評価指標	取り込む力・知識			20					20
	思考・推論・創造の力			10					10
	コラボレーションとリーダーシップ			30					30
	発表力			0	20				20
	学修に取り組む姿勢			0				20	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	オリエンテーション：海外研修の目的	講義	予習：海外旅行に関する知識を身につけておくこと。外務省HPで治安状況を調べておくこと。	30
2	国際社会とリハビリテーション 国際社会における日本の位置付け：WCPT・WFOT	講義	予習：国際社会における日本の役割について調べておくこと。	30
3	海外研修の紹介 （主に中国の紹介）	講義	予習：国際社会における日本の役割について調べておくこと。	30
4	各国のリハビリテーションの現状（1）	講義 チーム活動	予習：米国およびアジアにおける医療について自己学習しておくこと。	60
5	各国のリハビリテーションの現状（2）	講義 チーム活動	予習：口頭発表の準備 復習：グループワーク内容の確認	60
6	海外研修	実習		
7	海外研修	実習		
8	海外研修	実習		

9	海外研修	実習		
10	海外研修	実習		
11	海外研修	実習		
12	海外研修	実習		
13	海外研修	実習		
14	海外研修	実習		
15	発表会	講義 チーム活動	予習：口頭発表の準備 復習：グループワーク内容の確認	120

リハビリテーション学科

【科目名】	解剖学・総論Ｉ			【担当教員】	松村　博雄
【授業区分】	専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	【大学取次】nur-edu@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 水曜日、12時50分～13時20分	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

今後、医学全般を学ぶ上での基礎となるものです。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

中学・高校の教科書の中で、生物に関する記載を復習しておくこと。試験の正解は他に支障の無い限り発表することとします。

【講義概要】

(目的)

医学、医療について学ぶための基礎として解剖学、形態学の基礎知識について科学的に学ぶ。さらに比較解剖学、発生学を通して、ヒトの特徴を理解する。生と死を通して、生命の尊厳、医の倫理を学ぶ。これらにより、心身機能と身体構造を理解する。当該科目との関連性；Ａ１、Ａ２

(方法)

教科書、独自のスライドを主に，標本、模型なども組み合わせて学習する。骨、筋肉、神経、脈管などを総合的に、局所解剖学的に考察し、説明ができるようにする。
本科目は主として、解剖学概論、人体構造の基本、体幹の解剖などを講義する。

【一般教育目標(GIO)】

医学、医療について学ぶために、ヒトのからだについてその構造や働きを理解する。

【行動目標(SBO)】

ﾋﾄのからだを構成している骨格、筋肉、血管、神経について説明できる。
関節の構造やその運動を説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

河野邦雄･伊藤隆造他著『東洋療法学校協会編教科書　解剖学　第2版』医歯薬出版2006年

【参考書】

森　於菟著『分担解剖学第1巻　改訂第11版』金原出版,1985年.￥9,765
平沢　興著『分担解剖学第2巻　改訂第11版』金原出版,1984年.￥11,130
小川　鼎三著『分担解剖学第3巻　改訂第11版』金原出版、1982年.￥9,030

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規定のＧＰＡ制度に従う。出席点は評価に含めません。
成績評価は、試験とレポートおよびその他（実習への参加や問答）などにより総合的に行う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50		40				10	100
評価指標	取り込む力・知識	50		40					90
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ							10	10
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	みずから考え，学習するということ。医学を学ぶということ。解剖学のスタート。脊椎動物について。	講義		
2	初期発生について。ヒトのからだは二重の筒。	講義		
3	身体の組織について。骨の組織構造。関節の構造について。	講義	前回の講義の復習	30分
4	体幹の骨格。脊柱について。胸郭を構成する骨格について。	講義		
5	胸郭を構成する筋肉について。筋肉、腱・靭帯の構造について。	講義	前回の講義の復習	30分
6	神経組織について。脊髄神経について。　筋肉と神経の関係。横隔膜と呼吸運動について。	講義		
7	腹部の筋肉とその支配神経について。	講義	前回の講義の復習	30分
8	鼡径管について。レポートについて。	講義		

9	頸部の骨格について。頸部の筋肉について。	講義	前回の講義の復習	30分
10	頚神経ワナについて。頸部の大血管について。	講義		
11	背部の筋肉と脊髄神経後枝について。	講義	前回の講義の復習	30分
12	肩甲骨と鎖骨について。	講義		
13	骨学実習.	実習	前回の講義の復習	30分
14	浅背筋群について。肩甲骨と鎖骨の運動について。	講義		
15	まとめ			30分

リハビリテーション学科

【科目名】	解剖学・総論Ⅱ			【担当教員】	松村　博雄
【授業区分】	専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	【大学取次】nur-edu@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 水曜日、12時50分～13時20分	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

今後、医学全般を学ぶ上での基礎となるものです。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

中学・高校の教科書の中で、生物に関する記載を復習しておくこと。試験の正解は他に支障の無い限り発表することとします。

【講義概要】

(目的)

医学、医療について学ぶための基礎として解剖学、形態学の基礎知識について科学的に学ぶ。さらに比較解剖学、発生学を通して、ヒトの特徴を理解する。生と死を通して、生命の尊厳、医の倫理を学ぶ。これらにより、心身機能と身体構造を理解する。当該科目との関連性；Ａ１、Ａ２

(方法)

教科書、独自のスライドを主に、標本、模型などを組み合わせて学習する。骨、筋肉、神経、脈管などを総合的に、局所解剖学的に考察し、説明ができるようにする。
本科目は主として、「上肢帯および上肢の解剖」を講義する。

【一般教育目標(GIO)】

医学、医療について学ぶために、ヒトのからだについてその構造や働きを理解する。

【行動目標(SBO)】

ﾋﾄのからだを構成している骨格と関節、筋肉、血管、神経について説明できる。
上肢と上肢帯について，その運動について説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

河野邦雄･伊藤隆造他著『東洋療法学校協会編教科書　解剖学　第2版』医歯薬出版2006年

【参考書】

森　於菟著『分担解剖学第1巻　改訂第11版』金原出版,1985年.￥9,765
平沢　興著『分担解剖学第2巻　改訂第11版』金原出版,1984年.￥11,130
小川　鼎三著『分担解剖学第3巻　改訂第11版』金原出版、1982年.￥9,030

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規定のＧＰＡ制度に従う。出席点は評価に含めません。
成績評価は、試験とレポートおよびその他（実習への参加や問答）などにより総合的に行う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50		40				10	100
評価指標	取り込む力・知識	50		40					90
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ							10	10
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	上肢帯と上肢の骨格について。	講義	解剖学・総論Ⅰの復習	40分
2	上肢帯にある関節について。肩関節について。	講義		
3	肩甲骨の運動について。上肢帯の筋肉について。	講義	前回の講義の復習	30分
4	肩関節の運動について。	講義		
5	腕神経叢について。	講義	前回の講義の復習	30分
6	腋窩の構成について。上肢の筋肉について	講義		
7	前腕の骨格について。	講義	前回の講義の復習	30分
8	肘関節について。肘関節の運動について。レポートについて。	講義		

9	前腕の筋肉について。伸筋支帯と屈筋支帯について。	講義	前回の講義の復習	30分
10	肘窩について。上肢の脈管について。	講義		
11	骨学実習。	実習	前回の講義の復習	30分
12	手の骨について。手関節について。	講義		
13	手の筋肉について。母指球と小指球について。橈骨神経・尺骨神経・正中神経について。	講義	前回の講義の復習	30分
14	手指の運動について。指の屈曲・伸展機構について。	講義		
15	まとめ			

リハビリテーション学科

【科目名】	解剖学・総論Ⅲ			【担当教員】	松村　博雄
【授業区分】	専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	【大学取次】nur-edu@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 水曜日、12時50分～13時20分	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

今後、医学全般を学ぶ上での基礎となるものです。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

中学・高校の教科書の中で、生物に関する記載を復習しておくこと。試験の正解は他に支障の無い限り発表することとします。

【講義概要】

(目的)

医学、医療について学ぶための基礎として解剖学、形態学の基礎知識について科学的に学ぶ。さらに比較解剖学、発生学を通して、ヒトの特徴を理解する。生と死を通して、生命の尊厳、医の倫理を学ぶ。これらにより、心身機能と身体構造を理解する。当該科目との関連性；Ａ１、Ａ２

(方法)

教科書、独自のスライドを主とし，標本、模型などを組み合わせて学習する。骨、筋肉、神経、脈管などを総合的に、局所解剖学的に考察し、説明ができるようにする。
本科目は主として、「下肢帯および下肢の解剖」、「上肢と下肢の比較」などを講義する。

【一般教育目標(GIO)】

医学、医療について学ぶために、ヒトのからだについてその構造や働きを理解する。

【行動目標(SBO)】

ヒトのからだを構成している骨格および関節、筋肉、血管、神経について，その構造や運動を説明できる。
下肢帯と下肢帯の構造やその運動を説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

河野邦雄･伊藤隆造他著『東洋療法学校協会編教科書　解剖学　第2版』医歯薬出版2006年

【参考書】

森　於菟著『分担解剖学第1巻　改訂第11版』金原出版,1985年.￥9,765
平沢　興著『分担解剖学第2巻　改訂第11版』金原出版,1984年.￥11,130
小川　鼎三著『分担解剖学第3巻　改訂第11版』金原出版、1982年.￥9,030

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規定のＧＰＡ制度に従う。出席点は評価に含めません。
成績評価は、試験とレポートおよびその他（実習への参加や問答）などにより総合的に行う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50		40				10	100
評価指標	取り込む力・知識	50		40					90
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ							10	10
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	下肢帯と大腿の骨格について。骨盤の男女差について。骨盤の靭帯について。	講義	解剖学・総論Ⅰと総論Ⅱを復習	40分
2	股関節とその運動について。	講義		
3	骨盤に関係する筋肉について。	講義	前回講義の復習	30分
4	腰仙骨神経叢について。坐骨神経について。	講義		
5	大腿伸側および屈側の筋肉について。	講義	前回講義の復習	30分
6	内転筋群について。大腿部の局所解剖について。下肢帯と下肢に関する脈管について。	講義		
7	下腿の骨格について。膝関節について。	講義	前回講義の復習	30分
8	膝関節の靭帯と膝関節の運動について。レポートについて。	講義		

9	下腿屈側と伸側の筋肉について。下腿の局所解剖について。足部の骨格について	講義	前回講義の復習	30分
10	足関節とその靭帯について。	講義		
11	骨学実習	実習	前回講義の復習	30分
12	坐骨神経と脛骨神経・総腓骨神経について。足関節の運動について。	講義		30分
13	足根管について。足弓について。	講義	前回講義の復習	30分
14	足部の筋肉について。	講義		
15	まとめ			

リハビリテーション学科

【科目名】	解剖学・各論Ⅰ			【担当教員】	西野　幾子
【授業区分】	専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー)授業終了後、非常勤控室で対応。	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

理学療法学、作業療法学、リハビリテーション心理学専攻１年次に在学している学生が対象。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

就学状況確認のため、適宜小テストを行うことがあります。

【講義概要】

(目的)

人体を骨、筋、神経、脈管という系統に分析、また組織学的に細胞のレベルまで分析して説明する。最終的には再び人体を二重の筒（胴体と上・下肢）－（頭部と内臓）に、またマクロからミクロまでを統合して考察、理解する。これらにより、心身機能と身体構造の理解を深める。

(方法)

教科書、図譜などを活用して各器官、臓器の形態学的特徴を分析、考察して理解して説明できるようにする。
本科目は主として、「循環器」、「内臓学・組織学」、「呼吸器」などを講義する。

【一般教育目標(GIO)】

医学や医療を学ぶ上での基礎を構築するため、人体の形態や構造を理解する。

【行動目標(SBO)】

人体を構成する細胞・組織について、その構成や特徴を説明できる。
人体の内臓の構成や、諸器官について、その形態や構造を説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

東洋療法学校協会編　解剖学 第2版、東洋療法学校協会、医歯薬出版、2014年、¥5,900+税

【参考書】

藤田恒夫、入門人体解剖学改訂第5版、南江堂、2012年、¥5,000+税

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。
出席点は評価に含みません。
成績評価は、期末試験および小テストにより総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		90	10						100
評価指標	取り込む力・知識	90	10						100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2	循環器系： 循環器系の構成 心臓の形態と構造 血管の基本構造	講義	講義内容の復習	40分
3・4	循環器系： 動脈と静脈 胎児循環 リンパ管系とリンパ系器官	講義	講義内容の復習	40分
5・6	人体の細胞： 細胞の基本的な形態と構成 細胞の活動 人体に存在する様々な細胞	講義	講義内容の復習	40分
7・8	人体の組織： 上皮組織と腺組織 種類と人体における分布	講義	講義内容の復習	40分
9・10	人体の組織： 支持組織 筋組織 神経組織	講義	講義内容の復習	40分
11・12	内臓学総論： 人体内臓諸器官の名称、位置、分類 内臓の基本的構成	講義	講義内容の復習	40分
13・14	呼吸器系： 外鼻と鼻腔 咽頭 喉頭	講義	講義内容の復習	40分
15	呼吸器系： 気管 肺と胸膜	講義	講義内容の復習	40分

リハビリテーション学科

【科目名】	解剖学・各論Ⅱ			【担当教員】	西野　幾子
【授業区分】	専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー)授業終了後、非常勤控室で対応。	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

理学療法学、作業療法学、リハビリテーション心理学専攻１年次に在学している学生が対象。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

就学状況確認のため、適宜小テストを行うことがあります。

【講義概要】

(目的)

人体を骨、筋、神経、脈管という系統に分析、また組織学的に細胞のレベルまで分析して説明する。最終的には再び人体を二重の筒（胴体と上・下肢）－（頭部と内臓）に、またマクロからミクロまでを統合して考察、理解する。これらにより、心身機能と身体構造の理解を深める。
当該科目と学位授与方針との関連性; A-2,3

(方法)

教科書、図譜などを活用して各器官、臓器の形態学的特徴を分析、考察して理解して説明できるようにする。
本科目は主として、「消化器」、「泌尿器」、「生殖器」、「内分泌系」などを講義する。

【一般教育目標(GIO)】

医学や医療を学ぶ上での基礎を構築するため、人体の形態や構造を理解する。

【行動目標(SBO)】

人体の内臓の構成や、諸器官について、その形態や構造を説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

東洋療法学校協会編、解剖学、医歯薬出版、2014年、¥5,900+税

【参考書】

藤田恒夫、入門人体解剖学改訂第5版、南江堂、2012年、¥5,000+税

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。
出席点は評価に含みません。
成績評価は、期末試験および小テストにより総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		90	10						100
評価指標	取り込む力・知識	90	10						100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2	消化器系： 消化器系の基本構成 口腔の構成と構造	講義	講義内容の復習	40分
3・4	消化器系： 各部の消化管の位置、形態、構造	講義	講義内容の復習	40分
5・6	消化器系： 各部の消化管の位置、形態、構造 消化腺の位置、形態、構造	講義	講義内容の復習	40分
7・8	泌尿器系： 泌尿器系の構成 腎臓の位置、形態、構造 尿路の構造と位置	講義	講義内容の復習	40分
11・12	生殖器系： 男性生殖器系の構成 各臓器の位置、形態、構造	講義	講義内容の復習	40分
13・14	内分泌系： 内分泌系の構成 各臓器の位置、形態、構造	講義	講義内容の復習	40分
15	内分泌系： 各臓器の位置、形態、構造 まとめ	講義	講義内容の復習	40分

リハビリテーション学科

【科目名】	解剖学・演習Ⅰ			【担当教員】	松村　博雄
【授業区分】	専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	【大学取次】nur-edu@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 水曜日、12時50分～13時20分	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

今後、医学全般を学ぶ上での基礎となるものです。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

解剖学・総論Ⅰ，Ⅱ，Ⅲを復習しておくこと。試験の正解は他に支障の無い限り発表することとします。

【講義概要】

(目的)

当該科目との関連性；A1、A2。解剖学・演習はすでに学習した知識を、標本もしくは人体で確認し、構造的、機能的に結合した理解を得ることが目的である。局所（臨床）解剖学的にとらえて、理解し、説明できることが重要。

(方法)

医学の大学で人体解剖学実習の見学を行う。生体で体表から同定しうる構造についての触診、体表への投影、画像の解析などについても学ぶ。他人に説明することで理解を深める。

【一般教育目標(GIO)】

医学、医療について学ぶためには、まず基礎医学とくに解剖学について学ばなければならない。
この演習では，解剖学・総論Ⅰ，Ⅱ，Ⅲで得た人体の形態、構造についての基礎知識の上に，「神経系」についての基礎的知識を修得させる。

【行動目標(SBO)】

ヒトの持つ神経系－中枢神経系および末梢神経系－について説明できる。頭部の構造について説明できる。また，人体の解剖学実習の見学を通してより理解を深める。

【教科書・リザーブドブック】

河野邦雄･伊藤隆造他著『東洋療法学校協会編教科書　解剖学　第2版』医歯薬出版2006年

【参考書】

森　於菟著『分担解剖学第1巻　改訂第11版』金原出版,1985年.￥9,765
平沢　興著『分担解剖学第2巻　改訂第11版』金原出版,1984年.￥11,130
小川　鼎三著『分担解剖学第3巻　改訂第11版』金原出版、1982年.￥9,030

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規定のＧＰＡ制度に従う。出席点は評価に含めません。
成績評価は、試験とレポートおよびその他（実習への参加や問答）などにより総合的に行う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50		40				10	100
評価指標	取り込む力・知識	50		40					90
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ							10	10
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	頭部の骨格と分布する血管について。	講義	解剖学・総論Ⅰ，Ⅱ，Ⅲの復習	40分
2	中枢神経系：総論。	講義		
3	骨学実習。頭蓋について。	実習	前回の講義の復習	30分
4	神経系の発生。脊髄について（１）。	講義		
5	脊髄について（２）。	講義	前回の講義の復習	30分
6	脳幹について（１）：延髄。	講義		
7	脳幹について（2）：橋と中脳。	講義	前回の講義の復習	30分
8	脳神経について：嗅神経，視神経について。レポートについて。	講義		

9	脳神経について：内耳神経，三叉神経について。	講義	前回の講義の復習	30分
10	脳神経について：顔面神経，舌咽神経について。	講義		
11	脳神経系について：迷走神経，副神経，舌下神経について。	講義	前回の講義の復習	30分
12	小脳について。	講義		
13	間脳：視床について。	講義	前回の講義の復習	30分
14	間脳：視床下部について。	講義		
15	まとめ			

リハビリテーション学科

【科目名】	解剖学・演習Ⅱ		【担当教員】 松村　博雄
【授業区分】	専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修
【単位数】	1	【コマ数】	15

【大学取次】nur-edu@nur05.onmicrosoft.com

(オフィスアワー) 水曜日、12時50分～13時20分

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

今後、医学全般を学ぶ上での基礎となるものです。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

解剖学・総論Ⅰ，Ⅱ，Ⅲを復習しておくこと。試験の正解は他に支障の無い限り発表することとします。

【講義概要】

(目的)

当該科目との関連性；A1、A2。解剖学・演習はすでに学習した知識を、標本もしくは人体で確認し、構造的、機能的に結合した理解を得ることが目的である。局所（臨床）解剖学的にとらえて、理解し、説明できることが重要。

(方法)

医学の大学で人体解剖学実習の見学を行う。生体で体表から同定しうる構造についての触診、体表への投影、画像の解析などについても学ぶ。他人に説明することで理解を深める。

【一般教育目標(GIO)】

医学、医療について学ぶためには、まず基礎医学とくに解剖学について学ばなければならない。
この演習では，解剖学・総論Ⅰ，Ⅱ，Ⅲで得た人体の形態、構造についての基礎知識の上に，「神経系」についての基礎的知識を修得させる。

【行動目標(SBO)】

ヒトの持つ神経系－中枢神経系および末梢神経系－について説明できる。頭部の構造について説明できる。また，人体の解剖学実習の見学を通してより理解を深める。

【教科書・リザーブドブック】

河野邦雄･伊藤隆造他著『東洋療法学校協会編教科書　解剖学　第2版』医歯薬出版2006年

【参考書】

森　於菟著『分担解剖学第1巻　改訂第11版』金原出版,1985年.￥9,765
平沢　興著『分担解剖学第2巻　改訂第11版』金原出版,1984年.￥11,130
小川　鼎三著『分担解剖学第3巻　改訂第11版』金原出版、1982年.￥9,030

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規定のＧＰＡ制度に従う。出席点は評価に含めません。
成績評価は、試験とレポートおよびその他（実習への参加や問答）などにより総合的に行う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50		40				10	100
評価指標	取り込む力・知識	50		40					90
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ							10	10
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	終脳について：大脳皮質と大脳白質について。	講義	解剖学・演習Ｉの復習	40分
2	大脳の機能局在について。	講義		
3	大脳基底核について。	講義	前回の講義の復習	30分
4	大脳辺縁系について。	講義		
5	髄膜と脳脊髄液について。	講義	前回の講義の復習	30分
6	脳室系について。	講義		
7	頭部自律神経（１）：副交感神経。	講義	前回の講義の復習	30分
8	頭部自律神経（２）：交感神経。レポートについて。	講義		

9	感覚器：嗅覚について。	講義	前回の講義の復習	30分
10	感覚器：視覚と眼球について。眼球の運動：動眼神経，滑車神経，外転神経について。	講義		
11	感覚器：平衡覚と聴覚について。外耳，中耳，内耳の構造について。	講義	前回の講義の復習	30分
12	感覚器：皮膚と感覚受容器について。	講義		
13	下行性の伝導路について。錐体路と錐体外路について。上行性の伝導路について。	講義	前回の講義の復習	30分
14	視覚，聴覚，平衡覚の伝導路について。体性感覚の伝導路について。	講義		
15	まとめ			

リハビリテーション学科

【科目名】	生理学Ⅰ			【担当教員】	山口　賢一
【授業区分】	専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	kenbo@med.niigata-u.ac.jp　または　kenbo2@gmail.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 講義日、非常勤講師控え室にて対応	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

他の受講者の迷惑となる私語は厳に慎んで下さい。注意しても守れない場合は、退出を求めることがあります。
試験結果・レポートは他に支障をきたさない限り、返却します。

【講義概要】

(目的)

生体が営む複雑で巧妙な機能がどのようなメカニズムで発現するかを考えるのが生理学である。正常な生体機能を維持するための。呼吸機能、循環機能、消化吸収機能、排泄機能、生殖機能、これらを調節する自律神経系と内分泌系の働きを学修する。さらに、感覚機能、運動機能、それらを統合する神経系の働きの基本的知識を修得する。これらにより、心身機能と身体構造を理解する。

(方法)

時間ごとに「身近に起こる生理現象がなぜ生じるのか」を提示して、学生に考えさせ、発言を求めながら授業を展開する。本科目は主として、「神経系の構造と機能」、「内分泌器官とホルモンの作用」、「筋肉とその収縮機構」などを講義する。

【一般教育目標(GIO)】

人体のメカニズムを学習し、専門分野の学習が円滑に行えるための知識を習得する。

【行動目標(SBO)】

生理学を学ぶ意義、ホメオスタシスと病気の関わり、血液の成分とそれらの働き、心臓血管系、泌尿器系の機能などについて説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

原田玲子・佐伯由香・内田さえ　著　「人体の構造と機能　第4版」医歯薬出版社　¥2,800
山本敏行・鈴木泰三・田崎京二　著　「新しい解剖生理学　改定12版」南江堂　¥3,200

【参考書】

田中越郎　「イラストで学ぶ生理学 第三版」 医学書院　¥2,808
Hansen JT, Koeppen BM 「ネッター 解剖生理学アトラス」 南江堂 ¥4,104
岡田泰伸（監修・翻訳）「ギャノング生理学　原著24版」丸善出版　¥10,800

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。
成績評価は、期末試験成績、出欠の状態や学習意欲などを総合的に評価して行う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70	15	5				10	100
評価指標	取り込む力・知識	60	5						65
	思考・推論・創造の力	10		5					15
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢		10					10	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1･2	生理学とは何か、大学でどのように生理学を学ぶのか、生きているとはどういうことか、器官分化と機能協調の重要性、病気について解説。	講義 （担当山口）	化学エネルギー、ADP、ATP、三大栄養素、TCA回路、生物学的仕事、内部環境、器官分化と工場制の維持。	15分
3･4	体の水（体液）の種類、組織と特徴、成分表示の表し方や単位、浸透圧と体液の移動や血圧に及ぼす影響、体液平衡の障害でから起こる病気。	講義 （担当山口）	細胞内液・細胞外液、電解質・非電解質、モル濃度、当量、半透膜、浸透圧、オスモル、一次脱水、二次脱水、浮腫。	15分
5･6	血液の成分とそのはたらき-1。 血漿と血清の違い、成分、赤血球や白血球の種類、特徴、役割や病気。	講義 （担当山口）	赤血球、ヘモグロビン、メトヘモグロビン、CO中毒、酸化解離曲線とその変化、食球、走化性、血管外遊走、リンパ球、自然免疫、獲得免疫、抗体、ワクチン。	15分
7･8	血液の成分とそのはたらき-2。 血小板の特徴と機能、血小板に由来する病気、血液型の種類、輸血や臓器移植に由来する問題。	講義 （担当山口）	血液凝固、線溶、止血作用、血液凝固、、凝固因子の働き、血友病、塞栓症、ABO血液型、交差試験、Rh血液型、拒絶反応、MHC抗原。	15分
9･10	心臓循環系-1。 心臓の構造、それぞれの機能、心臓における興奮の発生、興奮伝道のしくみ、伝道異常と心臓の病気、心電図、心臓のポンプ作用。	講義 （担当山口）	洞結節、前電位、房室結節、興奮伝道系、期外収縮、代償性休止、不整脈、心電図波形と意味、心電図記録法、心拍出量と病気。	15分
11･12	心臓循環系心臓拍動に伴う諸現象とその総合的理解、全身の血管系の概観と血流配分、血管の構造と種類、血管系の特徴と機能。	講義 （担当山口）	房室弁、動脈弁、心房圧、心室圧、等容性収縮期、等容性拡張性、心音、心不全、動脈、静脈、毛細血管、肺循環、冠状循環、脳の血管系。	15分
13･14	心臓循環系-3。 各血管系の特徴、心血管機能の特徴と病気、リンパ管系の成り立ちと機能、脳脊髄液と酸塩基平衡にはたす役割。	講義 （担当山口）	全身血管系の血圧、肺動脈楔入圧、高血圧、肺高血圧、圧・化学受容器、内皮細胞、血管運動中枢、血管作用物質、リンパ流、脳室。	15分
15	腎臓の構成と機能。 腎の機能単位、原尿の生成と糸球体毛細血管圧、糸球体濾過量と濾過率、尿細管や集合管の機能とその調節、クリアランス、尿の正常と排尿のしくみ。	講義 （担当山口）	ネフロン、糸球体、ボーマン嚢、原尿、近位・遠位尿細管、集合管、アンジオテンシン、アルドロステロン、ADH、利尿薬、尿素、オルニチン回路、排尿反射。	10分

リハビリテーション学科

【科目名】	生理学Ⅱ			【担当教員】	山口　賢一
【授業区分】	専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	kenbo@med.niigata-u.ac.jp （山口）または kenbo2@gmail.com （山口）	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 講義日、非常勤講師控室にて対応	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

他の受講者の迷惑となる私語は厳に慎んで下さい。注意しても守れない場合は、退出を求めることがあります。
試験結果・レポートは他に支障をきたさない限り、返却します。

【講義概要】

(目的)

生体が営む複雑で巧妙な機能がどのようなメカニズムで発現するかを考えるのが生理学である。正常な生体機能を維持するための。呼吸機能、循環機能、消化吸収機能、排泄機能、生殖機能、これらを調節する自律神経系と内分泌系の働きを学修する。さらに、感覚機能、運動機能、それらを統合する神経系の働きの基本的知識を修得する。これらにより、心身機能と身体構造を理解する。

(方法)

時間ごとに「身近に起こる生理現象がなぜ生じるのか」を提示して、学生に考えさせ、発言を求めながら授業を展開する。本科目は主として、「神経系の構造と機能」、「内分泌器官とホルモンの作用」、「筋肉とその収縮機構」などを講義する。

【一般教育目標(GIO)】

人体のメカニズムを学習し、専門分野の学習が円滑に行えるための知識を習得する。

【行動目標(SBO)】

神経系の構造と機能、内分泌器官とホルモンの作用、消化吸収、筋肉と収縮の機構、について説明することができる。

【教科書・リザーブドブック】

原田玲子・佐伯由香・内田さえ　著　「人体の構造と機能　第4版」医歯薬出版社　¥2,800
山本敏行・鈴木泰三・田崎京二　著　「新しい解剖生理学　改定12版」南江堂　¥3,200

【参考書】

田中越郎 「イラストで学ぶ生理学 第三版」 医学書院　¥2,808
Hansen JT, Koeppen BM 「ネッター 解剖生理学アトラス」 南江堂 ¥4,104
岡田泰伸（監修・翻訳）「ギャノング生理学　原著24版」丸善出版　¥10,800

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。
成績評価は、期末試験成績、出欠の状態や学習意欲などを総合的に評価して行う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70	15	5				10	100
評価指標	取り込む力・知識	60	5						65
	思考・推論・創造の力	10		5					15
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢		10					10	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1･2	神経系の構造と機能-1。神経単位、興奮の発生と伝導のしくみ、シナプス伝達、神経伝達物質。	講義 (担当山口)	膜電位、脱分極、過分極、イオンチャンネル、躍動伝導、EPSP、IPSP、シナプス顆粒、エクソサイトーシス、シナプス後膜、受容体。	15分
3･4	神経系の構造と機能-2。人体の神経系の成り立ちと構造的・機能的分類、末梢神経系と中枢神経系。	講義 (担当山口)	脊髄、白質、灰白質、脊髄神経、脊髄神経節、脳神経、感覚神経、運動神経、自律神経、節前神経、節後神経	15分
5･6	神経系の構造と機能-2。脊髄と脳の構成、各領域区分の特徴と機能、脳波記録と波形の意味、睡眠と病気。	講義 (担当山口)	延髄、橋、中脳、小脳、視床、視床下部、神経核、大脳皮質、大脳辺縁系、大脳基底核、脳波、除波睡眠、REM睡眠。	15分
7･8	内分泌系とホルモンの作用-1。人体の調節物質の分類、内分泌器官の部位と種類、ホルモンの種類、ホルモンの受容体。	講義 (担当山口)	細胞膜受容体、細胞内受容体、ペプチド、アミン、アミノ酸、ステロイド、視床下部ホルモン、正中隆起、下垂体門脈、前葉ホルモン、後葉ホルモン	15分
9･10	内分泌系とホルモンの作用-2。甲状腺、副甲状腺、膵島から分泌されるホルモンの種類と作用。	講義 (担当山口)	サイロキシン、T3、T4、基礎代謝、産熱、上皮小体、カルシトニン、パラソルモン、インスリン、グルカゴン、ソマトスタチン、血糖調節。	15分
11･12	内分泌系とホルモンの作用-3。副腎、腎臓、精線、心臓その他から分泌されるホルモンやオータコイドの種類と作用。	講義 (担当山口)	副腎皮質、副腎髄質、コルチコイド、カテコラミン、レニン・アンジオテンシン系、心房性ナトリウム利尿ホルモン、hGG、hPL、プロスタグランジン、ヒスタミン。	15分
13･14	筋肉とその収縮機構-1。筋肉の種類、骨格筋の構造、等尺性・等張性収縮、神経系筋接合部と活動電位の発生、黄紋筋収縮のメカニズム。	講義 (担当山口)	単収縮、強縮、アクチン、ミオシン、T管、筋小胞体、カルシウム、ギャップジャンクション、トロポニン、ATP、ADP。	15分
15	筋肉とその収縮機構-2。平滑筋収縮のメカニズム、筋収縮とそのエネルギー。	講義 (担当山口)	カルシウム、カルモジュリン、ミオシン軽鎖、ミオシンホスタファーゼ、解糖系、クエン酸回路、クレアチン燐酸。	10分

リハビリテーション学科

【科目名】	生理学Ⅲ			【担当教員】	宮岡　洋三
【授業区分】	専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	miyaoka@nuhw.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー)授業開講日非常勤講師控え室で面談	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

私語は他受講者の迷惑となるので、厳に慎んでください。注意しても守れない場合には、退出を求める可能性があります。

【講義概要】

(目的)

生体が営む複雑で巧妙な機能がどのようなメカニズムで発現するかを考えるのが生理学である。「生理学Ⅰ、同Ⅱ」では、主に「体液、水・電解質・浸透圧の調節、血液、心臓と血管の働き、腎臓の機能、神経機能の概要、内分泌器官とホルモンの作用、筋肉と運動」について学んだ。「生理学Ⅲ」では、主に「呼吸機能、消化・吸収機能、栄養・代謝機能、体温調節機能」について学ぶ。これらにより，身体構造を基礎とした心身機能を理解する。

(方法)

各時間の講義内容中で、どこが「核となる内容」なのかを意識しながら授業を進める。また、生理学は「積み重ね」の学問であり、先に「生理学Ⅰ、同Ⅱ」で学んだ内容が、「生理学Ⅲ」でもしばしば出てくる。既習内容の確認をするため、できるだけ頻繁に「生理学Ⅰ、同Ⅱ」の質問も交えて授業を展開していく。

【一般教育目標(GIO)】

・人体機能の機構（メカニズム）を学習し、専門分野の学習が円滑に行えるための基礎知識を修得する。

【行動目標(SBO)】

・呼吸機能、消化・吸収機能、栄養・代謝機能、体温調節機能について説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

原田玲子・佐伯由香・内田さえ(編)「人体の構造と機能（第5版）」医歯薬出版、¥2,800+税
内田さえ・原田玲子 他著「生理学（第3版）」医歯薬出版、¥4,800+税

【参考書】

山本敏行・鈴木泰三・田崎京二著「新しい解剖生理学（改訂12版）」南江堂、¥3,200+税

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。
成績評価は、講義中の小試験と期末試験の得点によっておこなう。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70	30	0					100
評価指標	取り込む力・知識	60	30						90
	思考・推論・創造の力	10							10
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	呼吸機能-1：呼吸器系の構造、呼吸運動、肺容量、気道抵抗	講義	気道と肺、吸息筋・呼息筋、肺胞内圧・胸腔内圧、肺容量、死腔量、1秒率。	15分
2	呼吸機能-2：肺のガス交換、血液ガス分圧の変化	講義	拡散現象、肺胞換気量、ｶﾞｽ分圧、物理的溶解、化学的溶解。	15分
3	呼吸機能-3：血液ガス（酸素、二酸化炭素）の運搬と交換	講義	ヘモグロビン、酸素解離（結合）曲線、重炭酸イオン。	15分
4	呼吸機能-4：呼吸の神経的調節、気道の防御反射	講義	呼吸中枢、ﾍﾘﾝｸﾞｰﾌﾞﾛｲｴﾙ反射、機械受容器、くしゃみ、咳嗽	15分
5	呼吸機能-5：呼吸の化学性調節、異常呼吸	講義	末梢化学受容器、中枢化学受容野、呼吸の頻度・深度調節、チェーン-ストークス型呼吸、ビオー呼吸。	15分
6	自律神経機能　交感神経系・副交感神経系の構造と機能（一部「生理学Ⅰ、Ⅱ」の復習）	講義	二重神経支配、相反作用、緊張作用、ｴﾈﾙｷﾞｰ消費的作用、ｴﾈﾙｷﾞｰ蓄積的作用。	15分
7	消化と吸収-1：消化器の構造と機能概要	講義	各器官の配置、横紋筋と平滑筋、消化管の構造、実質臓器の構造。	15分
8	消化と吸収-2：消化管の運動	講義	咀嚼・嚥下、分節運動、蠕動運動、胃-大腸反射、排便調節。	15分

9	消化と吸収-3：消化液の分泌	講義	唾液・胃液・腸液・膵液・胆汁分泌、各種消化酵素。	15分
10	消化と吸収-4：消化管運動と分泌の調節機構	講義	神経性調節（内在神経系、外来神経系）、液性調節（各種消化管ホルモン）。	15分
11	消化と吸収-5：三大栄養素（糖質・タンパク質・脂質）の吸収	講義	小腸絨毛、円柱上皮細胞、共輸送担体、単糖、ｱﾐﾉ酸、毛細血管、ﾄﾘｸﾞﾘｾﾘﾄﾞ、ｶｲﾛﾐｸﾛﾝ、ﾘﾝﾊﾟ管。	15分
12	栄養と代謝-1：栄養素の摂取と欠乏、無機質、ビタミン類。	講義	異化・同化、五大栄養素、欠乏症、必須ｱﾐﾉ酸、必須脂肪酸、ﾌﾞﾄﾞｳ糖、ｸﾞﾘｺｹﾞﾝ、遊離脂肪酸、糖新生。	15分
13	栄養と代謝-3：物質代謝とエネルギー代謝、運動エネルギー	講義	中間代謝、吸収期、空腹期、熱量測定、燃焼熱、基礎代謝量、活動代謝量、エネルギー所要量、特異的作用。	15分
14	体温調節機能-1：体温の各種変動、熱産生、熱放出	講義	日内変動、季節変動、性ﾎﾙﾓﾝ、輻射・伝導・対流。	15分
15	体温調節機能-2：体温調節中枢（視床下部）、調節機構	講義	ふるえ、温熱性発汗、気化熱、視床下部、ｾｯﾄﾎﾟｲﾝﾄ。	15分

リハビリテーション学科

【科目名】	生理学実習			【担当教員】 木村　和樹、長谷川　裕、張馬　梅雷、山村　千絵、星野　浩通、高橋　圭三、藤本　聡、黒瀬　雅之
【授業区分】	専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】	2-11-0285-0-1	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	k.kimura@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	30コマ	(オフィスアワー) 月～木曜日　9：00-17：00

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

２年生全員が必修となっている。１年次に学んだ生理学の基本的な知識が身に付いているものとして進めていく。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

実習時には白衣を着用すること。実習内容によって開講場所が異なるので注意すること。(事前に連絡する。)
班に分けて実習を行う。事故のないよう細心の注意を払いつつ、限られた時間内に実習が完結できるよう、きびきびと行動すること。
実習後のレポート提出については、担当教員の指示に従うこと。
２人～グループで協力して行う実習もあるので、欠席や遅刻のないよう、体調管理等に気を付けること。

【講義概要】

(目的)

生理学実習では生理学で学んだ知識を実習によって体験し、人体の多様な機能と調節機構について理解を深めることを目標とする。生体機能を科学的視点で捉える能力を高めるために、生理学の講義で習得した知識と実際に生体で起こる現象を包括的に融合させる。また、基本的な臨床検査の解釈に必要な基礎的知識を修得する。
当該科目と学位授与方針等との関連性；A-2. 広い見識・教養・技術を習得する。

(方法)

皮膚感覚やバイタル測定に関する実習等は各自が体験し確認する。
筋電図や心電図や運動神経伝導速度や呼吸機能の記録と解析を行い、正常波形の特徴やバリエーションを理解する。

【一般教育目標(GIO)】

生体機能を科学的視点で捉える能力を高めるために、生理学の講義で習得した知識と実際に生体で起こる現象を包括的に融合させる。また、基本的な臨床検査の解釈に必要な基礎的知識を修得する。

【行動目標(SBO)】

生命現象の基礎となるデータの採取、結果の整理、考察ができる。

【教科書・リザーブドブック】

生理学実習プリント（オリエンテーション時もしくは各実習で配布）

【参考書】

貴邑 冨久子，根来 英雄・「シンプル生理学（改訂第 6 版）」南江堂，2008 年．¥3,132（税込）
大地陸男著・『生理学テキスト（第 7 版）』文光堂，2013 年．¥5,184（税込）

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定の GPA 制度に従う。
すべての実習終了後に、本実習に関する記述式試験を実施する。
試験50%、レポート50%の割合で総合的に評価を行う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50		50					100
評価指標	取り込む力・知識	50							50
	思考・推論・創造の力			50					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
最初の2コマ	オリエンテーション、レポートの書き方	座学	各講義で準備することを確認する。レポート作成と提出にあたり、注意する事項を理解する。	60
4コマ	・心電図の記録と解析	長谷川（裕）、張馬、(山村)【実習】	実習で準備する内容を確認し、心電図に関する生理学の知識の復習を行うこと。	60
4コマ	・ 皮膚感覚に関する実習	星野【実習】	実習内容を理解し、レポート課題を行なうこと。	60
4コマ	・ 表面筋電図の記録	高橋（圭）【実習】	実習内容を理解し、レポート課題を行なうこと。	60
4コマ	・ スパイロメーターを用いた肺容積の測定	木村【実習】	実習内容を理解し、レポート課題を行なうこと。	60
6コマ	・ 運動神経伝導速度の実習	黒瀬【実習】	実習内容を理解し、レポート課題を行なうこと。	60
4コマ	・ バイタルに関する実習	藤本【実習】	実習内容を理解し、レポート課題を行なうこと。	60
最後の2コマ	まとめ、レポート返却	座学	計7回の講義の内容を復習すること。	60

リハビリテーション学科

【科目名】	神経生理学Ⅰ			【担当教員】	黒瀬　雅之
【授業区分】	専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	□5コマ	(オフィスアワー)授業開講日、非常勤控室で対応	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

特になし

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

【講義概要】

(目的)

生理学は生命現象のメカニズムを解明する学問であり、その中で神経生理学は特に神経系が関与する生体機能について学習する。講義では、細胞の一般的な機能から始まり、生体内での情報の伝達のKey Playerとなる電気信号：活動電位の発生メカニズムを段階を追って理解する。さらに、発生した電気信号が神経線維内を伝わる・情報の伝達機構に関して理解する。

(方法)

生体機能の円滑な遂行の基本となる神経機構の存在と背景にある細胞環境を中心としてパソコンを用いたプレゼンテーションと動画などを交えて授業を展開する。受講者には、能動的な講義参加を促すように講義プリントを配布し、プリントに必要な項目や図を記入させる。
本科目は主として、「細胞の構造と基本機能」、「活動電位の発生」、「情報伝達機構」などを講義する。

【一般教育目標(GIO)】

細胞の特性と細胞内外の環境、膜電位の発生機序、神経細胞の興奮伝導、シナプスでの情報伝達機構などの基本的事項を理解する。

【行動目標(SBO)】

・静止膜電位とその発生機構を説明できる
・膜電位の発生機序を物理化学的に説明出来る
・活動電位の発生と興奮伝導のしくみを説明出来る
・無髄および有髄神経における活動電位の伝導機構を説明できる
・シナプスにおける伝達機構を説明出来る。

【教科書・リザーブドブック】

大地　陸男著：「生理学テキスト（第８版）」文光堂、２０１７年

【参考書】

小澤　瀞司、福田康一郎著：「標準生理学（第７版）」医学書院

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は、本学学則規定のGPA規定に従う。
・成績評価は、期末試験の結果により評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		100							100
評価指標	取り込む力・知識	65							65
	思考・推論・創造の力	30							30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢	5							5

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	細胞の構造と活動電位の発生① -生命の基本単位としての細胞-	講義・演習 (担当：黒瀬)	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分
2	細胞の構造と活動電位の発生② -細胞膜の特性と内外の環境-	講義・演習 (担当：黒瀬)	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分
3	細胞の構造と活動電位の発生③ -細胞膜における物質輸送の原則-	講義・演習 (担当：黒瀬)	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分
4	細胞の構造と活動電位の発生④ -生体の電気信号とは？-	講義・演習 (担当：黒瀬)	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分
5	細胞の構造と活動電位の発生⑤ -細胞が有する電位を変化させる３つのステージ-	講義・演習 (担当：黒瀬)	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分
6	細胞の構造と活動電位の発生⑥ -安静時から脱分極、そして過分極へ-	講義・演習 (担当：黒瀬)	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分
7	神経線維での興奮の伝導① -神経の仕事である情報伝達-	講義・演習 (担当：黒瀬)	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分
8	神経線維での興奮の伝導② -神経線維の種類-	講義・演習 (担当：黒瀬)	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分

9	神経線維での興奮の伝導③ -神経と神経のつなぎ目：シナプス-	講義・演習 （担当：黒瀬）	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分
10	神経線維での興奮の伝導④ -シナプスにおける情報伝達機構-	講義・演習 （担当：黒瀬）	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分
11	感覚総論 -わたしたちが持っている感覚とは-	講義・演習 （担当：黒瀬）	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分
12	特殊感覚① -聴覚-	講義・演習 （担当：黒瀬）	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分
13	生体内での情報伝達機構のまとめ①	講義・演習 （担当：黒瀬）	予習：該当する項目を教科書にて参照	予習 ６０分 復習 ６０分
14	生体内での情報伝達機構のまとめ②	講義・演習 （担当：黒瀬）	予習：該当する項目を教科書にて参照	予習 ６０分 復習 ６０分
15	テスト	講義・演習 （担当：黒瀬）	予習：該当する項目を教科書や講義時の配付資料を参照して行う。また、演習問題を用いて知識の再確認を行う。	

リハビリテーション学科

【科目名】	神経生理学Ⅱ			【担当教員】	黒瀬　雅之、山村　健介
【授業区分】	専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー)授業開講日、非常勤控室で対応	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

特になし

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

特になし

【講義概要】

(目的)

生体は、環境の変化に対して柔軟かつ迅速に適応することが可能である。このような適応は、感覚・認知により環境の変化を正確に捉え、神経系での情報処理された結果、適切な運動・行動・自律反応を起こすことに基づいている。本講義では，このような神経系における情報処理と機能発現の基礎を学ぶ。

(方法)

神経生理学Ⅰで学んだ神経機構を基礎として、円滑な生体機能を営む上で重要となる背景にある神経機構を中心に、パソコンを用いたプレゼンテーションと動画などを交えて授業を展開する。受講者には、能動的な講義参加を促すように講義プリントを配布し、プリントに必要な項目や図を記入させる。
本科目は主として、「感覚総論」、「特殊感覚受容機構」、「体性感覚受容機構」、「運動機能」、「覚醒・睡眠」などを講義する。

【一般教育目標(GIO)】

神経生理学Ⅰで学習した神経細胞の基本的構造と機能をベースに、生体機能を円滑に遂行する上で重要となる、各種感覚情報の発生と伝達、機能発現に至る処理機構を知る。

【行動目標(SBO)】

・感覚の一般的な発生メカニズムを説明できる・体性感覚の受容器を概説できる
・化学感覚の受容器を概説できる・聴覚およびその受容器を概説できる
・視覚の受容機構を説明できる・脊髄の構造と脊髄反射を概説できる
・姿勢制御のしくみを概説できる・大脳皮質・小脳・大脳基底核による運動制御を概説できる
・脳波波形の種類を列挙できる・覚醒・睡眠と脳波を関連づけることができる

【教科書・リザーブドブック】

大地　陸男著：「生理学テキスト（第７版）」文光堂、2013年

【参考書】

大地　陸男著：「生理学テキスト（第７版）」文光堂、2013年

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は、本学学則規定のGPA規定に従う。
・成績評価は、期末試験の結果により評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		100							100
評価指標	取り込む力・知識	65							65
	思考・推論・創造の力	30							30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢	5							5

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	体性感覚① -感覚の種類と情報の開始-	講義 （担当：黒瀬）	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分
2	体性感覚② -触圧感覚-	講義 （担当：黒瀬）	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分
3	体性感覚③ -温度感覚-	講義 （担当：黒瀬）	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分
4	体性感覚④ -固有感覚-	講義 （担当：黒瀬）	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分
5	運動系① 脊髄の構造と運動ニューロン	講義 （担当：山村）	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分
6	運動系② 脊髄反射－1	講義 （担当：山村）	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分
7	運動系③ 脊髄反射－2	講義 （担当：山村）	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分
8	運動系④ 脳幹による運動調節	講義 （担当：山村）	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分

9	運動系⑤ 大脳皮質による運動調節	講義 （担当：山村）	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分
10	運動系⑥ 大脳基底核・小脳による運動調節	講義 （担当：山村）	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分
11	脳波	講義 （担当：山村）	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分
12	覚醒と睡眠	講義 （担当：山村）	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分
13	まとめ①	講義・演習 （担当：黒瀬）	予習：該当する項目を教科書にて参照	予習 ６０分 復習 ６０分
14	まとめ②	講義・演習 （担当：黒瀬）	予習：該当する項目を教科書にて参照	予習 ６０分 復習 ６０分
15	テスト		予習：該当する項目を教科書や講義時の配付資料を参照して行う。また、演習問題を用いて知識の再確認を行う。	

リハビリテーション学科

【科目名】	病理学概論			【担当教員】	池上　喜久夫
【授業区分】	専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	ikegami@nuhw.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 授業開講日、非常勤控室にて対応	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・病理学は疾病の成因について学ぶ学問です。医療のスペシャリストを目指す者は全員受講することが望ましいと考えます。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・解剖学・生理学を習得してることを前提です。事前にこの2教科を復習しておいてください。
・試験結果は他に支障のない限り返却します。

【講義概要】

(目的)

疾病よる人体の変化を細胞・組織学的だけでなく、身体症状を含めて明らかにすることを目的としています。また、リハビリテーションと関係が特に深い、脳・神経・循環器・運動器の疾患に関しては、とくに深く学びます。クライアントが抱える問題を病理学的に理解することで、治療の意義について、確信を持つことができます。

(方法)

・病理学総論が、講義の中心となります。
・教科書に沿って、授業を進めます。
・授業にレジメを配布します。授業中は、書き取りがあります。授業用のノートやルーズリーフ準備してください。
・レジメの表や写真を切り抜き、ノートやルーズリーフに貼り付け、授業ノートを作ってください。
・ハサミ、ノリを準備してください。

【一般教育目標(GIO)】

・疾病の一般的変化を理解できる。
・病理学的所見から病態を推測することができる。

【行動目標(SBO)】

・退行性・進行性病変、代謝異常、循環障害、免疫・炎症・感染症、腫瘍、先天異常の一般的状況を説明できる。
・疾病に至るPathwayを順を追って説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

教科書：標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野　病理学　医学書院　4,968円

【参考書】

なるほどなっとく病理学　南山堂　2,200円

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

筆記試験にて行います。（成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従います。）

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		100							100
評価指標	取り込む力・知識	100							100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	病理学の概要、病因論について、具体例を交えて説明する。	講義	授業後、教科書・授業メモ・資料等を用いて、ノートを作成する。	
3-4	退行性病変、進行性病変について、具体例を交えて説明する。	講義	授業後、教科書・授業メモ・資料等を用いて、ノートを作成する。	
5-6	代謝異常について、具体例を交えて説明する。	講義	授業後、教科書・授業メモ・資料等を用いて、ノートを作成する。	
7-8	循環障害について、具体例を交えて説明する。	講義	授業後、教科書・授業メモ・資料等を用いて、ノートを作成する。	
9-10	免疫について、具体例を交えて説明する。	講義	授業後、教科書・授業メモ・資料等を用いて、ノートを作成する。	
11-12	炎症、感染症について、具体例を交えて説明する。	講義	授業後、教科書・授業メモ・資料等を用いて、ノートを作成する。	
13-14	腫瘍について、具体例を交えて説明する。	講義	授業後、教科書・授業メモ・資料等を用いて、ノートを作成する。	
15	老化・先天異常・奇形について、具体例を交えて説明する。	講義	授業後、教科書・授業メモ・資料等を用いて、ノートを作成する。	

リハビリテーション学科

【科目名】	医学概論			【担当教員】	伊藤　隆
【授業区分】	専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】	2-12-0295-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	tigunma@yahoo.co.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 授業終了後随時　ﾒｰﾙ質問・相談可	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

現在の臨床医学を学ぶ上で基礎となる科目である。確実な知識を得ることが必要である。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

中学・高校時代に学習した生物学などの知識と結び付けて理解してほしい。これらの科目を復習しておくことが望ましい。

【講義概要】

(目的)

リハビリテーション分野だけでなく、医学及び医療に関わる専門職業人として、医の本質について理解を深め、幅広い視野をもった医療従事者としての基礎知識を身につける。

(方法)

健康の概念や疾病・障害の概念を中心に医学の発展や将来などについて、講義を行う。

【一般教育目標(GIO)】

医学の目指すものは何かを考え、生命の尊厳性、神秘性を実感する。健康がどのように障害され、どうしたら、予防や回復が図れるか、理解を深める。また、疾病の自然史を理解する。さらに、社会医学的なことがらについて理解する。

【行動目標(SBO)】

医学・医療の本質について設明できる。病むという状態がどのようにして起こるのか、宿主要因と環境要因の関わり合いで生じることを理解する。社会医学的な事象を理解する。

【教科書・リザーブドブック】

医学概論、日野原重明著、医学書院

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

本学学則規定のGPA制度に従う。本講義に関する記述式試験を実施する。１００点満点で６０点以上を合格とする。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80						20	100
評価指標	取り込む力・知識	80							80
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2	健康・病気・医学の体系	講義		
3・4	病気の原因	講義		
5・6	病気による身体の変化	講義		
7・8	病気の診断	講義		
9・10	病気の治療とリハビリテーション	講義		
11・12	病気の予防	講義		
13・14	新しい医療システム	講義		
15	医学および看護の生命へのアプローチ、衛生統計	講義		

リハビリテーション学科

【科目名】	公衆衛生学Ｉ			【担当教員】	加藤　豊広
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	k3027867@Kadai. jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) メールにて質問・相談に応じます。	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

医療・保健・福祉の専門科目の受講したり、論文を作成したりする時に基礎となる科目です。可能な限り受講することが望ましいです。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

ノートと筆記用具及び教科書を持参すること。試験結果・レポートは他に支障がない限り返却します。

【講義概要】

(目的)

「公衆衛生学は、コミュニティの組織的な努力を通じて、疾病を予防し、寿命を延長し、身体的・精神的健康と能率を増進させる科学・技術である」とウィンスローにより定義されている。公衆衛生学を学ぶことで、社会医学の考え方を学び、社会現象としての健康や疾病の成り立ちや健康の保持・増進と疾病の予防の方法を学習する。当該科目と学位授与方針等の関連性；Ａ－１，２。

(方法)

授業は 教科書を中心にPowerPointのスライドを用いた説明を行う。黒板は使用しない。必要に応じて資料を配付する。

【一般教育目標(GIO)】

医療従事者として必要な社会医学の知識を習得するために、その基礎となる衛生・公衆衛生学及び疫学の理論を理解する

【行動目標(SBO)】

衛生学・公衆衛生学について説明できる。
健康と疾病について基本的な医学用語を用いて説明出来る。
疫学について説明できる。
EBMについて説明出来る。

【教科書・リザーブドブック】

監修　鈴木庄亮、久道茂　「シンプル衛生公衆衛生学２０１９」本体２４００円

【参考書】

特になし。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含めません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		75		20				5	100
評価指標	取り込む力・知識	65		10					75
	思考・推論・創造の力	10		10					20
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							5	5

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
１・２	衛生学・公衆衛生学・疫学の定義や特徴などを学びます。生活と健康について学びます。	講義	教科書の講義に該当する部分と授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	１５分 １５分
３・４	保健医療福祉の倫理と法律について学びます。	講義	教科書の講義に該当する部分と授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	１５分 １５分
５・６	保健統計と疫学の定義・特徴・調査の手順について学びます。	講義	教科書の講義に該当する部分と授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	１５分 １５分
７・８	疾病量の把握の方法やその分類・記述疫学について学びます。	講義	教科書の講義に該当する部分と授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	１５分 １５分
９・１０	生態学的研究・ケーススタディ・ケースシリーズ・クロスセクショナル研究とコホート研究について学びます。	講義	教科書の講義に該当する部分と授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	１５分 １５分
１１・１２	症例対照研究と因果関係について学びます。	講義	教科書の講義に該当する部分と授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	１５分 １５分
１３・１４	介入研究（ランダム化比較試験・非ランダム化比較試験・自己コントロール研究）について学びます。	講義	教科書の講義に該当する部分と授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	１５分 １５分
１５	メタアナリシスとシステマティックレビューと科学的根拠に基づく医療（ｅｖｉｄｅｎｃｅ－ｂａｓｅｄ　ｍｅｄｉｃｉｎｅ，　ＥＢＭ)について学びます。	講義	教科書の講義に該当する部分と授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	１５分

リハビリテーション学科

【科目名】	公衆衛生学Ⅱ			【担当教員】	加藤　豊広
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	k3027867@Kadai. jp	
【単位数】	1	【コマ数】	１５コマ	(オフィスアワー) メールにて質問・相談に応じます。	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

医療・保健・福祉の専門科目を受講したり、論文を作成したりする時の基礎となる科目です。可能な限り受講することが望ましいです。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

ノートと筆記用具及び教科書を持参すること。試験結果・レポートは他に支障がない限り返却します。

【講義概要】

(目的)

「公衆衛生学は、コミュニティの組織的な努力を通じて、疾病を予防し、寿命を延長し、身体的・精神的健康と能率を増進させる科学・技術である」とウィンスローにより定義されている。公衆衛生学を学ぶことで、社会医学の考え方を学び、社会現象としての健康や疾病の成り立ちや健康の保持・増進と疾病の予防の方法を学習する。当該科目と学位授与方針等の関連性；Ａ－１，２。

(方法)

授業は 教科書を中心にPowerPointのスライドを用いた説明を行う。黒板は使用しない。必要に応じて資料を配付する。

【一般教育目標(GIO)】

医療従事者として必要な社会医学の知識を習得するために、その基礎となる衛生・公衆衛生学及び疫学の理論を理解する。

【行動目標(SBO)】

健康管理について説明できる。
健康増進について説明できる。
生活習慣病の予防について説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

監修　鈴木庄亮、久道茂　「シンプル衛生公衆衛生学２０１８」本体2400円

【参考書】

特になし。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含めません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		75		20				5	100
評価指標	取り込む力・知識	65		10					75
	思考・推論・創造の力	5		5					10
	コラボレーションとリーダーシップ	5		5					10
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							5	5

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
１・２	公衆衛生学の実験とその手順について学びます。	講義・演習	教科書の講義に該当する部分と授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	１５分 １５分
３・４	疾病予防と健康管理について学びます。	講義	教科書の講義に該当する部分と授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	１５分 １５分
５・６	ライフスタイルと健康について学びます。	講義	教科書の講義に該当する部分と授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	１５分 １５分
７・８	感染症・循環器疾患・糖尿病・脂質異常症・痛風・メタボリックシンドロームの予防について学びます。	講義	教科書の講義に該当する部分と授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	１５分 １５分
９・１０	がん・腎疾患・アレルギー疾患・不慮の事故・自殺の予防について学びます。	講義	教科書の講義に該当する部分と授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	１５分 １５分
１１・１２	公衆衛生学の実験の方法と実験の解析方法について学びます。	講義・演習	教科書の講義に該当する部分と授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	１５分 １５分
１３・１４	物理的・化学的・環境要因と健康について学びます。	講義	教科書の講義に該当する部分と授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	１５分 １５分
１５	衣食住と衛生について学びます。	講義	教科書の講義に該当する部分と授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	１５分

リハビリテーション学科

【科目名】	臨床心理学概論Ⅰ			【担当教員】	川原　正広
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2-12-0305-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	kawahara@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 11:00～13:30(月～木)	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

特になし。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

テキストとなるプリントを配布します。
テストなどは原則として返却しません。

【講義概要】

(目的)

臨床心理学に関連する精神科疾患、心理検査、カウンセリングに関する要点を理解する。
将来のリハビリテーション現場や社会生活で、心理的な問題を抱える人々に関わることは少なくない。
そうした人々の心理的な状態を適切に理解し、心理的に援助するための知識を身につける。
当該科目と学位授与方針等との関連性；A-2
当該科目と学位授与方針等との関連性；O-2

(方法)

主として配布資料を使用して講義を行います。簡単な心理テストやワークなども用いて、人の心の査定や援助の方法の拝啓にある理論について学習を行う。

【一般教育目標(GIO)】

精神疾患、心理アセスメント、心理療法に関する基本的な知識を身につける。
臨床心理学が果たす役割や支援のあり方を理解する。

【行動目標(SBO)】

授業で取り上げるキーワードを説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

テキストとなるプリントを配布する。

【参考書】

花園大学社会福祉学部臨床心理学科 編 『臨床心理学ことはじめ』 ナカニシヤ出版 (2,000円＋税)

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。
定期試験を実施する。
出席点は評価に含みません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		90						10	100
評価指標	取り込む力・知識	90							90
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	●イントロダクション 心理学としての臨床心理学	講義	講義ノートの完成	90
3-4	●人格理論 性格(人格)の「類型論」と「特性論」を理解する	講義	講義ノートの完成	90
5-6	●精神疾患との関連と支援 Ⅰ 「統合失調症」を理解する	講義	講義ノートの完成	90
7-8	●精神疾患との関連と支援 Ⅱ 「気分(感情)障害」を理解する	講義	講義ノートの完成	90
9-10	●精神疾患との関連と支援 Ⅲ 「神経症性障害」を理解する	講義	講義ノートの完成	90
11-12	●精神疾患との関連と支援 Ⅳ 「アルコール関連障害」を理解する	講義	講義ノートの完成	90
13-14	●精神疾患との関連と支援 Ⅴ 「認知症の概念」を理解する	講義	講義ノートの完成	90
15	「臨床心理学概論Ⅰ」まとめ	講義		45

(16) 15ｺﾏ目に 連続予定	「臨床心理学概論Ⅰ」試験	試験		

リハビリテーション学科

【科目名】	臨床心理学概論Ⅱ			【担当教員】	川原　正広
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2-12-0305-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	kawahara@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 11:00～13:30(月～木)	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

特になし。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

テキストとなるプリントを配布しますが、
テストなどは原則として返却しません。

【講義概要】

(目的)

臨床心理学に関連する精神科疾患、心理検査、カウンセリングに関する要点を理解する。
将来のリハビリテーション現場や社会生活で、心理的な問題を抱える人々に関わることは少なくない。
そうした人々の心理的な状態を適切に理解し、心理的に援助するための知識を身につける。
当該科目と学位授与方針等との関連性；A-2
当該科目と学位授与方針等との関連性；O-2

(方法)

主として配布資料を使用して講義を行います。簡単な心理テストやワークなども用いて、人の心の査定や援助の方法の拝啓にある理論について学習を行う。

【一般教育目標(GIO)】

精神疾患、心理アセスメント、心理療法に関する基本的な知識を身につける。
臨床心理学が果たす役割や支援のあり方を理解する。

【行動目標(SBO)】

授業で取り上げるキーワードを説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

テキストとなるプリントを配布する。

【参考書】

花園大学社会福祉学部臨床心理学科 編 『臨床心理学ことはじめ』 ナカニシヤ出版 (2,000円＋税)

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。
定期試験を実施する。
出席点は評価に含まれない。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		90						10	100
評価指標	取り込む力・知識	90							90
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	●精神疾患との関連と支援 Ⅵ 「認知症の評価」を理解する	講義	講義ノートの完成	90
3-4	●臨床心理学的リハビリテーション Ⅰ 「認知症への介入」を理解する	講義	講義ノートの完成	90
5-6	●臨床心理学的リハビリテーション Ⅱ 「職場におけるメンタルヘルス」を理解する	講義	講義ノートの完成	90
7-8	●臨床心理学的アセスメントⅠ：知能検査 「ビネー法・ウェクスラー法」を理解する	講義	講義ノートの完成	90
9-10	●臨床心理学的アセスメントⅡ：人格検査 「質問紙法・作業検査法・投影法」を理解する	講義	講義ノートの完成	90
11-12	●臨床心理学的介入：心理療法Ⅰ 「傾聴・支持的面接の技法」を理解する	講義	講義ノートの完成	90
13-14	●臨床心理学的介入：心理療法Ⅱ 「臨床心理学的支援のあり方」を理解する	講義	講義ノートの完成	90
15	「臨床心理学概論Ⅱ」まとめ	講義		45

(16) 15ｺﾏ目に 連続予定	「臨床心理学概論Ⅱ」試験	試験		

リハビリテーション学科

【科目名】	発達心理学Ⅰ			【担当教員】	宮岡　里美
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2-12-0310-0-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	miyaoka@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 月～金12:40-13:30,他研究室在室時	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

※本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療及び地域保健機関で小児から高齢者までの言語・高次脳機能障害や精神機能障害等のﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝに従事してきた経験から、生涯にける人の発達の変化と非定型発達について講じます。
人間の発達全般についての理解を深めておくことは、将来、医療・保健・福祉・教育等の分野で活躍したい学生にとっては重要です。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

この科目では20分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。
他者に迷惑となる行為が認められた場合は、講義室から退出していただきます。
試験結果・授業中に実施した心理テスト等のデータは、支障のない限り返却します。

【講義概要】

(目的)

本科目では心理学の知見に基づいた生涯発達の過程（Ⅰでは誕生～青年期前期まで）を学ぶことを目的とします。
①誕生から青年期前期至るまでの心身の発達の概要、②認知機能の発達及び感情・社会性の発達、③自己と他者の関係の在り方と心理的発達、④発達障害等非定型発達等についての基礎的な知識及び考え方を学びます。
当該科目と学位授与方針との関連性; A-1, P-2, O-1, R-2

(方法)

Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。
内容は、原則指定教科書に準じます。
資料は全受講生に配付します。欠席した場合には、後日担当者から受け取り、必ず参照しておいて下さい。

【一般教育目標(GIO)】

「生涯発達」という考え方を理解する。
胎児期及び乳幼児期～青年期中期に至るまでの
１．身体的発達の特徴を知る。
２．各ステージにおける認知機能及び感情・社会性の発達のプロセス、自己と他者のあり方の心理的発達の様相を知る。
３．各ステージにおける発達の危機及び障害について理解し、適切な支援ができる。

【行動目標(SBO)】

胎児期及び乳幼児期～青年期前期に至るまでの各発達段階で発生しやすい心理的危機を知る。
そして、その原因を内的要因(生物・心理的要因)と外的要因(社会・文化的要因)から考察できる。
各ステージの心理的危機に対して、適切なこころの支援ができる。

【教科書・リザーブドブック】

特に指定せず。
毎回、プリントにて講義内容と関連資料を配布する。

【参考書】

本郷一夫（編）「発達心理学」公認心理師の基礎と実践　第12巻，遠見書房，2018年，2,808円
向田久美子（著）「発達心理学概論」(放送大学教材)，NHK出版，2017年，2,808円
二宮克美/宮沢/大野木（著）「ガイドライン 生涯発達心理学」第２版，ナカニシヤ出版，2015年，2000円＋税

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。
発達心理学の基本知識につき、定期試験を実施する。
出席点は評価に含みません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80				20			100
評価指標	取り込む力・知識	40							40
	思考・推論・創造の力	20							20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力	20							20
	学修に取り組む姿勢					20			20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	発達心理学の基礎① ・生涯発達とは？ ・発達の規定要因	講義	発達の定義 遺伝と環境	30
2	発達心理学の基礎② ・発達研究の方法（概説）	講義	縦断的研究 横断的研究 コホート 実験・調査・観察	30
3	発達心理学の基礎③ ・発達段階とその課題	講義	発達段階と発達課題 ライフコース ライフサイクル	30
4	発達心理学の基礎④ ・発達初期の障害	講義	発達障害とは 早産・低出生体重児 代理母実験とホスピタリズム カンガルー・ケア 知的能力障害	30
5	胎児期・乳児期 ・一般的特徴 ・個性の発現 ・研究法	講義	生理的早産、子宮外胎児期 馴化・脱馴化法、吸啜法 選好注視法 感覚運動期（ピアジェ） 対象の永続性	30
6	胎児期・乳児期 ・社会性の芽生え ・発達の障害	講義	アタッチメント（愛着） ストレンジ・シチュエーション法 反応性愛着障害 基本的信頼	30
7	幼児期 ・全体的特徴 ・個性の発達の基礎	講義	前操作期 レディネス（ゲゼル） 発達の最近接領域（ヴィゴツキー）	30
8	幼児期 ・社会性の発達①	講義	自己中心性 第一反抗期 心の理論	30

9	幼児期 ・社会性の発達② ・発達のつまずきと障害	講義	遊びの発達（パーテンの分類） 自閉症スペクトラム障害	30
10	児童期 ・全体的特徴 ・認知発達	講義	具体的操作期、脱中心化 保存の概念 リテラシー	30
11	児童期 ・社会性の発達	講義	仲間関係 道徳観（向社会的行動）の発達	30
12	児童期 ・発達のつまずきと障害 まとめ	講義	注意欠陥多動性障害（ADHD） 学習障害（LD）	30
13	青年期前期（中学生の時期） ・全体的特徴 ・個性の発達	講義	思春期、第二次性徴 心理的離乳 第二反抗期 親子関係の変化	30
14	青年期前期（中学生の時期） ・自己概念	講義	アイデンティティの形成 Iと Me	30
15	青年期前期（中学生の時期） ・社会性の発達 ・問題行動：学校不適応	講義	性役割 学校ストレス・不登校 不良行為と非行	30

リハビリテーション学科

【科目名】	発達心理学Ⅱ			【担当教員】	宮岡　里美
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2-12-0310-0-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	miyaoka@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 月～金12:40-13:30,他研究室在室時	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

※本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療及び地域保健機関で小児から高齢者までの言語・高次脳機能障害や精神機能障害等のﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝに従事してきた経験から、生涯にける人の発達の変化と非定型発達について講じます。
人間の発達全般についての理解を深めておくことは、将来、医療・保健・福祉・教育等の分野で活躍したい学生にとっては重要です。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

この科目では20分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。
他者に迷惑となる行為が認められた場合は、講義室から退出していただきます。
資料は全受講生に配付します。欠席した場合には、後日担当者から受け取り、必ず参照しておいて下さい。
試験結果・授業中に実施した心理テスト等のデータは、支障のない限り返却します。

【講義概要】

(目的)

本科目では心理学の知見に基づいた生涯発達の過程（Ⅱでは青年期中期～高齢期/死まで）を学ぶことを目的とします。
①認知機能の発達及び感情・社会性の発達、②自己と他者の関係の在り方と心理的発達、③青年期後期～高齢期に至るまでの心身の発達、④発達障害等非定型発達、⑤高齢者の心理についての基礎的な知識及び考え方を学びます。
当該科目と学位授与方針との関連性; A-1, P-2, O-1, R-2

(方法)

Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。
内容は、原則指定教科書に準じます。
資料は全受講生に配付します。欠席した場合には、後日担当者から受け取り、必ず参照しておいて下さい。

【一般教育目標(GIO)】

「生涯発達」という考え方を理解する。
青年期中期～高齢期に至るまで、生涯の各ステージにおける発達の概要と克服すべき課題を知る。
１．身体的発達（変化）の特徴を知る。
２．各ステージにおける認知機能及び感情・社会性の発達のプロセス、自己と他者のあり方の心理的発達の様相を知る。
３．各ステージにおける発達の危機及び障害について理解し、適切な支援ができる。

【行動目標(SBO)】

一生涯の各発達段階で発生しやすい心理的危機を知る。
心理的危機の原因を内的要因(生物・心理的要因)と外的要因(社会・文化的要因)から考察できる。
心理的危機に対して、適切なこころの支援ができる。
「疾病と障害の共存」「死の受容」等の観点から、特に高齢者の心理を理解する。

【教科書・リザーブドブック】

特に指定せず。
毎回、プリントにて講義内容と関連資料を配布する。

【参考書】

本郷一夫（編）「発達心理学」公認心理師の基礎と実践　第12巻，遠見書房，2018年，2,808円
向田久美子（著）「発達心理学概論」(放送大学教材)，NHK出版，2017年，2,808円
二宮克美/宮沢/大野木（著）「ガイドライン 生涯発達心理学」第２版，ナカニシヤ出版，2015年，2000円＋税

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80				20			100
評価指標	取り込む力・知識	40							40
	思考・推論・創造の力	20							20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力	20							20
	学修に取り組む姿勢					20			20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	青年期中期（高校生の時期） ・全体的特徴 ・個性の発達	講義	自己意識の分化 性役割観 進路選択	30
2	青年期中期（高校生の時期） ・社会性の発達 ・発達の危機	講義	自己意識と社会適応 他者の存在機能（友人関係） 性行動と若年出産 摂食障害	30
3	青年期後期（大学生の時期） ・全体的特徴 ・個性の発達	講義	アイデンティティの形成	30
4	青年期後期（大学生の時期） ・社会性の発達	講義	職業意識とライフコース選択	30
5	青年期後期（大学生の時期） ・発達の危機 ｱｲﾃﾞﾝﾃｨﾃｨの拡散・ひきこもり・就職困難 まとめ	講義	アイデンティティの拡散 モラトリアム ひきこもり	30
6	成人期前期（25～45歳） ・全体的特徴 ・個性の発達	講義	大人（社会人）としてのパーソナリティ	30
7	成人期前期（25～45歳） ・社会性の発達	講義	キャリア形成 ライフコース 恋愛と結婚	30
8	成人期前期（25～45歳） ・問題: ワーク・ライフ・バランス	講義	ワーク・ライフ・バランス 女性の就労：M字カーブ 育児	30

9	成人期中期（45～65歳） ・全体的特徴 ・個性の発達	講義	親としての発達 熟達化 アイデンティティの修正	30
10	成人期中期（45～65歳） ・社会性の発達	講義	Generativity：生成継承性 well-being	30
11	成人期中期（45～65歳） ・子どもの自立と親の介護 ・中年期危機	講義	子供の自立と夫婦関係の変化 親の介護 加齢による心身機能の変化 　更年期障害、うつ	30
12	成人期後期（65歳～） ・全体的特徴/個性の発達 ・退職後の生活設計	講義	平均寿命と健康寿命 QOL 加齢による心身機能の変化 再適応	30
13	成人期後期（65歳～） ・社会性の発達	講義	英知 サクセスフル・エイジング SOCモデル（補償を伴う選択的最適化）	30
14	成人期後期（65歳～） ・問題：加齢による認知的変化 　　喪失の体験	講義	認知症 喪失と悲嘆 モーニング・ワーク 独居・孤独 社会的サポート	30
15	成人期後期（65歳～） ・幸せな生涯とは？ ・「死の受容」	講義 確認テスト	自身の人生の受容（統合） 回想と自伝的記憶 キューブラ・ロス・モデル	30

リハビリテーション学科

【科目名】	内科学Ⅰ			【担当教員】	張馬　梅蕾
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2-12-0315-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	harima@nur.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 水曜日14：00～17：00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

特記なし

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

「医療概論」、解剖学、生理学、病理学、生化学などの知識と結びつけるよう留意する。
試験問題は返却は行わないが、求めがあった場合には開示する。

【講義概要】

(目的)

基本的な内科学を講義する。総論として疾病の概念、診断学の基礎、加齢により生ずる変化の理解を目的とする。

当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2

(方法)

教科書と配布資料を用いて、疾患の病態、診断法、治療法の概略の理解なども加味して行う。リハビリテーション医療では、循環器、呼吸器、代謝、内分泌、神経、血液、腎・泌尿器、老年期疾患などが直接的あるいは間接的に運動障害に関与する場合も多く、これらの病因や病態、治療や予後について学修する。

【一般教育目標(GIO)】

・PT・OT・RP の仕事を円滑に行うためには、常にその対象であるヒトの全身的な病態を正確に把握する。

【行動目標(SBO)】

・代表的な病態の概略を理解し説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

奈良勲・熊倉雅子他「標準理学療法学・作業療法学 内科学」第3版 医学書院

【参考書】

A.シェフラー，S.シュミット著　（三木・井上訳）「からだの構造と機能」　西村書店

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。
出席点は評価に含みません。
本講義に関する記述式試験を実施する。
成績評価は、試験を100点満点とし、60点以上を合格とする。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80						20	100
評価指標	取り込む力・知識	80							80
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	循環器概論	講義	予習・復習	30
2	高血圧、動脈硬化	講義	予習・復習	30
3	狭心症、心筋梗塞	講義	予習・復習	30
4	心筋疾患、弁膜症、心不全	講義	予習・復習	30
5	心臓リハビリ	講義	予習・復習	30
6	心電図、不整脈	講義	予習・復習	30
7	呼吸器概論	講義	予習・復習	30
8	呼吸器感染症、肺がん	講義	予習・復習	30

9	慢性閉塞性肺疾患、びまん性汎細気管支炎、間質性肺炎	講義	予習・復習	30
10	異常呼吸、喘息、呼吸不全、呼吸リハビリ	講義	予習・復習	30
11	消化器概論	講義	予習・復習	30
12	嚥下障害、消化管の炎症、潰瘍、癌	講義	予習・復習	30
13	肝炎	講義	予習・復習	30
14	肝不全、肝硬変、肝がん	講義	予習・復習	30
15	胆石症、急性膵炎、急性腹膜炎	講義	予習・復習	30
16	テスト			

リハビリテーション学科

【科目名】	内科学Ⅱ			【担当教員】	張馬　梅蕾
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2-12-0315-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	harima@nur.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 水曜日14：00～17：00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

特記なし

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

「医療概論」、解剖学、生理学、病理学、生化学などの知識と結びつけるよう留意する。
　試験問題は返却は行わないが、求めがあった場合には開示する。

【講義概要】

(目的)

基本的な内科学を講義する。総論として疾病の概念、診断学の基礎、加齢により生ずる変化の理解を目的とする。

当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2

(方法)

教科書と配布資料を用いて、疾患の病態、診断法、治療法の概略の理解なども加味して行う。リハビリテーション医療では、循環器、呼吸器、代謝、内分泌、神経、血液、腎・泌尿器、老年期疾患などが直接的あるいは間接的に運動障害に関与する場合も多く、これらの病因や病態、治療や予後について学修する。

【一般教育目標(GIO)】

・PT・OT・RP の仕事を円滑に行うためには、常にその対象であるヒトの全身的な病態を正確に把握する。

【行動目標(SBO)】

・代表的な病態の概略を理解し説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

奈良勲・熊倉雅子他「標準理学療法学・作業療法学 内科学」第3版 医学書院

【参考書】

A.シェフラー，S.シュミット著　（三木・井上訳）「からだの構造と機能」　西村書店

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。
出席点は評価に含みません。
本講義に関する記述式試験を実施する。
成績評価は、試験を100点満点とし、60点以上を合格とする。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80						20	100
評価指標	取り込む力・知識	80							80
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	血液概論、造血と貧血	講義	予習・復習	30
2	白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫	講義	予習・復習	30
3	出血と止血、出血性要因と疾患	講義	予習・復習	30
4	糖尿病	講義	予習・復習	30
5	高脂血症、高尿酸血症	講義	予習・復習	30
6	視床下部、下垂体、尿崩症	講義	予習・復習	30
7	甲状腺疾患、カルシウム代謝、骨粗鬆症	講義	予習・復習	30
8	副腎疾患、カリウム代謝	講義	予習・復習	30

9	尿生成、急性腎不全	講義	予習・復習	30
10	腎炎、ネフローゼ、酸・塩基平衡	講義	予習・復習	30
11	慢性腎疾患、慢性腎不全、透析療法	講義	予習・復習	30
12	腎盂腎炎、尿路疾患	講義	予習・復習	30
13	免疫とアレルギー反応、自己免疫	講義	予習・復習	30
14	膠原病・類縁疾患	講義	予習・復習	30
15	感染症と免疫不全	講義	予習・復習	30
16	テスト			

リハビリテーション学科

【科目名】	整形外科学Ⅰ			【担当教員】	粟生田　博子
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2-12-0316-0-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	aoda@nur.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 水曜日12：45〜13：15	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・リハビリテーションに関連する整形外科分野全般を学習します．医学専門用語が多いため，指定教科書だけでなく医学大事典（電子辞書含む）や解剖学，生理学などの分野で使用した教科書も参考に学習準備しておくと良いでしょう．
＊この科目は実務経験者対応科目です．

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・複数の教員が担当します．
・事前に解剖学，生理学，運動学，組織学，病理学等の学習（復習）を行ってください．
・小テスト，レポートは随時返却します．

【講義概要】

(目的)

・整形外科領域における疾患の病態，臨床症状，診断，治療などについて学習し，リハビリテーションに関わる運動器関連基礎疾患を理解する．
＊当該科目と学位授与方針等との関連性；A-2,3

(方法)

・骨，関節，軟部組織等身体各部位における代表的な整形外科疾患について講義を行います．また，必要に応じてグループワークを行います．

【一般教育目標(GIO)】

・基本的な整形外科領域疾患の説明ができる．

【行動目標(SBO)】

・整形外科領域の疾患と解剖生理学を関連付けて説明できる
・整形外科，運動器疾患に対するリハビリテーションの目的や役割を説明できる

【教科書・リザーブドブック】

・松野丈夫，中村利孝総編集，標準整形外科学 第13版，医学書院，2017年，¥9,400（税別）

【参考書】

・必要に応じて随時紹介する

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う．
・学内試験規定に基づく出席回数，授業態度，小テスト，筆記試験を総合的に評価する．

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80	20						100
評価指標	取り込む力・知識	60	10						70
	思考・推論・創造の力	20							20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢		10						10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1，2	第I編　整形外科の基礎科学 第1章　骨の構造，生理，生化学 第2章　骨の発生，成長，維持 第3章　骨の病態，病理 第4章　骨の修復と再生 整形外科	講義	整形外科学関連分野の予習，復習	60
3，4	第5章　関節の構造，生理，生化学 第6章　関節の病態，病理 第7章　関節軟骨の修復と再生 第8章　筋・神経の構造，生理，化学 第9章　痛みの基礎科学と臨床	講義	整形外科学関連分野の予習，復習	60
5，6	第II編　整形外科診断総論 第10章　診療の基本 第11章　主訴，主症状から想定すべき疾患 第12章　整形外科的現症の取り方 第13章　検査	講義	整形外科学関連分野の予習，復習	60
7，8	第III編　整形外科治療総論 第14章　保存療法 保存療法の基本 保存療法各論 第15章　手術療法	講義	整形外科学関連分野の予習，復習	60
9，10	第IV編　整形外科疾患各論 第29章　頚椎 第30章　胸郭 第31章　胸椎，腰椎	講義（浅海）	整形外科学関連分野の予習，復習	60
11，12	第IV編　整形外科疾患各論 第31章　胸椎，腰椎 第VI編　整形外科外傷学 第38章　脊椎・脊髄損傷	講義（浅海）	整形外科学関連分野の予習，復習	60
13，14	第VI編　整形外科外傷学 第38章　脊椎・脊髄損傷	講義（浅海）	整形外科学関連分野の予習，復習	60
15	整形外科学Ｉのまとめ	講義	整形外科学関連分野の予習，復習	60

リハビリテーション学科

【科目名】	整形外科学Ⅱ			【担当教員】	粟生田　博子
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2-12-0316-0-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	aoda@nur.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 水曜日12：45〜13：15	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

リハビリテーションに関連する整形外科分野全般を学習します．医学専門用語が多いため，医学大事典（電子辞書含む）などを準備しておくと良いでしょう．
＊この科目は実務経験者対応科目です．

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

解剖学，生理学，運動学，組織学，病理学等の学習を行うこと．
小テスト，レポートは随時返却します．

【講義概要】

(目的)

整形外科領域における疾患の病態，臨床症状，診断，治療などについて学習し，リハビリテーションに関わる運動器関連基礎疾患を理解する．
＊当該科目と学位授与方針等との関連性；A-2,3

(方法)

骨，関節，軟部組織等および身体各部位における分野の中で代表的な疾患について講義等を行う．

【一般教育目標(GIO)】

・基本的な整形外科領域症例の説明ができる．

【行動目標(SBO)】

・整形外科領域の疾患を説明できる
・整形外科，運動器疾患に対するリハビリテーションの目的や役割を説明できる

【教科書・リザーブドブック】

・松野丈夫，中村利孝総編集，標準整形外科学 第13版，医学書院，2017年，¥9,400（税別）

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う．
・学内試験規定に基づく出席回数，授業態度，小テスト，筆記試験を総合的に評価する．

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80	20						100
評価指標	取り込む力・知識	80	20						100
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1，2	第IV編　整形外科疾患総論 第16章　軟部組織・骨・関節の感染症 第17章　関節リウマチとその類縁疾患 第18章　慢性関節疾患（退行性，代謝性） 第19章　四肢循環障害と阻血壊死性疾患	講義・グループワーク	整形外科学関連分野の予習，復習	60
3，4	第20章　先天性骨系統疾患 第21章　先天異常症候群 第22章　代謝性骨疾患 第23章　骨腫瘍　　第24章　軟部腫瘍 第25章　神経疾患，筋疾患	講義・グループワーク	整形外科学関連分野の予習，復習	60
5，6	第V編　整形外科疾患各論 第26章　肩関節 第27章　肘関節 第28章　手関節と手	講義・グループワーク	整形外科学関連分野の予習，復習	60
7，8	第32章　股関節 第33章　膝関節 第34章　足関節と足	講義・グループワーク	整形外科学関連分野の予習，復習	60
9，10	第VI編　整形外科外傷学 第35章　外傷総論 第36章　軟部組織損傷 第37章　骨折・脱臼 第39章　末梢神経損傷	講義・グループワーク	整形外科学関連分野の予習，復習	60
11，12	第VII編　スポーツと整形外科 第40章 スポーツ傷害 第41章 障害者スポーツ	講義・グループワーク	整形外科学関連分野の予習，復習	60
13，14	第VIII編　リハビリテーション 第42章　運動器疾患のリハビリテーション 第43章　義肢	講義・グループワーク	整形外科学関連分野の予習，復習	60
15	確認とまとめ	講義・グループワーク	整形外科学関連分野の予習，復習	60

リハビリテーション学科

【科目名】	臨床神経学Ⅰ			【担当教員】	森　宏
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 来校時対応	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

PT, OT, ST全専攻の学生にとり専門家になるためには臨床神経学は不可欠な基礎知識です。国試にもたくさん出題される分野です。教科書は課題に従って熟読し、必ず全講義に出席して下さい。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

復習が重要です。講義開始前に毎回小テスト（約10分）を実施し答え合わせします。これを出席表の代わりにします。前回の講義内容を十分復習してから受講すること。私語は他学生の迷惑になりますので慎むこと。

【講義概要】

(目的)

リハビリテーションの対象となる疾患の中には神経系の疾患が多く含まれる、その障害を理解し適切に対処するためには臨床神経学の基礎知識は不可欠です。各神経疾患の病態生理、各種検査所見、治療、予後などの臨床神経学の視点から学ぶことを目的とする。

(方法)

神経系についての理解を深めるため、正常脳の構造や機能(神経解剖学・神経生理学)、そして障害された後の臨床病像(神経症候学)を学ぶ。そして意識障害、脳神経麻痺、運動・知覚麻痺、失調症、さらに高次脳機能障害等の総論に加え、各論では運動ニューロン疾患、神経変性疾患、脳血管障害、末梢神経疾患、筋疾患、などの病態について学ぶ。特に有病率が高い疾患については重点的に講義します。

【一般教育目標(GIO)】

神経系の構造･機能･病態についての基礎を、臨床的視点を中心にしながら横断的に学ぶ。

【行動目標(SBO)】

神経系の構造･機能･病態について説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

医療情報科学研究所編集『病気がみえる<vol.7>脳・神経』メディックメディア、¥3,990

【参考書】

坂井建雄、久光正監修　『ぜんぶわかる脳の辞典』成美堂出版、¥1,800
石橋　賢一著　『Navigate 神経疾患』　医学書院, ¥3,360

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。
成績評価は、期末試験および受講状況により総合的に評価する。稀に講義時間内にレポートの提出を求めることがありますが、最終成績評価にはレポート提出は不要です。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80						20	100
評価指標	取り込む力・知識	60							60
	思考・推論・創造の力	20							20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2	臨床神経学のオリエンテーション 神経系の構造と機能、神経疾患の検査	講義	P1-55 P548-583	20
3.4	脳動脈と脳血管障害：脳卒中とは 脳梗塞、脳塞栓、一過性脳虚血発作	講義	P56-109	30
5.6	脳血管疾患：脳出血	講義	P110-123	30
7.8	脳動脈瘤とくも膜下出血	講義	P124-147	30
9.10	脳血管障害のリハビリテーション 高次脳機能障害	講義	P148-163	30
11.12	脳静脈、髄液循環とその障害 頭蓋内圧亢進、脳ヘルニア	講義	P164-189	30
13.14	運動と感覚	講義	P190-241	30
15	脳神経とその障害	講義	P242-283	30

リハビリテーション学科

【科目名】	臨床神経学Ⅱ			【担当教員】	森　宏
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 来校時対応	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

PT, OT, ST全専攻の学生にとり専門家になるためには臨床神経学は不可欠な基礎知識です。国試にもたくさん出題される分野です。教科書は課題に従って熟読し、必ず全講義に出席して下さい。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

復習が重要です。講義開始前に毎回小テスト（約10分）を実施し答え合わせします。これを出席表の代わりにします。前回の講義内容を十分復習してから受講すること。私語は他学生の迷惑になりますので慎むこと。

【講義概要】

(目的)

リハビリテーションの対象となる疾患の中には神経系の疾患が多く含まれる、その障害を理解し適切に対処するためには臨床神経学の基礎知識は不可欠です。各神経疾患の病態生理、各種検査所見、治療、予後などの臨床神経学の視点から学ぶことを目的とする。

(方法)

神経系についての理解を深めるため、正常脳の構造や機能(神経解剖学・神経生理学)、そして障害された後の臨床病像(神経症候学)を学ぶ。そして意識障害、脳神経麻痺、運動・知覚麻痺、失調症、さらに高次脳機能障害等の総論に加え、各論では運動ニューロン疾患、神経変性疾患、脳血管障害、末梢神経疾患、筋疾患、などの病態について学ぶ。特に有病率が高い疾患については重点的に講義します。

【一般教育目標(GIO)】

神経系の構造･機能･病態についての基礎を、臨床的視点を中心にしながら横断的に学ぶ。

【行動目標(SBO)】

神経系の構造･機能･病態について説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

医療情報科学研究所編集『病気がみえる<vol.7>脳・神経』メディックメディア、¥3,990

【参考書】

坂井建雄、久光正監修　『ぜんぶわかる脳の辞典』成美堂出版、¥1,800
石橋　賢一著　『Navigate 神経疾患』　医学書院, ¥3,360

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。
成績評価は、期末試験および受講状況により総合的に評価する。稀に講義時間内にレポートの提出を求めることがありますが、最終成績評価にはレポート提出は不要です。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80						20	100
評価指標	取り込む力・知識	60							60
	思考・推論・創造の力	20							20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2	脊髄とその障害 末梢神経とその障害	講義	P284-317	20
3.4	″脱髄性疾患・神経変性疾患 筋疾患・代謝性神経障害″	講義	P318-401	30
5.6	感染性疾患・認知症	講義	P402-443	30
7.8	頭痛・てんかん	講義	P444-474	30
9.10	母斑症・先天奇形	講義	P475-495	30
11.12	腫瘍・外傷	講義	P496-547	30
13.14	神経疾患全般のまとめ	講義		30
15	復習、質疑	講義		30

リハビリテーション学科

【科目名】	小児科学			【担当教員】 松永　雅道、長谷川　聡、塚野　喜恵、佐藤　英利、榊原　清一、江村　重仁、福地　雄太、布施　拓也
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	S148	(メールアドレス)
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	oshiki@nur.ac.jp
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 月・水・木　10:30～16:00

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

解剖学、生理学等の基礎が習得されているものとして講義を行うので、よく勉強しておくこと。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

小児科学は非常に広い分野を学ぶので、膨大な知識を要求される。毎回配布のプリントを講義の内容をもとに、教科書だけでなく、参考書を調べるなどして自分なりに復習し、知識を習得することが必要となる。日々の復習を怠らないことが重要である。

【講義概要】

(目的)

小児と関わるためには「子どもは絶えず成長するという特性を持つ」ということを理解した上で、その
成長の途中で起きる問題に対して、生活の質を考慮しながら多角的に考えることを要求される。小児科学は、
そのための知識と技術を習得することを目的とする。

(方法)

教科書、プリントを使い、正常児の発育・発達についてスライドを使って写真や図を見たりしながら学ぶ。小児の疾患や障害を系統的に学び、幅広い知識を得る。

【一般教育目標(GIO)】

小児に対する適切なリハビリテーションを行うために、正常小児の成長・発達を正しく理解し、小児の疾患やその症状を知る。

【行動目標(SBO)】

1　正常小児の発育・発達、生理、栄養、仕組み等を理解する。。
2　小児の異常や疾患を簡潔に説明できる。
3　小児特有の問題点を理解し、解決方法を提示できる。

【教科書・リザーブドブック】

『標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　小児科学』 第5版　冨田 豊編集 医学書院

【参考書】

講義内に随時紹介

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則既定のＧＰＡ制度に従う。
提出課題・確認テスト、試験を下記表の割合を目安として、総合的に判断、評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		95						5	100
評価指標	取り込む力・知識	80							80
	思考・推論・創造の力	15							15
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							5	5

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2	・小児の感染症の特徴について、学ぶ。 ・それぞれの臓器における感染症について、代表例について、学ぶ。 ・講義で配布するプリントを主体に、講義を行う。	講義 布施拓也先生	『標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野・小児科学』(医学書院)の第8章の内容をあらかじめ読んでおく。	９０分
3・4	・遺伝と小児の内分泌疾患について学ぶ ・スライド形式で講義を行う（プリント配布無）	講義 佐藤英利先生	講義ノートなどをもとに、復習する	90分
5・6	・小児の呼吸器疾患・アレルギー疾患について学ぶ ・スライド形式で講義を行う	講義 江村重仁先生	クループ、急性喉頭蓋炎、急性細気管支炎、肺炎、百日咳、結核、気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、川崎病について	90分
7・8	・小児の循環器疾患について ・小児の心肺蘇生法について	講義 長谷川聡先生	・教科書（標準理学療法学・作業療法学）の「循環器疾患」に準じて学習する ・小児の心肺蘇生法について学習し実践できるようにする	90分
9・10	・腎臓の発達、構造、機能の概略を知る。 ・血尿や蛋白尿を来す疾患について理解する。 ・脳神経の発達、構造、機能の概略を知る。 ・中枢神経疾患、てんかん、筋疾患、発達障害などについて理解する。	講義 福地雄太先生	標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野　小児科学の第13章A項、第5章B項、C項、D項、E項、H項を事前学習する。	90分
11・12	・新生児・未熟児疾患について学ぶ ・講義で配布するプリントを主体に講義を行う	講義 榊原清一先生	標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野　小児科学の第3章について、プリントと併せて復習する	90分
13・14	・小児の心身医学的疾患、虐待、その他について学習する。 ・講義で配布するプリントを中心に、解説する。	講義 塚野喜恵先生	『標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野・小児科学』(医学書院)の第15章 習癖・睡眠関連病態・心身医学的疾患・虐待(201～205ページ)の内容をあらかじめ読んでおく。	90分
15	・小児の消化器疾患・血液疾患・悪性腫瘍について学ぶ ・講義で配布するプリントを主体に講義を行う	講義 松永雅道先生	標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野　小児科学の第9章、第11章、第14章と脳腫瘍（p91）、Wilms腫瘍(p196)についてもプリントと併せて復習する	90分

リハビリテーション学科

【科目名】	精神疾患とその治療			【担当教員】	的場 巳知子
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 来校時に対応	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

基本的な精神疾患を理解するだけでなく、医療人として心の病を持つ患者様に対する実際の対応の仕方を修得することが求められる。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

特になし

【講義概要】

(目的)

この科目は公認心理師養成のための必修科目である。精神医学についての一般的な知識を身につけるだけでなく、ﾘｪｿﾞﾝ等を含み広くﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ分野および心理臨床分野での精神医学的ｱﾌﾟﾛｰﾁを下記①②③を中心に実践的に学ぶ。
①精神疾患総論（代表的な精神疾患についての成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援を含む。）
②向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化
③医療機関との連携

(方法)

疾患別の講義のほか、社会・司法に関する事例も豊富に取り上げることにより、自己を分析し、客観的に深く物事を捉えることのできる能力を鍛え、治療者としての技術の向上を目指す。また治療における、精神分析や芸術療法などの技法も修得する。

【一般教育目標(GIO)】

・ ICD に準じた基本的な精神疾患について理解する。
・ 精神医学独特の専門用語について理解し、使いこなすことができる。

【行動目標(SBO)】

・ 自己を知り、他者との客観的対応について理解した上で、様々な治療技法について臨床現場で応用出来る

【教科書・リザーブドブック】

標準理学療法学・作業療法学-専門基礎分野(精神医学)第4版 2015年. 医学書院

【参考書】

奈良勲　鎌倉矩子　上野武治　標準理学療法学・作業療法学―専門基礎分野（精神医学）第4版 2015年. 医学書院

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		90						10	100
評価指標	取り込む力・知識	70							70
	思考・推論・創造の力	20							20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2	発達障害（神経発達症候群/神経発達障害群）	講義	該当する講義内容について各自調べておく	30
3.4	精神疾患の成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族の支援、不安に関した障害、摂食障害、排泄障害、睡眠覚醒障害、秩序破壊的衝動制御、素行症、パーソナリティー障害	講義	該当する講義内容について各自調べておく	30
5.6	物質関連障害および嗜好性癖障害 認知症（神経認知障害）	講義	該当する講義内容について各自調べておく	30
7.8	統合失調症（統合失調症スペクトラム障害） 双極性障害、抑うつ障害	講義	該当する講義内容について各自調べておく	30
9.10	向精神薬を始めてとする薬剤による心身の変化	講義	該当する講義内容について各自調べておく	30
11.12	法的変遷と実際	講義	該当する講義内容について各自調べておく	30
13.14	精神科治療における心理的アプローチについて 医学的治療と心理学的ケア 精神科医療における公認心理師の役割	講義	該当する講義内容について各自調べておく	30
15	チーム医療（医療機関への紹介）	講義	該当する講義内容について各自調べておく	30

リハビリテーション学科

【科目名】	リハビリテーション工学			【担当教員】	星野　浩通
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2-12-0345-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	hoshino@nur.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー)月曜～金曜　5時限	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

前半は支援機器についての説明を行います。自分で支援機器を考える時間と発表する時間を設けます。
後半は生体力学の基礎について説明します。その際に、数学や物理学の知識を必要とします。
この科目は実務経験者対応科目です。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

講義資料を配りません。電子媒体で配布しますので、PCまたはタブレットがあると便利です。
車椅子など重いものを運ぶ場合が有るので、授業準備は複数名（3名）くらいで来てください。
試験結果・レポートは他に支障のない限り返却します。

【講義概要】

(目的)

理学療法士は日常生活における患者の姿勢や安全性、効率の良い運動を考慮し、理学療法を提供していく必要性がある。リハビリテーション工学では人の姿勢や運動を理解し、介護技術や福祉機器の原理、使用方法を修得し、さらに工学の視点で評価・分析する方法を学修することを目的とする。
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2,P-3,O-3,R-1

(方法)

電子媒体にて資料を配布します。各自PCかタブレットを使ってください。
グループ学習とグループ発表を行います。
授業が終了後にICTを利用した、確認テストを行います。その際はoffice365のサインインが必要になります。

【一般教育目標(GIO)】

人間支援工学を習得するために、人間の動作や姿勢における生体力学を理解し、かつ人間支援機器の種類や使用方法について理解する。

【行動目標(SBO)】

生態におけるバイオメカニクスを説明する。
生活支援機器の種類や使用法を説明する。
生活支援機器の構造を理解し、自ら作成案を提示できる。

【教科書・リザーブドブック】

伊福部達　福祉工学の基礎　株式会社コロナ社　4428円

【参考書】

なし

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

(評価の基準・方法)
・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。
・成績評価は、期末試験およびレポート点により総合的に評価する。
・出席点は評価に含まない。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50		25	25				100
評価指標	取り込む力・知識	25							25
	思考・推論・創造の力	25							25
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力				25				25
	学修に取り組む姿勢			25					25

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	リハビリテーション工学について	講義 星野浩通 B講堂	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 授業終了後はICTにて課題を行ってください。	20
2	生活支援 （疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具） 移動支援機器（車椅子）	講義 星野浩通 B講堂	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 授業終了後はICTにて課題を行ってください。	20
3	生活支援 （疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具） 移動支援機器（車椅子関連用品）	講義 星野浩通 B講堂	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 授業終了後はICTにて課題を行ってください。	20
4	生活支援 （疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具） 移動支援機器（車椅子シーティング）	講義 星野浩通 B講堂	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 授業終了後はICTにて課題を行ってください。	20
5	生活支援 （疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具） 移動支援機器（人の心の杖となれ）	講義 星野浩通 B講堂	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 授業終了後はICTにて課題を行ってください。	20
6	生活支援 （疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具） 移動支援機器（環境制御装置）	講義 星野浩通 B講堂	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 授業終了後はICTにて課題を行ってください。	20
7	生活支援（疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具） 演習（福祉機器の考察）	演習 星野浩通 B講堂	設計図を元に作成しますので 設計図を作成してください。	20
8	支援機器の作成案	演習 星野浩通 B講堂	設計図を元に作成しますので 設計図を作成してください。	20

9	支援機器の作成作成案	演習 星野浩通 B講堂	設計図を元に作成しますので 設計図を作成してください。	20
10	生活支援（疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具） 成果発表	演習 星野浩通 B講堂	発表 ICTによる評価	20
11	生活支援（疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具） 成果発表	演習 星野浩通 B講堂	発表 ICTによる評価	20
12	生体工学（バイオメカニズムに関する用語）	講義 星野浩通 B講堂	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 授業終了後はICTにて課題を行ってください。	20
13	生体工学（テコ）	講義 星野浩通 B講堂	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 授業終了後はICTにて課題を行ってください。	20
14	生体工学（具体的な用途）①	講義 星野浩通 B講堂	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 授業終了後はICTにて課題を行ってください。	20
15	生体工学（具体的な用途）②	講義 星野浩通 B講堂	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 授業終了後はICTにて課題を行ってください。	20

リハビリテーション学科

【科目名】	リハビリテーション医学			【担当教員】	髙橋　明美
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2-12-0350-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	a_takahashi@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 月～金 8:30-18:00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・理学療法、作業療法、心理全専攻の学生にとり重要不可欠な基礎知識の講義です。必ず全講義に出席して下さい。
・この科目は実務経験者対応科目です。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

小テストについては、返却します。
試験の解答については、原則返却しません。

【講義概要】

(目的)

リハビリテーション医学が対象とする疾患、脳卒中、頭部外傷、脊髄損傷、脳性麻痺、変性疾患、切断等についてそれらを理解し、リハビリテーション治療技術を体得し実践できることを目標とします。

当該科目と学位授与方針との関連性：A-3

(方法)

主として教科書と配布資料を使用して講義を行います。
脳卒中、頭部外傷、脊髄損傷、脳性麻痺、変性疾患、切断等についての講義を通してリハビリテーション専門職として必要なリハビリテーション医学の基礎知識を学びます。また治療医学とは視点の異なるリハビリテーション医学的な考え方、評価、治療等についても学びます。

【一般教育目標(GIO)】

リハビリテーション医学の基本を理解する。

【行動目標(SBO)】

脳卒中、頭部外傷、脊髄損傷、脳性麻痺、変性疾患、切断等について説明できる。
治療医学とは視点の異なるリハビリテーション医学的な考え方、評価、治療等を説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

伊藤利之他編：「標準リハビリテーション医学　3版」医学書院　2012、￥7350

【参考書】

三上真弘，他：リハビリテーション医学テキスト，改訂第3版，南江堂，2010，￥5300

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。
成績評価は、期末試験および小テストにより総合的に評価する。
出席点は評価には含みません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70	10					20	100
評価指標	取り込む力・知識	50	10						60
	思考・推論・創造の力	20							20
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
１・２ 前期	リハビリテーション医学総論 対象疾患、他オリエンテーション	講義 （高橋）	リハビリテーション概論で学んだことを復習しておくこと 今回の講義の復習。配布資料と教科書(pp3-33)を読んでおくこと	30
３・４ 前期	脳卒中の疾患概念：CI(脳梗塞)、CH(脳出血)、SAH(クモ膜下出血)等 脳卒中のリハビリテーション	小テスト 講義 （高橋）	（予習）前回の講義の復習。 （復習）今回の講義の復習。配布資料と教科書(pp304-323)を読んでおくこと	30
５・６ 前期	TBI(頭部外傷)疾患概要：脳挫傷(直撃・対側撃)、硬膜外血腫、慢性硬膜下血腫 TBIに対するリハビリテーション	小テスト 講義 （高橋）	（予習）前回の講義の復習。 （復習）今回の講義の復習。配布資料と教科書(pp341-350)を読んでおくこと	30
７・８ 前期	脊髄疾患概要：脊髄損傷（頸髄損傷、胸腰髄損傷）、二分脊椎（SBO） 脊髄損傷に対するリハビリテーション	小テスト 講義 （高橋）	（予習）前回の講義の復習。 （復習）今回の講義の復習。配布資料と教科書(pp324-340)を読んでおくこと	30
９・１０ 前期	小児の疾患概念：脳性まひ（CP)、重症心身障害児 小児疾患に対するリハビリテーション	小テスト 講義 （高橋）	（予習）前回の講義の復習。 （復習）今回の講義の復習。配布資料と教科書を読んでおくこと	30
１１・１２ 前期	変性疾患概念：PD、ALS、SCD、MSA、MD、他 変性疾患に対するリハビリテーション	小テスト 講義 （小林）	（予習）前回の講義の復習。 （復習）今回の講義の復習。配布資料と教科書(pp366-386)を読んでおくこと	30
１３・１４ 前期	整形外科疾患の概念：RA、OA、Fx、切断、その他運動器不安定症 整形外科疾患に対するリハビリテーション	小テスト 講義 （小林）	（予習）前回の講義の復習。 （復習）今回の講義の復習。配布資料と教科書(pp416-426)を読んでおくこと	30
１５ 前期	内部疾患の概念：メタボリックシンドローム（高血圧、肥満、糖尿病）、心不全、呼吸器疾患 内部疾患に対するリハビリテーション	小テスト 講義 （高橋）	（予習）前回の講義の復習。 （復習）試験に向けて、これまでの全ての内容について確認しておくこ	30

リハビリテーション学科

【科目名】	医療安全管理学			【担当教員】	瀬尾　憲司
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2-12-0355-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	seo@dent.niigata-u.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー)授業開講日、非常勤控室で対応	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

医療人として仕事をする上で最も基本的な手技です。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

真面目に授業を受けることができることが受講の条件です。実習用の人形を忘れないで準備すること

【講義概要】

(目的)

リハビリテーションは心疾患や脳疾患を有した患者など、リスクを抱えながら進めることになる。医療事故の発生防止対策及び医療事故発生時の対応方法について学び、適切かつ安全な医療の提供が行えるような知識を身につける。

(方法)

緊急時の場合にはどうすれば安全なに援助できるかを事例に基づいてその概念を習得して事故防止
に努めるとともに、実際に救急時の対応方法を習得できるように進める。

【一般教育目標(GIO)】

・一次救命処置を実施できる。

【行動目標(SBO)】

・救命処置の手順を理解できる。
・救命処置の手順の科学的背景を理解できる。

【教科書・リザーブドブック】

AHAガイドライン2015に沿ったBLSの理解のために（医歯薬出版）
CPR・AED学習キットMiniAnne

【参考書】

AHAガイドライン2015に沿ったBLSの理解のために
医歯薬出版 瀬尾憲司(著) ISBN：9784263444887

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		60		10		20		10	100
評価指標	取り込む力・知識	60				20			80
	思考・推論・創造の力			10				10	20
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1、2	総論	講義	テキストを読んでおく	90
3, 4	バイタルサイン	講義	テキストを読んでおく	90
5, 6	バイタルサイン	講義・実習	テキストを読んでおく	90
7, 8	バイタルサイン	講義・実習	テキストを読んでおく	90
9, 10	成人のＣＰＲ	講義・実習	テキストを読んでおく	90
11, 12	ＡＥＤ	講義・実習	テキストを読んでおく	90
13, 14	小児のＣＰＲ・窒息	講義・実習	テキストを読んでおく	90
15	まとめ	講義・実習	テキストを読んでおく	90

リハビリテーション学科

【科目名】	感染症学			【担当教員】	平田　恒彦
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2-12-0360-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 来校時に対応	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

今後：臨床実習を行う学生には、感染症から自分自身を守るためには大切な知識を提供するので受講してほしい。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

マスメディアの情報、ニュースに注目。聴講時の飲食・雑談および無言勝手な出入りは厳禁である。

【講義概要】

(目的)

数々の抗生物質やワクチンの登場以来、「感染症」は終わったとの見方が医療関係者や研究者の間で大勢を占めつつあった。
そんな時に病原大腸菌O-157が襲ってきた。忘れつつあった細菌の襲来である。感染症、それはヒトが生きている限り、他の生物との関わりの世界で、避けられない環境の中で起こる1つの現象である。学問としての内容は古典的な場面があるが、忘れてはいけない医生物科学の分野である。そのため、感染症予防対策を伝染病という観点からも眺める。

(方法)

本講座においては、他の生物の兼ね合いを考えながら、解剖生理学、免疫学、疾学等を背景にし、広い視点から学習をすすめ、リハビリテーション現象の中での具体的な問題を考察する。

【一般教育目標(GIO)】

・感染症について理解し、医療現場（特にリハビリテーション現場）での感染予防について理解することができること。

【行動目標(SBO)】

・感染症に関する話題を語れるようになること。

【教科書・リザーブドブック】

岩田健太郎「絵でわかる感染症」講談社

【参考書】

講義内で必要であれば紹介する

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。
成績評価は、期末試験およびレポート点等により総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		85		10				5	100
評価指標	取り込む力・知識								
	思考・推論・創造の力	50						5	55
	コラボレーションとリーダーシップ	15							15
	発表力	10		5					15
	学修に取り組む姿勢	10		5					15

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2	感染症の全体像	講義	新聞等マスメディアの中から課題を読み取る。	10分
3・4	抗菌薬（1）	講義	新聞等マスメディアの中から課題を読み取る。	10分
5・6	抗菌薬（2）	講義	新聞等マスメディアの中から課題を読み取る。	10分
7・8	症候からの感染症（1）	講義	新聞等マスメディアの中から課題を読み取る。	10分
9・10	症候からの感染症（2）	講義	新聞等マスメディアの中から課題を読み取る。	10分
11・12	微生物からの感染症（1）	講義	新聞等マスメディアの中から課題を読み取る。	10分
13・14	微生物からの感染症（2）	講義	新聞等マスメディアの中から課題を読み取る。	10分
15・16	院内感染・予防接種、その他	講義	新聞等マスメディアの中から課題を読み取る。	10分

17・18	只今の社会における感染症の実際	講義（補講）	同上	同上
19・20	当今の抗生剤等薬剤の在り方	同上	同上	同上
21	試験			

リハビリテーション学科

【科目名】	リハビリテーション概論			【担当教員】	髙橋　明美
【授業区分】	専門基礎分野(社会福祉)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	a_takahashi@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 月～金 8:30-18:00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・リハビリテーションとは、理学療法、作業療法、心理全専攻(リハビリテーション専門職)の学生にとり基本中の基本、不可欠な基礎知識の講義です。必ず全講義に出席してください。
・この科目は実務経験者対応科目です。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

小テストについては、返却します。
試験の解答については、原則返却しません。

予習も大事ですが、復習がさらに重要となります。前回の講義内容を十分復習してから受講してください。

【講義概要】

(目的)

リハビリテーションに対する正しい理解と知識を学習し、専門職種としての基本的な姿勢や考え方を身につけ、臨床の場で活用できるようにする。このことにより、多職種がリハビリテーションについて共通の価値観を修得し、多面的な支援の提供ができることを目的とする。

当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1,2,3

(方法)

テキストを用いて、体系的に学ぶよう講義を進めます。特に、“リハビリテーションとは何か”その本質に触れ、現在のリハビリテーションの仕組みを正しく知ることを第一のテーマとして、リハビリテーションの理念、歴史的変遷、障害者と障害のレベル、障害の測定・評価法などの実例を提示して進めます。

【一般教育目標(GIO)】

保健・医療・福祉に及ぶ広範囲なリハビリテーション分野を深く理解する。

【行動目標(SBO)】

１．リハビリテーションの理念、歴史的変遷について説明できる。２．障害の概念や分類について説明できる。３．リハビリテーションの過程について説明できる。４．各専門職の役割、チームアプローチについて説明できる。５．リハビリテーションを支える諸制度について説明できる。６．ICFに基づく障害の測定・評価方法について説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

上好昭孝、他：医学生・コメディカルのための手引書，リハビリテーション概論，改訂第3版，永井書店，2014，￥3000（税別）

【参考書】

①砂原茂一著：リハビリテーション概論，岩波新書，1997、¥630
②真柄彰、他：メディカルスタッフ専門基礎科目シリーズ，リハビリテーション概論，理工図書，2017，￥4700（税別）

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。
成績評価は、期末試験および小テストにより総合的に評価する。
出席点は評価には含みません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80	10					10	100
評価指標	取り込む力・知識	60	10						70
	思考・推論・創造の力	20							20
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
１・２ 前期	リハビリテーションの概念・理念、定義	講義 （高橋明美）	（予習）指定教科書に目を通しておく （復習）講義で配布された資料、教科書(pp1-18)を読むこと	30
３・４ 前期	健康と障害の概念、分類	小テスト、講義 （高橋明美）	（予習）前回の講義の復習 （復習）講義で配布された資料、教科書(pp19-30)を読むこと	30
５・６ 前期	リハビリテーションの過程 チームアプローチ	小テスト、講義 （高橋明美）	（予習）前回の講義の復習 （復習）講義で配布された資料、教科書(pp69-80,117-124)を読むこと	30
７・８ 前期	リハビリテーションの諸段階、諸制度	小テスト、講義 （高橋明美）	（予習）前回の講義の復習 （復習）講義で配布された資料、教科書(pp81-98)を読むこと	30
９・１０ 前期	作業療法概論	講義 （澁井）	（予習）前回の講義の復習 （復習）講義で配布された資料、教科書(pp99-116)を読むこと	30
１１・１２ 前期	言語聴覚士概論	講義 （高橋圭三）	（予習）前回の講義の復習 （復習）講義で配布された資料、教科書(pp99-116)を読むこと	30
１３・１４ 前期	リハビリテーション心理概論	講義 （未定）	（予習）前回の講義の復習 （復習）講義で配布された資料、教科書(pp99-116)を読むこと	30
１５ 前期	医療とリハビリテーション専門職、役割 理学療法概論 試験	小テスト、講義 （高橋明美）	（予習）前回の講義の復習 （復習）講義で配布された資料、教科書(pp99-116)を読むこと	30

リハビリテーション学科

【科目名】	社会保障論			【担当教員】	鈴木　昭
【授業区分】	専門基礎分野(社会福祉)	【授業コード】	2-13-0370-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	jajamaru@rose.ocn.ne.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 出講時、非常勤控室で対応	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

特に無し

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

特に無し

【講義概要】

(目的)

本邦において社会保障制度は医療制度と並んで一生涯をカバーするセーフティネットの役割を果たしている。社会保障の概念や対象及びその理念等について現代社会の課題と関連させながら理解することを目的とする。

(方法)

講義を中心とするが、必要に応じて映像資料を用いる。改正案等が出される場合が多いので、新聞記事も併用する。

【一般教育目標(GIO)】

・我が国における社会保障の変遷及び現行の社会保険、社会扶助の体系に則してその理念と機能について立体的に概説できる。

【行動目標(SBO)】

・我が国おける社会保障の変遷及びその特徴について概説できる。・社会保障の理念と機能、その体系・構造について立体的に説明できる。・社会保障の財源と費用について概説できる。・年金保険制度について概説できる。・医療保険制度について概説できる。・介護保険制度について概説できる。・公的扶助等の社会福祉制度・サービスについて概説できる。

【教科書・リザーブドブック】

そのつど、プリントを配布します。

【参考書】

直近年度の厚生労働白書　地方財政白書

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50		50					100
評価指標	取り込む力・知識	25		25					50
	思考・推論・創造の力	25		25					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	我が国の社会保障制度の変遷とその特徴	講義	講義内容・配布資料の復習	20分
3-4	生涯を支える社会保障の全体像（社会保障費における給付と負担の推移)	講義	講義内容・配布資料の復習	20分
5-6	社会保険の仕組み	講義	講義内容・配布資料の復習	20分
7-8	年金制度の概要	講義	講義内容・配布資料の復習	20分
9-10	介護保険の現状と課題	講義	講義内容・配布資料の復習	20分
11-12	医療保険制度の概要	講義	講義内容・配布資料の復習	20分
13-14	公的扶助	講義	講義内容・配布資料の復習	20分
15-16	これからの社会保障のあり方	講義	講義内容・配布資料の復習	20分

リハビリテーション学科

【科目名】	公的扶助論			【担当教員】	林　正海
【授業区分】	専門基礎分野(社会福祉)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	office@hayashi-fukushi.net	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー)授業後とメールで質問相談に応じる	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

【講義概要】

(目的)

本邦における公的扶助の概念と仕組みについて総論的に理解することを目的とする。また、生活保護制度の原理・原則・仕組みを理解することを目的とする。講義においては、公的扶助が必要となる低所得層の生活実態、女性の貧困、子どもの貧困などの実際を学び、個人責任のみとは言えない貧困の社会的背景を理解する。医療・福祉専門職として、貧困に対する捉え方、福祉ニーズが必要な方への支援態度について理解する。

(方法)

主として、教科書と配布資料、映像資料を使用します。前半は公的扶助が必要となった事例について配布資料・映像資料を用いてイメージを作り、その後、教科書・統計情報等の配布資料を用いながら、公的扶助に関する総論的講義を行います。憲法における生存権の保障をもとに、生活保護制度の理念、原理原則、発展過程の講義を行います。地域における低所得層支援の実際事例を伝えていきます。

【一般教育目標(GIO)】

・公的扶助に関する概略を理解する。
・公的扶助が必要となる様々な社会的背景を理解する。
・憲法に保障された生存権の保障について理解する。
・生活保護制度の原理・原則・仕組みの概略を理解する。
・低所得等により支援が必要な方の心情を理解し支援を必要とする方に対する専門職としての支援態度を理解する。

【行動目標(SBO)】

・公的扶助とはどのようなことか説明できる。
・公的扶助が必要となる様々な社会的背景を説明できる。
・憲法に保障された生存権の保障について説明できる。
・生活保護制度の原理・原則・仕組みの概略を説明できる。
・低所得等により支援を必要とする方に対する、専門職としての支援態度を説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

杉村宏/岡部卓/布川日佐史[編]，よくわかる公的扶助　低所得者支援と生活保護制度，ミネルヴァ書房，¥2200（税別）

【参考書】

・公的扶助の理解を促進するための動画視聴/過去の新聞記事等（資料配布）
・厚生労働省/直近年度の厚生労働白書・直近年度の被保護者調査結果（資料配布）
・地方自治体発行の生活保護の手引き等（資料配布）

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・出席点は評価に含みません。
・成績評価基準は本学学則既定のGPA制度に従う。
・成績評価はレポート点と授業の積極的態度により総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		0	0	80	0	0	0	20	100
評価指標	取り込む力・知識	0	0	60	0	0	0	0	60
	思考・推論・創造の力	0	0	20	0	0	0	0	20
	コラボレーションとリーダーシップ	0	0	0	0	0	0	0	0
	発表力	0	0	0	0	0	0	0	0
	学修に取り組む姿勢	0	0	0	0	0	0	20	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	現代社会の中の貧困について理解する 「貧困」に対する学生が持つイメージと「貧困の実際」についての違いを理解する。 「見える貧困」「見えない貧困」について動画視聴・資料等を基に解説講義を行う。	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
3-4	低所得・貧困における生活課題の実際について、動画や資料を基に解説講義を行う。	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
5-6	本邦における公的扶助制度の発展・歴史について理解する。劣等処遇から権利としての公的扶助への発展について理解する。恤救規則、救護法、旧生活保護法、生活保護法の違いについて理解する。	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
7-8	生活保護制度について理解する。 憲法２５条生存権保障，生活保護法の原理について理解する。	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
9-10	生活保護制度について理解する。 生活保護法の原則について理解する。	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
11-12	生活保護制度について理解する。 生活保護法の仕組みの概略について理解する。 生活保護における各種加算について理解する。	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
13-14	生活保護制度の現状について理解する。 厚生労働省の調査である被保護者調査等を用いながら、生活保護制度の現状と課題について理解する。	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
15	公的扶助論まとめ レポート課題を提示	講義	予習：講義全体を振り返り重要ポイントを伝えるため、事前に第１回から第７回までに学習した内容を復習をしておく	90

リハビリテーション学科

【科目名】	権利擁護と成年後見制度論			【担当教員】	林　正海
【授業区分】	専門基礎分野(社会福祉)	【授業コード】	2-13-0385-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	office@hayashi-fukushi.net	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー)授業後とメールで質問相談に応じる	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

【講義概要】

(目的)

少子高齢社会では、認知症の方や障がいを持たれた方への支援の重要性は増しています。この科目は臨床で求められる権利擁護と成年後見制度の基礎的知識を養うものです。権利擁護を総論的に理解するとともに、その具体的な手法の一つである成年後見制度による支援方法を学びます。

(方法)

主として、教科書と配布資料を使用して、前半は権利擁護が必要になる事例を提示して、権利擁護についての講義を行ないます。後半では権利擁護の方法として、成年後見制度及び日常生活自立支援事業の制定背景、仕組みへの理解を深める。また権利擁護に関連する周辺法律である高齢者虐待防止法、障がい者虐待防止法、児童虐待防止法についても講義します。

【一般教育目標(GIO)】

・本邦における権利擁護に関する法制度の概略を理解する。
・本邦における成年後見制度の概略を理解する。
・本邦における日常生活自立支援事業の概略を理解する。
・本法における各虐待防止法の概略を理解する。

【行動目標(SBO)】

・権利擁護、成年後見制度、日常生活自立支援事業が求められる社会的背景を説明できる。
・成年後見制度における任意後見制度と法定後見制度の違いを説明できる。また、後見・保佐・補助の違いを説明できる。
・本邦における高齢者虐待防止法、障害者虐待防止法、児童虐待防止法について説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

教科書：永田祐/堀義昭/生田一郎/松宮良典[編著]，よくわかる権利擁護と成年後見制度（改訂版），ミネルヴァ書房，改訂第一刷，¥2600（税別）

【参考書】

・直近年度の厚生労働白書
・法務省　成年後見制度/成年後見登記パンフレット（印刷資料配布）
・新潟県社会福祉協議会　日常生活自立支援事業/成年後見制度パンフレット（印刷資料配布）

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・出席点は評価に含みません。
・成績評価基準は本学学則既定のGPA制度に従う。
・成績評価はレポート点と授業の積極的態度により総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		0	0	80	0	0	0	20	100
評価指標	取り込む力・知識			60					60
	思考・推論・創造の力			20					20
	コラボレーションとリーダーシップ			0					0
	発表力			0					0
	学修に取り組む姿勢			0				20	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	・オリエンテーション ・地域・家族・臨床現場における権利侵害事例 ・権利擁護が求められる社会的背景 ・権利擁護活動の実際（事例紹介）	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
3-4	・日本国憲法の基本原理理解 ・民法の理解 　意思能力、行為能力、契約、不法行為等 ・行政法の理解 　行政行為、不服申立等	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
5-6	成年後見制度① 　成年後見制度の概要 　後見・保佐・補助の概要 　任意後見制度 　成年後見人の具体的な職務	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
7-8	成年後見制度② 　成年後見制度の概要 　後見・保佐・補助の概要 　任意後見制度 　成年後見人の具体的な職務	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
9-10	関連領域である各種虐待防止法 　障がい者の権利に関する条約 　障がい者虐待防止法/高齢者虐待防止法/児童虐待防止法/消費者被害への対応	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
11-12	日常生活自立支援事業 　日常生活自立支援事業の概要 　専門員と生活支援員の役割 　日常生活自立支援事業の実際	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
13-14	権利擁護に係る組織・団体の役割 　家庭裁判所/法務局/市町村/社会福祉協議会/弁護士/司法書士/社会福祉士/市民後見人/地域包括支援センター等の理解	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
15	権利擁護と成年後見制度まとめ 　レポート課題の提示	講義	予習：講義全体を振り返り重要ポイントを伝えるため、事前に第１回から第７回までに学習した内容を復習をしておく	90

リハビリテーション学科

【科目名】	地域福祉論			【担当教員】	林　正海
【授業区分】	専門基礎分野(社会福祉)	【授業コード】	2-13-0395-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	office@hayashi-fukushi.net	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー)授業後とメールで質問相談に応じる	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

【講義概要】

(目的)

医療・リハビリテーション・福祉・介護・防犯など様々な領域で地域福祉の理解は必須となりつつあります。地域福祉の考え方を学ぶことで、地域や臨床において住民や他専門職と連携して、患者等に対する個別支援と地域支援をしていくことの重要性を理解します。地域福祉の理念や概念、歴史展開、法制度の総論的理解を深めます。

(方法)

主として、教科書と配布資料、映像資料を使用します。前半は地域福祉に関する映像資料を視聴し、専門職のみの個別支援ではなく、地域住民との協働の必要性について講義を行います。その後、教科書を用いて、地域福祉の理念、概念、歴史展開、を理解するための講義を行います。後半では、地域福祉に関わるマンパワーである社会福祉協議会やボランティアコーディネーター、ケアマネジャー、地域包括支援センター、民生委員・児童委員について理解するため講義を行います。

【一般教育目標(GIO)】

・地域福祉に関する概略を理解する。
・コミュニティケアの概略を理解する。
・ノーマライゼーションとソーシャルインクルージョンを理解する。
・地域における住民と多専門職との連携の必要性について理解する。
・地域福祉に関わるマンパワーに関して理解する。

【行動目標(SBO)】

・地域福祉/コミュニティケアが求められる社会的背景を説明できる。
・ノーマライゼーションとソーシャルインクルージョンについて説明できる。
・地域住民と多専門職による地域協働が求められる理由を説明できる。
・地域福祉に関わる主要な社会資源である社会福祉協議会、ボランティアコーディネーター、ケアマネジャー、地域包括支援センター、民生委員・児童委員について説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

教科書：上野谷加代子/松端克文/山縣文治[編]，よくわかる地域福祉（第５版），ミネルヴァ書房，¥2200（税別）

【参考書】

・地域福祉理解を促進するための視聴動画
　制作・著作NHK　題名：NHKドラマ10「サイレント・プア」（放送年：2014.4.8-2014.6.3）
・直近年度の厚生労働白書・地方財政白書

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・出席点は評価に含みません。
・成績評価基準は本学学則既定のGPA制度に従う。
・成績評価はレポート点と授業の積極的態度により総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		0	0	80	0	0	0	20	100
評価指標	取り込む力・知識			60				0	60
	思考・推論・創造の力			20				0	20
	コラボレーションとリーダーシップ			0				0	0
	発表力			0				0	0
	学修に取り組む姿勢			0				20	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	地域福祉という考え方 　地域住民一人ひとりを支える福祉活動	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
3-4	地域福祉の理解 　地域福祉の理解を促進するため動画を視聴し、解説講義	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
5-6	地域福祉の理念と概念 　コミュティケア/ノーマライゼーション/ソーシャルインクルージョン/協働/エンパワメント/アドボカシー/地域自立生活	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
7-8	地域福祉計画の理解 　地域福祉計画のとらえ方やプロセス 　地域福祉活動の実際	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
9-10	地域福祉の歴史と展開（本邦を中心として） 地域福祉に関わる法・制度	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
11-12	地域福祉に関わるサービスと活動 地域福祉に関わる方法	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
13-14	地域福祉に関わるマンパワー・機関等の理解 ボランティアコーディネーター/ケアマネジャー/地域住民とボランティア/民生委員・児童委員/各種専門職/町内会・自治会/地域包括支援センター/社会福祉協議会/NPO	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
15	地域福祉論まとめ 　レポート課題の提示	講義	予習：講義全体を振り返り重要ポイントを伝えるため、事前に第１回から第７回までに学習した内容を復習をしておく	90

リハビリテーション学科

【科目名】	地域福祉論			【担当教員】	林　正海
【授業区分】	専門基礎分野(社会福祉)	【授業コード】	2-13-0395-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	office@hayashi-fukushi.net	
【単位数】	1	【コマ数】	8コマ	(オフィスアワー)授業後とメールで質問相談に応じる	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

【講義概要】

(目的)

医療・リハビリテーション・福祉・介護・防犯など様々な領域で地域福祉の理解は必須となりつつあります。地域福祉の考え方を学ぶことで、地域や臨床において住民や他専門職と連携して、患者等に対する個別支援と地域支援をしていくことの重要性を理解します。地域福祉の理念や概念、歴史展開、法制度の総論的理解を深めます。

(方法)

主として、教科書と配布資料、映像資料を使用します。前半は地域福祉に関する映像資料を視聴し、専門職のみの個別支援ではなく、地域住民との協働の必要性について講義を行います。その後、教科書を用いて、地域福祉の理念、概念、歴史展開、を理解するための講義を行います。後半では、地域福祉に関わるマンパワーである社会福祉協議会やボランティアコーディネーター、ケアマネジャー、地域包括支援センター、民生委員・児童委員について理解するため講義を行います。

【一般教育目標(GIO)】

・地域福祉に関する概略を理解する。
・コミュニティケアの概略を理解する。
・ノーマライゼーションとソーシャルインクルージョンを理解する。
・地域における住民と多専門職との連携の必要性について理解する。
・地域福祉に関わるマンパワーに関して理解する。

【行動目標(SBO)】

・地域福祉/コミュニティケアが求められる社会的背景を説明できる。
・ノーマライゼーションとソーシャルインクルージョンについて説明できる。
・地域住民と多専門職による地域協働が求められる理由を説明できる。
・地域福祉に関わる主要な社会資源である社会福祉協議会、ボランティアコーディネーター、ケアマネジャー、地域包括支援センター、民生委員・児童委員について説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

教科書：上野谷加代子/松端克文/山縣文治[編]，よくわかる地域福祉（第５版），ミネルヴァ書房，¥2200（税別）

【参考書】

・地域福祉理解を促進するための視聴動画
　制作・著作NHK　題名：NHKドラマ10「サイレント・プア」（放送年：2014.4.8-2014.6.3）
・直近年度の厚生労働白書・地方財政白書

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・出席点は評価に含みません。
・成績評価基準は本学学則既定のGPA制度に従う。
・成績評価はレポート点と授業の積極的態度により総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		0	0	80	0	0	0	20	100
評価指標	取り込む力・知識			60				0	60
	思考・推論・創造の力			20				0	20
	コラボレーションとリーダーシップ			0				0	0
	発表力			0				0	0
	学修に取り組む姿勢			0				20	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	地域福祉という考え方 　地域住民一人ひとりを支える福祉活動	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
2	地域福祉の理解 　地域福祉の理解を促進するため動画を視聴し、解説講義	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
3	地域福祉の理念と概念 　コミュティケア/ノーマライゼーション/ソーシャルインクルージョン/協働/エンパワメント/アドボカシー/地域自立生活	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
4	地域福祉計画の理解 　地域福祉計画のとらえ方やプロセス 　地域福祉活動の実際	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
5	地域福祉の歴史と展開（本邦を中心として） 地域福祉に関わる法・制度	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
6	地域福祉に関わるサービスと活動 地域福祉に関わる方法	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
7	地域福祉に関わるマンパワー・機関等の理解 ボランティアコーディネーター/ケアマネジャー/地域住民とボランティア/民生委員・児童委員/各種専門職/町内会・自治会/地域包括支援センター/社会福祉協議会/NPO	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
8	地域福祉論まとめ 　レポート課題の提示	講義	予習：講義全体を振り返り重要ポイントを伝えるため、事前に第１回から第７回までに学習した内容を復習をしておく	90

リハビリテーション学科

【科目名】	福祉財政論			【担当教員】	鈴木　昭
【授業区分】	専門基礎分野(社会福祉)	【授業コード】	2-13-0395-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	jajamaru@rose.ocn.ne.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 出講時、非常勤控室で対応	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

【講義概要】

(目的)

国・都道府県・市町村の役割とその財源、国と地方の関係、組織及び団体、専門職の役割等、地域福祉の基本的考え方について理解する。

(方法)

講義を中心に行う。財政については複雑になる場合が多いので、映像資料を適宜使用する。

【一般教育目標(GIO)】

・我が国の社会保障制度の変遷とその特徴について理解する。
・社会福祉の行財政について理解する。

【行動目標(SBO)】

・福祉行財政の動向について概説できる。
・社会保障費用統計の推移と現況について概説できる。
・社会福祉に関連する法規と課題について概説できる。
・財政の現況を踏まえこれからの社会保障について、自分の考えを組み立て概説できる。

【教科書・リザーブドブック】

そのつど、プリントを配布します。

【参考書】

直近年度の厚生労働白書　地方財政白書

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。
・成績評価は、期末試験およびレポート点により総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50		50					100
評価指標	取り込む力・知識	25		25					50
	思考・推論・創造の力	25		25					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	我が国の社会保障制度の変遷とその特徴	講義	講義内容・配布資料の復習	20分
3-4	社会福祉行政の実施体制（国と地方の役割）	講義	講義内容・配布資料の復習	20分
5-6	財政の機能（国家予算と地方財政）	講義	講義内容・配布資料の復習	20分
7-8	生涯を支える社会保障の全体像とその財源	講義	講義内容・配布資料の復習	20分
9-10	年金制度について	講義	講義内容・配布資料の復習	20分
11-12	高齢者福祉と介護保険制度	講義	講義内容・配布資料の復習	20分
13-14	医療保険制度について	講義	講義内容・配布資料の復習	20分
15-16	少子高齢社会と社会保障の将来像	講義	講義内容・配布資料の復習	20分

リハビリテーション学科

【科目名】	高次脳機能障害学概論			【担当教員】	伊林　克彦
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	2-14-0400-0-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	ibayashi@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 火曜～金曜　13：30～16：00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

高次脳機能障害とはいかなる疾患か、あるいは当該患者が社会生活を送る上でどのような支障を生じるかなどについて学ぶ科目です。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

この科目では、神経解剖学的な基礎学力を必要とします。
試験・レポートのフィードバック方法：試験結果を返却する際により学んで欲しい点、当該科目と関連領域での専門性をより高めることなどについてフィードバックします。

【講義概要】

(目的)

我々が過ごす日常生活の中で、言語や記憶、行為、認知さらに注意といった様々な高次脳機能が常に介在している。それらの高次脳機能とはどのような機能なのか、またそれらの機能が障害されると、日常生活にどのような影響を受けるのかなどについて学ぶ。
当該科目と学位授与方針等との関連性：S-3

(方法)

上記の高次脳機能およびその障害像について、座学を中心に講義を進める。その中で、高次脳機能の抽出に使用する各種の検査等についても紹介する。

【一般教育目標(GIO)】

高次脳機能障害患者が抱える諸問題について、その病態を知りどのような形でアプローチすることが大切であるか評価を含めて理解する。

【行動目標(SBO)】

高次脳機能とは、どのようなものか言える。
高次脳機能障害にはどのような障害があるか言える。
それぞれの高次脳機能障害につて説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

藤田郁代　他著・「高次脳機能障害学」医学書院、2009年　￥4,725

【参考書】

武田克彦　波多野和夫　著　「高次脳機能障害その概念と画像診断」中外医学社　2007年　￥7,800
森惟明　鶴見隆正　著　「PT・OT・STのための脳画像のみかたと神経所見　第２版」医学書院　2010年　￥5,250

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。
評価は、講義終了後の筆記試験にて行う。
出席点は評価に含めません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		90						10	100
評価指標	取り込む力・知識	90							90
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2	高次脳機能障害とは	講義	復習	30分
3.4	映像による理解	講義	復習	30分
5.6	視覚の障害	講義	復習	30分
7.8	聴覚の障害	講義	復習	30分
9.10	触覚の障害	講義	復習	30分
11.12	病態認知の障害	講義	復習	30分
13.14	行為と記憶の障害	講義	復習	30分
15	前頭葉の障害	講義	復習	30分

リハビリテーション学科

【科目名】	摂食・嚥下障害学概論			【担当教員】	山村　千絵
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	2-14-0405-0-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	yamamura@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 月～金　10:30～12:00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

摂食嚥下のメカニズムや、口腔機能に関する基本的な検査・診断・評価・訓練等に興味を持ち、将来の臨床現場等で本領域の知識や技術を活用したいと思う学生が聴講するのが望ましい。
この科目は実務経験者（歯・口腔の機能とりわけ咀嚼機能に精通した歯科医師）が担当する科目である。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

必要に応じて視聴覚教材や模型、臨床で使う器具類を使用しながら、講義を進めていく。
効率的な学習が行えるよう、講義室の座席は前の方から詰めて着席すること。
どの専攻の学生も、１年次に学んだ解剖学・生理学のうち、特に顔面・口腔・咽頭・喉頭領域の事項について復習をしておくと、本講義が理解しやすくなる。
定期試験の答案は返却する。レポートは添削後に返却する。

【講義概要】

(目的)

はじめに、摂食嚥下機能と関係の深い顔面・口腔・咽頭・喉頭領域の構造と機能を学び、次に、正常な構造や機能が障害された場合の病態像や、障害されるメカニズム、リハビリテーションの基礎等を学ぶ。本講義の履修は、臨床実習や臨床現場で摂食嚥下機能が低下した方に対応する際に、言語聴覚士のみならず理学療法士・作業療法士・心理専門職等のリハビリテーションスタッフが、どのように関わったらよいかを知ることにつながる。
当該科目と学位授与方針等との関連性；　A-2,3　P-3　O-2　R-1

(方法)

主として、毎回配布するプリントを使用して講義を行う。
また、必要に応じて視聴覚教材や模型を使用したり、口腔内を観察したり、臨床で使う器具類を提示・使用したり、嚥下食等の試食をしたり匂いを嗅いだりするなど、学生の五感をフルに活用させながら、立体的に講義を進めていく。

【一般教育目標(GIO)】

摂食嚥下リハビリテーションのチーム医療において、理学療法士・作業療法士・心理専門職として、基本的な役割を果たすために、摂食嚥下の機能および障害領域に関する基礎的事項を理解し、将来の臨床現場で役に立つ知識や技術を身につける。

【行動目標(SBO)】

- 摂食嚥下障害とそのリハビリテーションの概要について説明できる。
- 摂食嚥下に関係する諸器官の解剖、生理について説明できる。
- 摂食嚥下の基本的なメカニズムについて説明できる。
- 口腔機能に関する基本的な検査・診断・評価・訓練を実施できる。
- 摂食嚥下障害に関するチーム医療の概要について説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

プリントを配布する。

【参考書】

向井美惠（他著）『摂食・嚥下障害ベストナーシング』 学研，2010年．　¥2,592（税込）
倉智雅子（編著）『言語聴覚士のための摂食・嚥下障害学』医歯薬出版，2013年．¥4,752（税込）
山田好秋（著）　『よくわかる摂食・嚥下のメカニズム 第2版」医歯薬出版，2013年．¥4,536（税込）

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

本学学則規定のGPA制度に従う。
すべての講義終了後に記述式試験を実施する。試験80%、授業中の態度（出席状況を除く）やレポート等課題の達成度20% の割合で総合的に評価を行う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80		10				10	100
評価指標	取り込む力・知識	70							70
	思考・推論・創造の力	10		10					20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1,2	咀嚼とは何か。嚥下とは何か。 摂食とは何か。 （それぞれの定義を理解する。）	講義	（復習）学修した内容を整理し ノートにまとめる。	９０分
3,4	歯・口腔・顎・顔面の構造 歯・口腔・顎・顔面の機能 （口腔解剖学・口腔生理学の内容を深める。）	講義	（予習）これまでに学んできた 口腔・咽頭領域の 解剖・生理について 復習をしておく。	９０分
5,6	咀嚼の仕組み 咀嚼の神経性制御機構 （生理学的観点から学ぶ。）	講義	（復習）学修した内容を整理し ノートにまとめる。	９０分
7,8	嚥下の仕組み 嚥下の神経性制御機構 （生理学的観点から学ぶ。）	講義	（復習）学修した内容を整理し ノートにまとめる。	９０分
9,10	摂食・嚥下障害の病態 摂食・嚥下障害の症状 誤嚥の種類 誤嚥性肺炎 （臨床につなげる。）	講義	（予習）プリントp14～p17を読んでおく。 次回の講義に関連する レポート課題を行う。	２０分 ７０分
11,12	摂食・嚥下障害の原因 機能的摂食・嚥下障害 器質的摂食・嚥下障害 加齢による摂食・嚥下機能の低下 （臨床につなげる。）	講義	（予習）プリントp17～p25を読んでおく。 （復習）学修した内容を整理し ノートにまとめる。	３０分 ６０分
13,14	摂食・嚥下機能の検査・評価 摂食時の観察、医療面接、視診、触診 一般検査、神経学的検査、スクリーニング 非VF系嚥下機能評価 （臨床につなげる。）	講義	（予習）プリントp28～p47を読んでおく。 （復習）学修した内容を整理し ノートにまとめる。	３０分 ６０分
15	摂食・嚥下リハビリテーション（訓練・治療） 摂食・嚥下訓練開始前の準備・ケア 訓練の組み立て 間接訓練、直接訓練 （臨床につなげる。）	講義	（予習）プリントp62～p72を読んでおく。 （復習）学修した内容を整理し ノートにまとめる。	３０分 ６０分

リハビリテーション学科

【科目名】	基礎運動学概論			【担当教員】	粟生田　博子
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	3-15-0515-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	aoda@nur.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 水曜日12：45〜13：15	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・解剖学，生理学と関係の深い分野です．1年前期から学習した解剖学，生理学の内容を各自復習し，運動学の基礎学習としてください．
・PT専攻，OT専攻の学生向けの講義が中心となります．
＊この科目は実務経験者対応科目です．

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・A4サイズのレポート用紙を各自準備してください．
・レポート，小テストは随時返却します．

【講義概要】

(目的)

・リハビリテーションを実施するためには身体運動の分析が必要です．本講義では，運動に関する用語や，身体運動に関する基本的概念を学びます．また，身体の構造や機能について，解剖学や生理学の知識を統合し，運動の捉え方を学習します．
＊当該科目と学位授与方針等との関連性；A-3

(方法)

・講義とグループワークを行いながら，身体運動に関するの知識を深めます．また事前・事後学習や発表，レポート作成などを行います．

【一般教育目標(GIO)】

・運動や動作の観察と分析を行うための基本的手段や用語を理解し，記述・説明することができる

【行動目標(SBO)】

・運動や動作に必要な身体機能と構造を理解し，記述・説明することができる
・姿勢や歩行について運動学用語を使って記述・説明することができる
・グループで協力して学習を進めることができる

【教科書・リザーブドブック】

・Donald A.Neumann 原著，カラー版　筋骨格系のキネシオロジー　原著第3版，医歯薬出版（株），2018年，¥12,000（税別）・中島雅美，他編著，PT･OT基礎から学ぶ運動学ノート 第2版，医歯薬出版（株）,2016年，¥4,000（税別）

【参考書】

・中村隆一，他，基礎運動学 第6版，医歯薬出版，2003年，¥6,800（税別）
・解剖学，生理学の講義・実習で使用している教科書

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学学則指定のGPA制度に従う．
・学内試験規定に基づく出席回数，提出課題（レポートを含む），授業態度（ディスカッション），小テスト，筆記試験を総合的に評価する．
・初回講義時に提出課題の評価規準を提示する

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80	10	10					100
評価指標	取り込む力・知識	70	10	5					85
	思考・推論・創造の力	10		5					15
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1,2	・講義ガイダンス ・解剖学，生理学などの確認小テスト	講義，小テスト	解剖学，生理学の復習	60
3,4	・下肢（1）	講義，グループワーク	解剖学，生理学の復習	60
5,6	・下肢（2）	講義，グループワーク	解剖学，生理学の復習 前回実施内容の復習	60
7,8	・体幹	講義，グループワーク	解剖学，生理学の復習 前回実施内容の復習	60
9,10	・上肢（1）	講義，グループワーク	解剖学，生理学の復習 前回実施内容の復習	60
11,12	・上肢（2）	講義，グループワーク	解剖学，生理学の復習 前回実施内容の復習	60
13,14	・姿勢．歩行	講義，グループワーク	解剖学，生理学の復習 前回実施内容の復習	60
15	・確認とまとめ	講義，テスト	解剖学，生理学の復習 前回実施内容の復習	60

リハビリテーション学科

【科目名】	基礎運動学各論Ⅰ			【担当教員】	佐々木　理恵子
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	3-15-0520-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	sasaki@hur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー)月木　12：40～13：30	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

基礎運動概論を履修していることが望ましい

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

レポートは他に支障がない限り返却する

【講義概要】

(目的)

基礎運動学概論で習得した知識を、より臨床で活用できるように統合する。
身体運動、運動処方、歩行・動作分析、運動発達、運動学習について的確に説明
でき、理解を深められるよう学習することを目的とする。
＊当該科目と学位授与方針との関連性：A-1,2
＊当該科目と学位授与方針との関連性：O-1,2

(方法)

教科書を使用し、講義を中心に行う。
レポート課題を適宜課す

【一般教育目標(GIO)】

・身体運動について、四肢と体幹の運動を理解し、動作の分析方法を理解できる
・体力と運動処方について理解できる
・正常な姿勢、歩行について理解し、異常動作の分析方法について理解できる
・運動発達、運動学習について理解できる

【行動目標(SBO)】

・身体運動と動作のメカニズムについて、これまで学習した解剖学、生理学、運動学の基礎知識を用いて
説明することができる
・体力と運動処方の概要を説明することができる
・異常姿勢、異常歩行の概要を説明することができる
・運動発達、運動学習の概要を説明することができる

【教科書・リザーブドブック】

基礎運動学各論　第6版　中村隆一他

【参考書】

担当教員より適宜指示する

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う
成績評価は、期末試験およびレポート点により総合的に評価する

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		90		10					100
評価指標	取り込む力・知識	80		5					85
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢	10		5					15

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
１、２	四肢と体幹の運動（上肢）	講義	予習）P213-245を読んでくること 復習）上肢の各関節の構造や動き、周囲の筋を理解する	60分
３、４	四肢と体幹の運動（下肢）	講義	予習）P246-271を読んでくること 復習）下肢の各関節の構造や動き、周囲の筋を理解する	60分
５、６	四肢と体幹の運動	講義	予習）P271-292を読んでくること 復習）体幹の動きを理解する	60分
７、８	運動と動作の分析①	講義	予習）P297-313を読んでくること 復習）動作分析が表記できるようになること （レポート：スクワットの動作分析）	60分
９、１０	運動と動作の分析②	講義	予習）P313-324を読んでくること 復習）身体運動能力検査について理解する	60分
１１、１２	体力と運動処方①	講義	予習）P327-332を読んでくること 復習）体力について理解する	60分
１３、１４	体力と運動処方②	講義	予習）P332-345を読んでくること 復習）運動処方について理解する	60分
１５	まとめ	講義	予習）本講義の疑問点を明らかにしておくこと 復習）身体の動き、体力について説明できる	60分

リハビリテーション学科

【科目名】	基礎運動学各論Ⅱ			【担当教員】	佐々木　理恵子、押木　利英子
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	3-15-0520-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	佐々木：sasaki@hur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー)佐々木　月木　12：40～13：30	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

基礎運動学各論Ⅰを履修すること

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

レポートは他に支障がない限り返却する

【講義概要】

(目的)

基礎運動学概論で習得した知識を、より臨床で活用できるように統合する。
身体運動、運動処方、歩行・動作分析、運動発達、運動学習について的確に説明
でき、理解を深められるよう学習することを目的とする。

(方法)

教科書を使用し、講義を中心に行う。
レポート課題を適宜課す

【一般教育目標(GIO)】

・身体運動について、四肢と体幹の運動を理解し、動作の分析方法を理解できる
・体力と運動処方について理解できる
・正常な姿勢、歩行について理解し、異常動作の分析方法について理解できる
・運動発達、運動学習について理解できる

【行動目標(SBO)】

・身体運動と動作のメカニズムについて、これまで学習した解剖学、生理学、運動学の基礎知識を用いて
説明することができる
・体力と運動処方の概要を説明することができる
・異常姿勢、異常歩行の概要を説明することができる
・運動発達、運動学習の概要を説明することができる

【教科書・リザーブドブック】

基礎運動学各論　第6版　中村隆一他

【参考書】

担当教員より適宜指示する

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価は本学学則規定のGPA制度に従う
出席点は評価に含まない
成績評価は、期末試験およびレポート点により総合的に評価する

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80		20					100
評価指標	取り込む力・知識	70		10					80
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢	10		10					20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法（講義・演習、教員、教室など）	学修課題(予習・復習)	時間(分)
１、２	姿勢（重心・姿勢の安定性）	講義 佐々木	予習）P347-364を読んでくること 復習）立位姿勢時の重心位置を理解すること 立位姿勢を安定させる因子を理解すること	60分
３、４	姿勢（立位姿勢の異常）	講義 佐々木	予習）P364-377を読んでくること 復習）異常姿勢を理解する	60分
５、６	歩行と異常歩行	講義 佐々木	予習）P379-404、410-415を読んでくること 復習）歩行周期を理解する	60分
７、８	姿勢と歩行（重心動揺計で自分の重心の動揺を測定する）	実技 佐々木	予習）受診動揺計で測定する課題を考えてくること （レポート：重心動揺計の測定データをまとめる）	60分
９、１０	運動発達①	講義 押木		60分
１１、１２	運動発達②	講義 押木		60分
１３、１４	運動学習	講義 押木		60分
１５	まとめ	講義 佐々木	本講義の疑問点を明らかにしておくこと 疑問点を解決する	60分

リハビリテーション学科

【科目名】	チーム医療学Ⅰ			【担当教員】	小野　敏子
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	2-14-0425-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 在室時(12：50～13：20)	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

学生それぞれが目指す職業とかかわりの深い多くの専門職業を知るために、広い視野と柔軟性を持って授業に臨んでいただきたい。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

同級生との討論・まとめ・発表などの自主的な活動を中心に授業が進むので、率直な意見交換ができるよう、日ごろから自分の考えや感じたことを他の人に伝えたり、他の人の意見を聴くように心がけていただきたい。

【講義概要】

(目的)

リハビリテーション医療は多くの専門職がかかわるチーム医療であり、中核的技術である理学療法、作業療法、言語聴覚療法の連携 の重要性はもちろんのこと、心理職をはじめとするその他の多くの専門職との連携が不可欠である。さらに、医療専門職だけでなく、保健・医療・福祉領域の関連職種との連携が重要となる。この科目では、多くの関連専門職とその役割を知り、専門職間の連携の重要性について理解することを目的とする。

(方法)

実際の現場でリハビリテーション専門職がどのように働き、どのように連携を取るのか、できるだけ具体的な事例を挙げながら講義する。また、学生同士の討論、発表を重視する。

【一般教育目標(GIO)】

リハビリテーションサービスを効果的に進めていくために不可欠な多くの専門職を知り、その人々との連携の重要性を理解するとともに、チームの一員としての自分の近未来の役割を理解する。

【行動目標(SBO)】

＊以下の事項について、班ごとで討論･記録し、発表することができる。
①リハ医療に関連する専門職10種類以上の名称と役割の概要について。
②多くの職種による連携の必要性について。
③急性期から終末期に至るまでの連携の重要性について。
④サービス継続、多職種連携のポイントについて。

【教科書・リザーブドブック】

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50		30				20	100
評価指標	取り込む力・知識	30		10					40
	思考・推論・創造の力	20		20					40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力							10	10
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1, 2	・科目の流れについてのオリンテーション ・提示された仮想症例への最大限の援助を考えてみる（その１）。	・講義 ・討論 ・一部発表	・関連専門職について調べる。 ・専門職の役割をまとめる。	20分 20分
3, 4	・提示された仮想症例への最大限の援助を考えてみる（その２）。	・講義 ・討論 ・発表	・専門職の役割を確認する。 ・討論メモをまとめる。	20分 20分
5, 6	・関連する多くの職種とその役割、近未来の自分の職業とのつながりを考える（その１）。	・講義 ・討論 ・発表	・指定された専門職の検索 ・指定された専門職の役割と、近未来の自分の職業とのつながりをまとめる。	20分 20分
7, 8	・関連する多くの職種とその役割、近未来の自分の職業とのつながりを考える（その２）。 ・隣接領域の専門職の歴史、役割などを学ぶ。	・発表 ・討論 ・講義	・発表内容を確認する。 ・討論のまとめをする。	10分 20分
9, 10	・主に、脳卒中後の片麻痺の急性期・回復期にある方々に対するチーム医療を学ぶ。	・ビデオ供覧 ・講義 ・討論	・脳卒中について調べる。 ・専門職の役割をまとめる。	20分 20分
11, 12	・高齢者に対するチーム医療、専門職連携について学ぶ。	・ビデオ供覧 ・講義 ・討論	・高齢者や高齢者施設について調べる。 ・高齢者に対する専門職の役割をまとめる。	20分 20分
13, 14	・回復の望めない方々、終末期にある方々に対するリハビリテーション専門職の役割を考える。	・ビデオ供覧 ・討論	・終末期について調べる。 ・専門職の役割をまとめる。	20分 20分
15	・災害時の専門職の役割を考える。 ・サービスの継続性の重要さを学ぶ。 ・より良い連携のための留意点を学ぶ。	・講義 ・討論	・新聞・テレビその他で災害時の専門職の働きを調べる。 ・より良い連携のためのポイントをまとめる。	20分 20分

リハビリテーション学科

【科目名】	チーム医療学Ⅱ			【担当教員】	長谷川　裕、藤本　聡、佐々木　理恵子、松林　義人
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	2-14-0430-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択		
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー)	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

【講義概要】

(目的)

対象者へのリハビリテーション・サービスを効果的に進めていくためには、医療専門職間の連携の重要性はもちろんであるが、さらに広く保健医療・福祉領域の関連専門職との連携が不可欠である。
この科目では、「チーム医療学Ⅰ」で学んだ内容をさらに発展させ、実際的な事例を通して専門職間の連携の重要性について理解を深め、今後の臨床活動とのつながりを具体的にイメージできるようになることを目的とする。

(方法)

実際の現場でリハビリテーション専門職がどのように働き、どのように連携を取るのか、できるだけ具体的な事例を挙げながら講義する。模擬症例（仮想事例）を通して、専攻職業の役割と有効な専門職間連携についての考察を進めるので、学生同士の討論、発表を重視する。

【一般教育目標(GIO)】

リハビリテーションサービスを効果的に進めるために、関連する保健・医療・福祉領域の専門職がどのように連携を取ればよいのかを理解する。

【行動目標(SBO)】

・コマごとの課題に対して、班員と積極的に意見交換できる。
・コマごとの課題に対して、積極的に文献検索し、討論や発表に活用することができる。
・講義、討論、文献検索などの一連の作業で得られた内容に自分の考えも添えて、レポートとしてまとめることができる。
・病期や症状における専攻職業の役割の概要と、多職種との連携の概要を述べることができる。

【教科書・リザーブドブック】

指定しない。

【参考書】

特に指定しない。
必要に応じて資料を配付する。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・試験ならびに試験に準ずるレポート、討論への積極性、受講態度などを総合して評価する。
・成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50		30				20	100
評価指標	取り込む力・知識	30		20				5	55
	思考・推論・創造の力	20		10				5	35
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	・科目の流れについてのオリエンテーション ・専門職連携の実際例から学ぶ －災害時の専門職連携（その１）－	・講義 ・討論 （担当：藤本）	・リハ専門職、関連専門職について確認する。 ・討論のまとめをする。	20分 20分
2	・専門職連携の実際例から学ぶ －災害時の専門職連携（その２）－	・講義 ・討論 ・発表 （担当：藤本）	・新聞から災害時の連携に関する記事を探す。 ・災害時の専門職連携についてまとめる。	30分 20分
3	・専門職連携の実際例から学ぶ －提示症例に対する援助・支援、連携を考察する（その１；診療現場）－	・講義 ・討論 ・発表 （担当：長谷川）	・保健・福祉領域を含めた専門職を幅広く調べる。 ・症例に対する連携をまとめる。	20分 20分
4	・専門職連携の実際例から学ぶ －提示症例に対する援助・支援、連携を考察する（その２；訪問支援）－	・講義 ・討論 ・発表 （担当：長谷川）	・前回の連携について確認する。 ・症例に対する連携をまとめる。	10分 20分
5	・比較的若年者（壮年期）の急性期・回復期におけるチーム連携のための方策を考える。	・講義 ・討論 ・発表 （担当：佐々木）	・急性期・回復期について確認する。 ・連携についてまとめる。	20分 30分
6	・高齢者を取り巻く医療・福祉の現状を学び、高齢者に対する専門職連携を深めるための方策を考える。	・講義 ・討論 ・発表 （担当：佐々木）	・高齢者が置かれている医療・福祉の現状についてまとめる。 ・連携の方策についてまとめる。	30分 30分
7	・病院や施設における専門職連携の実際について知る。 －足を運んでの調査について考える－	・調査方法、調査内容などについての討論 （担当：松林）	・調査対象施設の選定 ・調査についてのまとめ	30分 30分
8	・終末期を生きる方々と家族を支える専門職連携を考える。	・講義 ・討論 ・発表 （担当：松林）	・終末期医療の現状について調べる。 ・連携についてまとめる。	30分 30分

リハビリテーション学科

【科目名】	老年心理学			【担当教員】	宮岡　里美
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	2-14-0435-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	miyaoka@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 月～金12:40-13:30,他研究室在室時	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

※本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療及び地域保健機関で介護支援専門員としても高齢者のリハビリテーション及び生活支援に従事してきた経験から、高齢期の心身の変化の特徴と支援法について講じていきます。
これからの社会において高齢者の現状や問題は非常に重要です。高齢期に関心を抱く学生さんはどなたでも受講できます。
幸福な一生涯を実現するために私たちはどうような支援をすべきなのかを各人の観点から考えていただきたいと思います。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

この科目では20分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。
他者に迷惑となる行為が認められた場合は、講義室から退出していただきます。
試験結果・授業中に実施した心理テスト等のデータは、支障のない限り返却します。

【講義概要】

(目的)

本科目では、科学的知見に基づいた加齢に伴う心身の変化とその問題を学ぶことを目的とします。
加齢に伴う、①認知機能及び感情・社会性の変化、②自己と他者の関係の在り方の変化についての基礎的な知識及び考え方を学びます。その上で、超高齢社会の日本の現状や問題について考えていきます。
当該科目と学位授与方針との関連性; A-1, P-2, O-1, R-2

(方法)

Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。
資料は全受講生に配付します。欠席した場合には、後日担当者から受け取り、必ず参照しておいて下さい。

【一般教育目標(GIO)】

「高齢期」の心身の変化の概要と克服すべき課題を知る。
１．高齢期の身体的変化の特徴を知る。
２．高齢期における認知機能及び感情・社会性の変化、自己と他者のあり方の心理的変化の様相を知る。
３．高齢期を「サクセスフルエイジング」の観点からとらえていく。
４．高齢期の危機及び障害について理解し、適切な支援ができる。

【行動目標(SBO)】

「サクセスフルエイジング」を心身両面から支援できる。
「補償を伴う選択的最適化理論」「死の受容」等の観点から、高齢者の心のケアができる。
心理的危機の原因を内的要因(生物・心理的要因)と外的要因(社会・文化的要因)から考察できる。
心理的危機に対して、適切なこころの支援ができる。

【教科書・リザーブドブック】

特に指定せず。
毎回、プリントにて講義内容と関連資料を配布する。

【参考書】

下仲 順子（編著）「老年心理学（現代心理学シリーズ)」／培風館／2012年／
佐藤眞一（編著）「「よくわかる高齢者心理学（〈わかる〉シリーズ)」 ／ミネルヴァ書房／2016年／2,700円
権藤 恭之（編集）「高齢者心理学（朝倉心理学講座）」／朝倉書店／2008年／3,888円

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。
定期試験を実施する。
出席点は評価に含まれない。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80						20	100
評価指標	取り込む力・知識	50							50
	思考・推論・創造の力	30						20	50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	高齢社会の実態 ・平均寿命と健康寿命 ・介護予防	講義	復習（要点の整理） 平均寿命と健康寿命の差の推移を調べる。そして、健康寿命を維持する要因を考察する。	15
2	ライフサイクルと高齢期 ・高齢期に対する考え方の変化 ・サクセスフルエイジング	講義	復習（要点の整理） 高齢期を衰退期としてとらえるのではなく、積極的に生きる姿を理解する。	15
3	高齢期の身体機能① ・感覚機能の変化 ・感覚機能の低下が日常生活に及ぼす影響	講義	復習（要点の整理） 感覚機能（視聴覚等）低下が日常生活へ及ぼす影響を理解する。そして、その支援法を考案する。	15
4	高齢期の身体機能② ・運動機能の変化 ・運動機能の低下が日常生活に及ぼす影響 ・機能低下の予防	講義	復習（要点の整理） 「フレイル・サルコペニア」が日常生活へ、そして認知機能へ及ぼす影響を理解し、その予防法を考案する。	15
5	高齢期の認知機能 ・知的機能の変化 結晶性知能と流動性知能 ・記憶機能の低下	講義	復習（要点の整理） 知能には、記憶や数計算等の加齢に伴い低下していく機能と、経験の集積により’熟達化’していく機能があることを理解する。	15
6	高齢期のパーソナリティ ・高齢期の人間関係/家族関係の変化 ・加齢とパーソナリティの変化	講義	復習（要点の整理） 加齢に伴い職業生活や家族構成が変化し、自身の果たす役割も変化していく過程での再適応力を理解する。	15
7	高齢期の精神疾患① ・うつ ・喪失体験と孤独	講義	復習（要点の整理） 重篤な「喪失の体験」を理解し、その対象者に対する精神的健康の支援法を知る。	15
8	高齢期の精神疾患② ・認知症	講義	復習（要点の整理） 認知機能のメカニズムを理解し、その機能の維持及び予防法を知る。また、認知症への適切な対応法を理解する。	15

9	高齢期の精神療法① ・回想法	講義	復習（要点の整理） 「回想法」が生涯をまとめ上げ自我を統合していくうえで重要な役割を果たすことを理解する。	15
10	高齢期の精神療法② ・生きがい・心と体の健康づくり 「きょういく」と「きょうよう」 ・学習療法	講義	復習（要点の整理） 認知機能の低下予防（維持）の考え方、その具体的支援法を理解する。	15
11	高齢者の介護について ・介護者の心理	講義	復習（要点の整理） 介護ストレスとその中での介護者の人間的成長の過程を知る。	15
12	喪失体験と心のケア ・「二人称の死」 ・モーニングワーク	講義	復習（要点の整理） ’大切な人’の死を受け容れ、自身の生活へ再適応させていく心の過程を理解し、適切な支援を考察する。	15
13	「死の受容」① ・キューブラ・ロス モデル	講義	復習（要点の整理） 自身の死を受け容れていく心理過程を理解する。	15
14	「死の受容」② ・キューブラ・ロス モデルの臨床応用	講義	復習（要点の整理） キューブラ・ロス モデルと介護者側の心の変化の類似点を知る。	15
15	まとめ ・超高齢社会における 高齢者の社会参加 高齢者の就業支援と経済的自立	講義	復習（要点の整理） 高齢者の社会参加（再就業及びボランティア等）が本人のよりよく生きていく原動力となり、大きな社会貢献ともなることを理解する。	15

リハビリテーション学科

【科目名】	認知症			【担当教員】	伊林　克彦
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	2-14-0440-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	ibayashi@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 火曜～金曜　13:30～16：00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

この科目は1年次の大脳の働きや病態についての知識が必要とされます。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

変性疾患や脳血管障害の知識が必須ですのでよく予習を行ってください。
試験・レポートのフィードバック方法：試験結果を返却する際により学んで欲しい点、当該科目と関連領域での専門性をより高めることなどについてフィードバックします。

【講義概要】

(目的)

認知症になる原因や、どのようなタイプの認知症があるのかを学び、さらに中核症状と周辺症状についても把握する。また、認知症者の心の問題や対応方法を学び、認知症に対する理解を深める。
当該科目と学位授与方針等との関連性：S-3

(方法)

座学が中心であるが、時に映像による認知症の理解や、認知症者とその家族との関係などについても話し合う機会を設ける。

【一般教育目標(GIO)】

高齢化社会に伴い増加し続ける認知症患者のために医療人として何ができるかを知り、当該疾患の病態をできるだけ詳しく把握する。

【行動目標(SBO)】

認知症のタイプや症状について説明できる。
認知症の中核症状と周辺症状の違いについて説明できる。
認知症者に対するトレーニング法について実践できる。

【教科書・リザーブドブック】

伊林克彦　著・「認知症を知る」考古堂書店、2011年　￥1,500

【参考書】

田郁代　他著・「高次脳機能障害学」医学書院、2009年　￥4,725

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		90						10	100
評価指標	取り込む力・知識	90							90
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2	認知症とは	講義	復習	30分
3.4	認知症になる原因は	講義	復習	30分
5.6	どのようなタイプの認知症があるのか	講義	復習	30分
7.8	認知症者の心の内側は	講義	復習	30分
9.10	認知症をどのような方法でとらえるのか	講義	復習	30分
11.12	認知症者の脳の画像は	講義	復習	30分
13.14	認知症者の中核症状と周辺症状とは	講義	復習	30分
15	認知症の治療法	講義	復習	30分

リハビリテーション学科

【科目名】	認知症			【担当教員】	伊林　克彦
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	2-14-0440-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	ibayashi@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	8コマ	(オフィスアワー) 火曜～金曜　13:30～16：00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

この科目は1年次の大脳の働きや病態についての知識が必要とされます。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

変性疾患や脳血管障害の知識が必須ですのでよく予習を行ってください。
試験・レポートのフィードバック方法：試験結果を返却する際により学んで欲しい点、当該科目と関連領域での専門性をより高めることなどについてフィードバックします。

【講義概要】

(目的)

認知症になる原因や、どのようなタイプの認知症があるのかを学び、さらに中核症状と周辺症状についても把握する。また、認知症者の心の問題や対応方法を学び、認知症に対する理解を深める。
当該科目と学位授与方針等との関連性：S-3

(方法)

座学が中心であるが、時に映像による認知症の理解や、認知症者とその家族との関係などについても話し合う機会を設ける。

【一般教育目標(GIO)】

高齢化社会に伴い増加し続ける認知症患者のために医療人として何ができるかを知り、当該疾患の病態をできるだけ詳しく把握する。

【行動目標(SBO)】

認知症のタイプや症状について説明できる。
認知症の中核症状と周辺症状の違いについて説明できる。
認知症者に対するトレーニング法について実践できる。

【教科書・リザーブドブック】

伊林克彦　著・「認知症を知る」考古堂書店、2011年　￥1,500

【参考書】

田郁代　他著・「高次脳機能障害学」医学書院、2009年　￥4,725

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		90						10	100
評価指標	取り込む力・知識	90							90
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	認知症とは	講義	復習	30分
2	認知症になる原因は	講義	復習	30分
3	どのようなタイプの認知症があるのか	講義	復習	30分
4	認知症者の心の内側は	講義	復習	30分
5	認知症をどのような方法でとらえるのか	講義	復習	30分
6	認知症者の脳の画像は	講義	復習	30分
7	認知症者の中核症状と周辺症状とは	講義	復習	30分
8	認知症の治療法	講義	復習	30分

リハビリテーション学科

【科目名】	薬理学			【担当教員】	桑島　治博
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	kuwajima@ngt.ndu.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 来校時の授業終了後に対応します。	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

臨床で患者に投与される薬物についての基礎知識となる科目です。
解剖学および生理学の知識を復習しておいてください。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

受講前に教科書を必ず読んでわからない言葉などを予習をしておいてください。
（フィードバック方法)
最終コマ講義の際に課題レポート演習問題の模範解答を、定期試験終了後に定期試験の模範解答を配布してフィードバックする。

【講義概要】

(目的)

リハビリテーション分野において必要となる様々な病態、および健康状態における薬物作用の基礎知識を習得する。リハビリテーション分野において、必要となる薬理学の概念と知識を習得する。薬物の体内動態、薬物に影響を及ぼしうる要因、さらに薬物の副作用についての知識を習得する。授業内容に準じて知識を習得し、リハビリテーション医療に生かせる能力を身につける。

(方法)

教科書と配付資料を用いて、リハビリテーションに関わる内容を中心に講義を行う。

【一般教育目標(GIO)】

将来、医療現場においてコメディカルとして参画するために、各疾患で適用される薬物と生体との相互作用を学び、薬物治療の基本原理を理解する。

【行動目標(SBO)】

①用量と薬理作用の関係を説明する。
②薬物の作用機序を説明する。
③各ライフステージにおける薬物動態を説明する。
④薬物の副作用・有害作用を説明する。
⑤各疾患の薬物療法で使用される薬物の種類、作用機序、副作用を説明する。

【教科書・リザーブドブック】

イラストで理解するかみくだき薬理学　南山堂　¥2,300

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学学則規定GPAに従う。
・成績評価は期末試験および課題レポート点により総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80		20					100
評価指標	取り込む力・知識	80		10					90
	思考・推論・創造の力			5					5
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢			5					5

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2	薬理学の基礎知識（１）	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。	３０
3.4	薬理学の基礎知識（２）	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。	３０
5.6	末梢神経に作用する薬物	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。	３０
7.8	中枢神経に作用する薬物	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。	３０
9.10	心臓・血管・血液に作用する薬物	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。	３０
11.12	呼吸期・消化器・物質代謝に作用する薬物	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。	３０
13.14	化学療法（感染症・悪性腫瘍）に用いる薬物（１）	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。	３０
15	化学療法（感染症・悪性腫瘍）に用いる薬物（２）漢方薬	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。	３０

リハビリテーション学科

【科目名】	薬理学			【担当教員】	桑島　治博
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	kuwajima@ngt.ndu.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	8コマ	(オフィスアワー) 来校時の授業終了後に対応します。	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

臨床で患者に投与される薬物についての基礎知識となる科目です。
解剖学および生理学の知識を復習しておいてください。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

受講前に教科書を必ず読んでわからない言葉などを予習をしておいてください。
（フィードバック方法)
最終コマ講義の際に課題レポート演習問題の模範解答を、定期試験終了後に定期試験の模範解答を配布してフィードバックする。

【講義概要】

(目的)

リハビリテーション分野において必要となる様々な病態、および健康状態における薬物作用の基礎知識を習得する。リハビリテーション分野において、必要となる薬理学の概念と知識を習得する。薬物の体内動態、薬物に影響を及ぼしうる要因、さらに薬物の副作用についての知識を習得する。授業内容に準じて知識を習得し、リハビリテーション医療に生かせる能力を身につける。

(方法)

教科書と配付資料を用いて、リハビリテーションに関わる内容を中心に講義を行う。

【一般教育目標(GIO)】

将来、医療現場においてコメディカルとして参画するために、各疾患で適用される薬物と生体との相互作用を学び、薬物治療の基本原理を理解する。

【行動目標(SBO)】

①用量と薬理作用の関係を説明する。
②薬物の作用機序を説明する。
③各ライフステージにおける薬物動態を説明する。
④薬物の副作用・有害作用を説明する。
⑤各疾患の薬物療法で使用される薬物の種類、作用機序、副作用を説明する。

【教科書・リザーブドブック】

イラストで理解するかみくだき薬理学　南山堂　¥2,300

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学学則規定GPAに従う。
・成績評価は期末試験および課題レポート点により総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80		20					100
評価指標	取り込む力・知識	80		10					90
	思考・推論・創造の力			5					5
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢			5					5

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	薬理学の基礎知識（１）	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。	３０
2	薬理学の基礎知識（２）	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。	３０
3	末梢神経に作用する薬物	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。	３０
4	中枢神経に作用する薬物	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。	３０
5	心臓・血管・血液に作用する薬物	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。	３０
6	呼吸期・消化器・物質代謝に作用する薬物	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。	３０
7	化学療法（感染症・悪性腫瘍）に用いる薬物（１）	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。	３０
8	化学療法（感染症・悪性腫瘍）に用いる薬物（２）漢方薬	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。	３０

リハビリテーション学科

【科目名】	生化学			【担当教員】	山村　千絵
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	yamamura@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 月～金　9:30～18:00 の間の在室時	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

生化学の知識を基礎から発展的、臨床的な内容まで、体系的に学べる構成とする。生体の正常なしくみ・機能の破綻した状態である病気を正しく理解するために、生化学は不可欠である。しかも、病気には、通常、特有の生化学的異常という側面があり、その理解なくして、患者さまへの多角的なアプローチ、より良い援助を行うことは難しい。本講義の受講者には、生化学の中でも、代謝や代謝異常に強い興味を持ち、深く学びたいという態度を持ち続けることが求められる。受講者は、事前に予習をしたり、これまでの知識を整理したりして、周辺領域についての予備知識を持って、毎回の講義に臨んでほしい。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

上記に述べたとおり、毎回の講義の前までに、少なくとも、該当する教科書の範囲を熟読し、理解できた部分と理解が難しい部分を明らかにしてから、講義に臨むこと。

【講義概要】

(目的)

生化学は生命現象を科学的に解釈する学問であり、生理学や分子生理学を含めた他の多くの学問の基礎的立場にある。本講義では、とりわけ、リハビリテーション医療に必須な生化学の知識について修得する。
当該科目と学位授与方針との関連性; A-3

(方法)

本講義では、細胞とそれを構成する生体物質の構造と機能、生体物質の代謝とその調節、代謝の異常、遺伝子の構造と発現調節について解説する。主として教科書と配布資料を使用して講義を行う。

【一般教育目標(GIO)】

・理学療法士、作業療法士、言語聴覚士並びに心理専門職として従事する上で、必要となる生化学の知識を中心に修得し、発展的な内容についても理解する。

【行動目標(SBO)】

・細胞とそれを構成する生体物質の構造と機能について説明できる。
・生体物質の代謝とその調節について説明できる。
・代謝の異常について説明できる。
・遺伝子の構造と発現調節について説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

三輪一智他「系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能（2）生化学（第13版）」医学書院　2014年　￥2,376

【参考書】

なし

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。
試験80%　レポート20%の割合で総合的に評価を行い100点満点で60点以上を合格とする。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80		20					100
評価指標	取り込む力・知識	80		5					85
	思考・推論・創造の力			10					10
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢			5					5

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2	生体を構成する物質 ●細胞の構造と機能	講義	予習：　該当する教科書の範囲を熟読し、理解できた部分と理解が難しい部分を明らかにしておく。 復習：　講義ノートを整理する。	60分
3.4	生体を構成する物質 ●糖質 ●脂質 ●タンパク質 ●核酸	講義	予習：　該当する教科書の範囲を熟読し、理解できた部分と理解が難しい部分を明らかにしておく。 復習：　講義ノートを整理する。	60分
5.6	生体を構成する物質 ●水と無機質 ●血液と尿 ●ホルモンと生理活性物質	講義	予習：　該当する教科書の範囲を熟読し、理解できた部分と理解が難しい部分を明らかにしておく。 復習：　講義ノートを整理する。	60分
7.8	生体内の物質代謝 ●代謝 ●酵素 ●ビタミンと補酵素	講義	予習：　該当する教科書の範囲を熟読し、理解できた部分と理解が難しい部分を明らかにしておく。 復習：　講義ノートを整理する。	60分
9.10	生体内の物質代謝 ●糖質代謝 ●脂質代謝 ●タンパク質代謝 ●核酸代謝	講義	予習：　該当する教科書の範囲を熟読し、理解できた部分と理解が難しい部分を明らかにしておく。 復習：　講義ノートを整理する。	60分
11.12	代謝の異常 ●骨粗しょう症 ●糖尿病（糖質代謝異常） ●脂質異常症（脂質代謝異常） ●高尿酸血症・痛風（核酸代謝異常）	講義	予習：　該当する教科書の範囲を熟読し、理解できた部分と理解が難しい部分を明らかにしておく。 復習：　講義ノートを整理する。	60分
13.14	代謝の異常 ●先天性代謝異常症 ●その他の代謝異常疾患	講義	予習：　該当する教科書の範囲を熟読し、理解できた部分と理解が難しい部分を明らかにしておく。 復習：　講義ノートを整理する。	60分
15	遺伝子の構造と発現調節 ●複製・転写・翻訳 まとめ	講義	予習：　該当する教科書の範囲を熟読し、理解できた部分と理解が難しい部分を明らかにしておく。 復習：　講義ノートを整理する。	60分

リハビリテーション学科

【科目名】	生化学			【担当教員】	山村　千絵
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	yamamura@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	8	(オフィスアワー) 月～金　9:30～18:00 の間の在室時	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

生化学の知識を基礎から発展的、臨床的な内容まで、体系的に学べる構成とする。生体の正常なしくみ・機能の破綻した状態である病気を正しく理解するために、生化学は不可欠である。しかも、病気には、通常、特有の生化学的異常という側面があり、その理解なくして、患者さまへの多角的なアプローチ、より良い援助を行うことは難しい。本講義の受講者には、生化学の中でも、代謝や代謝異常に強い興味を持ち、深く学びたいという態度を持ち続けることが求められる。受講者は、事前に予習をしたり、これまでの知識を整理したりして、周辺領域についての予備知識を持って、毎回の講義に臨んでほしい。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

上記に述べたとおり、毎回の講義の前までに、少なくとも、該当する教科書の範囲を熟読し、理解できた部分と理解が難しい部分を明らかにしてから、講義に臨むこと。

【講義概要】

(目的)

生化学は生命現象を科学的に解釈する学問であり、生理学や分子生理学を含めた他の多くの学問の基礎的立場にある。本講義では、とりわけ、リハビリテーション医療に必須な生化学の知識について修得する。
当該科目と学位授与方針との関連性; A-3

(方法)

本講義では、細胞とそれを構成する生体物質の構造と機能、生体物質の代謝とその調節、代謝の異常、遺伝子の構造と発現調節について解説する。主として教科書と配布資料を使用して講義を行う。

【一般教育目標(GIO)】

・理学療法士、作業療法士、言語聴覚士並びに心理専門職として従事する上で、必要となる生化学の知識を中心に修得し、発展的な内容についても理解する。

【行動目標(SBO)】

・細胞とそれを構成する生体物質の構造と機能について説明できる。
・生体物質の代謝とその調節について説明できる。
・代謝の異常について説明できる。
・遺伝子の構造と発現調節について説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

三輪一智他「系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能（2）生化学（第13版）」医学書院　2014年　￥2,376

【参考書】

なし

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。
試験80%　レポート20%の割合で総合的に評価を行い100点満点で60点以上を合格とする。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80		20					100
評価指標	取り込む力・知識	80		5					85
	思考・推論・創造の力			10					10
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢			5					5

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	生体を構成する物質 ●細胞の構造と機能	講義	予習：　該当する教科書の範囲を熟読し、理解できた部分と理解が難しい部分を明らかにしておく。 復習：　講義ノートを整理する。	60分
2	生体を構成する物質 ●糖質 ●脂質 ●タンパク質 ●核酸	講義	予習：　該当する教科書の範囲を熟読し、理解できた部分と理解が難しい部分を明らかにしておく。 復習：　講義ノートを整理する。	60分
3	生体を構成する物質 ●水と無機質 ●血液と尿 ●ホルモンと生理活性物質	講義	予習：　該当する教科書の範囲を熟読し、理解できた部分と理解が難しい部分を明らかにしておく。 復習：　講義ノートを整理する。	60分
4	生体内の物質代謝 ●代謝 ●酵素 ●ビタミンと補酵素	講義	予習：　該当する教科書の範囲を熟読し、理解できた部分と理解が難しい部分を明らかにしておく。 復習：　講義ノートを整理する。	60分
5	生体内の物質代謝 ●糖質代謝 ●脂質代謝 ●タンパク質代謝 ●核酸代謝	講義	予習：　該当する教科書の範囲を熟読し、理解できた部分と理解が難しい部分を明らかにしておく。 復習：　講義ノートを整理する。	60分
6	代謝の異常 ●骨粗しょう症 ●糖尿病（糖質代謝異常） ●脂質異常症（脂質代謝異常） ●高尿酸血症・痛風（核酸代謝異常）	講義	予習：　該当する教科書の範囲を熟読し、理解できた部分と理解が難しい部分を明らかにしておく。 復習：　講義ノートを整理する。	60分
7	代謝の異常 ●先天性代謝異常症 ●その他の代謝異常疾患	講義	予習：　該当する教科書の範囲を熟読し、理解できた部分と理解が難しい部分を明らかにしておく。 復習：　講義ノートを整理する。	60分
8	遺伝子の構造と発現調節 ●複製・転写・翻訳 まとめ	講義	予習：　該当する教科書の範囲を熟読し、理解できた部分と理解が難しい部分を明らかにしておく。 復習：　講義ノートを整理する。	60分

リハビリテーション学科

【科目名】	栄養学			【担当教員】	宮岡　里美
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	2-14-0455-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	miyaoka@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 月～金12:40-13:30,他研究室在室時	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

※本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療及び地域保健機関で摂食嚥下機能障害等のリハビリテーションに従事してきた経験から、人が生きていく上での栄養摂取の重要性を心と身体の両面から講じていきます。
栄養学の基礎知識は、多種多様な専門職のすべての人に必要なものとなっています。
将来臨床現場で活躍することを希望する場合には受講していただきたいと思います。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

毎回、出欠及び遅刻・早退を確認します。申し出のない中途退室は欠席と見なします。
他者に迷惑となる行為が認められた場合は、講義室から退出していただきます。
資料は全受講生に配付します。欠席した場合には、後日担当者から受け取り、必ず参照しておいて下さい。
講義後にミニレポートを課す場合があります。
また、食生活調査や栄養計算等も随時課します。

【講義概要】

(目的)

私たちは、生命誕生から生涯を終えるまで、生命活動を維持するために水分と栄養素を摂取し続ける必要があります。
本講義では、「栄養学」の側面からも心と身体の両面からサポートでき、種々の疾患を予防できる基礎を学ぶことを目的とします。
当該科目と学位授与との関連性：A-3, P-3, O-2, S-3, R-1

(方法)

Power Point スライドを使用しての講義が中心になります。
毎回、スライド資料及び関連する参考資料は配布します。
その他、自身の身体・栄養調査等の演習を行っていきます。

【一般教育目標(GIO)】

「食べる」営みが生命維持に必須であることを理解し、生物・栄養的な側面から食品の栄養特性と物性が説明できる。
栄養と健康維持・増進、疾病予防及びリハビリテーションとの関連を説明できる。
「食べる」営みが楽しみや生きがいなどQOLに関わり、心理・社会的な側面からも人の命を支えていることを理解できる。
低栄養状態にストレスが加わるとうつ状態を招き、種々の問題行動を発生させることを知る。

【行動目標(SBO)】

栄養を食品面と身体面の双方から説明することができる。
ライフステージやライフスタイルの変化に伴う食行動の特徴とその問題点を理解し、指導することができる。
医療及びリハビリテーションおける栄養管理法の基礎を修得する。
経口摂取による栄養が、リハビリテーション効果に及ぼす影響を説明できる。
栄養状態と心理状態の関係性を理解し、臨床現場で心身両面から適切な支援ができる。

【教科書・リザーブドブック】

「新カラーチャート食品成分表」 教育図書　￥740

【参考書】

田村明（著)「イラスト栄養学総論」東京教学社; 第7版（2018）　￥2,160
栢下淳・若林秀隆（編著）　「リハビリテーションに役立つ栄養学の基礎」医歯薬出版（2013/12）　¥3,990
若林秀隆（編著　）「リハビリテーション栄養 ハンドブック」医歯薬出版（2012/11）　¥3,780

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50	20	30					100
評価指標	取り込む力・知識	30	20						50
	思考・推論・創造の力	20		10					30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力			10					10
	学修に取り組む姿勢			10					10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	要介護高齢者の身体状況 ・タンパク質・エネルギー低栄養状態(PEM)とは？ ・栄養状態の評価法	講義	加齢による「食べること」についての障害を知り、適切な栄養サポートを学ぶ。	
2	低栄養状態と身体・精神機能 ・栄養スクリーニング	講義	低栄養とうつ	15
3	何故食物を摂取するのか？ ・人体の構成 ・消化と吸収	講義	指定教科書　p.4-5 指定教科書　p.16-17 栄養素の吸収のしくみを知る	15
4	経口摂取と摂食・嚥下障害 ・栄養投与ルート	講義	指定教科書　p.16-17 栄養素の吸収のしくみを知る	15
5	栄養素Ⅰ_３大栄養素 ・食品の成分と栄養特性	講義 一部演習	指定教科書　p.5-11 炭水化物、脂質、たんぱく質の種類と機能を知る	15
6	栄養素Ⅱ_５大栄養素 ・ビタミンの種類 ・ビタミンの生理作用 ・ビタミンの過不足による症状	講義	指定教科書　p.12-15 ビタミンの種類と機能を知る	15
7	栄養素Ⅱ_５大栄養素 ・ミネラルの種類 ・ミネラルの生理作用 ・ミネラルの過不足による症状	講義 確認テスト	指定教科書　p.12-15 ミネラルの種類と機能を知る	15
8	食生活と健康 ・栄養表示/特別用途食品/保健機能食品	講義	指定教科書　p.25 指定教科書　p.254-259	30

9	代謝と栄養所要量：栄養ケアプラン （演習）栄養計算	講義 一部演習	指定教科書　p.28-29 指定教科書　p.20-21 エネルギー代謝と食事摂取基準を学ぶ レポート作成	60
10	食品群別摂取量 ・栄養バランスガイド（演習）	講義 一部演習	指定教科書　p.22-27 基本的な栄養アセスメントを学ぶ レポート作成	60
11	ライフステージによる食生活上の留意点	講義 一部演習	指定教科書　p.32	15
12	食生活と生活習慣病 ・脳血管疾患、心疾患、糖尿病等 ・食生活と身体・精神機能	講義	指定教科書　p.30-31 栄養と疾患の関係を理解し、適切な栄養管理ができる。	15
13	介護予防のための栄養食事管理法 ・栄養状態の評価法：栄養ケアマネジメント(NCM)	講義	資料配布 食物摂取状況調査	60
14	介護予防のための栄養食事管理法 ・栄養スクリーニングと栄養アセスメント	講義 一部演習	資料配布 身体計測と臨床検査	30
15	まとめ	講義		

リハビリテーション学科

【科目名】	健康実践科学Ⅰ			【担当教員】
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】		(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	edu@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 教員来校時・研究室にて対応

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

この科目は「健康実践科学Ⅰ」・「健康実践科学Ⅱ」のセット受講となります。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・試験結果・レポートは他に支障のない限り返却します。

【講義概要】

(目的)

生活習慣病予防や健康水準の維持・増進などについて運動面・生活指導の概要について学ぶ。内容は病院や福祉施設などのメディカルスタッフと連携、メタボリック症候群の予防や生活習慣病ハイリスク者への運動指導、少子高齢化をふまえた介護予防のための運動指導を専門的に学ぶ。

・当該科目と学位授与方針等との関連性； A-3

(方法)

講義を中心として基本的理論を学修する。
本科目は主として、「健康づくり施策概論」、「運動生理学」、「機能解剖とバイオメカニクス」、「体力測定と評価」などを講義する。

【一般教育目標(GIO)】

・健康と健康づくりの概念と歴史、わが国の疾病状況と現状をふまえ、それを推進する保健医療・介護の制度等を理解する。
・身体活動・運動・スポーツ実施時の生体反応や、トレーニングによって身体機能がどのように適応するか、また体力と発育・発達と老化の関係について理解する。
・運動器の骨、筋、靭帯、関節と機能を関連づけ、力学的視点から運動の仕組みを理解する。
・各体力構成要素の具体的な測定方法ならびに体力テストの実践と評価について学ぶ。

【行動目標(SBO)】

・健康と健康づくりの概念と歴史およびそれを推進する保健医療・介護の制度等を説明できる。
・身体活動・運動・スポーツ実施時の生体反応や、トレーニングによって身体機能がどのように適応するか、また体力と発育・発達と老化の関係について説明できる。
・運動器の骨、筋、靭帯、関節と機能を関連づけ、力学的視点から運動の仕組みを説明できる。
・各体力構成要素の具体的な測定方法ならびに体力テストの実践と評価について実施できる。

【教科書・リザーブドブック】

「健康運動実践指導者養成講習会テキスト」（財団法人健康・体力づくり事業財団）¥4,900

【参考書】

・改訂2版 健康運動実践指導者試験 筆記対策 分野別&模擬問題集　NESTA JAPAN ¥2,160
・健康長寿社会を創る　公益財団法人 健康・体力づくり事業財団　¥1,080

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

(評価の基準・方法)
・出席点は評価に含みません。
・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。
・成績評価は、期末試験およびレポート点により総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50	10	30				10	100
評価指標	取り込む力・知識	25	10	30					65
	思考・推論・創造の力	25							25
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	健康づくり施策(1) p3-8 ・オリエンテーション ・健康の概念、わが国の現状と健康づくり施策について学ぶ。	講義	・教科書の授業範囲を確認しておく ・ノート整理	10分 20分
3-4	健康づくり施策(2) p8-15 ・生活習慣病とその予防、メディカルチェックについて学ぶ。	講義	・教科書の授業範囲を確認しておく ・ノート整理	20分 20分
5-6	運動生理学(1) 19-21 ・運動とエネルギーの出力系について学ぶ。	講義	・教科書の授業範囲を確認しておく ・ノート整理	20分 20分
7-8	運動生理学(2) p21-34 ・運動と筋・神経系について学ぶ。	講義	・教科書の授業範囲を確認しておく ・ノート整理	20分 20分
9-10	運動生理学(3) p34-38 ・発育・発達の概要、老化の過程と機能変化について学ぶ。	講義	・教科書の授業範囲を確認しておく ・ノート整理	20分 20分
11-12	機能解剖とバイオメカニクス(1) p42-48 ・骨格、筋、心臓、血管、呼吸器の構造と機能について学ぶ。	講義	・教科書の授業範囲を確認しておく ・ノート整理	20分 20分
13-14	機能解剖とバイオメカニクス(2) p48-53 ・バイオメカニクスの基礎と応用について学ぶ。	講義	・教科書の授業範囲を確認しておく ・ノート整理	20分 20分
15-16	体力測定と評価 p71-96 ・体力測定の理論・形態及び体脂肪の測定・体力について学ぶ。 ・測定の実際と評価、データ処理について学ぶ。	講義	・教科書の授業範囲を確認しておく ・ノート整理	20分 20分

リハビリテーション学科

【科目名】	健康実践科学Ⅱ			【担当教員】
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】		(メールアドレス)
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	edu@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 教員来校時

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

この科目は「健康実践科学Ⅰ」・「健康実践科学Ⅱ」のセット受講となります。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・試験結果・レポートは他に支障のない限り返却します。

【講義概要】

(目的)

生活習慣病予防や健康水準の維持・増進などについて運動面・生活指導の概要について学ぶ。内容は病院や福祉施設などのメディカルスタッフと連携、メタボリック症候群の予防や生活習慣病ハイリスク者への運動指導、少子高齢化をふまえた介護予防のための運動指導を専門的に学ぶ。
・当該科目と学位授与方針等との関連性； A-3

(方法)

講義を中心として基本的理論を学修する。
本科目は主として、「栄養摂取と運動」、「健康づくりと運動プログラム」、「運動指導の心理学的基礎」、「運動障害と予防・救急処置」などを講義する。

【一般教育目標(GIO)】

・身体活動・運動に対する各栄養素の役割及び活動中の代謝、生活習慣病を防ぐための望ましい食事を理解する。
・生活習慣病予防における運動の必要性と効果について学び、安全にかつ効果的な運動プログラムを理解する。
・健康行動に影響を与える要因や身体活動・運動実践が心身の健康に与える影響、個別指導での動機づけとカウンセリングを理解する。
・運動実施中に発生しうる救急疾病や外科的損傷の病態を理解し、発生時の対応や予防法理解する。

【行動目標(SBO)】

・身体活動・運動に対する各栄養素の役割及び活動中の代謝、生活習慣病を防ぐための望ましい食事を説明できる。
・生活習慣病予防における運動の必要性と効果について学び、安全にかつ効果的な運動プログラムを立案できる。
・健康行動に影響を与える要因や身体活動・運動実践が心身の健康に与える影響、個別指導での動機づけとカウンセリング法説明できる。
・運動実施中に発生しうる救急疾病や外科的損傷の病態を理解し、発生時の対応や予防ができる。

【教科書・リザーブドブック】

「健康運動実践指導者養成講習会テキスト」（財団法人健康・体力づくり事業財団）¥4,900

【参考書】

・改訂2版 健康運動実践指導者試験 筆記対策 分野別&模擬問題集　NESTA JAPAN ¥2,160
・健康長寿社会を創る　公益財団法人 健康・体力づくり事業財団　¥1,080

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

(評価の基準・方法)
・出席点は評価に含みません。
・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。
・成績評価は、期末試験およびレポート点により総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50	10	30				10	100
評価指標	取り込む力・知識	25	10	15					50
	思考・推論・創造の力	25		15					40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	栄養摂取と運動(1) p57-62 ・栄養学の基礎	講義	・教科書の授業範囲を確認しておく ・ノート整理	10分 20分
3-4	栄養摂取と運動(2) p62-67 ・食生活と運動、体重調節	講義	・教科書の授業範囲を確認しておく ・ノート整理	20分 20分
5-6	健康づくりと運動プログラム(1) p99-103 ・トレーニングの原則、健康増進のための運動効果、身体活動指針の具体例	講義	・教科書の授業範囲を確認しておく ・ノート整理	20分 20分
7-8	健康づくりと運動プログラム(2) p103-108 ・運動プログラムの基本的考え方、目標設定	講義	・教科書の授業範囲を確認しておく ・ノート整理	20分 20分
9-10	健康づくりと運動プログラム(3) p108-116 ・運動のプログラミング	講義	・教科書の授業範囲を確認しておく ・ノート整理	20分 20分
11-12	運動指導の心理学的基礎 p119-126 ・運動における行動変容	講義	・教科書の授業範囲を確認しておく ・ノート整理	20分 20分
13-14	運動障害と予防・救急処置(1) p205-218 ・内科的障害 ・救急蘇生	講義	・教科書の授業範囲を確認しておく ・ノート整理	20分 20分
15-16	運動障害と予防・救急処置(2) p218-226 ・整形外科的障害 ・外科的救急処置とテーピング	講義	・教科書の授業範囲を確認しておく ・ノート整理	20分 20分

リハビリテーション学科

【科目名】	健康実践科学実習			【担当教員】
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】		(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	edu@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】		(オフィスアワー) 教員来校時・研究室にて対応

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

この科目は「健康実践科学Ⅰ」・「健康実践科学Ⅱ」を履修することが前提です。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・試験結果・レポートは他に支障のない限り返却します。

【講義概要】

(目的)

生活習慣病予防や健康水準の維持・増進などを目的とした実習（健康管理指導、エアロビックスなどの運動プログラム、ストレッチング、体力測定など）を行い内容を理解する。

(方法)

「健康実践科学Ⅰ・Ⅱ」で学んだ理論を基に各種の運動プログラム・指導を体験し理解する。

【一般教育目標(GIO)】

・健康の保持・増進を目的とした日常的に行う代表的な運動の実践と集団への指導方法を学び、多くの人が安全で効果的に楽しく継続できるように導く方法について理解する。

【行動目標(SBO)】

・健康の保持・増進を目的とした日常的に行う代表的な運動の実践と集団への指導方法を学び、多くの人が安全で効果的に楽しく継続できるように導くことができる。

【教科書・リザーブドブック】

「健康運動実践指導者養成講習会テキスト」（財団法人健康・体力づくり事業財団） ¥4,900

【参考書】

・健康長寿社会を創る　公益財団法人 健康・体力づくり事業財団　¥1,080

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

(評価の基準・方法)
・出席点は評価に含みません。
・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。
・成績評価は、期末試験およびレポート点により総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合			20	20		50		10	100
評価指標	取り込む力・知識		10	10		20			40
	思考・推論・創造の力		10	10		20			40
	コラボレーションとリーダーシップ					10			10
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	体力測定と評価・実習(1) p71-81 ・有酸素性および無酸素性体力の測定法 ・身体組成測定	実習	・教科書の授業範囲を確認しておく ・ノート整理	20分 20分
3-4	体力測定と評価・実習(2) p81-96 ・新体力テスト ・体力測定結果の分析・評価・活用	実習	・教科書の授業範囲を確認しておく ・ノート整理	20分 20分
5-6	運動障害と予防・救急処置・実習(1) p211-218 ・救急蘇生法	実習	・教科書の授業範囲を確認しておく ・ノート整理	20分 20分
7-8	運動障害と予防・救急処置・実習(2) p218-226 ・外科的救急処置とテーピング	実習	・教科書の授業範囲を確認しておく ・ノート整理	20分 20分
9-10	健康づくり運動の実際(1) p129-140 ・ウォームアップとクールダウン	実習	・教科書の授業範囲を確認しておく ・ノート整理	20分 20分
11-12	健康づくり運動の実際(2) p141-150 ・ストレッチング	実習	・教科書の授業範囲を確認しておく ・ノート整理	20分 20分
13-14	健康づくり運動の実際(3) p151-p168 ・ウォーキングとジョギング(1)	実習	・教科書の授業範囲を確認しておく ・ノート整理	20分 20分
15-16	健康づくり運動の実際(4) p151-168 ・ウォーキングとジョギング(2)	実習	・教科書の授業範囲を確認しておく ・ノート整理	20分 20分

17-18	健康づくり運動の実際(5) p169-177 ・エアロビックダンス(1)	実習	・教科書の授業範囲を確認しておく ・ノート整理	20分 20分
19-20	健康づくり運動の実際(6) p169-177 ・エアロビックダンス(2)	実習	・教科書の授業範囲を確認しておく ・ノート整理	20分 20分
21-22	健康づくり運動の実際(7) p169-177 ・エアロビックダンス(3)	実習	・教科書の授業範囲を確認しておく ・ノート整理	20分 20分
23-24	健康づくり運動の実際(8) p178-186 ・水泳･水中運動(1)	実習	・教科書の授業範囲を確認しておく ・ノート整理	20分 20分
25-26	健康づくり運動の実際(9) p178-186 ・水泳･水中運動(2)	実習	・教科書の授業範囲を確認しておく ・ノート整理	20分 20分
27-28	健康づくり運動の実際(10) p178-186 ・水泳･水中運動(3)	実習	・教科書の授業範囲を確認しておく ・ノート整理	20分 20分
29-30	健康づくり運動の実際(11) p187-201 ・レジスタンスエクササイズ(1)	実習	・教科書の授業範囲を確認しておく ・ノート整理	20分 20分
31-32	健康づくり運動の実際(12) p187-201 ・レジスタンスエクササイズ(2)	実習	・教科書の授業範囲を確認しておく ・ノート整理	20分 20分
33-34	健康づくり運動の実際(13) p187-201 ・レジスタンスエクササイズ(3)	実習	・教科書の授業範囲を確認しておく ・ノート整理	20分 20分

リハビリテーション学科

【科目名】	心理測定法			【担当教員】	宮岡　里美
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	2-14-0485-0-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	miyaoka@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	2	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 月～金12:40-13:30,他研究室在室時	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

※本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療及び地域保健機関で医師の指示の下で言語・高次脳機能障害や精神機能障害等の評価に従事してきた経験から、言語及び臨床心理・神経心理検査等の数値が意味するものについて講じます。
本科目の内容は、原則言語聴覚学専攻の必修内容に準じています。それ故、心理テスト実施法ではなく、心理学で用いられている基本的な統計手法の知識、つまり種々の心理事象の数量的記述の基本的な考え方を学んでいきます。
※注意：作業専攻の学生で、種々の心理テストの検査法を学びたい場合は、他臨床心理系科目を選択してください。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

資料は全受講生に配布します。欠席した場合は、後日担当者から受け取り、必ず参照してください。
講義時間内で随時、簡単な実験及び基本的な心理統計処理を演習形式で実施して、理解を深めていきます。
この科目では20分以上の遅れで「遅刻」となります。
この科目の学修には統計学の基本的知識が必須ですので、よく復習しておいてください。
試験結果・レポート・授業で実施した実験/心理テスト等のデータは、支障のない限り返却します。

【講義概要】

(目的)

心理学における数量の性質を理解し、目的に合致したデータ収集法及び適切なデータ解析法を学ぶ。
講義および演習を通じて、1) 科学的手法に基づいてデータを収集するためにはどのような測定が必要となるのか、2) その得られたデータに対してどのような統計的処理が適用可能であるのか等を学ぶことを目的とする。
当該科目と学位授与方針との関連性; A-2, P-3, O-3, S-1, R-1

(方法)

心理学で用いられている実証的な研究方法について紹介していく。
人間の行動・態度・人格を計量的に測定するとはどういうことなのかを具体的に概説し、さらに臨床現場で一般的に用いられている検査法の基本についても説明し、得られたデータの意味を正しく解釈できるように進めていく。
毎回、各手法を実際に体験学習して、その理解を深めていく。
ST専攻の学生には、国家試験関連問題を課して、キーワードの理解を深めていく。

【一般教育目標(GIO)】

1) 心理学で用いられる測定法や評価法に関する基本的な知識を身につける。
2) 臨床現場で用いられる種々の検査法における数量的特性について理解する。
3) 心理学的データの基本的な扱い方及び解釈を習得すると同時に、その限界についても知る。

【行動目標(SBO)】

1) 授業に毎回出席し、与えられた課題に主体的に取り組める。
2) 心理測定法の特性を理解し、どのような場合にどの検査を用いたらよいかを適切に選択できる。
3) 科学的（客観性、再現性のある）手法に基づくデータ収集法を学ぶ。
4) 得られたデータに対してどのような統計的処理が適用可能であるのかを理解できる。

【教科書・リザーブドブック】

特に指定せず。原則、毎回プリントを配布します。
言語聴覚学専攻の学生は、「言語聴覚士国家試験出題基準」の「Ｖ心理学_２心理測定法」のキーワードを随時確認すること。

【参考書】

1)　山田弘幸（編・著）／言語聴覚士のための心理学：第3章「心理学的測定」／医歯薬出版／定価 4,320円（税込）
2)　大山正他著／コンパクト心理学ライブラリ 12「心理学研究法」／サイエンス社／定価 2,310円（税込）
3)　市川伸一編著／新心理学ライブラリ 13「心理測定法への招待」／サイエンス社／定価 2,835円（税込）

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。
心理測定法の基本知識につき、定期試験を実施する。
出席点は評価に含みません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50	20			30			100
評価指標	取り込む力・知識	20	20						40
	思考・推論・創造の力	20							20
	コラボレーションとリーダーシップ					10			10
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢	10				20			30

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	心理測定法とは	講義 一部演習	復習（演習課題の整理）	20
2	測定の水準と変数 データ収集法	講義 一部演習	復習（演習課題の整理）	20
3	基礎的な心理統計Ⅰ 記述統計量：代表値と散布度	講義 一部演習	復習（演習課題の整理）	20
4	基礎的な心理統計Ⅱ 推測統計：母集団と推定 確率分布と正規分布	講義 一部演習	復習（演習課題の整理）	20
5	基礎的な心理統計Ⅲ 関係の測度（散布度と相関）	講義 一部演習	復習（演習課題の整理）	20
6	基礎的な心理統計Ⅳ 統計的仮設検定（統計的有意性と偶然） 平均の差の検定	講義 一部演習	復習（演習課題の整理）	20
7	テスト理論Ⅰ 歴史的背景	講義 一部演習	復習（演習課題の整理）	20
8	テスト理論Ⅱ 信頼性と妥当性 「標準テスト」の意味	講義 一部演習	復習（演習課題の整理）	20

9	テスト理論Ⅲ 基準と換算点 「IQ数値」の評価法	講義 一部演習	復習（演習課題の整理）	20
10	精神物理学的測定法Ⅰ 刺激閾、弁別閾、主観的等価点	講義 一部演習	復習（演習課題の整理）	20
11	精神物理学的測定法Ⅱ 調整法、極限法、恒常法	講義 一部演習	復習（演習課題の整理）	20
12	精神物理学的測定法Ⅲ 恒常誤差：測定値の誤りと偏り	講義 一部演習	復習（演習課題の整理）	20
13	尺度構成法Ⅰ 直接法：マグニチュード推定法	講義 一部演習	復習（演習課題の整理）	20
14	尺度構成法Ⅱ 間接法：評定尺度法	講義 一部演習	復習（演習課題の整理）	20
15	まとめ 国試過去問に見る「心理測定法」を説明し、 要点（キーワード）を整理する。	講義 一部演習	復習（演習課題の整理）	20

リハビリテーション学科

【科目名】	認知心理学			【担当教員】	宮岡　里美
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	2-14-0490-0-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	miyaoka@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	2	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 月～金12:40-13:30,他研究室在室時	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

※本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療及び地域保健機関で言語・高次脳機能障害や精神機能障害等のリハビリテーションに従事してきた経験から、人の感覚・知覚及び認知・思考の機序とその障害について講じていきます。
「知覚・認知心理学」には、感覚・知覚・判断・記憶・言語理解等のさまざまな要素が包括されています。
リハビリテーション領域におけるこれらの機能が障害された方々への支援を実施するための基礎知識となります。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

この科目では20分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。
他者に迷惑となる行為が認められた場合は、講義室から退出していただきます。
レポート、試験結果、及び授業中に実施した心理テスト等のデータは、支障のない限り返却します。
資料は全受講生に配付します。欠席した場合には、後日担当者から受け取り、必ず参照しておいて下さい。
授業中に、随時、テーマと関連した実験演習及び視聴覚教材の視聴を実施していきます。

【講義概要】

(目的)

①人の感覚・知覚の機序及びその障害と、②人の認知・思考の機序及びその障害について学びます。
人間の認知情報処理過程（感覚・知覚・認知、注意、記憶、思考など）について、そのメカニズムを神経生理学及び行動科学の側面から概説していきます。また、その障害についても説明し、視聴覚教材を用いて実例から学び、その支援法を考えていきます。
当該科目と学位授与方針との関連性; A-3, P-2, O-3, S-2, R-1

(方法)

毎回、資料としてプリントを配布する。
講義と演習ですすめていく。
参考文献については、その都度紹介していく。
障害については、講義のみでなく、視聴覚教材を用いていく。
可能な限り、行動科学のみでなく、神経生理学的視点からの知見を根拠に説明していく。

【一般教育目標(GIO)】

・人の感覚・知覚のメカニズムを学び、その障害について理解する。
・人の認知・思考のメカニズムを学び、その障害について理解する。

【行動目標(SBO)】

・人間の認知情報処理過程についての基本的知識を習得する。
・各講義で説明した認知心理学のトピックについて多角的に考察することができる。
・国家試験出題基準に対応できるだけの知識を身につける。
・感覚・知覚・認知の障害に対して、認知心理学の基本原理から考察でき、適切な支援につなげることができる。

【教科書・リザーブドブック】

大山正編著　『実験心理学』（コンパクト新心理学ライブラリー16）　サイエンス社　1,850円+税

【参考書】

森 敏昭・井上 毅・松井孝雄　『グラフィック認知心理学』　サイエンス社　2400円＋税
行場次朗・箱田裕司編　『知性と感性の心理学：認知心理学入門』　福村出版　2700円＋税
井上毅・佐藤浩一編　『日常認知の心理学』　北大路書房　3400円＋税

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70				30			100
評価指標	取り込む力・知識	40							40
	思考・推論・創造の力	20				10			30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢	10				20			30

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	感覚Ⅰ 感覚の種類、感覚の範囲と感度	講義 一部演習	復習（要点の整理）	15
2	感覚Ⅱ 感覚の物理量と心理量 感覚の順応・対比・加重	講義 一部演習	復習（要点の整理）	15
3	知覚・認知Ⅰ 色彩知覚、奥行き知覚、図と地	講義 一部演習	復習（要点の整理）	15
4	知覚・認知Ⅱ 運動の知覚、知覚の恒常性、運動の協応	講義 一部演習	復習（要点の整理）	15
5	知覚・認知Ⅲ 認知地図、対人認知、感覚遮断 視知覚・認知の障害とその支援	講義 一部演習	復習（要点の整理）	15
6	知覚・認知Ⅳ 注意、認知の枠組み 注意障害とその支援	講義 一部演習	復習（要点の整理）	15
7	まとめ 国試過去問にみる「感覚・知覚・認知」	講義 一部演習	第1～6回目までの知識の整理	30
8	記憶Ⅰ 記憶過程、記憶の分類、短期記憶、 ワーキングメモリ	講義 一部演習	復習（要点の整理）	15

9	記憶Ⅱ 　長期記憶、顕在記憶・潜在記憶、展望記憶	講義 一部演習	復習（要点の整理）	15
10	記憶Ⅲ 　忘却と記憶の変容、ヒューマンエラー 記憶障害とその支援	講義 一部演習	復習（要点の整理）	15
11	まとめ 国試過去問にみる「記憶」	講義 一部演習	第8～10回目までの知識の整理	30
12	思考Ⅰ 　演繹的推理、帰納的推理、類推	講義 一部演習	復習（要点の整理）	15
13	思考Ⅱ 　問題解決 思考障害とその支援	講義 一部演習	復習（要点の整理）	15
14	言語 　言語使用、言語獲得、言語と思考 言語障害とその支援	講義 一部演習	復習（要点の整理）	15
15	認知の障害とリハビリテーション まとめ　国試過去問にみる「思考」	講義 一部演習	第12～15回目までの知識の整理	30

リハビリテーション学科

【科目名】	学習心理学			【担当教員】	宮岡　里美
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	2-14-0495-0-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	miyaoka@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	2	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 月～金12:40-13:20,他研究室在室時	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

※本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療及び地域保健機関で言語・高次脳機能障害や精神機能障害等のリハビリテーションに従事してきた経験から、人の行動が学習により変化する過程及び言語習得の機序について講じます。
人は生をうけて生涯を終えるまでさまざまな行動を学習していきます。学習心理学では、これら行動と認知の基本的なメカニズムを概説していきます。
特に、将来臨床現場で活躍することを希望する場合には受講していただきたいと思います。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

この科目では20分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。
他者に迷惑となる行為が認められた場合は、講義室から退出していただきます。
試験結果・授業中に実施した心理テスト等のデータは、支障のない限り返却します。
資料は全受講生に配付します。欠席した場合には、後日担当者から受け取り、必ず参照しておいて下さい。
講義後にレポートを課す場合があります。また、心理テストも授業時間内に随時実施していきます。

【講義概要】

(目的)

①人の行動が変化する過程、及び②言語の習得における機序を学びます。　ヒトは、誕生から死に至るまでさまざま行動を学習し、臨機応変に変化させていきます。本講義を通して、学習心理学の基本的理論と知見について学び、学習理論を心の支援に応用する考え方を理解していきます。また、ヒトは言語で他者とのコミュニケーションを交わしています。この言語習得のメカニズムを脳科学の観点からも学び、言語障害に対する基礎的支援法を実践できることを目的とします。
当該科目と学位授与方針との関連性; A-2, P-2, O-1, S-2, R-1

(方法)

Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。
毎回試料の配布を行い、参考文献を紹介する。

【一般教育目標(GIO)】

学習の基本原理を学び、動物及び人間の行動の基盤には学習のメカニズムが機能していることを理解する。
言語習得の基本プロセスと言語の機能（役割）を理解する。
学習の障害、言語障害の機序を学び、適切な支援ができる。

【行動目標(SBO)】

人間の行動は変化することを説明できる。
人間の行動は、ある程度は予測し、コントロールすることも可能であることを説明できる。
学習の原理を日常生活場面や将来の臨床場面で応用していくことができる。
障害に対して適切な支援ができる。

【教科書・リザーブドブック】

グラフィック学習心理学：行動と認知／山内光哉・春木豊（編著）／サイエンス社 ／¥2,677（税込）

【参考書】

学習心理学への招待（新心理学ライブラリ）／篠原彰一著 ／ サイエンス社 ／¥ 2,520
メイザーの学習と行動 ／ジェームズ E メイザー(著) ／二瓶社 (2008/06) ／ ¥4,200

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70				30			100
評価指標	取り込む力・知識	40							40
	思考・推論・創造の力	20				10			30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢	10				20			30

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	学習とは何か ・学習研究の始まりと方法論 行動主義と認知論 古典的条件づけ ・条件づけの典型例　条件刺激と無条件刺激	講義 一部演習	指定教科書p. 1-14 指定教科書p. 15-24	20
2	古典的条件づけ ・行動の獲得と消去　汎化と弁別	講義	指定教科書p. 24-35	20
3	古典的条件づけ ・恐怖の条件づけ　実験神経症　行動療法 古典的条件づけのまとめ	講義	指定教科書p. 36-42	20
4	オペラント条件づけ ・条件づけの典型例　オペラント条件づけの型	講義	指定教科書p. 43-64 指定教科書p. 149-154	20
5	オペラント条件づけ ・オペラント条件づけによる行動の獲得と消去	講義	指定教科書p. 64-74	20
6	オペラント条件づけ ・汎化と弁別 オペラント条件づけのまとめ	講義	指定教科書p. 74-92	20
7	社会的学習 ・社会的学習とは何か　模倣学習　観察学習	講義	指定教科書p. 125-134	20
8	社会的学習 ・攻撃行動　罰の効果　いじめの発生	講義	指定教科書p. 134-144	20

9	社会的学習 ・自己効力感（セルフ・エフィカシィ-） 社会的学習のまとめ	講義 一部演習	指定教科書p. 144-148	20
10	技能学習 ・学習曲線　結果の知識　練習条件	講義 一部演習	指定教科書p. 93-102	20
11	技能学習 ・技能の記憶　技能の転移 技能学習のまとめ	講義	指定教科書p. 102-124	20
12	言語獲得と概念過程 ・言語の獲得 ・言語と概念形成	講義	指定教科書p. 175-190	20
13	概念過程と言語獲得 ・言語と思考 ・言語と脳機能	講義	指定教科書p. 184-199	20
14	言語障害への支援 ・失語症 ・発達障害	講義 ビデオ教材使用		20
15	問題解決と推理 学習理論の医療・福祉への応用 まとめ	講義	指定教科書p. 149-174	20

リハビリテーション学科

【科目名】	運動学実習			【担当教員】　藤目　智博、大山　峰生、浅尾　章彦
【授業区分】	専門分野(基礎作業療法学)	【授業コード】	4-21-0785-0-1	(メールアドレス)
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	30 コマ	(オフィスアワー)来校時、非常勤講師室にて対応

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

作業療法学専攻２年生

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

解剖学・生理学・運動学の知識を必要とする。
試験結果は、他に支障のない限り返却する。

【講義概要】

(目的)

・実習を通して、運動学的基礎知識を再確認する。
・四肢および頸部体幹の機能構造を理解する。

(方法)

・運動学に関する実習及び演習を行い、基礎運動学で学んだ内容を確認し、理解を深める。

【一般教育目標(GIO)】

生体力学では、身体運動や動作を運動学的に分析するために必要な計測手法を理解し、実習を通して重心の移動や姿勢の制御に伴う筋活動や筋力の算出方法を習得する。
機能解剖では、電気刺激等を利用して筋の支配神経や筋の走行を理解しながら体系的に筋機能を習得し、上肢の主な疾患の病態について説明できる力を培う。

【行動目標(SBO)】

触診では、学生間で実際に体験しながら骨のランドマークと筋を同定する技術を習得する。
動作分析では、運動に伴う姿勢の変化や関節運動を理解し、動画を用いた分析方法を習得し、身体運動を客観的に説明できる力を培う。

【教科書・リザーブドブック】

基礎運動学　第６版　補訂、中村隆一、斎藤宏著、医歯薬出版、2012年（6,800円+税）

【参考書】

必要に応じてプリントを配付する。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

本学のGPA制度に準じ評価を行う。
出席点は評価に含まない。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70				30			100
評価指標	取り込む力・知識	35				15			50
	思考・推論・創造の力	35				15			50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1,2	生体力学：テコ	講義、実習 藤目　智博	指定教科書の当該項目内容について復習する。	60
3,4	生体力学：関節モーメントと関節トルク	講義、実習 藤目　智博	指定教科書の当該項目内容について予習・復習する。	60
5,6	生体力学：重心	講義、実習 藤目　智博	指定教科書の当該項目内容について予習・復習する。	60
7,8	骨格筋の収縮の理解	講義、実習 藤目　智博	指定教科書の当該項目内容について予習・復習する。	60
9,10	頭頸部の機能解剖の理解と触診技術の習得	講義、実習 藤目　智博	指定教科書の当該項目内容について予習・復習する。	60
11,12	体幹の機能解剖の理解と触診技術の習得	講義、実習 藤目　智博	指定教科書の当該項目内容について予習・復習する。	60
13,14	股関節の機能解剖の理解と触診技術の習得	講義、実習 藤目　智博	指定教科書の当該項目内容について予習・復習する。	60
15,16	膝、足関節の機能解剖の理解と触診技術の習得	講義、実習 藤目　智博	指定教科書の当該項目内容について予習・復習する。	60

17,18	肩甲帯・肩の機能解剖の理解と触診技術の習得	講義、実習 大山　峰生	指定教科書の当該項目内容について予習・復習する。	60
19,20	肘の機能解剖の理解と触診技術の習得	講義、実習 大山　峰生	指定教科書の当該項目内容について予習・復習する。	60
21,22	前腕・手部の機能解剖の理解と触診技術の習得	講義、実習 大山　峰生	指定教科書の当該項目内容について予習・復習する。	60
23,24	動作分析：姿勢	講義、実習 浅尾　章彦	指定教科書の当該項目内容について予習・復習する。	60
25,26	動作分析：歩行	講義、実習 浅尾　章彦	指定教科書の当該項目内容について予習・復習する。	60
27,28	動作分析：日常生活動作①	講義、実習 浅尾　章彦	指定教科書の当該項目内容について予習・復習する。	60
29,30	動作分析：日常生活動作②	講義、実習 浅尾　章彦	指定教科書の当該項目内容について予習・復習する。	60

リハビリテーション学科

【科目名】	作業療法学概論Ⅰ			【担当教員】	栗原　トヨ子
【授業区分】	専門分野(基礎作業療法学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	kurihara@nur.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー)月～金　17:00～18:00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

作業療法士を目指す学生にとっては作業療法の基礎を学習する最も基本的な必修科目となります。
＊この科目は、実務経験者対応科目です。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

講義だけではなく、学内での実技実習（体験学習）もあるので、主体的・積極的な態度で臨んでください。
欠席した場合には、配付資料を後日担当教員の研究室に受け取りに来ること。
試験結果は、必要に応じて解説を行います。

【講義概要】

(目的)

作業療法という職業の成り立ちに関する歴史的過程を概観し、治療手段としての「作業」とは何かについて理解する。
作業療法士の業務範囲について理解する。
当該科目と学位授与方針との関連性；A－３
当該科目と学位授与方針との関連性；0－１

(方法)

講義及びディスカッション、模擬体験実習等により進める

【一般教育目標(GIO)】

作業療法の治療的概念を理解し、対象者の状態に応じた治療内容・方法について総合的に学修する。
保健、医療、福祉に関わる作業療法士としての職業倫理観の醸成に努める。
他職種との連携の必要性について学修する。

【行動目標(SBO)】

作業療法の歴史過程（成り立ち）について概略を述べることが出来る。
作業療法の「作業」の概念を述べることが出来る。
作業療法の目的、方法、内容、範囲等について述べることが出来る。

【教科書・リザーブドブック】

「作業学」ゴールドマスター・テキスト　第１巻　「作業療法学概論」メジカルビュー社　4200円＋税
その他必要に応じて資料配付

【参考書】

資料配付の他必要に応じて指示する。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

評価基準・方法は本学学則規定のGPA制度に従う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70		10	10	10			100
評価指標	取り込む力・知識	50							50
	思考・推論・創造の力	20							20
	コラボレーションとリーダーシップ					10			10
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢			10					10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	コースオリエンテーション 作業療法を学ぶにあたっての心構え 講義概要・方法・スケジュール	講義	次回のテーマについてテキストｐ87～93に目を通しておくこと	30分
2	治療手段となる作業の意味と範囲 治療手段である「作業」の定義 作業療法士の業務範囲	講義	次回のテーマについてテキストｐ87～93に目を通しておくこと	30分
3	治療手段となる作業の意味と範囲 健康と作業の関係、その必要性について（ICF）	講義	次回のテーマについてテキストｐ87～93に目を通しておくこと	30分
4	作業療法成り立ちの歴史（国外）概要 紀元前の病に対する考え方とその治療方法	講義	次回のテーマについてテキストｐ22～33に目を通しておくこと	30分
5	作業療法成り立ちの歴史（国外）概要 中世の病に対する考え方とその治療方法	講義	次回のテーマについてテキストｐ22～33に目を通しておくこと	30分
6	作業療法成り立ちの歴史（国外）概要 アメリカにおける作業療法の発展と変遷	講義	次回のテーマについてテキストｐ22～33に目を通しておくこと	30分
7	作業療法法成り立ちの歴史（国内）概要 日本の作業療法発展に貢献した人物	講義	次回のテーマについてテキストｐ34～38に目を通しておくこと	30分
8	作業療法法成り立ちの歴史（国内）概要 日本の作業療法発展に貢献した人物	講義	次回のテーマについてテキストｐ34～38に目を通しておくこと	30分

9	理学療法士・作業療法士法 作業療法士と作業療法士協会の倫理要綱	講義	次回のテーマについてテキストp290～305に目を通しておくこと	30分
１０	作業療法部門における管理・運営 記録・報告の基礎	講義	次回のテーマについてテキストp290～305に目を通しておくこと	30分
１１	初期体験学習①	学内体験学習		30分
１２	初期体験学習②	学内体験学習		30分
１３	初期体験学習③	学内体験学習		30分
１４	初期体験学習④	学内体験学習		30分
１５	初期体験学習実施後セミナー まとめ	発表 ディスカッション		

リハビリテーション学科

【科目名】	作業療法学概論Ⅱ			【担当教員】	栗原　トヨ子
【授業区分】	専門分野(基礎作業療法学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	kurihara@nur.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 月～金　17:00ー18:00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

作業療法概論１を修得しておくことを前提に講義を進めます。
＊この科目は実務経験者対応科目です。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

提出物は指定された期間内に必ず提出すること。
欠席した場合の配付資料は担当教員の研究室に受け取りに来ること。
試験結果は、必要に応じて解説を行います。

【講義概要】

(目的)

作業療法の対象者の状態を前期の模擬体験を通じて理解し、問題解決に必要な手段・方法について修得する。
身体障害、精神障害、発達障害、老年期障害、地域における作業療法の専門的知識と技術の概要を修得する。
当該科目と学位授与方針との関連性；A－３
当該科目と学位授与方針との関連性；0－２

(方法)

講義およびディスカッション

【一般教育目標(GIO)】

・作業療法の対象者の様々な状態像を述べることが出来る。
・様々な領域の治療対象者に基本的な作業療法の概要を述べることができる。

【行動目標(SBO)】

身体障害者に対する作業療法の概要を述べることが出来る。
精神障害者に対する作業療法の概要を述べることが出来る。
発達障害児に対する作業療法の概要を述べることが出来る。
老年期障害者に対する作業療法の概要を述べることが出来る。
地域作業療法に関する概要を述べることが出来る。

【教科書・リザーブドブック】

「作業学」ゴールドマスター・テキスト第１巻　「作業療法学概論」メジカルビュー社　4200円＋税
　その他必要に応じて資料配付

【参考書】

資料配付の他必要に応じて指示する

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70		10	10	10			100
評価指標	取り込む力・知識	70							70
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ					10			10
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢			10					10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	作業療法の理論的枠組みについて	講義、ディスカッション	次回のテーマについて、テキストp228～240に目を通しておくこと	30分
2	作業療法の理論的枠組みについて	講義、ディスカッション	次回のテーマについて、テキストp241～247に目を通しておくこと	30分
3	作業療法の理論的枠組みについて	講義、ディスカッション	次回のテーマについて、テキストp248～267に目を通しておくこと	30分
4	作業療法の理論的枠組みについて	講義、ディスカッション	次回のテーマについて、テキストp268～277に目を通しておくこと	30分
5	身体障害作業療法の実際	講義、ディスカッション	次回のテーマについて、テキストp96～110に目を通しておくこと	30分
6	身体障害作業療法の実際	講義、ディスカッション	次回のテーマについて、テキストp96～110に目を通しておくこと	30分
7	発達障害作業療法の実際 対象と方法	講義、ディスカッション	次回のテーマについて、テキストp118～151に目を通しておくこと	30分
8	発達障害作業療法の実際 対象と方法	講義、ディスカッション	次回のテーマについて、テキストp118～151に目を通しておくこと	30分

9	精神障害作業療法の実際 対象と方法	講義、 ディスカッション	次回のテーマについて、テキスト p111～117に目を通しておくこと	30分
10	精神障害作業療法の実際 対象と方法	講義、 ディスカッション	次回のテーマについて、テキスト p111～117に目を通しておくこと	30分
11	老年期障害作業療法の実際 対象と方法	講義、 ディスカッション	次回のテーマについて、テキスト p152～163に目を通しておくこと	30分
12	老年期障害作業療法の実際 対象と方法	講義、 ディスカッション	次回のテーマについて、テキスト p152～163に目を通しておくこと	30分
13	地域作業療法の実際 対象と方法	講義、 ディスカッション	次回のテーマについて、テキスト p182～194に目を通しておくこと	30分
14	地域作業療法の実際 対象と方法	講義、 ディスカッション	次回のテーマについて、テキスト p182～194に目を通しておくこと	30分
15	まとめ			

リハビリテーション学科

【科目名】	作業療法学概論Ⅲ			【担当教員】	藤本　聡
【授業区分】	専門分野(基礎作業療法学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	fujimoto.s@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 月曜日～木曜日　13:00～13:20	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・この科目を履修するには、作業療法学概論Ⅰ・Ⅱを履修していることが望ましい。
・この科目は実務経験者対応科目である。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・教科書を一読してから講義に臨むこと。
・遅刻は授業開始後20分まで、早退は終了20分前まで、それ以上の遅刻・早退はすべて欠席扱いとなります。
・試験・レポートのフィードバックが必要な学生は教員に申し出てください。

【講義概要】

(目的)

・精神機能作業療法に関する歴史や制度、社会資源、実践例について習得する。
・当該科目と学位授与方針等との関連性；　0-1,2

(方法)

教科書と配布資料、視聴教材などにより講義を行う。

【一般教育目標(GIO)】

・精神機能作業療法の歴史と理念を理解できる。
・精神領域に関する関連法規や制度を理解できる。

【行動目標(SBO)】

・精神機能作業療法の役割と課題を説明できる。
・障害者総合支援法・医療観察法・診療報酬制度等について説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

・小林夏子編集『標準作業療法学専門分野　精神機能作業療法学』第2版, 医学書院, 2014年,¥3,800(税別)

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学学則規定のＧＰＡ制度に従う。
・出席点は評価に含みません。
・期末試験とポートフォリオで評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80					20		100
評価指標	取り込む力・知識	40					10		50
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢	40					10		50

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1,2	精神科作業療法の概論 統合失調症について映像を通して学ぶ。	講義	講義内容を復習する	30
3,4	精神機能作業療法の歴史より学ぶ①	講義	講義内容を復習する	30
5,6	精神機能作業療法の歴史より学ぶ② ー事例を通して学ぶー	講義・演習	講義・演習講義内容を復習する	30
7,8	精神保健福祉法・関係法規・制度	講義	講義内容を復習する	30
9,10	退院後の社会資源	講義	講義内容を復習する	30
11,12	医学的リハビリテーションと精神機能作業療法	講義、演習	講義内容を復習する	30
13,14	精神作業療法の実際 まとめの演習	講義、演習	講義内容を復習する 授業中にできなかった演習を行う	30
15	まとめの演習、復習	演習	今までの授業の復習を行っておく。	30

リハビリテーション学科

【科目名】	基礎作業学			【担当教員】	澁井　実
【授業区分】	専門分野(基礎作業療法学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	shibui@nur.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ（45分）	(オフィスアワー) 火・水・木、12：40～13：30	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

作業療法の治療手段である「作業（作業活動）」について理解する。
この科目は、実務経験者対応科目である。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

解剖学、生理学、運動学、心理学等、人間についての基本的理解ができていること。

【講義概要】

(目的)

人の生活において、作業の意味とその範囲、意義について理解する。
当該科目と学位授与方針等の関連性；0-1

(方法)

配布資料を使用して講義を行います。作業を理解するため、体験学習も行います。

【一般教育目標(GIO)】

作業療法の「作業」とは何かについて学ぶ。
作業療法の治療手段としての作業の特徴、意味、範囲、意義について理解する。

【行動目標(SBO)】

・作業療法の「作業」とは何かについて説明できる。
・作業とライフサイクルの関連について説明できる。
・作業分析とは何か、説明できる。
・作業の意義について説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

【参考書】

「作業学」ゴールドマスター・テキスト 第２巻 メジカルビュー社 4700 円＋税
「作業療法の世界」－作業療法を知りたい・考えたい人のために－三輪書店（3300円＋税）

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学学則規定に従う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80			20				100
評価指標	取り込む力・知識	80			20				100
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1～2	オリエンテーション（講義概要・方法・スケジュール) 作業活用の歴史 「作業」とは	講義	オリエンテーションで提示	30分
3～4	作業（活動）の分類	講義	復習	30分
5～6	作業（活動）とライフサイクル	講義	復習	30分
7～8	作業分析とは	講義	復習	30分
9～10	作業分析の実際	講義	復習	30分
11～12	作業の意義	講義	復習	30分
13～14	障害体験を通して作業を考える 障害体験報告	発表	復習	30分
15	まとめ	講義		

リハビリテーション学科

【科目名】	基礎作業学実習Ⅰ			【担当教員】	栗原　トヨ子
【授業区分】	専門分野(基礎作業療法学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	栗原：kurihara@nur.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	30	(オフィスアワー)火ー金　17:00～18:00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

1年次科目の「基礎作業学」履修済みを前提に講義を進めます。
本科目は、作業療法学を学ぶ学生にとっては治療手段の1つである作業種目（アクティビティ）についての基本テクニックを学ぶ重要な科目です。
＊この科目は実務者対応科目です。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

成績評価は、試験および作品の総合評価となります。試験結果は必要に応じて解説を行います。

【講義概要】

(目的)

治療的手段である各種の作業活動について、病院・施設において用いられている創造的、製作的作業を実際に体験実習する。
当該科目と学位授与方針との関連性：A-2
当該科目と学位授与方針との関連性：O-１

(方法)

織物、木工、その他の作業活動を手順に従って製作体験実習を行う。

【一般教育目標(GIO)】

作業療法でよく用いられる作業種目について、正しい道具の扱い方と種々の技法を習得する。
各種の作業活動を治療手段として用いるときの身体的、心理・精神的効果について分析し、適用する基礎を修得する。

【行動目標(SBO)】

体験したそれぞれの作業種目について、必要な道具、材料、手順、段階付け、応用方法について述べることができる。
体験した作業種目について、対象者の障害の状態に応じて適用すること、および禁忌事項について述べることができる。

【教科書・リザーブドブック】

メジカルビュー社　ゴールドマスター・テキスト「作業学」監修；長﨑重信、　編集；浅沼辰志　4700円＋税

【参考書】

医歯薬出版株式会社　「作業活動　実習マニュアル」　監修；古川　宏、4200円＋税
医学書院　「作業で語る事例報告」　編集；齋藤佑樹　3500円＋税

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

評価基準・方法は本学学則規定のGPA制度に従う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		30				70			100
評価指標	取り込む力・知識	30				20			50
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢					50			50

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	オリエンテーション ・講義日程の説明 ・使用する道具・材料の準備後片付け等に関する注意事項	講義	次回からの実技実習に関する配付資料について読んでおくこと。	
２～16回	織物	実技実習	次回からの実技実習に関する配付資料について読んでおくこと。	
17～28回	木工	実技実習	次回からの実技実習に関する配付資料について読んでおくこと。	
30回	試験		作品提出	

リハビリテーション学科

【科目名】	基礎作業学実習Ⅱ			【担当教員】	栗原　トヨ子
【授業区分】	専門分野(基礎作業療法学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	kurihara@nur.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	30	(オフィスアワー)月ー金　pm17:00ーpm18:00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

本科目は、「基礎作業学実習Ⅰ」履修済みを前提に講義を進めます。
本科目は、作業療法学を学ぶ学生にとっては治療手段の1つである作業種目（アクティビティ）についての基本テクニックを学ぶ重要な科目です。
＊この科目は実務者対応科目です。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

成績評価は、試験及び作品の総合評価となります。
試験結果は必要に応じて解説を行います。

【講義概要】

(目的)

作業療法の治療的手段である各種の作業活動について、病院・施設において用いられている創造的、製作的作業を実際に体験実習する。
当該科目と学位授与方針との関連性；A－２
当該科目と学位授与方針との関連性；0－１

(方法)

タイルモザイク、陶芸、皮革細工、園芸活動などの各種作業活動を手順に従って製作体験実習を行う。

【一般教育目標(GIO)】

作業療法でよく用いられる作業種目について、正しい道具の扱い方と種々の技法を習得する。
各種の作業種目を治療手段として用いるときの身体的、心理・精神的効果について分析し、適用する基礎を修得する。

【行動目標(SBO)】

体験したそれぞれの作業種目について、必要な道具、材料、手順、段階付け、応用方法について述べることができる。
体験した作業種目について、対象者の状態に応じて適用すること、段階付けおよび禁忌事項について述べることができる。

【教科書・リザーブドブック】

メジカルビュー社　ゴールドマスター・テキスト　「作業学」　監修；長崎重信、　編集；浅沼辰志　4700円＋税
（１年次で購入済み）

【参考書】

医歯薬出版株式会社　「作業活動　実習マニュアル」　監修；古川　宏、　4200円＋税
医学書院　「作業で語る事例報告」　編集；齋藤佑樹　3500円＋税

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

評価基準・方法は本学学則規程のGPA制度に従う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		30			50		20		100
評価指標	取り込む力・知識	30							30
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力						20		20
	学修に取り組む姿勢				50				50

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	オリエンテーション 道具・材料等の取り扱いに関する説明、注意	講義	次回の実技実習に関する配付資料をよく読んでおくこと。	
２～７回	園芸作業	実技実習	次回の実技実習に関する配付資料をよく読んでおくこと。	
８～17回	陶芸作業	実技実習	次回の実技実習に関する配付資料をよく読んでおくこと。	
18～27回	マクラメ作業	実技実習	次回の実技実習に関する配付資料をよく読んでおくこと。	
28～29回	押し花	実技実習		
30回	試験	試験		

リハビリテーション学科

【科目名】	基礎作業学実習Ⅲ			【担当教員】	栗原　トヨ子
【授業区分】	専門分野(基礎作業療法学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	kurihara@nur.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	30	(オフィスアワー)月ー金　pm17:00-pm18:00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

本科目は、作業療法学を学ぶ学生にとっては治療手段の1つである作業種目（アクティビティ)についての基本テクニックを学ぶ重要な科目です。
「基礎作業学実習Ⅱ」の科目履修済みを前提に講義を進めます。
＊この科目は実務者対応科目です。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

成績評価は試験及び作品の総合評価となります。
試験結果は必要に応じて解説を行います。

【講義概要】

(目的)

作業療法の治療的手段である各種の作業活動について、病院・施設において用いられている創造的・製作的作業を実際に体験実習する。
当該科目と学位授与との関連性；A－２
当該科目と学位授与との関連性；0－１

(方法)

エコクラフト、皮革細工、タイルモザイクなどの作業活動の製作体験を通して分析し、障害の状態に合わせた指導法を検討する。
対象者が作業活動をするために必要な自助具等の試作を行う。

【一般教育目標(GIO)】

作業療法でよく用いられる作業種目について、正しい道具の扱い方と種々の技法を習得する。
各種の作業種目を治療手段として用いるときの身体的、心理・精神的効果について分析し、適用する基礎を修得する。

【行動目標(SBO)】

体験したそれぞれの作業種目について、必要な道具、材料、手順、段階付け、応用方法について述べることができる。
体験した作業種目について、対象者の状態に応じて適用すること、段階付けおよび禁忌事項について述べることができる。

【教科書・リザーブドブック】

メジカルビュー社　ゴールドマスター・テキスト「作業学」監修；長﨑重信、編集；浅沼辰志　　4700円＋税

【参考書】

医歯薬出版株式会社　「作業活動　実習マニュアル」　監修；古川　宏、4200円＋税
医学書院　「作業で語る事例報告」　編集；齋藤佑樹　3500円＋税

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

評価基準・方法は本学学則規定のGPA制度に従う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		30				70			100
評価指標	取り込む力・知識	30				20			50
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢					50			50

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
１回	オリエンテーション 道具・材料に関しての扱い方と注意	講義	次回の実技実習に関する配付資料をよく読んでおくこと。	
２～14回	皮革細工	実技実習	次回の実技実習に関する配付資料をよく読んでおくこと。	
15～22回	タイルモザイク作業	実技実習	次回の実技実習に関する配付資料をよく読んでおくこと。	
23～29回	エコクラフト作業	実技実習	次回の実技実習に関する配付資料をよく読んでおくこと。	
30回	試験	試験		

リハビリテーション学科

【科目名】	作業療法理論学			【担当教員】	貝淵　正人
【授業区分】	専門分野(基礎作業療法学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	kaifuchi@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 火～金13:00～13:20	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

今後、作業療法理論を実践に活かすために必要な科目です。
（※この科目は実務経験者対応科目である。）

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

(受講のルールに関わる・情報・予備知識)
・作業療法概論、基礎作業学で学んだ内容をしっかりと復習してください。
・講義で配布する資料の予備は保管しません。出席者からコピーしてもらってください。
・講義中の板書、スライドの携帯電話での撮影は禁止します。

【講義概要】

(目的)

（目的）
これまで学んだ作業療法の理論を整理し、さらに作業療法の全体理論を学ぶ。作業療法の臨床場面でどのような理論を用いているのかを理解することにより、治療技術としての作業療法の理解を深めることを目的とする。

(方法)

（方法）
作業療法のいくつかの理論を基にした事例報告を提示し、その問題解決の過程を分析する。

【一般教育目標(GIO)】

作業療法のいくつかの理論を基にした事例報告を提示し、その問題解決の過程を分析する。

【行動目標(SBO)】

作業療法の大理論の概要を述べることができる。
作業療法の大理論を応用した文献を読み、いかに理論を用い実践を行っているのかを述べることができる。

【教科書・リザーブドブック】

①吉川ひろみ「「作業」って何だろう　作業科学入門」医歯薬出版　2008年　2,200円（税別）
②山根寛「ひとと作業・作業活動　作業の知をとき技を育む　新版」三輪書店　2015年
・ 適宜、必要な文献を提示する

【参考書】

・齋藤佑樹「作業で語る事例報告：作業療法レジメの書きかた・考えかた」医学書院　2014年
・山田孝　「事例でわかる人間作業モデル」協同医書出版社　2015年
・作業療法学概論、基礎作業学で用いたテキストを参考にする

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

(評価の基準・方法)
・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。
・成績評価は、期末試験およびレポート点・小テスト・演習により総合的に評価する。
・小テストの内容は前回まで講義の内容について出題する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50	40	10					100
評価指標	取り込む力・知識	30	40						70
	思考・推論・創造の力	20							20
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢			10					10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1,2	・コースオリエンテーション ・作業療法の作業の捉え方（作業科学を中心に）	講義	教科書①（p1-17）を読んでおくこと。	90
3,4	・自分の作業を知る	講義・演習	教科書①（p20-41）を読んでおくこと。	90
5,6	・作業と健康 （作業的存在としての捉え方を演習する）	講義・演習	教科書①（p43-97）を読んでおくこと。	90
7,8	・作業分析の概要	講義・演習	教科書②（p132-189）を読んでおくこと。	90
9,10	・カナダ作業遂行モデル（CMOP）① （理論と実践）	講義	事前にCMOPについて資料を配布し、それを読んでくること。 《小テスト①》 第1～4回について実施する。	90
11,12	・カナダ作業遂行モデル（CMOP）② （事例：OPPMにおける作業獲得の過程）	講義・演習	事例を利用し、OPPMについて検討する。	90
13,14	・人間作業モデル（MOHO）① （理論と実践）	講義	事前にMOHOについて資料を配布し、それを読んでくること。	90
15	・作業の力 （健康との関連）	講義・演習	MOHOについて考察する。課題は、講義内レポートとして終了後に提出する。 《小テスト②》 第5～7回について実施する。	90

リハビリテーション学科

【科目名】	作業療法評価学総論			【担当教員】	澁井　実
【授業区分】	専門分野(作業療法評価学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	shibui@nur.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ（45分）	(オフィスアワー) 火～木、12：40～13：30	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

講義、および小グループ編成によるディスカッションを行いながら講義を進める。
この科目は、実務経験者対応科目である。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

各分野での作業療法評価を学ぶ上での基礎となる科目である。
欠席者は、自身の責任で当日の配布資料を教員より受け取ること。

【講義概要】

(目的)

作業療法評価は、適切な作業療法計画立案のために必要不可欠なものである。正確且つ適切な「評価」の視点に立って、作業療法評価学を学ぶが、単に機能形態障害の測定技術を学ぶだけではなく、その障害が生活や健康に及ぼす影響までを含めて学修することを目的とする。
当該科目と学位授与方針等との関連性；A-3　，O-1

(方法)

配布資料などで各疾患の作業療法評価の目的、方法について理解できる講義を行う。

【一般教育目標(GIO)】

作業療法評価の概要について理解する。

【行動目標(SBO)】

障害別の評価方法について、説明できる。
観察・面接・検査・測定から評価のまとめまでの流れについて説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

適宜、資料を配布する。

【参考書】

・標準作業療法学専門分野　作業療法評価学　医学書院
・齋藤佑樹「作業で語る事例報告：作業療法レジメの書きかた・考えかた」医学書院　2014年
・日本作業療法士協会　「事例で学ぶ生活行為向上マネジメント」医歯薬出版　2015年

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。
・成績評価は、期末試験およびレポート点・成果発表・小テストにより総合的に評価する。
・小テストは前後半で2回実施する。講義で実施した範囲の内容について出題する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		90					10		100
評価指標	取り込む力・知識	50							50
	思考・推論・創造の力	40							40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢						10		10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2	オリエンテーション 作業療法評価とは何か	講義	復習	30
3・4	作業療法評価の対象と過程	講義	復習	30
5・6	作業療法評価の項目とその捉え方 （国際生活機能分類ICFについて）	講義	復習	30
7・8	作業療法評価の枠組み① （情報の種類とその収集方法）	講義	復習	30
9・10	作業療法評価の枠組み② （面接の概要と視点） コミュニケーションと交流技能評価・興味・役割の評価	講義	復習	30
11・12	作業療法評価の枠組み③ （観察の概要と視点）	講義	復習	30
13・14	作業療法評価の枠組み④ （検査・測定の概要と意義、方法）	講義	復習	30
15	まとめ	講義	復習	30

リハビリテーション学科

【科目名】	身体障害作業療法評価学（実習）			【担当教員】	増田　雄亮
【授業区分】	専門分野(作業療法評価学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	masuda@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	30	(オフィスアワー) 火曜日 13:00～18:00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

講義のほかに演習や実習を行うことがあるため，動きやすい服装（ジャージなど）で臨むこと.

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

解剖学や運動学を再学習しながら授業に臨むこと.
実技の練習時間を確保し，自ら積極的に学ぶこと.
本試験のフィードバックが必要な学生は，担当教員に確認しにいくこと.

【講義概要】

(目的)

脳血管障害や神経変性疾患，整形外科疾患などの身体障害における各種検査の基本的技術とその結果の考え方について学修することを目的とする（当該科目と学位授与方針等との関連性；0-1）.

(方法)

教科書と配布資料などによる身体障害に関わる各種検査の講義及び実習を中心に実施する.

【一般教育目標(GIO)】

各種検査の目的と実施方法について説明することができる.
各種検査の結果を生活機能障害と関連付けて理解することができる.

【行動目標(SBO)】

各種検査を実施する理由と目的について説明することができる.
各種検査を正確な方法で実施することができる.
各種検査の結果を生活機能障害と関連付けて述べることができる.

【教科書・リザーブドブック】

日本作業療法士協会監修，生田宗博（編）「作業療法学全書改訂第3版第3巻 作業療法評価学」，協同医書出版社，2009年，4,104円（税込）．能登真一，他（編）「標準作業療法学専門分野 作業療法評価学」（第3版），医学書院，2017年，5,800円（税別）．Helen J Hislop，et al（著）「新・徒手筋力検査法」（第9版），協同医書出版社，2014年，8,100円（税込）.

【参考書】

障害者福祉研究会（編）「ICF 国際生活機能分類―国際障害分類改定版」，中央法規出版,社，2002年，3,780円（税込）.
田崎義昭，斎藤佳雄，坂井文彦，濱田潤一，飯塚高浩「ベッドサイドの神経の診かた」（第18版」，南山堂，2016年，7,200円（税別）.

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は，本学学則規程のGPA制度に従う．成績評価は，期末試験および実技など総合的に評価する．出席点は評価に含みません.

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		60				40			100
評価指標	取り込む力・知識	30				20			50
	思考・推論・創造の力	30				20			50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1,2	作業療法評価の全体像 国際生活機能分類（ICF）の理解	講義	予習：次回単元の教科書を読んでおく. 復習：今回の授業内容をまとめる.	60
3,4	各検査の目的と実施方法の概要	講義	予習：次回単元の教科書を読んでおく. 復習：今回の授業内容をまとめる.	60
5,6	バイタルサインと形態測定の評価	講義・実習	予習：次回単元の教科書を読んでおく. 復習：今回の授業内容をまとめる.	60
7,8	関節可動域（ROM）の測定①	講義・実習	予習：次回単元の教科書を読んでおく. 復習：今回の授業内容をまとめる.	60
9,10	関節可動域（ROM）の測定②	講義・実習	予習：次回単元の教科書を読んでおく. 復習：今回の授業内容をまとめる.	60
11,12	関節可動域（ROM）の測定③	講義・実習	予習：次回単元の教科書を読んでおく. 復習：今回の授業内容をまとめる.	60
13,14	徒手筋力検査（MMT）①.	講義・実習	予習：次回単元の教科書を読んでおく. 復習：今回の授業内容をまとめる.	60
15,16	徒手筋力検査（MMT）②	講義・実習	予習：次回単元の教科書を読んでおく. 復習：今回の授業内容をまとめる.	60

17,18	徒手筋力検査（MMT）③	講義・実習	予習：次回単元の教科書を読んでおく. 復習：今回の授業内容をまとめる.	60
19,20	脳神経検査	講義・実習	予習：次回単元の教科書を読んでおく. 復習：今回の授業内容をまとめる.	60
21,22	運動麻痺・反射・協調性の検査①	講義・実習	予習：次回単元の教科書を読んでおく. 復習：今回の授業内容をまとめる.	60
23,24	運動麻痺・反射・協調性の検査②	講義・実習	予習：次回単元の教科書を読んでおく. 復習：今回の授業内容をまとめる.	60
25,26	上肢機能検査	講義・実習	予習：次回単元の教科書を読んでおく. 復習：今回の授業内容をまとめる.	60
27,28	感覚・知覚検査	講義・実習	予習：次回単元の教科書を読んでおく. 復習：今回の授業内容をまとめる.	60
29,30	姿勢・バランスの評価	講義・実習	復習：今回の授業内容をまとめる.	60

リハビリテーション学科

【科目名】	精神障害作業療法評価学			【担当教員】	長谷川　裕
【授業区分】	専門分野(作業療法評価学)	【授業コード】	4-22-0845-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	hasegawa.y@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 月曜日～木曜日　13:00～13:20	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

この科目を履修するには、作業療法学概論Ⅰ、Ⅱを履修していること前提です。
（※この科目は実務経験者対応科目である。）

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・指定図書，参考書は出来る限り読むこと。
・欠席した場合の配付資料は担当教員の研究室に受け取りに来ること。
・試験・レポートのフィードバックが必要な学生は教員に申し出てください。

【講義概要】

(目的)

統合失調症やうつ病といった精神障害における対象者の外観、行動を観察する視点を理解すること、観察の技術や各種検査方法について学修することを目的とする。
当該科目と学位授与方針等との関連性；　0-1

(方法)

配布資料、視聴覚教材などによる講義と精神障害作業療法評価の演習等を行う。

【一般教育目標(GIO)】

・精神障害領域における評価の流れを理解することができる。

【行動目標(SBO)】

・精神機能の評価として、情報収集、観察、面接、検査等の目的、手法について理解することができる。

【教科書・リザーブドブック】

【参考書】

・山根 寛著『精神障害と作業療法』新版，三輪書店，2017年，¥4,000（税別）
・『標準作業療法学　作業療法評価学』第3版,医学書院,2017年,¥5,800（税別）

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学学則規定のＧＰＡ制度に従う。
・出席点は評価に含みません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80						20	100
評価指標	取り込む力・知識	60							60
	思考・推論・創造の力	20							20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1,2	オリエンテーション、精神科作業療法の過程について	講義	講義内容を復習する	30分
3,4	精神障害作業療法評価（情報収集）について	講義	講義内容を復習する	30分
5,6	精神障害作業療法評価（情報収集）について	講義・演習	講義内容を復習する	30分
7,8	精神障害作業療法評価（観察）について	講義・演習	講義内容を復習する	30分
9,10	精神障害作業療法評価（観察）について	講義・演習	講義内容を復習する	30分
11,12	精神障害作業療法評価（面接・検査）について	講義	講義内容を復習する	30分
13,14	精神障害作業療法評価（面接・検査）について	演習	講義内容を復習する	30分
15	精神障害作業療法評価について・まとめ	講義	講義内容を復習する	30分

リハビリテーション学科

【科目名】	発達障害作業療法評価学			【担当教員】	田中　善信
【授業区分】	専門分野(作業療法評価学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修		
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー)	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・事前課題を基にした講義を行いながら授業を進める。
・この講義は事前学習がされていることを前提に実施する。課題レポートなどは前もって余裕を持って準備すること。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・今後、発達障害分野の作業療法を学ぶ上での基礎となる科目である。
・講義で配布する資料の予備は保管しません。出席者からコピーしてもらうこと。
・講義中の板書、スライドの携帯電話での撮影は禁止する。

【講義概要】

(目的)

定型発達などの人間発達について理解した上で、脳性麻痺を中心とする肢体不自由児や自閉症スペクトラム障害などの発達障害児の観察技術及び各種検査とその結果の考え方について学修することを目的とする。

(方法)

教科書や配布資料などによって発達障害に対する導入から評価に至る作業療法過程についての講義を行う。

【一般教育目標(GIO)】

発達障害領域の作業療法における基礎的知識としての定型発達を理解することができる。
発達検査の概要を理解し、述べることができる。
定型発達の様子や検査結果から評価をまとめ、治療プログラム立案までのプロセスの概要を述べることができる。

【行動目標(SBO)】

定型発達を事前課題や演習を通して、知識を習得する。
発達検査の概要を理解し、演習を通して検査方法を習得する。
定型発達の様子や検査結果から評価をまとめ、治療プログラム立案までのプロセスを演習し、習得する。

【教科書・リザーブドブック】

・上杉雅之　辛島千恵子　「イラストでわかる発達障害の作業療法」医歯薬出版株式会社　2016年
・適宜、資料等を配布する。

【参考書】

・岩崎清隆「発達障害の作業療法　基礎編　第2版」「実践編　第2版」三輪書店　2015年
・Lois Bly「写真でみる乳児の運動発達　生後10日から12か月まで」協同医書出版社　1998年
・上杉雅之「イラストでわかる人間発達学」医歯薬出版株式会社　2015年

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学学則規定のＧＰＡ制度に従う。
・定期試験および小テスト、ポートフォリオなどで総合的に判断する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		60	20				20		100
評価指標	取り込む力・知識	30	20				5		55
	思考・推論・創造の力	30					10		40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢						5		5

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	発達障害の作業療法　総論① ～小児の作業療法過程について～	講義	教科書「第1章　小児の作業療法過程」「第13章　小児リハビリテーションの支援制度」を予習しておくこと	30分
2	発達障害の作業療法　総論② ～小児リハビリテーションの支援制度について～	講義	教科書「第1章　小児の作業療法過程」「第13章　小児リハビリテーションの支援制度」を予習しておくこと	30分
3	発達障害作業療法における基礎知識① ～正常発達：0～3ヶ月～	講義	教科書「第2章　評価・治療・援助のための基礎知識（P13～24）」「第13章　心身機能の発達過程」を予習しておくこと ・事前課題をやっておくこと	90分
4	発達障害作業療法における基礎知識① ～正常発達：0～3ヶ月～	講義	教科書「第2章　評価・治療・援助のための基礎知識（P13～24）」「第13章　心身機能の発達過程」を予習しておくこと ・事前課題をやっておくこと	90分
5	発達障害作業療法における基礎知識② ～正常発達：4～6ヶ月～	講義	教科書「第2章　評価・治療・援助のための基礎知識（P13～24）」「第13章　心身機能の発達過程」を予習しておくこと ・事前課題をやっておくこと	90分
6	発達障害作業療法における基礎知識② ～正常発達：4～6ヶ月～	講義	教科書「第2章　評価・治療・援助のための基礎知識（P13～24）」「第13章　心身機能の発達過程」を予習しておくこと ・事前課題をやっておくこと	90分
7	発達障害作業療法における基礎知識③ ～正常発達：7～9ヶ月～	講義	小テスト①	90分
8	発達障害作業療法における基礎知識③ ～正常発達：7～9ヶ月～	講義	教科書「第2章　評価・治療・援助のための基礎知識（P13～24）」「第13章　心身機能の発達過程」を予習しておくこと ・事前課題をやっておくこと	90分

9	発達障害作業療法における基礎知識④ ～正常発達：10～12ヶ月～	講義	教科書「第2章　評価・治療・援助のための基礎知識（P13～24）」「第13章　心身機能の発達過程」を予習しておくこと ・事前課題をやっておくこと	90分
１０	発達障害作業療法における基礎知識④ ～正常発達：10～12ヶ月～	講義	講義終了後にポートフォリオを提出する。	90分
１１	発達障害領域の評価方法 ～発達検査～	講義	・小テスト② ・教科書「第2章　評価・治療・援助のための基礎知識（P24～35）」を予習しておくこと	30分
１２	発達障害領域の評価方法 ～発達検査～	講義・演習	・教科書「第2章　評価・治療・援助のための基礎知識（P24～35）」を予習しておくこと	30分
１３	発達障害領域の評価方法 ～その他検査～	講義	・教科書「第2章　評価・治療・援助のための基礎知識（P24～35）」を予習しておくこと	30分
１４	発達障害領域の評価方法 ～その他検査～	講義・演習	・教科書「第2章　評価・治療・援助のための基礎知識（P24～35）」を予習しておくこと	30分
１５	まとめ ～正常発達や評価についてのポイントを整理～	講義		30分

リハビリテーション学科

【科目名】	高次脳機能障害作業療法評価学			【担当教員】	丁子　雄希
【授業区分】	専門分野(作業療法評価学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	choujiyuki@gmail.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー)講義日来校時、非常勤控室にて対応	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

特になし

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

フィードバック方法：試験結果・レポートは他に支障のない限り返却します。

【講義概要】

(目的)

認知・高次脳機能障害に対する理解を深め、作業療法評価を習得する。

(方法)

教科書と配布資料などによる高次脳機能障害治療の講義・演習が中心となる。また学生間のペア学習を通して、模擬体験を行う。

【一般教育目標(GIO)】

高次脳機能障害作業療法評価学で学んだ知識から、障害に応じた評価方法が選定でき、実施できる。

【行動目標(SBO)】

・認知・高次脳機能障害の症状を列挙できる。
・障害の種類によって適切な評価を選定できる。
・各種評価を適切に実施できる。

【教科書・リザーブドブック】

石合純夫・『高次脳機能障害学　第2版』　医歯薬出版株式会社、2012，￥4,400（税別）

【参考書】

能登真一（編集）・『高次脳機能障害作業療法学』標準作業療法学　専門分野　医学書院，2012，￥3,800（税別）

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学学則規定のGAP制度に従う。
・評定は多肢選択式による期末試験によって行う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70				30			100
評価指標	取り込む力・知識	50							50
	思考・推論・創造の力	10							10
	コラボレーションとリーダーシップ					20			20
	発表力								
	学修に取り組む姿勢	10				10			20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	・注意障害の臨床症状を把握する。	講義	教科書１９３－１９６ｐを読んでおく。	３０
2	・注意障害の評価法を理解する。	実技		
3	・記憶障害の臨床症状を把握する。	講義	教科書１９７－２１７ｐを読んでおく。	３０
4	・記憶障害の評価法を理解する。	実技		
5	・半側空間無視の臨床症状を把握する。	講義	教科書１５１－１６９ｐを読んでおく。	３０
6	・半側空間無視の評価法を理解する。	実技		
7	・失語症の臨床症状を把握する。	講義	教科書２３－４３ｐを読んでおく。	３０
8	・失語症の評価法を理解する。	実技		

9	・失行の臨床症状を把握する。	講義	教科書６１－７１ｐを読んでおく。	３０
10	・失行の評価法を理解する。	実技		
11	・遂行機能障害の臨床症状を把握する。	講義	教科書２２０－２３０ｐを読んでおく。	３０
12	・遂行機能障害の評価法を理解する。	実技		
13	・認知症のタイプを整理し、臨床症状を把握する。	講義	教科書２３７－２５７ｐを読んでおく。	３０
14	・認知症の評価法を理解する。	実技		
15	総括	講義	配布資料。	３０

リハビリテーション学科

【科目名】	老年期障害作業療法評価学			【担当教員】
【授業区分】	専門分野(作業療法評価学)	【授業コード】		(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	kurihara@nur.ac.jp
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) pm17:00-18:00

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

1年次科目「作業療法評価学総論」を履修済みであること。
＊本科目は実務者対応科目です。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

成績は試験及び実技、調査学習成果の発表との総合評価とします。

【講義概要】

(目的)

老年期を迎えた対象者の心身機能の変化を理解し、障害の状態を測定・評価する意義を理解する。
当該科目と学位授与方針との関連性：A-2,3
当該科目と学位授与方針との関連性：O-1,2

(方法)

「作業療法評価学総論」で学んだ基本的知識をもとに、老年期特有の心身機能の変化を捉えるための測定・評価について演習を通じて修得する。

【一般教育目標(GIO)】

老年期障害の特徴を理解したうえで、評価の流れ、評価の実際、評価結果の統合、対象者の全体像について把握することができる。

【行動目標(SBO)】

１．老年期障害の特徴を述べることができる。
２．老年期障害に対する評価測定方法を挙げることができる。
３．老年期障害の対象者の状態を把握するために適切な評価項目を選択し、実施することができる。

【教科書・リザーブドブック】

医学書院；　標準作業療法学　専門分野　「作業療法評価学」　第3版　能登真一他編集　5800円＋税

【参考書】

メジカルビュー社；ゴールドマスター・テキスト「作業療法評価学」　第2版、長崎重信監修　佐竹　勝　他編集　5600円＋税

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

評価基準・方法は本学学則規程のGPA制度に従う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70			10	20			100
評価指標	取り込む力・知識	40							40
	思考・推論・創造の力	20							20
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢	10				20			30

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1回	老年期障害の特徴について	講義	テキストｐ603ー605の予習	30分
2回	老年期障害の特徴について	講義	テキストｐ603ー605の復習	30分
3～4回	老年期障害に対する作業療法評価内容について 活動能力や意欲の評価法について	講義・実技	テキストｐ604ー622の予習・復習	30分
5～6回	老年期障害に対する作業療法評価内容について 活動能力や意欲の評価法について	講義・実技	テキストｐ604ー622の予習・復習	30分
7～8回	老年期障害に対する作業療法評価内容について 認知・知的機能の評価法について	講義・実技	テキストｐ604ー622の予習・復習	30分
9～10回	老年期障害に対する作業療法評価内容について 認知・知的機能の評価法について	講義・実技	テキストｐ604ー622の予習・復習	30分
11～12回	老年期障害に対する作業療法評価内容について 介護負担感に関する評価法について	講義・実技	テキストｐ604ー622の予習・復習	30分
13～14回	老年期障害に対する作業療法評価内容について まとめ	講義・実技	テキストｐ604ー622の予習・復習	30分

15回	試験	試験		

リハビリテーション学科

【科目名】	作業療法評価学演習			【担当教員】	貝淵　正人
【授業区分】	専門分野(作業療法評価学)	【授業コード】	4-22-0865-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	kaifuchi@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	30	(オフィスアワー)月～木　13：00～13：20	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・2年次までに履修した専門科目の知識があることを前提とする。
・作業療法評価のプロセスを復習しておくこと。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・グループ課題が中心となり、講義外活動も考慮しながら実施していただきたい。
・講義で配布する資料の予備は保管しません。出席者からコピーしてもらうこと。
・講義中の板書、スライドの携帯電話での撮影は禁止する。

【講義概要】

(目的)

(目的)
身体障害・精神障害・発達障害・高次脳機能障害の代表的な検査の中から適切な評価実施方法と記録法について学ぶ。
（※この科目は実務経験者対応科目である。）

(方法)

(方法)
各評価の手順と記録方法について、学生同士で演習することが中心となる。

【一般教育目標(GIO)】

・各分野の作業療法評価の技術を修得する。
・各検査、評価の記録方法を習得する。

【行動目標(SBO)】

・作業療法評価の各項目を実施することができる。
・作業療法評価を実施及び記録し、特記すべき結果について述べることができる。

【教科書・リザーブドブック】

①斎藤祐樹『作業で語る事例報告―作業療法レジメの書きかた・考えかた―』　医学書院, 2014年
②岩崎テル子 他編：「標準作業療法学　作業療法評価学　第2版」医学書院　2011年
③日本作業療法士協会　「事例で学ぶ生活行為向上マネジメント」医歯薬出版　2015年

【参考書】

①吉川ひろみ　「作業療法がわかるCOPM・AMPSスターティングガイド」医学書院　2008年
②障害者福祉研究会「ICF　国際生活機能分類-国際障害機能分類改訂版」中央法規　2002年

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学学則規定のＧＰＡ制度に従う。
・試験、小テスト、レポート、実技から総合的に判断をする。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50	30		20				100
評価指標	取り込む力・知識	20	30						50
	思考・推論・創造の力	30							30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢				10				10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	・コースオリエンテーション ・作業療法評価を計画する （妥当性と根拠を考える）	講義	教科書①「第2章作業療法の対象とプロセス」を読んでおくこと。	60
2	作業療法の評価結果のまとめ方と事例報告の書き方①（目標設定のポイント、レジュメ等のまとめ方）	講義	教科書①（p82-86）を読んでおくこと。	60
3	作業療法の評価結果のまとめ方と事例報告の書き方②（目標設定のポイント、レジュメ等のまとめ方）	講義	教科書①（p82-86）を読んでおくこと。	90
4	作業療法の評価結果のまとめ方と事例報告の書き方③（目標設定のポイント、レジュメ等のまとめ方）	講義	教科書①（p82-86）を読んでおくこと。	90
5	面接評価（作業面接）の概要と評価方法① （COPM・生活行為聞き取りシート・OSA-Ⅱ）	講義	教科書①「第3章作業に焦点を当てた実践のポイント」を読んでおくこと。 また、参考書①（p2-46）を読んでおくと理解が深まる。	90
6	面接評価（作業面接）の概要と評価方法② （COPM・生活行為聞き取りシート・OSA-Ⅱ）	講義	教科書①「第3章作業に焦点を当てた実践のポイント」を読んでおくこと。 また、参考書①（p2-46）を読んでおくと理解が深まる。	90
7	作業面接演習①	演習	学内もしくは学外の方を対象に面接を実施する。 （実施手順は別紙にて提示する。） 《小テスト①》 面接に関する内容を出題する。	90
8	作業面接演習②	演習	学内もしくは学外の方を対象に面接を実施する。 （実施手順は別紙にて提示する。）	90

9	作業面接演習③	演習	学内もしくは学外の方を対象に面接を実施する。 （実施手順は別紙にて提示する。）	90
10	観察評価の概要と方法	講義	教科書②の観察に関わるところを読んでおくこと。	90
11	観察演習① （初回の観察）	演習	《小テスト②》 観察に関する内容について出題する。	90
12	観察演習② （コミュニケーション、対人関係場面での観察）	演習	適宜課題を提示し、その課題を行うこと。	90
13	観察演習③ （作業遂行場面での観察）	演習	適宜課題を提示し、その課題を行うこと。	90
14	観察演習④ （集団および集団場面での観察）	演習	適宜課題を提示し、その課題を行うこと。	90
15	生活行為向上マネジメント（MTDLP）の概要①	講義	教科書③（p1-43）を予習すること。	90
16	生活行為向上マネジメント（MTDLP）の概要②	講義	教科書③（p1-43）を予習すること。	90
17	MTDLP事例検討演習① （クライアントの作業をマネジメントする ～身障・老年：脳血管障害患者の事例～）	演習	事例を提示します。その事例をMTDLPに則って、検討する。 《小テスト③》 MTDLPに関する内容について出題する。	90
18	グループ演習 （生活行為アセスメント演習シート・生活行為向上プラン演習シート作成）	演習	事例を提示します。その事例をMTDLPに則って、検討しなさい。 （検討事項などの詳細は、事例とともに配布する）	90
19	グループ演習 （生活行為アセスメント演習シート・生活行為向上プラン演習シート作成）	演習	事例を提示します。その事例をMTDLPに則って、検討しなさい。 （検討事項などの詳細は、事例とともに配布する）	90

20	グループ演習 （生活行為アセスメント演習シート・生活行為向上プラン演習シート作成）	演習	事例を提示します。その事例をMTDLPに則って、検討しなさい。 （検討事項などの詳細は、事例とともに配布する）	90
21	グループ演習 （生活行為アセスメント演習シート・生活行為向上プラン演習シート作成）	演習	事例を提示します。その事例をMTDLPに則って、検討しなさい。 （検討事項などの詳細は、事例とともに配布する）	90
22	グループ演習 （生活行為アセスメント演習シート・生活行為向上プラン演習シート作成）	発表	・発表形式：スライド ・提出物：①発表スライド（専用PC用意） ・発表時間：25分（質疑応答5分）	90
23	グループ演習 （生活行為アセスメント演習シート・生活行為向上プラン演習シート作成）	発表	・提出物： ①レジュメ（A4用紙1枚） ②アセスメント演習シート ③プラン演習シート ・提出日：後日提示する	90
24	MTDLP事例検討演習② （クライアントの作業をマネジメントする ～精神：統合失調症の事例～）	演習	事例を提示します。その事例をMTDLPに則って、検討しなさい。 （検討事項などの詳細は、事例とともに配布する）	90
25	グループ演習 （生活行為アセスメント演習シート・生活行為向上プラン演習シート作成）	演習	事例を提示します。その事例をMTDLPに則って、検討しなさい。 （検討事項などの詳細は、事例とともに配布する）	90
26	グループ演習 （生活行為アセスメント演習シート・生活行為向上プラン演習シート作成）	演習	事例を提示します。その事例をMTDLPに則って、検討しなさい。 （検討事項などの詳細は、事例とともに配布する）	90
27	グループ演習 （生活行為アセスメント演習シート・生活行為向上プラン演習シート作成）	演習	事例を提示します。その事例をMTDLPに則って、検討しなさい。 （検討事項などの詳細は、事例とともに配布する）	90
28	グループ演習 （生活行為アセスメント演習シート・生活行為向上プラン演習シート作成）	演習	事例を提示します。その事例をMTDLPに則って、検討しなさい。 （検討事項などの詳細は、事例とともに配布する）	90
29	グループ演習 （生活行為アセスメント演習シート・生活行為向上プラン演習シート作成）	発表	《プレゼン》 ・発表形式：スライド ・提出物：①発表スライド（専用PC用意） ・発表時間：25分（質疑応答5分）	90
30	グループ演習 （生活行為アセスメント演習シート・生活行為向上プラン演習シート作成）	発表	・提出物： ①レジュメ（A4用紙1枚） ②アセスメント演習シート ③プラン演習シート ・提出日：後日提示する	90

リハビリテーション学科

【科目名】	作業療法治療学総論			【担当教員】	長谷川　裕
【授業区分】	専門分野(作業療法治療学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修		
【単位数】	1	【コマ数】	8	(オフィスアワー)	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

講義及び、小グループ編成によるディスカッションを行いながら授業を進める。
（※この科目は実務経験者対応科目である。）

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・レポート課題のフィードバックがほしい学生は、各自担当教員ところに伺うこと。

【講義概要】

(目的)

(目的)
多様な障害に対する作業療法の各種治療に触れ、評価に基づく治療目標や計画の立案の過程を確認しながら、適切な治療技術の選択方法を学修することを目的とする。
当該科目と学位授与方針等との関連性;0-1,2

(方法)

(方法)
教科書や配付資料などによる各種治療の内容とその方法についての講義を行う。

【一般教育目標(GIO)】

作業の治療的応用についての概要を述べることができる。
評価からプログラム選択までに必要な過程を述べることができる

【行動目標(SBO)】

提示された事例から、問題点を列挙し、目標の設定、作業療法介入までの過程を体験する

【教科書・リザーブドブック】

特になし

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

(評価の基準・方法)
成績評価基準は本学学則規定のＧＰＡ制度に従う。
レポート100％で総合的に評価を行う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				100					100
評価指標	取り込む力・知識			25					25
	思考・推論・創造の力			25					25
	コラボレーションとリーダーシップ			0					0
	発表力			25					25
	学修に取り組む姿勢			25					25

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	身体障害領域① 事例の問題点抽出から具体的なプログラム立案までの過程を理解する。			
2	身体障害領域② 事例の問題点抽出から具体的なプログラム立案までの過程を理解する。			
3	精神障害領域① 事例の問題点抽出から具体的なプログラム立案までの過程を理解する。			
4	精神障害領域② 事例の問題点抽出から具体的なプログラム立案までの過程を理解する。			
5	老年期障害領域① 事例の問題点抽出から具体的なプログラム立案までの過程を理解する。			
6	老年期障害領域② 事例の問題点抽出から具体的なプログラム立案までの過程を理解する。			
7	発達障害領域① 事例の問題点抽出から具体的なプログラム立案までの過程を理解する。			
8	発達障害領域② 事例の問題点抽出から具体的なプログラム立案までの過程を理解する。			

リハビリテーション学科

【科目名】	中枢神経疾患作業療法治療学			【担当教員】 増田　雄亮、佐藤　律子、齋藤　元浩、小林　茂俊、田邉　珠江、渋谷　亮仁
【授業区分】	専門分野(作業療法治療学)	【授業コード】		(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	masuda@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 火曜日 13:00～18:00

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

生理学，解剖学，運動学，臨床医学の知識を整理・修得しておくこと.
作業療法評価学の知識および技能を再学習しておくこと.
（※この科目は実務経験者対応科目である。）

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

実技演習できる服装で参加すること.
複数の外部非常勤講師からの講義・実技となります.
試験結果・レポート等は他に支障のない限り返却します.

【講義概要】

(目的)

脳血管疾患，脊髄損傷，神経疾患，神経筋疾患などの中枢神経疾患の臨床像を理解し，その生活機能障害に対して，適切な作業療法が選択できる知識と技能を修得することを目的とする（当該科目と学位授与方針等との関連性；0-1）.

(方法)

配布資料・参考書を用いて，中枢神経疾患に対する評価から治療に至る作業療法過程について講義を行う.

【一般教育目標(GIO)】

各疾患の臨床像と生活機能障害について理解できる.
各疾患に対し，適切な評価と介入方法について理解することができる.

【行動目標(SBO)】

各疾患に対する作業療法の目的，介入過程，介入内容を説明することができる.
各疾患の臨床像と生活機能障害について説明することができる.
各疾患の臨床像と生活機能障害に対し，適切な評価と介入方法を選択することができる.

【教科書・リザーブドブック】

特になし

【参考書】

長谷公隆（編）「運動学習理論に基づくリハビリテーションの実践」（第2版），医歯薬出版，2016年，5,000円（税別）.
田崎義昭，斎藤佳雄，坂井文彦，濱田潤一，飯塚高浩「ベッドサイドの神経の診かた」（第18版」，南山堂，2016年，7,200円（税別）.

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は，本学学則規程のGPA制度に従う．成績評価は，期末試験・レポートなど総合的に評価する．出席点は評価に含みません.

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80						20	100
評価指標	取り込む力・知識	40						10	50
	思考・推論・創造の力	40						10	50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	生活期における作業療法①	□ 講義・実技（齋藤）	配布された資料、参考書等で該当する箇所の復習を行うこと。	60
2	生活期における作業療法②	□ 講義・実技（齋藤）	配布された資料、参考書等で該当する箇所の復習を行うこと。	60
3	生活期における作業療法③	□ 講義・実技（齋藤）	配布された資料、参考書等で該当する箇所の復習を行うこと。	60
4	生活期における作業療法④	□ 講義・実技（齋藤）	配布された資料、参考書等で該当する箇所の復習を行うこと。	60
5	脊髄損傷の作業療法①	講義（佐藤）	配布された資料、参考書等で該当する箇所の復習を行うこと。	60
6	脊髄損傷の作業療法②	講義（佐藤）	配布された資料、参考書等で該当する箇所の復習を行うこと。	60
7	中枢神経疾患に対する作業療法治療学の基本的知識①（介入過程，方法，安全管理等）	講義（増田）	配布された資料，参考書等で該当する箇所の復習を行うこと.	60
8	中枢神経疾患に対する作業療法治療学の基本的知識②（運動学習，運動制御，予後予測等）	講義（増田）	配布された資料，参考書等で該当する箇所の復習を行うこと.	60

9	パーキンソン病に対する作業療法 具合的なアプローチ方法について理解する。	講義（田邉）	配布された資料、参考書等で該当する箇所の復習を行うこと。	60
10	脊髄小脳変性症に対する作業療法 具体的なアプローチ方法について理解する。	講義（小林）	配布された資料、参考書等で該当する箇所の復習を行うこと。	60
11	脊髄損傷の作業療法③	実技・講義（佐藤）	配布された資料、参考書等で該当する箇所の復習を行うこと。	60
12	脊髄損傷の作業療法④	実技・講義（佐藤）	配布された資料、参考書等で該当する箇所の復習を行うこと。	60
13	脳血管疾患に対する作業療法①	講義（増田）	配布された資料、参考書等で該当する箇所の復習を行うこと。	60
14	脳血管疾患に対する作業療法②	講義・演習（増田）	配布された資料，参考書等で該当する箇所の復習を行うこと.	60
15	筋萎縮性側索硬化症に対する作業療法 具体的なアプローチ方法について理解する。	講義（渋谷）	配布された資料，参考書等で該当する箇所の復習を行うこと.	60

リハビリテーション学科

【科目名】	中枢神経疾患作業療法治療学演習			【担当教員】	増田　雄亮
【授業区分】	専門分野(作業療法治療学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	通年(前期)	【選択必修】	必修	masuda@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	30	(オフィスアワー) 火曜日 13:00～18:00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

生理学，解剖学，運動学，臨床医学の知識を修得しておくこと.
作業療法評価学の知識および技能を再学習しておくこと.

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

実技演習できる服装で参加すること．学生同士協力し，技能修得に努めること.
実技の練習時間を確保し，自ら積極的に学ぶこと.
本試験のフィードバックが必要な学生は，担当教員に確認しにいくこと.
レポート等は，他に支障のない限り返却します.

【講義概要】

(目的)

脳血管障害，脊髄損傷などの中枢神経障害に対する適切な作業療法技術の習熟を目的とする（当該科目と学位授与方針等との関連性；0-1）.

(方法)

専任教員の指導を仰ぎながら中枢神経疾患に対する作業療法技術の演習を行う.

【一般教育目標(GIO)】

各疾患に対する作業慮法の知識と技術を修得することができる.
各疾患に対する作業療法の方向性を示すことができる.

【行動目標(SBO)】

各疾患に対し，作業慮法評価を適切に実施することができる.
各疾患に対する作業療法のさまざまな介入方法について説明することができる.
評価に基づいて，作業療法目標と具体的なプログラムを立案することができる.
プログラム立案までの思考過程について，具体的に説明することができる.

【教科書・リザーブドブック】

日本作業療法士協会監修，菅原洋子（編）「業療法学全書改訂第3版第4巻 作業治療学1 身体障害」，協同医書出版社，2008年，4,104円（税込）.
山口昇，玉垣努（編）「標準作業療法学専門分野 身体機能作業療法学」（第3版），医学書院，2016年，5,000円（税別）.

【参考書】

長谷公隆（編）「運動学習理論に基づくリハビリテーションの実践」（第2版），医歯薬出版，2016年，5,000円（税別）.
Jerome E Bickenbach. Alexandra Rauch. Gerold Stucki. et al，日本リハビリテーション医学会監訳「ICFコアセット 臨床実践のためのマニュアル」，医歯薬出版，2015年，5,200円（税別）.

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は，本学学則規程のGPA制度に従う．成績評価は，期末試験・レポートなど総合的に評価する．出席点は評価に含みません.

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50		20		30			100
評価指標	取り込む力・知識	30		10		20			60
	思考・推論・創造の力	20		10		10			40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	中枢神経疾患に対する作業療法評価と介入プロセス	講義	教科書の該当部分を復習すること.	
2	標準予防策 安全管理（バイタルサイン）	講義・演習	習得した実技について学生同士で体を使って復習しておくこと.	60
3	作業分析と動作分析①	講義・演習	習得した実技について学生同士で体を使って復習しておくこと.	60
4	作業分析と動作分析②	講義・演習	習得した実技について学生同士で体を使って復習しておくこと.	60
5	作業分析と動作分析③	講義・演習	習得した実技について学生同士で体を使って復習しておくこと.	60
6	作業分析と動作分析④	講義・演習	習得した実技について学生同士で体を使って復習しておくこと.	60
7	関節可動域測定と関節可動域訓練①	講義・演習	習得した実技について学生同士で体を使って復習しておくこと.	60
8	関節可動域測定と関節可動域訓練②	講義・演習	習得した実技について学生同士で体を使って復習しておくこと.	60

9	筋力検査と筋力増強訓練①	講義・演習	習得した実技について学生同士で体を使って復習しておくこと.	60
10	筋力検査と筋力増強訓練②	講義・演習	習得した実技について学生同士で体を使って復習しておくこと.	60
11	運動麻痺に対する評価と介入①	講義・演習	習得した実技について学生同士で体を使って復習しておくこと.	60
12	運動麻痺に対する評価と介入②	講義・演習	習得した実技について学生同士で体を使って復習しておくこと.	60
13	感覚・知覚の検査と知覚再教育	講義・演習	習得した実技について学生同士で体を使って復習しておくこと.	60
14	運動失調に対する評価と介入	講義・演習	習得した実技について学生同士で体を使って復習しておくこと.	60
15	姿勢・バランスの評価と介入①	講義・演習	習得した実技について学生同士で体を使って復習しておくこと.	60
16	姿勢・バランスの評価と介入②	講義・演習	習得した実技について学生同士で体を使って復習しておくこと.	60
17	事例検討① （評価・目標設定・プログラム立案）	講義・演習	事例検討を通して，作業療法目標とプログラムを立案する過程を復習・予習しておくこと.	60
18	事例検討② （評価・目標設定・プログラム立案）	講義・演習	事例検討を通して，作業療法目標とプログラムを立案する過程を復習・予習しておくこと.	60
19	事例検討③ （評価・目標設定・プログラム立案）	講義・演習	事例検討を通して，作業療法目標とプログラムを立案する過程を復習・予習しておくこと.	60

20	事例検討④ （評価・目標設定・プログラム立案）	講義・演習	事例検討を通して，作業療法目標とプログラムを立案する過程を復習・予習しておくこと.	60
21	総合演習①	講義・演習	事例検討を通して，作業療法目標とプログラムを立案する過程を復習・予習しておくこと.	60
22	総合演習②	講義・演習	事例検討を通して，作業療法目標とプログラムを立案する過程を復習・予習しておくこと.	60
23	総合演習③	講義・演習	事例検討を通して，作業療法目標とプログラムを立案する過程を復習・予習しておくこと.	60
24	総合演習④	講義・演習	事例検討を通して，作業療法目標とプログラムを立案する過程を復習・予習しておくこと.	60
25	総括①	講義・演習	習得した実技について学生同士で体を使って復習しておくこと.	60
26	総括②	講義・演習	習得した実技について学生同士で体を使って復習しておくこと.	60

リハビリテーション学科

【科目名】	中枢神経疾患作業療法治療学演習		【担当教員】 増田　雄亮
【授業区分】	専門分野(作業療法治療学)	【授業コード】	(メールアドレス)
【開講時期】	通年(後期)	【選択必修】 必修	masuda@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	(オフィスアワー) 火曜日 13:00～18:00

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

生理学，解剖学，運動学，臨床医学の知識を修得しておくこと.
作業療法評価学の知識および技能を再学習しておくこと.

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

実技演習できる服装で参加すること．学生同士協力し，技能修得に努めること.
実技の練習時間を確保し，自ら積極的に学ぶこと.
本試験のフィードバックが必要な学生は，担当教員に確認しにいくこと.
レポート等は，他に支障のない限り返却します.

【講義概要】

(目的)

脳血管障害，脊髄損傷などの中枢神経障害に対する適切な作業療法技術の習熟を目的とする（当該科目と学位授与方針等との関連性；0-1）.

(方法)

専任教員の指導を仰ぎながら中枢神経疾患に対する作業療法技術の演習を行う.

【一般教育目標(GIO)】

各疾患に対する作業慮法の知識と技術を修得することができる.
各疾患に対する作業療法の方向性を示すことができる.

【行動目標(SBO)】

各疾患に対し，作業慮法評価を適切に実施することができる.
各疾患に対する作業療法のさまざまな介入方法について説明することができる.
評価に基づいて，作業療法目標と具体的なプログラムを立案することができる.
プログラム立案までの思考過程について，具体的に説明することができる.

【教科書・リザーブドブック】

日本作業療法士協会監修，菅原洋子（編）「業療法学全書改訂第3版第4巻 作業治療学1 身体障害」，協同医書出版社，2008年，4,104円（税込）.
山口昇，玉垣努（編）「標準作業療法学専門分野 身体機能作業療法学」（第3版），医学書院，2016年，5,000円（税別）.

【参考書】

長谷公隆（編）「運動学習理論に基づくリハビリテーションの実践」（第2版），医歯薬出版，2016年，5,000円（税別）.
Jerome E Bickenbach. Alexandra Rauch. Gerold Stucki. et al，日本リハビリテーション医学会監訳「ICFコアセット 臨床実践のためのマニュアル」，医歯薬出版，2015年，5,200円（税別）.

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は，本学学則規程のGPA制度に従う．成績評価は，期末試験・レポートなど総合的に評価する．出席点は評価に含みません.

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50		20		30			100
評価指標	取り込む力・知識	30		10		20			60
	思考・推論・創造の力	20		10		10			40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	中枢神経疾患に対する作業療法評価と介入プロセス	講義	教科書の該当部分を復習すること.	
2	標準予防策 安全管理（バイタルサイン）	講義・演習	習得した実技について学生同士で体を使って復習しておくこと.	60
3	作業分析と動作分析①	講義・演習	習得した実技について学生同士で体を使って復習しておくこと.	60
4	作業分析と動作分析②	講義・演習	習得した実技について学生同士で体を使って復習しておくこと.	60
5	作業分析と動作分析③	講義・演習	習得した実技について学生同士で体を使って復習しておくこと.	60
6	作業分析と動作分析④	講義・演習	習得した実技について学生同士で体を使って復習しておくこと.	60
7	関節可動域測定と関節可動域訓練①	講義・演習	習得した実技について学生同士で体を使って復習しておくこと.	60
8	関節可動域測定と関節可動域訓練②	講義・演習	習得した実技について学生同士で体を使って復習しておくこと.	60

9	筋力検査と筋力増強訓練①	講義・演習	習得した実技について学生同士で体を使って復習しておくこと.	60
10	筋力検査と筋力増強訓練②	講義・演習	習得した実技について学生同士で体を使って復習しておくこと.	60
11	運動麻痺に対する評価と介入①	講義・演習	習得した実技について学生同士で体を使って復習しておくこと.	60
12	運動麻痺に対する評価と介入②	講義・演習	習得した実技について学生同士で体を使って復習しておくこと.	60
13	感覚・知覚の検査と知覚再教育	講義・演習	習得した実技について学生同士で体を使って復習しておくこと.	60
14	運動失調に対する評価と介入	講義・演習	習得した実技について学生同士で体を使って復習しておくこと.	60
15	姿勢・バランスの評価と介入①	講義・演習	習得した実技について学生同士で体を使って復習しておくこと.	60
16	姿勢・バランスの評価と介入②	講義・演習	習得した実技について学生同士で体を使って復習しておくこと.	60
17	事例検討① （評価・目標設定・プログラム立案）	講義・演習	事例検討を通して，作業療法目標とプログラムを立案する過程を復習・予習しておくこと.	60
18	事例検討② （評価・目標設定・プログラム立案）	講義・演習	事例検討を通して，作業療法目標とプログラムを立案する過程を復習・予習しておくこと.	60
19	事例検討③ （評価・目標設定・プログラム立案）	講義・演習	事例検討を通して，作業療法目標とプログラムを立案する過程を復習・予習しておくこと.	60

20	事例検討④ （評価・目標設定・プログラム立案）	講義・演習	事例検討を通して，作業療法目標とプログラムを立案する過程を復習・予習しておくこと.	60
21	総合演習①	講義・演習	事例検討を通して，作業療法目標とプログラムを立案する過程を復習・予習しておくこと.	60
22	総合演習②	講義・演習	事例検討を通して，作業療法目標とプログラムを立案する過程を復習・予習しておくこと.	60
23	総合演習③	講義・演習	事例検討を通して，作業療法目標とプログラムを立案する過程を復習・予習しておくこと.	60
24	総合演習④	講義・演習	事例検討を通して，作業療法目標とプログラムを立案する過程を復習・予習しておくこと.	60
25	総括①	講義・演習	習得した実技について学生同士で体を使って復習しておくこと.	60
26	総括②	講義・演習	習得した実技について学生同士で体を使って復習しておくこと.	60

リハビリテーション学科

【科目名】	運動器疾患作業療法治療学			【担当教員】 大山　峰生、藤目　智博、水越　真優美
【授業区分】	専門分野(作業療法治療学)	【授業コード】	4-23-0890-0-1	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー)講義開講日、非常勤控室にて対応

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

生理学、解剖学、運動学、臨床医学の知識を整理しておくこと。
作業療法評価学の知識および技能を再学習しておくこと。

【講義概要】

(目的)

整形外科領域の様々な疾病や障害（骨折、末梢神経損傷、腱損傷、関節リウマチなど）に対する作業療法の目的や支援法、ならびに作業療法効果について学修することを目的とする。

(方法)

教科書、配布資料などに沿って各疾病や障害に対する作業療法について講義を行う。

【一般教育目標(GIO)】

・運動器疾患の臨床像とその生活機能障害について理解する。
・運動器疾患に対する作業療法評価から治療に至る過程を理解する。

【行動目標(SBO)】

・各疾患の臨床像とその生活機能障害について説明できる。
・運動器疾患の作業療法について、その目的と治療、指導、援助内容が説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

山口昇・玉垣努・編『身体機能作業療法学』第3版　標準作業療法学　医学書院,2016.　¥5,000（税別）
中田眞由美・大山峰生・著：作業療法士のためのハレドセラピー入門.　三輪書店,2006.　¥3,990（税込み）

【参考書】

・日本作業療法士協会監修,作業療法学全書［改定第3版］第4巻作業治療学1身体障害,協同医書出版,2008.　¥3,800（税別）

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70	20					10	100
評価指標	取り込む力・知識	30	10						40
	思考・推論・創造の力	30	10						40
	コラボレーションとリーダーシップ							5	5
	発表力								
	学修に取り組む姿勢	10						5	15

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	運動器疾患に対する作業療法総論	講義 大山峰生	予習：次回単元の教科書を読んでおく。 復習：本講義のまとめをする。	60
2	骨折に対する作業療法①	講義 大山峰生	予習：次回単元の教科書を読んでおく。 復習：本講義のまとめをする。	60
3	骨折に対する作業療法②	講義 大山峰生	予習：次回単元の教科書を読んでおく。 復習：本講義のまとめをする。	60
4	腱損傷に対する作業療法①	講義 大山峰生	予習：次回単元の教科書を読んでおく。 復習：本講義のまとめをする。	60
5	腱損傷に対する作業療法②	講義 大山峰生	予習：次回単元の教科書を読んでおく。 復習：本講義のまとめをする。	60
6	腱損傷に対する作業療法③	講義 大山峰生	予習：次回単元の教科書を読んでおく。 復習：本講義のまとめをする。	60
7	末梢神経に対する作業療法①	講義 藤目智博	予習：次回単元の教科書を読んでおく。 復習：本講義のまとめをする。	60
8	末梢神経に対する作業療法②	講義 藤目智博	予習：次回単元の教科書を読んでおく。 復習：本講義のまとめをする。	60

9	末梢神経に対する作業療法③	講義 藤目智博	予習：次回単元の教科書を読んでおく。 復習：本講義のまとめをする。	60
10	大腿骨頚部骨折に対する作業療法	講義 藤目智博	予習：次回単元の教科書を読んでおく。 復習：本講義のまとめをする。	60
11	熱傷に対する作業療法	講義 藤目智博	予習：次回単元の教科書を読んでおく。 復習：本講義のまとめをする。	60
12	関節リウマチに対する作業療法①	講義 水越真優美	予習：次回単元の教科書を読んでおく。 復習：本講義のまとめをする。	60
13	関節リウマチに対する作業療法②	講義 水越真優美	予習：次回単元の教科書を読んでおく。 復習：本講義のまとめをする。	60
14	関節リウマチに対する作業療法③	講義 水越真優美	予習：次回単元の教科書を読んでおく。 復習：本講義のまとめをする。	60
15	関節リウマチに対する作業療法④	講義 水越真優美	予習：次回単元の教科書を読んでおく。 復習：本講義のまとめをする。	60

リハビリテーション学科

【科目名】	作業療法治療学実習Ⅰ（OSCE等）			【担当教員】 貝淵　正人
【授業区分】	専門分野(作業療法治療学)	【授業コード】		(メールアドレス)
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	
【単位数】	1	【コマ数】	30	(オフィスアワー)

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・臨床実習を想定した授業である。実習生としての心構えを持って講義に望むこと。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・学生同士の小グループ（模擬患者、療法士役）に分かれ実施する。
・講義内容に記された項目について、臨床に必要な知識、技術、態度について講義、演習を行う。
・動きやすい服装で臨むこと。
・実技試験のフィードバックは、試験後にアナウンスを行う。
・レポート課題のフィードバックの希望学生は、各自で担当教員のところに行くこと。

【講義概要】

(目的)

学生が自己の臨床能力の到達水準を客観的に知り、不足している技能の学習を進めることで臨床能力の向上を目的とする。
当該科目と学位授与方針等との関連性；0-1,2

(方法)

臨床で求められるコミュニケーション技法や検査・測定技術等について、講義、演習、実技を実施する。

【一般教育目標(GIO)】

・臨床上、特に臨床実習Ⅰ（見学・体験実習）に必要な知識・技術･態度について理解する。
・臨床に必要な自己管理、コミュニケーション、患者の介助、評価実施について活用することができる。

【行動目標(SBO)】

・各項目の目的や意義について述べることができる。
・各項目の技術、態度について的確に実施することができる。
・臨床実習までの自己課題について述べることができる。

【教科書・リザーブドブック】

特になし

【参考書】

・才藤栄一監修,『PT・OTのためのOSCE　コミュニケーションと介助・検査測定編』　金原出版株式会社, 2015年, ¥5,500（税別）
・才藤栄一監修,『PT・OTのためのOSCE　機能障害・能力低下への介入編』　金原出版株式会社, 2017年, ¥5,500（税別）

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。
・定期試験40%、実技試験40%、レポート20%の割合で総合的に判定する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		40		20		40			100
評価指標	取り込む力・知識	40		10		20			70
	思考・推論・創造の力			10		20			30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1,2	標準予防策（スタンダードプレコーション） リスク管理	講義・演習		60
3,4	コミュニケーション技法及び面接①	講義・演習		60
5,6	コミュニケーション技法及び面接②	講義・演習		60
7,8	三角巾・装具の装着、車椅子駆動介助	講義・演習		60
9,10	移乗介助①	講義・演習		60
11,12	移乗介助②	講義・演習		60
13,14	バイタルサイン	講義・演習		60
15,16	関節可動域測定①	講義・演習		60

17, 18	関節可動域測定②	講義・演習		60
19, 20	筋力測定①	講義・演習		60
21, 22	筋力測定②	講義・演習		60
23, 24	実技試験①			
25, 26	実技試験②			
27, 28	実技試験③			
29, 30	実技試験④			

リハビリテーション学科

【科目名】	精神障害作業療法治療学			【担当教員】	澁井　実
【授業区分】	専門分野(作業療法治療学)	【授業コード】	4-23-0895-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	shibui@nur.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 火～木　12：40～13：30	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・講義には休まず出席すること。やむを得ず欠席・遅刻・早退する場合は、事前に連絡すること。
・欠席した場合、資料は教科担当者まで自身の責任で取りに来ること。
・この科目は、実務経験者対応科目である。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・指定図書、参考書は事前に読んでおくこと。

【講義概要】

(目的)

統合失調症やうつ病といった精神疾患・障害に対して、疾患および障害について理解でき、適切な作業療法が選択できる能力を身に付けられることを目的とする。
当該科目と学位授与方針等との関連性；A-2,3　O-1,2

(方法)

教科書や配布資料などによって、各種精神障害に対する作業療法についての講義を行う。

【一般教育目標(GIO)】

・作業療法における主たる対象である精神障害について理解する。
・各精神障害に対する基本的対応について理解する。

【行動目標(SBO)】

・各精神障害の特徴と障害構造について説明できる。
・各疾患に適した基本的対応について説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

・朝田隆、中島直、堀田英樹『精神疾患の理解と精神科作用療法』第2版、中央法規、2012年、￥3,800

【参考書】

・適宜紹介する。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は、本学学則既定のGPA制度に従う。
・レポート（まとめノート）（20%）、期末試験（80%）の割合で総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80		20					100
評価指標	取り込む力・知識	40		10					50
	思考・推論・創造の力	30		10					40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢	10							10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	精神障害リハビリテーションの基本的視点	講義	配布資料の該当箇所を読む	
2	統合失調症の理解と作業療法①	講義	配布資料の該当箇所を読む	
3	統合失調症の理解と作業療法②	講義	配布資料の該当箇所を読む	
4	統合失調症の回復過程	講義	配布資料の該当箇所を読む	
5	統合失調症の認知機能障害	講義	配布資料の該当箇所を読む	
6	双極性障害の理解と作業療法	講義	教科書ｐ.120-161を読む	
7	パニック障害の理解と作業療法	講義	教科書ｐ.162-170を読む	
8	解離性障害の理解と作業療法	講義	教科書ｐ.171-175、配布資料の該当箇所を読む	

9	強迫性障害の理解と作業療法	講義	教科書ｐ.176-184を読む	
10	摂食障害の理解と作業療法	講義	教科書ｐ.185-195を読む	
11	アルコール依存の理解と作業療法	講義	教科書ｐ.196-228を読む	
12	境界性パーソナリティ障害の理解と作業療法	講義	教科書ｐ.229-239を読む	
13	てんかんの理解と作業療法	講義	配布資料の該当箇所を読む	
14	認知症・発達障害の理解と作業療法	講義	教科書、配布資料の該当箇所を読む	
15	まとめ	講義	教科書、配布資料の該当箇所を読む	

リハビリテーション学科

【科目名】	精神障害作業療法治療学演習			【担当教員】	澁井　実
【授業区分】	専門分野(作業療法治療学)	【授業コード】	4-23-0900-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	shibui@nur.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 火～木　12：40～13：30	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・講義には休まず出席すること。やむを得ず欠席・遅刻・早退する場合は、事前に連絡すること。
・欠席した場合、資料は教科担当者まで自身の責任で取りに来ること。
・この科目は、実務経験者対応科目である。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・指定図書、参考書は事前に読んでおくこと。
・課題は、期日までに提出すること。
・積極的に、学生同士のディスカッションに参加すること。

【講義概要】

(目的)

統合失調症を中心に、精神障害に対する作業療法評価から作業療法計画立案に至る考え方のプロセスについて理解することを目的とする。
当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1,2,3　O-1,2

(方法)

模擬提示されたケースについて、教員の指導を仰ぎながら学生同士でディスカッションを重ね、作業療法評価から作業療法計画立案に至る考え方のプロセスについて、模擬体験しながら学ぶ。

【一般教育目標(GIO)】

・ケースに応じた作業療法評価から、問題点・利点の抽出について理解する。
・ケースの問題点・利点から、作業療法目標の設定について理解する。
・ケースの作業療法目標から、作業療法計画立案について理解する。

【行動目標(SBO)】

・ケースの持つ疾患・障害の臨床像について、必要資料を自身で検索・確認できる。
・与えられた課題内容について、自身の考えを他学生に適切な表現で伝達できる。
・与えられた課題内容について、他学生とディスカッションできる。
・ディスカッションの結果、作業療法計画立案に至る自身の考えた思考過程を的確に文書表現できる。

【教科書・リザーブドブック】

・適宜、資料を配布する。

【参考書】

・適宜紹介する。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は、本学学則既定のGPA制度に従う。
・本講義への参加態度・発言内容など成果発表（50%）、ポートフォリオ（50%）の割合で総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合					50		50		100
評価指標	取り込む力・知識								0
	思考・推論・創造の力				25		25		50
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢				25		25		50

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	オリエンテーション	講義	レポート課題、ポートフォリオ作成	90
2	事例検討①	演習（グループ学習）	レポート課題、ポートフォリオ作成	90
3	事例検討①	演習（グループ学習）	レポート課題、ポートフォリオ作成	90
4	事例検討①	演習（グループ学習）	レポート課題、ポートフォリオ作成	90
5	事例検討②	演習（グループ学習）	レポート課題、ポートフォリオ作成	90
6	事例検討②	演習（グループ学習）	レポート課題、ポートフォリオ作成	90
7	事例検討②	演習（グループ学習）	レポート課題、ポートフォリオ作成	90
8	事例検討③	演習（グループ学習）	レポート課題、ポートフォリオ作成	90

9	事例検討③	演習（グループ学習）	レポート課題、ポートフォリオ作成	90
10	事例検討③	演習（グループ学習）	レポート課題、ポートフォリオ作成	90
11	事例検討④	演習（グループ学習）	レポート課題、ポートフォリオ作成	90
12	事例検討④	演習（グループ学習）	レポート課題、ポートフォリオ作成	90
13	事例検討④	演習（グループ学習）	レポート課題、ポートフォリオ作成	90
14	事例検討⑤	演習（グループ学習）	レポート課題、ポートフォリオ作成	90
15	まとめ	講義および演習	ポートフォリオ作成	90

リハビリテーション学科

【科目名】	発達障害作業療法治療学			【担当教員】	田中　善信、立川　裕子、小川　友美、佐々木　清子
【授業区分】	専門分野(作業療法治療学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修		
【単位数】	2	【コマ数】	30	(オフィスアワー)	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・発達障害作業療法（講義）を既に習得しておくことが前提である。
・講義及び、小グループ編成によるディスカッション、発表を行いながら授業を進める。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・発達障害作業療法（講義）の内容を復習しておくこと
・講義で配布する資料の予備は保管しません。出席者からコピーしてもらうこと。
・講義中の板書、スライドの携帯電話での撮影は禁止する。

【講義概要】

(目的)

肢体不自由児（脳性まひなど）の運動障害や発達障害（自閉症やアスペルガーなど）の認知の障害の評価結果から、治療プログラム立案までのプロセスについて学修することを目的とする。

(方法)

教科書と配布資料、ビデオ教材などによる身体面・認知面における発達障害の演習が中心となる。

【一般教育目標(GIO)】

肢体不自由児（脳性まひなど）の運動障害の評価結果から治療プログラム立案までのプロセスの概要を述べることができる。
発達障害（自閉症やアスペルガーなど）の評価結果から治療プログラム立案までのプロセスの概要を述べることができる。
家族援助、就学、就労支援の概要を述べることができる。

【行動目標(SBO)】

肢体不自由児（脳性まひなど）の運動障害の評価結果から治療プログラム立案までのプロセスを演習し習得する。
発達障害（自閉症やアスペルガーなど）のの評価結果から治療プログラム立案までのプロセスを演習し習得する。

【教科書・リザーブドブック】

①岩崎清隆「発達障害の作業療法　基礎編　第2版」三輪書店　2015年
②岩崎清隆「発達障害の作業療法　実践編　第2版」三輪書店　2015年
③Eva Bower 上杉　雅之監訳：脳性麻痺児の家庭療育　第４版、医歯薬出版株式会社

【参考書】

・適宜提示、配布をする。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学学則規定のＧＰＡ制度に従う。
・定期試験（田中10点、佐々木20点、小川15点、立川5点）、小テスト（5回）により総合的に判断する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50	50						100
評価指標	取り込む力・知識	30	30						60
	思考・推論・創造の力	20							20
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢		20						20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	コースオリエンテーション 発達障害の作業療法プロセス	講義（田中）	教科書①「第Ⅲ章作業療法というアプローチ」、 教科書②「第Ⅲ章作業療法における治療」を読んでおくこと。	30
2	発達障害領域の作業療法を支える基礎知識の統合①　～様々な検査の概要～	講義（田中）	教科書②「第Ⅱ章発達検査から学ぶこと」を読むこと。	30
3	発達障害領域の作業療法を支える基礎知識の統合②　～様々な検査の概要～	講義（田中）	教科書②「第Ⅱ章発達検査から学ぶこと」を読むこと。	30
4	発達障害領域の作業療法を支える基礎知識の統合③　～検査の体験～	講義・演習（田中）	教科書②「第Ⅱ章発達検査から学ぶこと」を読むこと。	30
5	発達障害領域の作業療法を支える基礎知識の統合④　～検査の体験～	講義・演習（田中）	教科書②「第Ⅱ章発達検査から学ぶこと」を読むこと。	30
6	発達障害領域の作業療法を支える基礎知識の統合⑤　～検査の体験～	講義・演習（田中）	教科書②「第Ⅱ章発達検査から学ぶこと」を読むこと。	30
7	発達障害領域の作業療法を支える基礎知識の統合⑥　～検査の体験～	講義・演習（田中）	教科書②「第Ⅱ章発達検査から学ぶこと」を読むこと。	30
8	発達障害領域の作業療法を支える基礎知識の統合⑤　～遊びの発達～	講義（田中）	《小テスト①》 教科書①「第Ⅷ章発達障害の作業療法の基礎となる手段−遊び」・教科書②「第Ⅵ章遊びと学習の支援」を読んでおく。	30

9	発達障害領域の作業療法を支える基礎知識の統合⑥　～遊びの発達～	講義・演習（田中）	教科書①「第Ⅷ章発達障害の作業療法の基礎となる手段-遊び」・教科書②「第Ⅵ章遊びと学習の支援」を読んでおく。	30
10	発達障害領域における作業療法の技術　感覚統合理論①（理論と実践について）	講義（小川）	小児科学で履修した発達障害、生理学の感覚について復習しておくこと。	120
11	感覚統合理論②	講義（小川）	小児科学で履修した発達障害、生理学の感覚について復習しておくこと。	120
12	感覚統合理論③（遊びの作業分析）	講義（小川）	小児科学で履修した発達障害、生理学の感覚について復習しておくこと。	120
13	感覚統合理論④	講義（小川）	小児科学で履修した発達障害、生理学の感覚について復習しておくこと。	120
14	発達障害児の作業療法① ～対象となる子どもたちの概要～ （ASD児の評価と介入）	講義（小川）	教科書②「第Ⅶ章問題行動の理解とその対処」を読んでおくこと。	120
15	発達障害児の作業療法② ～対象となる子どもたちの概要～ （ADHD・LDの評価と介入）	講義（小川）	教科書②「第Ⅶ章問題行動の理解とその対処」を読んでおくこと。	120
16	発達障害児の作業療法② ～対象となる子どもたちの概要～ （問題行動の理解とその対処）	講義（小川）	教科書②「第Ⅶ章問題行動の理解とその対処」を読んでおくこと。 《小テスト②》	120
17	発達障害児の作業療法②　（事例検討）	講義（小川）	課題》 事例を提示し、プログラムを立案する。	120
18	発達障害児の作業療法③（事例検討）	講義（小川）	課題》 事例を提示し、プログラムを立案する。	120
19	脳性麻痺児の評価と介入① （脳性麻痺児とは、遊びの分析）	講義（佐々木）	人間発達の遊びを復習しておく。脳性麻痺児の治療でよく使う玩具の活動分析を行う。	120

20	脳性麻痺児の評価と介入② （姿勢の特徴）	講義（佐々木）	各姿勢の特徴を、実技を通して学ぶ。動きやすい服装で参加 《①小テストを行う》	120
21	脳性麻痺児の評価と介入③ （痙直型四肢麻痺児の実際）	講義（佐々木）	痙直型四肢麻痺の評価、治療について、グループ発表を行う。	120
22	脳性麻痺児の評価と介入④ （痙直型両麻痺の実際）	講義（佐々木）	痙直型両麻痺の評価、治療について、グループ調べて発表を行う。	120
23	脳性麻痺児の評価と介入⑤ （不随運動型の実際）	講義（佐々木）	不随運動型の評価、治療について、グループ発表を行う。	120
24	脳性麻痺児の評価と介入⑥ （そのほかのタイプの実際）	講義（佐々木）	低緊張型の評価、治療について、グループ発表を行う。≪②小テストを行う≫	120
25	脳性麻痺児の評価と介入⑥ （日常生活指導・食事指導の実際）	講義（佐々木）	動きやすい服装で参加、食事と更衣動作の介助方法を行う。ヨーグルト、お茶、お菓子、すぷーん、紙コップ、丸首シャツ、ズボンを持参	120
26	重症心身障害児の作業療法の実際①	講義（佐々木）	グループ発表を行う。合併症について復習しておくこと。	120
27	知的障害児の作業療法の実際②	講義（佐々木）	グループ発表を行う。小児科学や関連する資料を復習しておくこと。	120
28	難病（筋ジストロフィー等）の作業療法の実際③	講義（佐々木）	グループ発表を行う。小児科学や関連する資料を復習しておくこと。≪③小テストを行う≫	120
29	特別支援教育における作業療法①	講義（立川）	事前課題等については、適宜指示をする。	120
30	特別支援教育における作業療法②	講義（立川）	事前課題等については、適宜指示をする。	120

リハビリテーション学科

【科目名】	身体障害作業療法学内演習（OSCE等）			【担当教員】	増田　雄亮
【授業区分】	専門分野(作業療法治療学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	masuda@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	3	【コマ数】	30	(オフィスアワー) 火曜日 13:00～18:00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

臨床実習を想定した授業である．実習生としての心構えを持って講義に望むこと．

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

学生同士の小グループ（模擬患者，療法士役）に分かれ実施する．
講義内容に記された項目について，臨床に必要な技術・態度について実技を中心に実施する．
動きやすい服装で望むこと．
実技試験のフィードバックは，試験後にアナウンスを行う．
レポート課題のフィードバックがほしい学生は，各自担当教員に確認にいくこと．

【講義概要】

(目的)

学生自身が臨床能力の到達水準を客観的に知り，不足している技能の学習を進めることで臨床能力の向上を図ることを目的とする（当該科目と学位授与方針等との関連性;0-1，0-2）．

(方法)

模擬症例を通して，学生のコミュニケーション能力，検査・測定技術を評価する．OSCE受験後に学生は評価者からフィードバックを受ける．

【一般教育目標(GIO)】

臨床評価実習に必要な技術・態度を身につけることができる．
臨床に必要な自己管理・コミュニケーション・評価技術を修得することができる．

【行動目標(SBO)】

臨床評価実習までの自己課題について述べることができる．
さまざまな評価項目の中から，必要な評価項目を選択することができる．
各評価の目的や意義について述べることができる．
検査・測定を正確に実施することができる．

【教科書・リザーブドブック】

市川和子（編）「標準作業療法学専門分野 臨床実習とケーススタディ」（第2版），医学書院，2005年，4,200円（税別）．
齋藤佑樹（編）「作業で語る事例報告 作業療法レジメの書きかた・考えかた」，医学書院，2014年，3,500円（税別）．

【参考書】

才藤栄一（監修）「PT・OTのための臨床技能とOSCE：コミュニケーションと介助・検査測定 編」，金原出版，2015年，5,500円（税別）．才藤栄一（監修）「機能障害・能力低下への介入編 PT・OTのための臨床技能とOSCE」，金原出版，2017年，5,500円（税別）．

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は，本学学則規程のGPA制度に従う．成績評価は，実技80%，レポート20%の割合で総合的に判定する．出席点は評価に含みません．

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				20		80			100
評価指標	取り込む力・知識			10		40			50
	思考・推論・創造の力			10		40			50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	OSCEの概要 第1回OSCE内容発表	講義	第1回OSCEに向け，グループで演習を行うこと．演習内容は，コミュニケーション，必要な検査・測定・観察項目とその手順について．	60
2	グループ演習	実技	第1回OSCEに向け，グループで演習を行うこと．演習内容は，コミュニケーション，必要な検査・測定・観察項目とその手順について．	60
3	グループ演習	実技	第1回OSCEに向け，グループで演習を行うこと．演習内容は，コミュニケーション，必要な検査・測定・観察項目とその手順について．	60
4	グループ演習	実技	第1回OSCEに向け，グループで演習を行うこと．演習内容は，コミュニケーション，必要な検査・測定・観察項目とその手順について．	60
5	グループ演習	実技	第1回OSCEに向け，グループで演習を行うこと．演習内容は，コミュニケーション，必要な検査・測定・観察項目とその手順について．	60
6	グループ演習	実技	第1回OSCEに向け，グループで演習を行うこと．演習内容は，コミュニケーション，必要な検査・測定・観察項目とその手順について．	60
7	グループ演習	実技	第1回OSCEに向け，グループで演習を行うこと．演習内容は，コミュニケーション，必要な検査・測定・観察項目とその手順について．	60
8	グループ演習	実技	第1回OSCEに向け，グループで演習を行うこと．演習内容は，コミュニケーション，必要な検査・測定・観察項目とその手順について．	60

9	グループ演習	実技	第1回OSCEに向け，グループで演習を行うこと．演習内容は，コミュニケーション，必要な検査・測定・観察項目とその手順について．	60
10	グループ演習	実技	第1回OSCEに向け，グループで演習を行うこと．演習内容は，コミュニケーション，必要な検査・測定・観察項目とその手順について．	60
11	グループ演習	実技	第1回OSCEに向け，グループで演習を行うこと．演習内容は，コミュニケーション，必要な検査・測定・観察項目とその手順について．	60
12	グループ演習	実技	第1回OSCEに向け，グループで演習を行うこと．演習内容は，コミュニケーション，必要な検査・測定・観察項目とその手順について．	60
13	グループ演習	実技	第1回OSCEに向け，グループで演習を行うこと．演習内容は，コミュニケーション，必要な検査・測定・観察項目とその手順について．	60
14	グループ演習	実技	第1回OSCEに向け，グループで演習を行うこと．演習内容は，コミュニケーション，必要な検査・測定・観察項目とその手順について．	60
15	第1回OSCE	実技	臨床能力の到達水準を客観的に知り，不足している技能の学習を進めること．	60
16	第1回OSCE	実技	臨床能力の到達水準を客観的に知り，不足している技能の学習を進めること．	60
17	第1回OSCE	実技	臨床能力の到達水準を客観的に知り，不足している技能の学習を進めること．	60
18	第1回OSCE	実技	臨床能力の到達水準を客観的に知り，不足している技能の学習を進めること．	60
19	第1回OSCE振り返り 第2回OSCE内容発表	実技	第2回OSCEに向け，グループ演習を行うこと．演習内容は，各種の身体機能検査，高次脳機能検査の正確な実施方法とその手順について．	60

20	グループ演習	実技	第2回OSCEに向け，グループ演習を行うこと．演習内容は，各種の身体機能検査，高次脳機能検査の正確な実施方法とその手順について．	60
21	グループ演習	実技	第2回OSCEに向け，グループ演習を行うこと．演習内容は，各種の身体機能検査，高次脳機能検査の正確な実施方法とその手順について．	60
22	グループ演習	実技	第2回OSCEに向け，グループ演習を行うこと．演習内容は，各種の身体機能検査，高次脳機能検査の正確な実施方法とその手順について．	60
23	グループ演習	実技	第2回OSCEに向け，グループ演習を行うこと．演習内容は，各種の身体機能検査，高次脳機能検査の正確な実施方法とその手順について．	60
24	グループ演習	実技	第2回OSCEに向け，グループ演習を行うこと．演習内容は，各種の身体機能検査，高次脳機能検査の正確な実施方法とその手順について．	60
25	グループ演習	実技	第2回OSCEに向け，グループ演習を行うこと．演習内容は，各種の身体機能検査，高次脳機能検査の正確な実施方法とその手順について．	60
26	グループ演習	実技	第2回OSCEに向け，グループ演習を行うこと．演習内容は，各種の身体機能検査，高次脳機能検査の正確な実施方法とその手順について．	60
27	第2回OSCE	実技	臨床能力の到達水準を客観的に知り，不足している技能の学習を進めること．	60
28	第2回OSCE	実技	臨床能力の到達水準を客観的に知り，不足している技能の学習を進めること．	60
29	第2回OSCE	実技	臨床能力の到達水準を客観的に知り，不足している技能の学習を進めること．	60
30	第2回OSCE	実技	臨床能力の到達水準を客観的に知り，不足している技能の学習を進めること．	60

リハビリテーション学科

【科目名】	精神障害作業療法学内演習（OSCE等）			【担当教員】	長谷川　裕
【授業区分】	専門分野(作業療法治療学)	【授業コード】	4-23-0915-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	長谷川裕〈hasegawa.y@nur05.onmicrosoft.com〉	
【単位数】	3	【コマ数】	30	(オフィスアワー)月曜～木曜、13：00～13：20	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・精神医学、精神障害に関する科目を履修していること。
（※この科目は実務経験者対応科目である。）

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・演習時に出された課題を、個人で行った後、グループで討議し発表を行います。
・個人で行った課題は時間内での提出となります。
・提出された課題は評価の対象となります。欠席により課題を行えなかった場合には、その課題の評価点は与えられません。
・遅刻は授業開始後20分まで、早退は終了20分前までそれ以上の遅刻、早退はすべて欠席扱いとなります。
・課題は他に支障のない限り返却します。

【講義概要】

(目的)

精神に障害のある人の環境も含めた障害構造を理解すること。
対象者の外観、行動を観察する視点を理解すること。
当該科目と学位授与方針等との関連性；0-1

(方法)

配布資料の事例を通し、ICF(国際生活機能分類）を用いて、症例についての評価・まとめ方を修得する。
視聴覚教材や配布資料の事例を通し、対象者の観察、評価を行う。

【一般教育目標(GIO)】

・精神障害作業療法における臨床能力を高めるために、障害構造や観察技法を理解し、それをもとに対象者への治療・指導・支援について考えられるようになる。

【行動目標(SBO)】

・ICFを用いて、事例の生活機能と障害を分類し説明できる。
・事例の外観、行動を評価項目に沿って記述できる。
・事例について障害構造を基に、治療・指導・支援内容を具体的に考えることができる。

【教科書・リザーブドブック】

・「ICF 国際生活機能分類」-国際障害分類改訂版-，中央法規，2002年，￥3,500（税別）

【参考書】

・小林夏子編集『標準作業療法学専門分野 精神機能作業療法学』第2版，医学書院，2014年,¥3,800(税別)
・朝田隆、中島直、堀田英樹『精神疾患の理解と精神科作業療法』第2版，中央法規，2012年，¥3,800(税別)
・山根寛著 『精神障害と作業療法』 新版，三輪書店，2017年，¥4,000(税別)

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のＧＰＡ制度に従う。
出席点は評価に含みません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				60				40	100
評価指標	取り込む力・知識			20				20	40
	思考・推論・創造の力			30					30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢			10				20	30

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	オリエンテーション、事例検討（評価のまとめ方）	講義、演習	疾患について（統合失調症）についての復習	60
2	事例検討（評価のまとめ方）	演習	疾患について（統合失調症）についての復習	60
3	事例検討（評価のまとめ方）	演習	疾患について（統合失調症）についての復習	60
4	事例検討（評価のまとめ方）	演習	疾患について（統合失調症）についての復習	60
5	事例検討（評価のまとめ方）	演習	疾患について（統合失調症）についての復習	60
6	事例検討（評価のまとめ方）	演習	疾患について（統合失調症）についての復習	60
7	事例検討（評価のまとめ方）	演習	疾患について（統合失調症）についての復習	60
8	事例検討（評価のまとめ方）	演習	疾患について（統合失調症）についての復習	60

9	事例検討（評価のまとめ方）	演習	疾患について（気分障害）についての復習	60
10	事例検討（評価のまとめ方）	演習	疾患について（気分障害）についての復習	60
11	事例検討（評価のまとめ方）	演習	疾患について（気分障害）についての復習	60
12	事例検討（評価のまとめ方）	演習	疾患について（気分障害）についての復習	60
13	事例検討（評価のまとめ方）	演習	疾患について（気分障害）についての復習	60
14	事例検討（評価のまとめ方）	演習	疾患について（気分障害）についての復習	60
15	事例検討（評価のまとめ方）	演習	疾患について（気分障害）についての復習	60
16	事例検討（評価のまとめ方）	演習	疾患について（気分障害）についての復習	60
17	精神疾患の理解（視聴覚資料を用いて）	演習		60
18	精神科作業療法の実際	講義		60
19	事例検討（プログラム立案、治療経過のまとめ方）	演習	疾患について（統合失調症）についての復習	60

20	事例検討（プログラム立案、治療経過のまとめ方）	演習	疾患について（統合失調症）についての復習	60
21	事例検討（プログラム立案、治療経過のまとめ方）	演習	疾患について（統合失調症）についての復習	60
22	事例検討（プログラム立案、治療経過のまとめ方）	演習	疾患について（統合失調症）についての復習	60
23	事例検討（プログラム立案、治療経過のまとめ方）	演習	疾患について（統合失調症）についての復習	60
24	事例検討（プログラム立案、治療経過のまとめ方）	演習	疾患について（統合失調症）についての復習	60
25	事例検討（プログラム立案、治療経過のまとめ方）	演習	疾患について（統合失調症）についての復習	60
26	事例検討（プログラム立案、治療経過のまとめ方）	演習	疾患について（統合失調症）についての復習	60
27	事例検討（プログラム立案、治療経過のまとめ方）	演習	疾患について（統合失調症）についての復習	60
28	事例検討（プログラム立案、治療経過のまとめ方）	演習	疾患について（統合失調症）についての復習	60
29	事例検討（プログラム立案、治療経過のまとめ方）	演習	疾患について（統合失調症）についての復習	60
30	事例検討（プログラム立案、治療経過のまとめ方）	演習	疾患について（統合失調症）についての復習	60

リハビリテーション学科

【科目名】	高次脳機能障害作業療法治療学		【担当教員】 丁子　雄希
【授業区分】	専門分野(作業療法治療学)	【授業コード】	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修
【単位数】	2	【コマ数】	15コマ

choujiyuki@gmail.com

(オフィスアワー)講義日来校時、非常勤控室にて対応

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

特になし

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

フィードバック方法：試験結果・レポートは他に支障のない限り返却します。

【講義概要】

(目的)

認知・高次脳機能障害に対する理解を深め、作業療法評価と治療技術を習得する。

(方法)

教科書と配布資料などによる高次脳機能障害治療の講義・演習が中心となる。また学生間のペア学習を通して、模擬体験を行う。

【一般教育目標(GIO)】

高次脳機能障害作業療法治療学で学んだ知識からエビデンスに基づく治療プログラムを構築できる。

【行動目標(SBO)】

・認知・高次脳機能障害の症状を列挙できる。
・障害の種類によって適切な評価を選定できる。
・治療原則および治療理論を述べられる。
・認知・高次脳機能障害の生活上の困難さ、介入原則を述べられる。

【教科書・リザーブドブック】

石合純夫・『高次脳機能障害学　第2版』　医歯薬出版株式会社、2012，￥4,400（税別）

【参考書】

能登真一（編集）・『高次脳機能障害作業療法学』標準作業療法学　専門分野　医学書院，2012，￥3,800（税別）

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学学則規定のGAP制度に従う。
・評定は多肢選択式による期末試験によって行う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70				30			100
評価指標	取り込む力・知識	50							50
	思考・推論・創造の力	10							10
	コラボレーションとリーダーシップ					20			20
	発表力								
	学修に取り組む姿勢	10				10			20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	・高次脳機能の概要を理解できる。	講義	教科書１－９ｐを読んでおく。	１５
2	・注意障害の臨床症状を把握する。 ・注意障害の評価法・治療法を理解する。	講義・実技	教科書１９３－１９７ｐを読んでおく。	１５
3	・半側空間無視の臨床症状を把握する。 ・半側空間無視の評価法・治療法を理解する。	講義・実技	教科書１５１－１７３ｐを読んでおく。	３０
4	・失語症の臨床症状を把握する。 ・失語症の評価法・治療法を理解する。	講義・実技	教科書２３－４９ｐを読んでおく。	３０
5	・失行の臨床症状を把握する。 ・失行の評価法と治療法を理解する。	講義・実技	教科書６１－８１ｐを読んでおく。	３０
6	・記憶障害の臨床症状を把握する。 ・記憶障害の評価法・治療法を理解する。	講義・実技	教科書１９７－２１９ｐを読んでおく。	３０
7	・遂行機能障害の臨床症状を把握する。 ・遂行機能障害の評価法・治療法を理解する。	講義・実技	教科書２２０－２３１ｐを読んでおく。	３０
8	・意識・知能・人格・情動の臨床症状を把握する。 ・意識・知能・人格・情動の評価法・治療法を理解する。	講義・実技	配布資料にて各種症状を捉えておく。	１５

9	・認知障害の臨床症状を把握する。 ・認知障害の評価法・治療法を理解する。	講義・実技	教科書１０９－１４５ｐを読んでおく。	３０
10	・社会的行動障害の臨床症状を理解する。 ・社会的行動障害の評価法・治療法を理解する。	講義・実技	配布資料にて各種症状を捉えておく。	１５
11	・脳地図を理解する。 ・CTとMRIの読み方を理解する。	講義	教科書１０－２１ｐを読んでおく。	１５
12	・認知症のタイプを整理し、臨床症状を把握する。 ・認知症の評価法・治療法を理解する。	講義・実技	教科書２３７－２５２ｐを読んでおく。	３０
13	・認知症とせん妄の違いを把握する。	講義	教科書２５７－２６０ｐを読んでおく。	１５
14	・頭部外傷の臨床症状を把握する。 ・頭部外傷の評価法・治療法を理解する。	講義・実技	教科書２６２－２７０ｐを読んでおく。	１５
15	総括	講義・実技	教科書５－１９ｐを読んでおく。	１５

リハビリテーション学科

【科目名】	老年期作業療法治療学			【担当教員】	栗原　トヨ子
【授業区分】	専門分野(作業療法治療学)	【授業コード】	4-23-0925-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	kurihara@nur.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 栗原：月～金曜日、17:00～18:00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・作業療法の必修科目のため、積極的な参加を望みます。
・この科目は、実務経験者対応科目です。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・加齢および老化に伴う身体機能の変化や低下について復習しておくことが望ましい。
・グループワークは各自責任を持って、積極的に参加すること。
・課題発表日はオリエンテーションで提示するため、パワーポイント等の資料作成は期限を厳守すること。
・試験結果は必要に応じて解説を行います。

【講義概要】

(目的)

・高齢期を迎えた対象者の心身機能の変化を理解し、それに伴っておこる生活上の動作・行動・行為への援助法について学ぶことを目的とする。現在健康である高齢者の障害予防も含めて、作業療法的関わりを修得する。
当該科目と学位授与方針との関連性；A－３
当該科目と学位授与方針との関連性；0－１

(方法)

前半は講義中心、後半は事例検討によるグループワーク,及び選択したテーマの調査研究を中心とする。

【一般教育目標(GIO)】

・老年期の生理・身体・心理・精神機能の特徴を理解し、それらの特性に合わせた作業療法の介入方法について習得する。

【行動目標(SBO)】

・高齢化進展の問題点を説明できる。
・老化に伴う様々な要因を把握し、適切な作業療法アプローチについて検討し、理解することができる。
・老年期障害に対する作業療法士の役割を挙げることができる。
・

【教科書・リザーブドブック】

村田和香 編集「作業療法学全書 老年期」日本作業療法士協会 協同医書 3, 024 円（税込）

【参考書】

松房利憲 他編「標準作業療法学 高齢期作業療法学 第2 版」医学書院 3,800 円（税別）
鎌倉矩子 他編「老年期の作業療法」三輪書店 3,300 円
鎌倉矩子 監修「標準理学療法学・作業療法学 老年学」医学書院 4,500 円

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のＧＰＡ制度に従う。
・試験、授業参加態度、レポート等より総合的に判断する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		60		20	20				100
評価指標	取り込む力・知識	30		20	20				70
	思考・推論・創造の力	30							30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	ガイダンス 老年期作業療法学の考え方 コースオリエンテーションと課題説明	講義	予習：次回単元の教科書第1章を読んでおく。	30分
2	老年期の諸問題と課題 高齢者福祉対策について	講義	予習：次回単元の教科書第1章を読んでおく。	30分
3	高齢期の特徴 生理的・身体的特徴について	講義	予習：次回単元の教科書第３章を読んでおく。	30分
4	高齢期の特徴 心理的・精神的特徴について	講義	予習：次回単元の教科書第３章を読んでおく。	30分
5	高齢者に対する虐待の問題	講義	予習：次回単元の教科書ｐ32を読んでおく。	30分
6	高齢期の課題 生活障害について 高齢者総合的機能評価の意義・内容	講義	予習：次回単元の教科書第４章を読んでおく。	30分
7	高齢期の課題 ヘルスプロモーション	講義	予習：次回単元の教科書第５章を読んでおく。	30分
8	作業療法の実践 作業療法評価の概要	講義	予習：次回単元の教科書第５章を読んでおく。	30分

9	作業療法の実践 老年期のQOL・生きがいについて	グループワーク	レポート作成	30分
10	作業療法の実践 排泄機能障害の問題点について	グループワーク	レポート作成	30分
11	生活行為向上マネジメントの考え方に焦点を 当てて事例検討（臨床評価実習の事例を使用）	グループワーク	グループで討議・レポート作成	30分
12	生活行為向上マネジメントの考え方に焦点を 当てて事例検討（臨床評価実習の事例を使用）	グループワーク	グループで討議・レポート作成	30分
13	プレゼンテーション	発表	グループで討議・レポート作成	30分
14	プレゼンテーション	発表	グループで討議・レポート作成	30分
15	総括	グループワーク		

リハビリテーション学科

【科目名】	作業療法総合演習Ⅰ			【担当教員】	藤本　聡
【授業区分】	専門分野(作業療法治療学)	【授業コード】	4-23-0945-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	fujimoto.s@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	2	【コマ数】	30コマ	(オフィスアワー) 月～木：13:00～13:25	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・授業の初日に、理学療法士と作業療法士の共通問題の試験を実施して、その結果をもとに、グループ分けを行う。そのグループによるグループ学習を行う。個人での学習は、還俗的には認めない。
・この科目は実務経験者対応科目である。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・グループ学習を行うため、他の人の邪魔にならないように、積極的に取り組む。
・指定教科書（特に共通問題）について、理解できない用語や問題等を調べて書き込み、国試対策の参考書となるように作成する。
・国家試験の過去問題（特に共通問題）を、十分理解する。
・遅刻は授業開始後20分まで、早退は終了20分前まで、それ以上の遅刻、早退はすべて欠席扱いとなる。

【講義概要】

(目的)

・作業療法の知識、技術の総まとめを行うとともに、専門職業人としての態度、基本的臨床実践能力を身につける。
・当該科目と学位授与方針；0-1,2

(方法)

・作業療法を実施するにあたって必要な基礎・臨床医学と作業療法との関連性を総合的に学ぶ。
・作業療法士の国家試験（理学・作業療法士国家試験共通問題）の過去問題を理解するために、資料を作成する演習が中心である。作成した教科書（資料）を評価して、成績に反映する
・国試試験形式で小テストを３回実施する。試験内容は共通問題の範囲とする。最終日の小テストは、成績評価に反映する。
・授業では、進捗状況のアンケートなどを携帯電話（スマホ）を使用し実施しますので持参してください。

【一般教育目標(GIO)】

4年次に受験する国家試験に合格できるように、国家対策用の資料（共通問題）を作成して、理解を深める。

【行動目標(SBO)】

「クエスチョン・バンク理学療法士・作業療法士国家試験問題解説2020共通問題」の指定教科書を、全て理解できるような資料を作成する。

【教科書・リザーブドブック】

○クエスチョン・バンク理学療法士・作業療法士国家試験問題解説2020共通問題　発行所　株式会社メディックメディア
○クエスチョン・バンク作業療法士国家試験問題解説2020　専門問題　発行所　株式会社　メディックメディア

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。
・小テストとレポート、ポートフォリオで成績を算出する。
・出席点は評価に含みません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合			40	40			20		100
評価指標	取り込む力・知識		20	20					40
	思考・推論・創造の力		20						20
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢			20			20		40

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1、2コマ	オリエンテーション 共通問題の過去問題を試験形式で実施する。	演習・	共通問題の過去問を予習しておく	90
3～28コマ	指定教科書（共通問題）を理解できるような参考書作りを行う。 授業2コマを利用して、中間試験を実施する。	演習・グループ学修	教科書の内容を予習と復習を行う。	各90分
29、30コマ	国家試験形式で小テストを実施。	演習	教科書の内容を復習を行う。	90

リハビリテーション学科

【科目名】	作業療法総合演習Ⅱ			【担当教員】	藤本　聡
【授業区分】	専門分野(作業療法治療学)	【授業コード】	4-23-0945-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	通年(前期)	【選択必修】	必修	fujimoto.s@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	2	【コマ数】	30コマ	(オフィスアワー)月～木：13:00～13:25	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・授業の初日に、国家試験形式で試験を実施して、その結果を考慮して、、グループ分けを行う。そのグループによるグループ学習を行う。個人での学習は、原則的には認めない。
・この科目は実務経験者対応科目である。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・グループ学習を行うため、他の人の邪魔にならないように、積極的に取り組む。
・指定教科書（特に専門問題）について、理解できない用語や問題等を調べて書き込み、国試対策の参考書となるように作成する。
・国家試験の過去問題を、十分理解する。
・遅刻は授業開始後20分まで、早退は終了20分前まで、それ以上の遅刻・早退はすべて欠席扱いとなる。

【講義概要】

(目的)

・作業療法の知識、技術の総まとめを行うとともに、専門職業人としての態度、基本的臨床実践能力を身につける。
・当該科目と学位授与方針；0-1,2

(方法)

・作業療法を実施するにあたって必要な基礎・臨床医学と作業療法との関連性を総合的に学ぶ。
・作業療法士の国家試験（作業療法士国家試験専門問題）の過去問題を理解するために、資料を作成する演習を行う。
・各2コマの授業の内、1コマ目の最初に小テストを実施する。
・国試試験形式で小テストを最初と最後の日の授業で実施する。試験内容は共通問題と専門問題の範囲とする。
・授業では、進捗状況のアンケートなどを携帯電話（スマホ）を使用し実施しますので持参してください。

【一般教育目標(GIO)】

・4年次に受験する国家試験に合格できるように、国家対策用の資料（主に専門問題）を作成して、理解を深める。
・演習を通して、国家試験の共通問題と専門問題の理解を深める。

【行動目標(SBO)】

「クエスチョン・バンク「作業療法士国家試験問題解説2020専門問題」の指定教科書を、全て理解できるような資料を作成する。
・国家試験の全ての問題で、間違えている箇所が分かり、間違えている理由の説明ができる。

【教科書・リザーブドブック】

○クエスチョン・バンク理学療法士・作業療法士国家試験問題解説2019共通問題　発行所　株式会社メディックメディア
○クエスチョン・バンク作業療法士国家試験問題解説2019　専門問題　発行所　株式会社　メディックメディア

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。
・小テストで成績を算出する。小テストの内、期末の授業で行う小テストを80%の割合とし、各授業の最初に行う小テストを20%の割合として評価する。
・出席点は評価に含みません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合			100						100
評価指標	取り込む力・知識		80						80
	思考・推論・創造の力		20						20
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1,2,3,4コマ	オリエンテーション 国家試験の共通問題と専門問題の過去問題を国家試験形式で小テストを実施する。	演習・	国家試験の過去問題を予習しておく。	90
5～26コマ	指定教科書（専門問題）を理解できるような参考書作りを行う。 授業2コの内、1コマ目の最初に小テストを実施する。	演習・グループ学修	教科書の内容を予習と復習を行う。	各90分
27,28,29,30コマ	国家試験の専門問題と共通問題の過去問題を国家試験形式で小テストを実施する。	演習	教科書の内容を復習を行う。	90

リハビリテーション学科

【科目名】	作業療法総合演習Ⅱ			【担当教員】	藤本　聡
【授業区分】	専門分野(作業療法治療学)	【授業コード】	4-23-0945-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	通年(後期)	【選択必修】	必修	fujimoto.s@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	2	【コマ数】	30コマ	(オフィスアワー) 月～木：13:00～13:25	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・授業の初日に、国家試験形式で試験を実施して、その結果を考慮して、、グループ分けを行う。そのグループによるグループ学習を行う。個人での学習は、原則的には認めない。
・この科目は実務経験者対応科目である。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・グループ学習を行うため、他の人の邪魔にならないように、積極的に取り組む。
・指定教科書（特に専門問題）について、理解できない用語や問題等を調べて書き込み、国試対策の参考書となるように作成する。
・国家試験の過去問題を、十分理解する。
・遅刻は授業開始後20分まで、早退は終了20分前まで、それ以上の遅刻・早退はすべて欠席扱いとなる。

【講義概要】

(目的)

・作業療法の知識、技術の総まとめを行うとともに、専門職業人としての態度、基本的臨床実践能力を身につける。
・当該科目と学位授与方針；0-1,2

(方法)

・作業療法を実施するにあたって必要な基礎・臨床医学と作業療法との関連性を総合的に学ぶ。
・作業療法士の国家試験（作業療法士国家試験専門問題）の過去問題を理解するために、資料を作成する演習を行う。
・各2コマの授業の内、1コマ目の最初に小テストを実施する。
・国試試験形式で小テストを最初と最後の日の授業で実施する。試験内容は共通問題と専門問題の範囲とする。
・授業では、進捗状況のアンケートなどを携帯電話（スマホ）を使用し実施しますので持参してください。

【一般教育目標(GIO)】

・4年次に受験する国家試験に合格できるように、国家対策用の資料（主に専門問題）を作成して、理解を深める。
・演習を通して、国家試験の共通問題と専門問題の理解を深める。

【行動目標(SBO)】

「クエスチョン・バンク「作業療法士国家試験問題解説2020専門問題」の指定教科書を、全て理解できるような資料を作成する。
・国家試験の全ての問題で、間違えている箇所が分かり、間違えている理由の説明ができる。

【教科書・リザーブドブック】

○クエスチョン・バンク理学療法士・作業療法士国家試験問題解説2019共通問題　発行所　株式会社メディックメディア
○クエスチョン・バンク作業療法士国家試験問題解説2019　専門問題　発行所　株式会社　メディックメディア

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。
・小テストで成績を算出する。小テストの内、期末の授業で行う小テストを80%の割合とし、各授業の最初に行う小テストを20%の割合として評価する。
・出席点は評価に含みません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合			100						100
評価指標	取り込む力・知識		80						80
	思考・推論・創造の力		20						20
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1,2,3,4コマ	オリエンテーション 国家試験の共通問題と専門問題の過去問題を国家試験形式で小テストを実施する。	演習・	国家試験の過去問題を予習しておく。	90
5～26コマ	指定教科書（専門問題）を理解できるような参考書作りを行う。 授業2コの内、1コマ目の最初に小テストを実施する。	演習・グループ学修	教科書の内容を予習と復習を行う。	各90分
27,28,29,30コマ	国家試験の専門問題と共通問題の過去問題を国家試験形式で小テストを実施する。	演習	教科書の内容を復習を行う。	90

リハビリテーション学科

【科目名】	作業療法研究法			【担当教員】	澁井　実
【授業区分】	専門分野(作業療法治療学)	【授業コード】	4-23-0955-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	shibui@nur.ac.jp	
【単位数】	2	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 火～木　12：40～13：30	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・特別な理由なく、欠席しないこと。
・本科目は、実務経験者対応科目である。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・受講後は、毎回復習しまとめること。

【講義概要】

(目的)

作業療法における研究の意義と役割、基本的な手法及び研究倫理について、学び理解できることを目的とする。

当該科目と学位授与方針等との関連性；A-2,3　O-1

(方法)

教科書および配布資料を用いて、作業療法研究の歴史、基本的手法、研究の流れ、等について学ぶ。自身の研究計画書を作成する。

【一般教育目標(GIO)】

・研究の必要性を理解できる。
・研究方法について理解できる。
・作業療法領域での研究について理解できる。
・研究計画書の作成方法・内容、文献検索について理解できる。

【行動目標(SBO)】

・作業療法における研究の必要性について説明できる。
・研究の基本的な手法について説明できる。
・研究の基本的な手続きについて説明できる。
・研究計画書を作成することができる。

【教科書・リザーブドブック】

作業療法士のための研究法入門，鎌倉矩子 他，三輪書店，1997

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80		10	10				100
評価指標	取り込む力・知識	40		5	5				50
	思考・推論・創造の力	40		5	5				50
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	オリエンテーション 研究とは何か	講義	講義内容をまとめる	90
2	作業療法と研究	講義	講義内容をまとめる	90
3	研究疑問と研究の様式	講義	講義内容をまとめる	90
4	研究の流れ	講義	講義内容をまとめる	90
5	研究の倫理と管理 文献レビュー	講義	講義内容をまとめる	90
6	文献的研究・理論的研究	講義	講義内容をまとめる	90
7	調査的研究	講義	講義内容をまとめる	90
8	実験的研究	講義	講義内容をまとめる	90

9	実験的研究-統計処理	講義	講義内容をまとめる	90
１０	シングルケース実験法	講義	講義内容をまとめる	90
１１	事例研究	講義	講義内容をまとめる	90
１２	研究の発表、まとめ	講義	講義内容をまとめる	90
１３	文献検索の実際	演習	メディカルオンラインの利用方法 電子書籍の利用方法	90
１４	研究計画書作成	演習		90
１５	研究計画書作成	演習		90

リハビリテーション学科

【科目名】	日常生活活動学Ⅰ			【担当教員】	貝淵　正人、齋藤　元浩
【授業区分】	専門分野(地域作業療法学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	kaifuchi@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー)月～木曜日：13:00～13:25	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・この科目は実務経験者対応科目である

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・演習を行うため、動きやすい服装で参加すること。
・遅刻は授業開始後20分まで、早退は終了20分前まで、それ以上の遅刻、早退はすべて欠席扱いとなる。
・試験・レポートのフィードバックは、必要に応じて行う。

【講義概要】

(目的)

・日常生活活動の評価指標、各動作の評価方法および援助方法を学修することを目的とする。
・この科目は実務経験者対応科目である。

(方法)

・教員の指導を仰ぎながら学生間での実技をする実習を中心とした授業形態とする。

【一般教育目標(GIO)】

・日常生活活動の評価指標、各動作の特徴と援助方法を理解できる。

【行動目標(SBO)】

・日常生活活動の評価指標、各動作の特徴および援助方法を理解し、対象者を評価することができる。

【教科書・リザーブドブック】

矢谷令子(著):日常生活活動・社会生活行為学（標準作業療法学 専門分野)、医学書院、2014、4,536円（税込）

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。
・試験とポートフォリオの学習に取り組む姿勢で判定する。
・出席点は評価に入りません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80					20		100
評価指標	取り込む力・知識	40							40
	思考・推論・創造の力	40							40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢						20		20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1, 2, 3, 4	・オリエンテーション ・日常生活活動概論 ・起き上がり・移乗	講義	講義内容の復習	60
5, 6, 7, 8	立ち上がり動作評価・練習	講義・実技	講義内容の復習	60
9, 10, 11, 12	歩行動作の評価・練習	講義・実技	講義内容の復習	60
13, 14	更衣動作の評価・練習①	講義・実技	講義内容の復習	60
15	総復習	講義・演習	講義内容の復習	60

リハビリテーション学科

【科目名】	日常生活活動学Ⅱ			【担当教員】	貝淵　正人、齋藤　元浩
【授業区分】	専門分野(地域作業療法学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	kaifuchi@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー)月～木曜日：13:00～13:25	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・この科目は実務経験者対応科目である
・日常生活活動学Ⅰを履修していることが望ましい。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・演習を行うため、動きやすい服装で参加すること。
・遅刻は授業開始後20分まで、早退は終了20分前まで、それ以上の遅刻、早退はすべて欠席扱いとなる。
・試験・レポートのフィードバックは、必要に応じて行う。

【講義概要】

(目的)

・日常生活活動の評価指標、各動作の評価方法および援助方法を学修することを目的とする。
・この科目は実務経験者対応科目である。

(方法)

・教員の指導を仰ぎながら学生間での実技をする実習を中心とした授業形態とする。

【一般教育目標(GIO)】

・日常生活活動の評価指標、各動作の特徴と援助方法を理解できる。

【行動目標(SBO)】

・日常生活活動の評価指標、各動作の特徴および援助方法を理解し、対象者を評価することができる。

【教科書・リザーブドブック】

矢谷令子(著):日常生活活動・社会生活行為学（標準作業療法学 専門分野)、医学書院、2014、4,536円（税込）

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。
・試験とポートフォリオの学習に取り組む姿勢で判定する。
・出席点は評価に入りません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80					20		100
評価指標	取り込む力・知識	40							40
	思考・推論・創造の力	40							40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢						20		20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1,2,3,4	・オリエンテーション ・更衣動作の評価・練習② ・整容・入浴動作の評価・練習	講義	講義内容の復習	60
5,6,7,8	食事動作の評価・練習	講義・実技	講義内容の復習	60
9,10,11,12	トイレ動作の評価・練習	講義・実技	講義内容の復習	60
13,14	ADL・IADLの評価・演習	講義・演習	講義内容の復習	60
15	まとめ	講義・演習	講義内容の復習	60

リハビリテーション学科

【科目名】	生活環境論			【担当教員】	栗原　トヨ子
【授業区分】	専門分野(地域作業療法学)	【授業コード】	4-24-0960-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	kurihara@nur.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 月～金曜、17：00～18：00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

本科目は、作業療法の必修科目となります。主体的な学修態度を望みます。
＊本科目は、実務者対応科目となります。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・事前に教科書を熟読しておくこと。
・欠席した場合、講義内容を各自で補うこと。
・試験結果は必要に応じて解説を行います。

【講義概要】

(目的)

・対象者の日常生活活動や生活環境を評価し、適切な日常生活活動の方法および生活環境の整備に対する提案が行えるようになる。
当該科目と学位授与方針との関連性：A-2,3

当該科目と学位授与方針との関連性：O-2

(方法)

・講義及びグループワーク、ディスカッション、実技実習等により実施する。

【一般教育目標(GIO)】

・生活環境、住環境の概念を理解する。
・日常生活活動の概念および障害に応じた日常生活活動の関わりについて、生活環境の面から理解する。
・障害の特徴を踏まえた家屋改修の基本について理解する。
・福祉用具の概念について理解する

【行動目標(SBO)】

・家屋改修等についての原則と注意点をもとに、対象者の特性および機能状況に合わせた家屋改修の提案が出来る。
・日常生活活動の代表的な評価方法を用いて、対象者を評価し適切な介入ができる。
・疾患に応じた福祉機器の選択・助言ができる。

【教科書・リザーブドブック】

・木之瀬 隆編集、日本作業療法士協会監修、 作業療法学全書[改訂第3 版] 第10 巻 作業療法技術学２ 福祉用具の使い方・住環境整備、協同医書出版社、￥3,000（税別）

【参考書】

・編者・原 和子ら、 実習ADL / APDL［学生のためのワークブック］、協同医書出版社、¥3,500（税別）
・木村哲彦　監修、「生活環境論」第４版、医歯薬出版株式会社　￥6,400（税別）

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学学則規定のGPA 制度に従う。
・試験および実技場面参加態度の面から総合的に判定する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70			20	10			100
評価指標	取り込む力・知識	20							20
	思考・推論・創造の力	20							20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢	30			10	10			50

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1回	オリエンテーション 住環境整備について① 生活環境とは 快適な生活環境の条件とは 課題：住宅施策の歴史的変遷	講義	予習：次回テーマの教科書　p 153～156を読んでおくこと。	30分
2回	住環境整備について② 住環境の条件とは 建築、住宅の基礎	講義	予習：次回単元の教科書 p 153～156を読んでおくこと。	30分
3～4回	人間工学とユニバーサルデザインの関連について	講義	予習：次回単元の教科書p8～10を読んでおくこと。	30分
5～6回	障害者・高齢者の移動促進に配慮した建築設計標準	実習	予習：次回単元の教科書p155-　を読んでおくこと。	30分
7～8回	1. 動作分析の考え方 寝返り、立ち上がりを例にして 2. 日常生活上の基本的動作分析 入浴、更衣、整容、排泄など	実習	復習：配付資料を読んでおくこと。	30分
9～10回	良肢位についての考え方	実習	復習：配付資料を読んでおくこと。	30分
11～12回	福祉用具とは　　種類、介護保険との関係	実習	復習：教科書第１章を読んでおくこと。	30分
13～14回	車いす、杖、トランスファー用福祉用具、リフト、等について	実技実習	予習：教科書第１章を読んでおくこと。	30分

15回	試験	試験		

リハビリテーション学科

【科目名】	作業療法実践見学実習			【担当教員】	栗原　トヨ子
【授業区分】	専門分野(地域作業療法学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	kurihara@nur.ac.jp fijimoto.s@nur.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	30	(オフィスアワー) pm17:00-18:00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

実習の手引きを熟読しておくこと。
事前に実習施設に関わる情報を収集し、必要な資料等を準備しておくこと。
学内実習及び学外実習に関してのスケジュールは、適宜担当教員から連絡する。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

実習の手引きを熟読しておくこと。
実習施設へ行く前に、身だしなみを整えること。不適切な身だしなみと判断した学生については実習参加前に修正指示をする場合がある。
学外実習中に事故・事件等の問題が起きた場合は、直ちに実習先のスタッフおよび本学へ連絡すること。
学外実習後、学内にて実習で学んだことに関する発表を行うため、発表の準備を行うこと。

【講義概要】

(目的)

地域における作業療法士が所属する病院や施設に赴き、臨床場面で作業療法士の実際の業務を直接見聞する。そのことにより、自分の目指す作業療法士像のイメージを創り、専門学習に臨む動機を高めることを目的とする。
当該科目と学位授与方針との関連性；A―2
当該科目と学位授与方針との関連性；O―2

(方法)

地域における作業療法士が所属、活動する病院や施設に赴き、臨床場面の見学を行う。見学の前後に学内にて専任教員のもとセミナーを実施する。

【一般教育目標(GIO)】

地域における作業療法士が活動する社会資源の役割や意義、作業療法士の役割について学ぶ。

【行動目標(SBO)】

・見学実施前に、地域において作業療法士が活動する社会資源の役割や意義について調べ理解しておく。
・見学を通して、地域での作業療法士の役割について理解する。
・見学実習後、見学実習で学んだことについて、グループ討論を行い、理解を深めた後、レポートにまとめる。

【教科書・リザーブドブック】

作業療法実践見学実習の手引き

【参考書】

必要に応じて事前オリエンテーションの中で資料配付する。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のＧＰＡ制度に従う。
学外実習施設の実習指導者による評価及び学内におけるセミナー参加、体験発表（提出課題を含む）等の内容から総合的に評価を行う。
評価基準の詳細な内容は「基礎実習の手引き」に記載する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合					50	50			100
評価指標	取り込む力・知識								0
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力				50				50
	学修に取り組む姿勢					50			50

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
学内1-4コマ	オリエンテーション（学内) 作業療法実践見学実習の注意事項、課題確認 礼儀について	講義		
学内5-6コマ	グループ学習（学内) 実習先の施設概要等の情報収集 学生紹介用紙の記入	演習		
学外1日目	学外実習 （通所リハビリテーション)	実習	行動記録・実習記録の作成	
学外2日目	学外実習 （通所リハビリテーション)	実習	行動記録・実習記録の作成	
学内7-8コマ	個人学習（学内) 施設概要、学外実習での反省と学んだ内容をまとめる(個人ワーク)	演習	レポート作成（個人）	
学内9-12コマ	グループ学習（学内) グループディスカッションの実施 実習内容の発表準備（発表用資料の作成)	演習	グループで発表資料（パワーポイントによる発表）の作成	
学内13-14コマ	各グループ毎で発表（学内) テーマ：施設概要、学外実習での反省と学んだ内容	演習	成果発表 レポート作成・提出	

リハビリテーション学科

【科目名】	臨床実習Ⅰ（見学・体験実習）			【担当教員】	澁井　実
【授業区分】	専門分野(臨床実習)	【授業コード】	4-25-0980-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	shibui@nur.ac.jp	
【単位数】	2	【コマ数】	90	(オフィスアワー) 火・水・木　12：40～13：30	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

実習の手引きを熟読しておくこと。
事前に実習施設に関わる情報を収集し、必要な資料等を準備しておくこと。
学内実習及び学外実習に関してのスケジュールは、適宜お知らせをする。
この科目は、実務経験者対応科目である。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

実習施設へ行く前に、身だしなみを整えること。
不適切な身だしなみと判断された学生については実習を認めないことがある。
臨床見学実習終了後は、グループ毎に発表を行うため、お互いに協力し合い発表準備を行うこと。
実習中に事故・事件その他の問題が起きた場合は、直ぐに実習先のスタッフ及び本学へ連絡すること。

【講義概要】

(目的)

臨床実習Ⅰ（見学・体験実習）は、患者と直に接し、コミュニケーション方法、医療事故対策、感染対策、個人情報の保護の実践について学修する。また臨床評価実習に向けて、作業療法評価法の具体的な実践、レポートの作成についても学修することを目的とする。
当該科目と学位授与方針等との関連性；　A-1,2,3,0-1,2

(方法)

学外実習２週間の日程とする。学外実習前にオリエンテーション、実習後に学内セミナーを実施する。

【一般教育目標(GIO)】

・ これから目指すセラピスト像のイメージを創造する。
・ 臨床での作業療法士の仕事を理解する。
・ 臨床での作業療法の流れを理解する。
・ いくつかの評価技法について理解・体験する。
・ 自分の体験したこと、感じたこと、考えたことを文章化する。

【行動目標(SBO)】

・ 作業療法士の仕事を理解できる。
・ 作業療法の流れを理解できる。
・ いくつかの評価技法について理解・体験できる。
・ 自分の体験したこと、感じたこと、考えたことを文章化できる。

【教科書・リザーブドブック】

臨床実習Ⅰ（見学・体験実習）の手引き

【参考書】

編集・市川和子、作業療法臨床実習とケーススタディ（第2版）、医学書院、2011年、￥4,200（税別）

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のＧＰＡ制度に従う。
臨床評価実習のＧＰＡ、実習中の課題の内容から総合的に評価を行う。
評価基準の詳細な内容は「基礎実習の手引き」に記載する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				10	10	80			100
評価指標	取り込む力・知識			5		20			25
	思考・推論・創造の力			5		20			25
	コラボレーションとリーダーシップ				5				5
	発表力				5				5
	学修に取り組む姿勢					40			40

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1～3	オリエンテーション（学内） 基礎実習での注意事項、課題確認	講義	配布資料を読んでおく。	60
学外１週目	臨床実習Ⅰ（見学・体験実習） （医療施設、老人保健施設等）	実習	臨床見学、体験 行動記録、実習記録の作成	90
学外２週目	臨床実習Ⅰ（見学・体験実習） （医療施設、老人保健施設等） 最終日、実習指導者よりフィードバックと総括	実習	臨床見学、体験 行動記録、実習記録の作成	90
4～7	学内セミナー、臨床体験報告	演習	課題提出、学習課題報告	60

リハビリテーション学科

【科目名】	臨床評価実習			【担当教員】	澁井　実
【授業区分】	専門分野(臨床実習)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	shibui@nur.ac.jp	
【単位数】	4	【コマ数】	92コマ	(オフィスアワー) 火～木、12：40～13：30	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

実習前に開講されている科目の単位を、すべて習得していること。
実習の手引きを熟読しておくこと。
事前に実習施設に関わる情報を収集し、必要な資料等を準備しておくこと。
この科目は、実務経験者対応科目である。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

実習施設へ行く前に、身だしなみを整えること。不適切な身だしなみと判断された学生については実習を認めないことがある。
臨床評価実習終了後は、学内にて症例発表を行うため、症例報告要約の準備を行うこと。
実習中に事故・事件その他の問題が起きた場合は、直ぐに実習先のスタッフ及び本学へ連絡すること。

【講義概要】

(目的)

臨床評価実習は、学生毎に1施設に赴き、臨床実習指導者のもと、症例に即した評価方法の選択、評価手技の実施を行い、評価をもとに抽出された問題点から障害象を把握する過程を学ぶことを目的としている。
当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1,2,3.　O-1,2,3

(方法)

期間は3年次後期4週間の日程とし、3週間は学外の施設に赴き、臨床実習指導者のもとで実習を行う。1 週間は学内実習を行い、専任教員のもと症例検討等のセミナーを行う。

【一般教育目標(GIO)】

・作業療法士として適切な評価を行い、障害像を把握する。

【行動目標(SBO)】

・適切な検査・測定を行うことができる。
・障害像に応じた問題点を把握することができる。

【教科書・リザーブドブック】

臨床評価実習の手引き

【参考書】

編集・市川和子、作業療法臨床実習とケーススタディ（第2版）、医学書院、2011年、￥4,200（税別）

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。
臨床評価実習のGPA、実習中の課題、事例報告の内容から総合的に評価を行う。
評価基準の詳細な内容は「実習の手引き」に記載する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				10	10	80			100
評価指標	取り込む力・知識			5		20			25
	思考・推論・創造の力			5		20			25
	コラボレーションとリーダーシップ				5				5
	発表力				5				5
	学修に取り組む姿勢					40			40

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2	オリエンテーション（学内) 臨床評価実習での注意事項、課題確認			
3～12	臨床評価実習（学内セミナー) 各領域の評価についてのおさらい			
学外1週目	臨床評価実習 （医療施設、老人保健施設等)		行動記録、実習記録の作成 ケースノートの作成　等	
学外2週目	臨床評価実習 （医療施設、老人保健施設等)		行動記録、実習記録の作成 ケースノートの作成　等	
学外3週目	臨床評価実習 （医療施設、老人保健施設等)		行動記録、実習記録の作成 ケースノートの作成　等	
13～23	臨床評価実習（学内セミナー) 症例報告会		症例報告会での発表・質疑応答　等	

リハビリテーション学科

【科目名】	臨床総合実習Ⅰ（評価・治療）			【担当教員】	長谷川　裕
【授業区分】	専門分野(臨床実習)	【授業コード】	4-25-0990-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	hasegawa.y@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	8	【コマ数】	184 コマ	(オフィスアワー) 月曜～金曜、13：00～13：20	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

臨床総合実習Ⅰ以前に開講されている必修科目の単位を、すべて修得しておくこと。作業療法学専攻4年次の学生であること。
（※この科目は実務経験者対応科目である。）

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

実習の手引きを熟読しておくこと。事前に実習施設に関わる情報を収集し、必要な資料等を準備しておくこと。
実習施設へ行く前に、身だしなみを整えること。不適切な身だしなみと判断された学生については実習を認めない
ことがある。実習中に事故・事件その他の問題が起きた場合は、直ぐに実習先のスタッフ及び本学へ連絡すること。
臨床総合実習Ⅰ終了後は、学内にて症例発表を行うため、症例報告要約の準備を行うこと。

【講義概要】

(目的)

臨床総合実習Ⅰは3年次までの卒業に関わるすべての単位を修得した後に実施する。それまでに学んだ基本的知
識と技術を応用し、臨床実習指導者の指導のもとに患者を介して 作業療法評価・治療を体験する。患者を適切に評
価、統合解釈、問題を把握し、その問題に応じた作業療法プログラムを設定し、実践する。さらに、再評価を行うことに
よって治療効果を検討する。また、実習の課程で作業療法の社会的役割とチームワークの重要性、理論的・法的責
任を理解し、作業療法実施上の総合的能力を高める。（当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1,2,3,O-1,2)

(方法)

臨床総合実習Ⅰは4年次に9週間行う。9週間のうち8週間は医療施設に赴き、臨床実習指導者のもとで実習を行
う。1週間は学内実習を中心とする。医療施設での実習後1週間は、専任教員のもと学内実習を行う。

【一般教育目標(GIO)】

作業療法士として対象者の障害に応じた評価と治療について修得する。
作業療法士に必要な問題解決能力を身につける。
作業療法士としての業務について把握し、専門職としての態度や行動を身につける。

【行動目標(SBO)】

障害に応じて適切な評価を実施し、問題点の把握を行う。
問題点に対して、治療を立案し実施する。
作業療法士に必要な業務を把握し遂行する。
感染対策、事故防止を実践する。
作業療法士の社会的役割を認識する。

【教科書・リザーブドブック】

実習の手引き

【参考書】

編集・市川和子、作業療法臨床実習とケーススタディ（第2 版）、医学書院、2011年、￥4,200（税別）
作業療法に関わる参考書すべて

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のＧＰＡ制度に従う。
学内実習・学外実習の評価すべてを総合的に判断する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				10	10	80			100
評価指標	取り込む力・知識			5		20			25
	思考・推論・創造の力			5		20			25
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力				5				5
	学修に取り組む姿勢				5	40			45

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1～3	オリエンテーション（学内実習） 臨床総合実習Ｉの目的、注意事項、提出書類の確認、事故防止、感染予防等	セミナー	施設調査 自己課題の確認	60
4～9	臨床総合実習Ｉ（学内セミナー）	セミナー	配布資料の熟読 評価学および治療学の内容の復習	60
学外1週目	臨床総合実習Ｉ 施設見学、作業療法現場見学、症例紹介、情報収集、作業療法評価実施、記録・報告	実習	デイリーノート、その他	90
学外2週目	臨床総合実習Ｉ 情報収集及び作業療法評価実施と修正	実習	デイリーノート、その他	90
学外3週目	臨床総合実習Ｉ 情報収集及び作業療法評価実施と修正、治療プログラム作成	実習	デイリーノート、その他	90
学外4週目	臨床総合実習Ｉ 治療実施、記録・報告	実習	デイリーノート、その他	90
学外5週目	臨床総合実習Ｉ 治療実施、記録・報告	実習	デイリーノート、その他	90
学外6週目	臨床総合実習Ｉ 治療実施、記録・報告、作業療法再評価、事例報告書作成準備	実習	デイリーノート、その他	90

学外7週目	臨床総合実習Ⅰ 治療実施、記録・報告、作業療法再評価、 事例報告書作成準備	実習	デイリーノート、その他	90
学外8週目	臨床総合実習Ⅰ 事例報告書作成、実習指導者よりフィードバッ クと総括	実習	デイリーノート、その他	90
10～12	専任教員からの指導、症例報告（学内実習）	セミナー	グループ課題、課題提出	60

リハビリテーション学科

【科目名】	臨床総合実習Ⅱ（評価・治療）			【担当教員】	長谷川　裕
【授業区分】	専門分野(臨床実習)	【授業コード】	4-25-0990-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	hasegawa.y@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	8	【コマ数】	184 コマ	(オフィスアワー) 月曜～金曜、13：00～13：20	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

臨床総合実習Ⅰ以前に開講されている必修科目の単位を、すべて修得しておくこと。作業療法学専攻4年次の学生であること。
（※この科目は実務経験者対応科目である。）

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

実習の手引きを熟読しておくこと。事前に実習施設に関わる情報を収集し、必要な資料等を準備しておくこと。
実習施設へ行く前に、身だしなみを整えること。不適切な身だしなみと判断された学生については実習を認めない
ことがある。実習中に事故・事件その他の問題が起きた場合は、直ぐに実習先のスタッフ及び本学へ連絡すること。
臨床総合実習Ⅱ終了後は、学内にて症例発表を行うため、症例報告要約の準備を行うこと。

【講義概要】

(目的)

臨床総合実習Ⅱの目的は臨床総合実習Ⅰとほぼ同様である。それまでに学んだ基本的知識と技術を応用し、臨床実習指導者の指導のもとに患者を介して 作業療法評価・治療を体験する。患者を適切に評価、統合解釈、問題を把握し、その問題に応じた作業療法プログラムを設定し、実践する。さらに、再評価を行うことによって治療効果を科学的に検討し、より良い治療法を選択できる能力を高める。また、実習の課程で作業療法の社会的役割とチームワークの重要性、理論的・法的責任を理解し、作業療法実施上の総合的能力を高める。（当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1,2,3,0-1,2)

(方法)

臨床総合実習Ⅱは4年次に9週間行う。9週間のうち8週間は医療施設に赴き、臨床実習指導者のもとで実習を行う。1週間は学内実習を中心とする。医療施設での実習後1週間は、専任教員のもと学内実習を行う。

【一般教育目標(GIO)】

作業療法士として対象者の障害に応じた評価と治療について修得する。
作業療法士に必要な問題解決能力を身につける。
作業療法士としての業務について把握し、専門職としての態度や行動を身につける。

【行動目標(SBO)】

障害に応じて適切な評価を実施し、問題点の把握を行う。
問題点に対して、治療を立案し実施する。
作業療法士に必要な業務を把握し遂行する。
感染対策、事故防止を実践する。
作業療法士の社会的役割を認識する。

【教科書・リザーブドブック】

実習の手引き

【参考書】

編集・市川和子、作業療法臨床実習とケーススタディ（第2 版）、医学書院、2011年、￥4,200（税別）
作業療法に関わる参考書すべて

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のＧＰＡ制度に従う。
学内実習・学外実習の評価すべてを総合的に判断する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				10	10	80			100
評価指標	取り込む力・知識			5		20			25
	思考・推論・創造の力			5		20			25
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力				5				5
	学修に取り組む姿勢				5	40			45

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1～3	オリエンテーション（学内実習） 臨床総合実習Ⅱの目的、注意事項、提出書類の確認、事故防止、感染予防等	セミナー	施設調査 自己課題の確認	60
4～9	臨床総合実習Ⅱ（学内セミナー）	セミナー	配布資料の熟読 評価学および治療学の内容の復習	60
学外1週目	臨床総合実習Ⅱ 施設見学、作業療法現場見学、症例紹介、情報収集、作業療法評価実施、記録・報告	実習	デイリーノート、その他	90
学外2週目	臨床総合実習Ⅱ 情報収集及び作業療法評価実施と修正	実習	デイリーノート、その他	90
学外3週目	臨床総合実習Ⅱ 情報収集及び作業療法評価実施と修正、治療プログラム作成	実習	デイリーノート、その他	90
学外4週目	臨床総合実習Ⅱ 治療実施、記録・報告	実習	デイリーノート、その他	90
学外5週目	臨床総合実習Ⅱ 治療実施、記録・報告	実習	デイリーノート、その他	90
学外6週目	臨床総合実習Ⅱ 治療実施、記録・報告、作業療法再評価、事例報告書作成準備	実習	デイリーノート、その他	90

学外7週目	臨床総合実習Ⅱ 治療実施、記録・報告、作業療法再評価、 事例報告書作成準備	実習	デイリーノート、その他	90
学外8週目	臨床総合実習Ⅱ 事例報告書作成、実習指導者よりフィードバッ クと総括	実習	デイリーノート、その他	90
10～12	専任教員からの指導、症例報告（学内実習）	セミナー	グループ課題、課題提出	60

リハビリテーション学科

【科目名】	臨床総合実習Ⅲ（地域）			【担当教員】	長谷川　裕
【授業区分】	専門分野(臨床実習)	【授業コード】	4-25-1010-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	hasegawa.y@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	2	【コマ数】	46 コマ	(オフィスアワー) 月曜～金曜、13：00～13：20	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

臨床総合実習Ⅰ以前に開講されている科目の単位を、すべて修得しておくこと。作業療法学専攻4年次の学生であること。
（※この科目は実務経験者対応科目である。）

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

実習の手引きを熟読しておくこと。事前に実習施設に関わる情報を収集し、必要な資料等を準備しておくこと。
実習施設へ行く前に、身だしなみを整えること。不適切な身だしなみと判断された学生については実習を認めないことがある。
実習中に事故・事件その他の問題が起きた場合は、直ぐに実習先のスタッフ及び本学へ連絡すること。
臨床総合実習Ⅲ終了後は、学内にて実習で学んだことに関する発表を行うため、発表の準備を行うこと。

【講義概要】

(目的)

臨床総合実習Ⅱの後に臨床総合実習Ⅲを実施する。臨床総合実習Ⅲの目的は（１）病院・施設から地域に移行する
際の問題を学ぶ。（２）問題を解決し、地域を支えるソフト・ハードを含めたマネジメントを学ぶ。
（当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1,2,3,0-1,2）

(方法)

臨床総合実習Ⅲは4年次に行う。2週間は訪問看護ステーションやデイサービスセンター、障害者総合支援法指定
施設を含めた地域関連施設に赴き、臨床実習指導者のもとで実習を行う。実習の前後にオリエンテーション、学内実習、セミナーを学内で行う。

【一般教育目標(GIO)】

作業療法士として必要な、地域リハビリテーションの対象者の障害に応じた評価と治療について修得する。
地域リハビリテーション分野で臨床を行う実習指導者の実践の目的、方法について理解することができる。
地域リハビリテーション分野における作業療法の業務について把握し、専門職としての態度や行動を身につける。

【行動目標(SBO)】

地域リハビリテーションの対象者の評価と治療の概要を述べることができる。
臨床実習指導者の行う実践の目的、方法について理解し、述べることができる。
臨床実習指導者の業務について把握し、適切な態度、行動をとることができる。
臨床実習指導者の業務を補助し、その一部を実施することができる。

【教科書・リザーブドブック】

実習の手引き

【参考書】

編集・市川和子、作業療法臨床実習とケーススタディ（第2 版）、医学書院、2011年、￥4,200（税別）
作業療法に関わる参考書すべて

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のＧＰＡ制度に従う。
学内実習・学外実習の評価すべてを総合的に判断する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				10	10	80			100
評価指標	取り込む力・知識			5		20			25
	思考・推論・創造の力			5		20			25
	コラボレーションとリーダーシップ				5				5
	発表力				5				5
	学修に取り組む姿勢					40			40

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1～3	オリエンテーション（学内） 臨床総合実習Ⅲの目的、注意事項、提出書類の確認、事故防止、感染予防等	講義	施設調査 自己課題の確認	60
4～9	臨床総合実習Ⅲ（学内セミナー）	演習	配布資料を読んでおく。 評価学および治療学の内容を復習しておく。	60
学外1週目	臨床総合実習Ⅲ（学外）	実習	デイリーノート、その他	90
学外2週目	臨床総合実習Ⅲ（学外）	実習	デイリーノート、その他	90
10～12	臨床総合実習Ⅲ（学内セミナー） 専任教員からの指導、学内実習、レポート発表	演習	グループ課題 課題レポート提出	60

リハビリテーション学科

【科目名】	作業療法技術学Ⅰ（画像診断）			【担当教員】	小宮　桂治
【授業区分】	専門分野(特論)	【授業コード】	4-26-1015-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	keijksuguru@kfa.biglobe.ne.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	8 コマ	(オフィスアワー)授業開校日、非常勤控室で対応	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・特になし

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・試験結果・レポートは他に支障のない限り返却します。

【講義概要】

(目的)

・作業療法の対象として代表的な中枢神経障害（特に脳血管障害）患者に対するより具体的なアプローチ構築のために、CT・MRI 等の診断技術を学修することを目的とする。

(方法)

・主として教科書と配布資料を使用して講義を行います。また、実際の脳画像を使いながら読影の演習をおこないます。

【一般教育目標(GIO)】

・ 脳画像を読影するために、基礎的な脳の解剖、病態生理をもとに、脳画像読影に必要な知識と診断技術を理解する。

【行動目標(SBO)】

・ 脳画像から脳血管障害の主な病態と障害を説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

・酒井保治郎監修、小宮桂治編集「よくわかる脳の障害とケアー解剖・病脳…画像と症状がつながる」南江堂、2014年、¥2500(税別)

【参考書】

・酒井保治郎監修、小宮桂治編著、高村浩二著「演習で学ぶ脳画像読影からリハ介入まで」医歯出版株式会社、2017年 ¥4,800（税別）

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・出席点は評価に含みません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		60		40					100
評価指標	取り込む力・知識	60		20					80
	思考・推論・創造の力			20					20
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	画像診断（1） 画像読影の基礎知識（脳の解剖）	講義・演習	脳の解剖部位と名称の整理（大脳、基底核、脳幹）	40
2	画像診断（2） 画像読影の基礎知識（脳の血管）	講義・演習	心臓からの血管の走行が脳内でどのように分岐しているか整理する	40
3	画像診断（3） CT・MRIの基礎的原理	講義・演習	CT・MRIの基礎的原理について整理する	40
4	画像診断（4） 脳梗塞の画像読映演習	講義・演習	脳梗塞の病態整理に基づく画像読映の基礎を整理する	90
5	画像診断（5） 脳出血の画像読映演習	講義・演習	脳出血の病態整理に基づく画像読映の基礎を整理する	90
6	画像診断（6） 頭部外傷の画像読映演習	講義・演習	頭部外傷の病態生理に基づく画像読映について整理する	90
7	画像診断（7） その他の疾患の画像読映演習	講義・演習	水頭症や変性疾患の病態生理に基づく画像読映について整理する	90
8	まとめ	講義・演習		

リハビリテーション学科

【科目名】	作業療法技術学Ⅱ（アートセラピー）			【担当教員】 長谷川　千種
【授業区分】	専門分野(特論)	【授業コード】	4-26-1020-0-1	(メールアドレス)
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	hasegawa@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	8コマ	(オフィスアワー) 月～金　9:00～18：00

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

特になし

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

試験結果・レポートは返却しません。

【講義概要】

(目的)

アートセラピー（芸術療法）の中でも特に、人間性心理学の理論を基礎としてクライエントに対峙する「パーソン・センタード表現アートセラピー」を学ぶことによって、自分と他者をより深く理解し、カウンセラー・セラピストといった対人援助者としての在り方や対象者へ関わり方を学ぶことができる。
・当該科目と学位授与方針等との関連性；R-2

(方法)

パーソン･センタード表現アートセラピーの技法と理論を理解できるように、実際のセッション体験を中心とした講義を行う。

【一般教育目標(GIO)】

対人援助者として必要な態度、感覚、技術を習得するために、パーソン･センタード表現アートセラピーの理論と実際を体験して理解する。

【行動目標(SBO)】

・パーソン･センタード表現アートセラピーを通じて自己覚知し、他者とどのように関わっていけるのか論じることができる。
・パーソン･センタード表現アートセラピーを将来の対人援助においてどのように応用することができるか考察できる。

【教科書・リザーブドブック】

講義の内容に合わせて、プリントを配布します。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。
・下記の評価規準により、100点満点で60点以上を合格とする。
・出席点は評価に含みません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				60				40	100
評価指標	取り込む力・知識								0
	思考・推論・創造の力			40					40
	コラボレーションとリーダーシップ							20	20
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢			20				20	40

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	芸術療法について	講義 一部実技	(復習) 講義内容を理解する	30分
2	表現アートセラピー・セッション（1） 絵を中心にして	講義 一部実技	(復習) 講義内容を理解する	30分
3	表現アートセラピー・セッション（2） 粘土を中心にして	講義 一部実技	(復習) 講義内容を理解する	30分
4	表現アートセラピー・セッション（3） クリエイティブ・コネクション	講義 一部実技	(復習) 講義内容を理解する	30分
5	表現アートセラピー・セッション（4） ダンス/ムーブメントを中心にして	講義 一部実技	(復習) 講義内容を理解する	30分
6	表現アートセラピー・セッション（5） ドラマを中心にして	講義 一部実技	(復習) 講義内容を理解する	30分
7	表現アートセラピーの適用（1）	講義 一部実技	(復習) 講義内容を理解する	30分
8	表現アートセラピーの適用（2）	講義 一部実技	(復習) 講義内容を理解する	30分

リハビリテーション学科

【科目名】	作業療法技術学Ⅲ（感覚統合療法）			【担当教員】 小川　友美
【授業区分】	専門分野(特論)	【授業コード】		(メールアドレス)
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	8	(オフィスアワー)授業終了後メールにて対応します

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

この科目は発達障害領域の臨床で求められる基本的な評価・治療技法を履修しますので、全員の受講が望ましい。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

この科目の学修には発達障害評価学の基礎知識が必須ですので、よく復習をしておいてください。試験結果・レポートは他に支障がない限り返却します。

【講義概要】

(目的)

発達障害の治療技術として広く実施されている「感覚統合療法」の内容とその技術の習熟を目的とする。当該科目と学位授与方針等との関連性；0-1,2

(方法)

主として配布資料を使用して講義を行います。また、必要に応じて実技を交えながら課題についてグループや個人で考え討論し、発表を実施します。

【一般教育目標(GIO)】

・ 発達障害児・者の検査方法・評価を理解する。
・ 感覚統合療法の理論を実技を通して理解する。

【行動目標(SBO)】

・ 発達障害児・者に適切な検査・評価が選択できる。
・ 感覚統合療法の実際の場面をビデオ等でみる、もしくは現場を体験し、その目的を理解できる。

【教科書・リザーブドブック】

・資料を随時、配布します。

【参考書】

・日本作業療法協会　作業療法全書「発達障害」改定最新版. 協同医書出版

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含みません。成績評価は期末試験および発表内容等で総合的に評価します。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		90			10				100
評価指標	取り込む力・知識	60							60
	思考・推論・創造の力	30							30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力				5				5
	学修に取り組む姿勢				5				5

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	・オリエンテーション ・発達障害とは	講義	小児科学の履修内容を復習しておく	15分
2	・感覚統合とは	講義	生理学の感覚、発達障害評価学の履修内容を復習しておく	15分
3	・発達障害の評価（臨床観察、JSI-R、JPAN等）	講義	発達障害評価学の履修内容を復習しておく	15分
4	・発達障害の評価の実際(VTR視聴による評価の演習)	演習	発達障害の評価を復習しておく	15分
5	・感覚統合理論に基づいた治療の考え方	講義	発達障害の評価を復習しておく	10分
6	・発達障害の治療の実際（治療体験）	演習	感覚統合理論を復習しておく	10分
7	・症例検討	演習　発表	感覚統合理論を復習しておく	10分
8	・まとめ	講義	感覚統合理論を復習しておく	10分

リハビリテーション学科

【科目名】	作業療法技術学Ⅳ（音楽療法）			【担当教員】 大竹　孔三
【授業区分】	専門分野(特論)	【授業コード】	6-37-2130-0-2	(メールアドレス)
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	soundingjoyjp@gmail.com
【単位数】	1	【コマ数】	8 コマ	(オフィスアワー) 授業開校日時に非常勤控室で対応

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

特になし

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

配布された資料の復習を行ってください。

【講義概要】

(目的)

精神障害者・発達障害児（者）・高齢者に共通して有効な「音楽療法」を神経学や心理学、音楽理論の観点から検証し、各疾患への技術の習熟を目的とする。また、音楽療法セッションプログラム立案を通し、現場で音楽療法の要素を応用できる力を養う。

(方法)

音楽療法の理論と実技を交えた講義を中心とする。終盤には、グループに分かれてセッション計画を立案し、発表する。

【一般教育目標(GIO)】

・ 各種の音もしくは音楽が人にもたらす利点と欠点を知る。
・ その利点と欠点を神経学や心理学、音楽理論の観点から検証し、各疾患へのより良い音楽の提供方法を知る。

【行動目標(SBO)】

・ 理論について学ぶと共に、実際にいくつもの種類の音楽を体感し、音楽療法について説明できる。
・ 実際に音楽療法が使われている病院や施設の症例を客観的に検証できる。音楽療法セッションのプログラムを立案できる。

【教科書・リザーブドブック】

講義の内容に合わせて、プリントを配布します。

【参考書】

必要に応じて指示します。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は、本学学則規程の GPA 制度に従う。出席点は評価に含まない。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				60	30			10	100
評価指標	取り込む力・知識			30					30
	思考・推論・創造の力			30					30
	コラボレーションとリーダーシップ				10				10
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢				10			10	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2	・オリエンテーション ・音楽療法について 　定義，歴史，特性，対象者と目標 等	講義・演習		
3・4	・子どもの音楽療法 ・高齢者の音楽療法	講義・演習		
5・6	・リハビリテーション・精神科・心療内科の音楽療法 ・緩和ケア・NICV・その他の音楽療法	講義・演習		
7・8	・まとめ・音楽療法プログラム立案 ・グループ発表	講義・演習		

リハビリテーション学科

【科目名】	作業療法技術学Ⅵ（精神障害）			【担当教員】	長谷川　裕
【授業区分】	専門分野(特論)	【授業コード】	4-26-1040-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	長谷川裕〈hasegawa.y@nur05.onmicrosoft.com〉	
【単位数】	1	【コマ数】	8コマ	(オフィスアワー)月曜～木曜、13:00～13：20	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

精神医学、精神障害に関する科目を修得していること。
（※この科目は実務経験者対応科目である。）

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

試験結果は他に支障のない限り返却します。
試験結果について必要に応じて解説を行います。

【講義概要】

(目的)

精神障害作業療法に関する総合的な理解力を身につけること。
当該科目と学位授与方針等との関連性;0-1

(方法)

統合失調症を初めとする各精神疾患及び、それらに対する作業療法の知識を総合的に学ぶ。

【一般教育目標(GIO)】

この科目を履修する者は、代表的な精神疾患に対する作業療法への理解を深めるために、問題演習を通して知識の整理と定着を図る。

【行動目標(SBO)】

この科目を履修する者は、図書、文献を使い、疑問点を自ら解決していくことができる。
調べた内容を記述し、まとめを作成して理解を深めていくことができる。

【教科書・リザーブドブック】

【参考書】

適宜プリント類を配布する。
精神障害作業療法に関する参考書すべて。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のＧＰＡ制度に従う。
出席点は評価に含みません。
成績評価は期末試験及び小テストにより総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		60	30					10	100
評価指標	取り込む力・知識	40	20						60
	思考・推論・創造の力	20	10						30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	オリエンテーション、問題演習	講義、演習	精神疾患についての学習	60
2～4	問題演習（精神疾患）、小テスト	演習	課題の復習	60
5～8	問題演習（精神障害作業療法）、小テスト	演習	課題の復習	60

リハビリテーション学科

【科目名】	作業療法技術学Ⅶ（特別支援教育）			【担当教員】 小林　郁
【授業区分】	専門分野(特論)	【授業コード】	4-26-1045-0-2	(メールアドレス)
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	8コマ	(オフィスアワー)講義日、非常勤講師控室にて対応

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

発達障害分野・特別支援教育に興味のある学生。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

教員からの話題提供及び体験、教員、学生とのディスカッションを行う。

【講義概要】

(目的)

作業療法の新しい分野「特別支援教育」における作業療法について学ぶ。
特別支援教育分野での作業療法士としての介入の方法について、実践例を通して学修することを目的とする。

(方法)

まず特別支援教育についての理解を深めた後に、各教育分野での障害特性について考え、生活実態や年齢に即した学校での作業療法士としての支援のあり方について、ディスカッションをまじえながら、導き出すことができるようにする。

【一般教育目標(GIO)】

特別支援学校の役割を知り、特別支援教育分野での作業療法士としての支援について理解を深める。

【行動目標(SBO)】

特別支援学校で働く作業療法士の仕事のイメージができる。
支援の必要な子どもや教員への具体的な支援がイメージできる。
支援学校の中での子どもの生活や実態を理解し、支援学校教員の支援について、ディスカッションできる。

【教科書・リザーブドブック】

適宜、資料を配付する。

【参考書】

講義の中で適宜紹介する。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規程のGPA制度に従う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				40	60				100
評価指標	取り込む力・知識			20					20
	思考・推論・創造の力			20					20
	コラボレーションとリーダーシップ				20				20
	発表力				20				20
	学修に取り組む姿勢				20				20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	オリエンテーション 教育について 特別支援学校について 学校で働く作業療法士として求められること	講義	発達障害作業療法の復習をしておくこと	60
2	学齢期の支援学校の子どもの発達と支援について	講義・実技とディスカッション	課題論文を読んでおくこと	60
3	障害別の支援学校の子どもたちについて　1 ・肢体不自由	講義・実技とディスカッション	課題論文を読んでおくこと	60
4	障害別の支援学校の子どもたちについて　2 ・視覚障害 ・聴覚障害	講義・実技とディスカッション	課題論文を読んでおくこと	60
5	障害別の支援学校の子どもたちについて　3 ・知的障害	講義・実技とディスカッション	課題論文を読んでおくこと	60
6	特別支援学校の子どもを取り巻く環境について ・福祉制度等	講義・実技とディスカッション	課題論文を読んでおくこと	60
7	特別支援学校を卒業した子どもたちについて 特別支援学校に入る前の子どもたちについて ・子どもから大人までの切れ目のない支援	講義・実技とディスカッション	課題論文を読んでおくこと	60
8	まとめ	講義	課題論文を読んでおくこと	60

リハビリテーション学科

【科目名】	作業療法技術学Ⅷ（予防的リハビリテーション）			【担当教員】 藤本　聡
【授業区分】	専門分野(特論)	【授業コード】	4-26-1050-0-2	(メールアドレス)
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	fujimoto.s@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	8コマ	(オフィスアワー) 月～木曜　13時～138時30分

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・予防的リハビリテーションに興味があり、積極的にグループワークに参加できる学生。
・この科目は実務経験者対応科目である。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・遅刻は授業開始後20分まで、早退は終了20分前まで、それ以上の遅刻、早退はすべて欠席扱いとなる。
・試験・レポートのフィードバックは、必要に応じて行う。
・事例を元に、予防的リハビリテーションについて討議や発表を行う。
・認知症カフェに参加する。

【講義概要】

(目的)

・作業療法の新しい分野「予防的リハビリテーション」における作業療法について学ぶ。
・地域リハビリテーションにおける対象者への介入を学生と一緒に考えながら学修することを目的とする。
・当該科目と学位授与方針等との関連性；　0-1,2

(方法)

・老年期障害について、国家試験の過去問題の演習を行うことで、理解を深める。
・加齢や疾患の進行、治療の結果が原因として生じることが予測される障害とは何か、講義・演習を行う。
・実践例を紹介し、事例の良い点・改善点について、ディスカッションすることで予防的リハビリテーションについて理解を深める。
・認知症カフェに参加し、認知症の予防について理解を深める。

【一般教育目標(GIO)】

・老年期障害について、国家試験の過去問題を通して理解を深める。
・予防的リハビリテーションについて、実践例を紹介し、理解を深める。

【行動目標(SBO)】

・認知症カフェの意義について説明ができる。
・予防的リハビリテーションについて理解して、実施できるようにする。
・実践例などを視聴し、参考にできることなどを、教員、学生とディスカッションを行うことができる。

【教科書・リザーブドブック】

適宜資料を配布する。

【参考書】

適宜資料を配布する。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・出席点は評価に入りません。
・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。
・講義への参加態度、ディスカッションの状況、レポート、小テストの結果など総合的に判断する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合			60	20			20		100
評価指標	取り込む力・知識		30	10					40
	思考・推論・創造の力			10					10
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢		30				20		50

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1,2	オリエンテーション 予防的リハビリテーションについての概論 老年期障害について 認知症の施策について	講義、演習	オリエンテーションで提示 授業内容の復習	60
3,4	認知症カフェに参加して、カフェの運用方法について理解する。	講義、演習	テーマについて予習	60
5,6	加齢や疾患の進行、治療の結果が原因として生じることが予測される障害とは何か？	講義、演習	テーマについて予習	60
7	事例を視聴し、事例を通して、予防的リハビリテーションを学ぶ。 事例の取り組みを理解し、良い点についてまとめる。ディスカッションを行い、理解を深める。	視聴覚教材の視聴と演習 グループワーク	テーマについて予習	60
8	老年期障害についての演習、小テスト	演習、テスト	テーマについて予習	60

リハビリテーション学科

【科目名】	チャレンジゼミⅠ			【担当教員】	長谷川　裕
【授業区分】	専門分野(特論)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	hasegawa.y@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー)月曜日～木曜日　13:00～13:25	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・この科目は、課題を自ら見つけ、それに自発的に取り組む姿勢が求められる。
・この科目は、大学院進学を目標とする学生が受講することが望ましい。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・この科目では、英語の文献を読むため、英文の読解力が必要とされます。
・ゼミ出席は「学修研修手帳」に記録し担当教員の捺印をもらうこと

【講義概要】

(目的)

知的好奇心、疑問を具体化させ明らかにする過程を体験し、知的活動の面白さを体験することを目的とする。
当該科目と学位授与方針等との関連性:A-3、O-3

(方法)

ゼミ形式で行う。それまでに学んだ科目、或いは、ゼミ担当教員から提示された領域から教員の指導のもとで、学生自身が興味、関心、疑問を持った課題を見つけ出す。見つけ出した課題について理解を深めると共に、課題に関する解決の方法を考える。

【一般教育目標(GIO)】

ゼミ担当教員の指導を受けながら、興味・関心のある領域、テーマを見つけ出す。それに関わる研究論文、書籍を見つけ出しその内容をまとめ、人に伝える。

【行動目標(SBO)】

・研究テーマに関わる文献を検索することが出来る。
・文献の内容を理解しまとめ、人に説明することが出来る。

【教科書・リザーブドブック】

特になし

【参考書】

特になし

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。
・出席点は評価に含みません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				50	40			10	100
評価指標	取り込む力・知識			25	15				40
	思考・推論・創造の力			25	15				40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1,2	オリエンテーション（4文献検索方法、図書館の活用等）	講義 ゼミ担当教員	講義内容の復習を行うこと。q	30分
3-10	ゼミ活動（文献検索、収集、文献精読など）	ゼミ担当教員	講義内容の復習、次回までの課題を行う。	60分
11-14	ゼミ活動（発表用意資料作成など）	ゼミ担当教員	講義内容の復習、次回までの課題を行う。	60分
15	発表	ゼミ担当教員、専攻教員	課題発表の準備を行う。	60分

リハビリテーション学科

【科目名】	チャレンジゼミⅡ			【担当教員】	長谷川　裕
【授業区分】	専門分野(特論)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	hasegawa.y@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー)月～木　13：00～13：20	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・この科目は、課題を自ら見つけ、それに自発的に取り組む姿勢が求められる。
・この科目は、大学院進学を目標とする学生が受講することが望ましい。
・この科目は、チャレンジゼミⅠを受講していることが望ましい。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・この科目では、英語の文献を読むため、英文の読解力が必要とされます。
・ゼミ出席は「学修研修手帳」に記録し担当教員の捺印をもらうこと

【講義概要】

(目的)

具体化させた知的好奇心、疑問を明らかにする過程を体験し、知的活動の面白さを体験することを目的とする。
当該科目と学位授与方針等との関連性:A-3、O-3

(方法)

ゼミ形式で行う。チャレンジゼミⅠで得られた課題及びその解決方法を用いて、課題の学習を進めレポートを作成する。

【一般教育目標(GIO)】

ゼミ担当教員の指導を受けながら、学生が見つけ出した課題について、関連する研究論文、書籍を用いてレポートを作成することができる。

【行動目標(SBO)】

・研究テーマに関わる文献を検索し、その内容を理解することが出来る。
・研究テーマに沿った、研究論文、書籍の内容をまとめ、論文を作成する。

【教科書・リザーブドブック】

特になし

【参考書】

特になし

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。
・出席点は評価に含みません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				50	40			10	100
評価指標	取り込む力・知識			25	15				40
	思考・推論・創造の力			25	15				40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1,2	オリエンテーション（ゼミ活動の進め方、テーマ・進捗状況の確認等）	ゼミ担当教員	講義内容の復習を行うこと。	60
3-10	ゼミ活動（文献検索、収集、文献精読など）	ゼミ担当教員	講義内容の復習、次回までの課題を行う。	60
11-14	ゼミ活動（発表用意資料作成など）	ゼミ担当教員	講義内容の復習、次回までの課題を行う。	60
15	発表	ゼミ担当教員、専攻教員	課題発表の準備を行う。	60

リハビリテーション学科

【科目名】	チャレンジゼミⅢ			【担当教員】
【授業区分】	専門分野(特論)	【授業コード】		(メールアドレス)
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	hasegawa.y@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー)月～木　13：00～13：20

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・この科目は、課題を自ら見つけ、それに自発的に取り組む姿勢が求められる。
・この科目は、大学院進学を目標とする学生が受講することが望ましい。
・この科目は、チャレンジゼミⅠ、Ⅱを受講していることが望ましい。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・この科目では、英語の文献を読むため、英文の読解力が必要とされます。
・ゼミ出席は「学修研修手帳」に記録し担当教員の捺印をもらうこと

【講義概要】

(目的)

知的好奇心、疑問を具体化させ明らかにする過程を体験し、知的活動の面白さを体験することを目的とする。
当該科目と学位授与方針等との関連性:A-3、O-3

(方法)

ゼミ形式で行う。作業療法に関する文献の検索、抄読を行い、自ら作業療法に関する専門知識を深めていく。

【一般教育目標(GIO)】

ゼミ担当教員の指導を受けながら、作業療法から興味・関心のある領域、テーマを見つけ出す。それに関わる研究論文、書籍を見つけ出しその内容をまとめ、人に伝える。

【行動目標(SBO)】

・研究テーマに関わる文献を検索し、その内容を理解することが出来る。
・研究テーマに沿った、研究論文、書籍の内容をまとめ、論文を作成する。

【教科書・リザーブドブック】

特になし

【参考書】

特になし

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。
・出席点は評価に含みません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				50	40			10	100
評価指標	取り込む力・知識			25	15				40
	思考・推論・創造の力			25	15				40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1,2	オリエンテーション（ゼミ活動の進め方、テーマ・進捗状況の確認等）	ゼミ担当教員	講義内容の復習を行うこと。	60
3-10	ゼミ活動（文献検索、収集、文献精読など）	ゼミ担当教員	講義内容の復習、次回までの課題を行う。	60
11-14	ゼミ活動（発表用意資料作成など）	ゼミ担当教員	講義内容の復習、次回までの課題を行う。	60
15	発表	ゼミ担当教員、専攻教員	課題発表の準備を行う。	60

リハビリテーション学科

【科目名】	卒業研究			【担当教員】	澁井　実
【授業区分】	専門分野(特論)	【授業コード】	4-26-1055-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	通年(前期)	【選択必修】	選択	shibui@nur.ac.jp	
【単位数】	3	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 火～木、12：40～13：30	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

原則として、該当する学生は全員履修することとする。
この科目は、実務経験者対応科目である。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

指導教員の元で、研究計画書の作成、研究の実施、論文の作成、発表を行うこと。

【講義概要】

(目的)

修学期間の大成として、卒業年度に開講する。これまでに修得した演習・実習・学習の中で生じた疑問点や問題点に対して、科学的に検討し、疑問の答えを導くことを目的とする。
当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1,2,3 O-1,2,3

(方法)

専攻の専任教員の指導を受け、研究という形で、自身の作業療法に関する疑問を明確にし、疑問を解決する。具体的には、研究計画書を作成し、計画書に沿って文献検索・調査・実験等を行い、疑問の解決へと導く。導き出された結果を、要旨作成および学内発表をもって公にする。

【一般教育目標(GIO)】

研究とは何かを理解する。
研究計画書の作成について修得する。
研究の進め方について修得する。
得られた結果をまとめ考察することを修得する。

【行動目標(SBO)】

指導教員の元で、研究計画書の作成、研究の実施、論文の作成、発表を行うことができる。

【教科書・リザーブドブック】

指導教員から適宜示される

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。
指導教員（主査）６０％、副査４０％の合計で評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合					100				100
評価指標	取り込む力・知識				30				30
	思考・推論・創造の力				30				30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力				20				20
	学修に取り組む姿勢				20				20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	オリエンテーション ・テーマ希望作成 ・指導教員決定	講義	各自、自身の興味がある分野やテーマをテーマ希望用紙に記入し、担当教員へ提出する。	
2	・研究計画書の作成 ・倫理審査申請書の作成	演習	各指導教員に従い、規定様式にて書類作成に当たる。提出期限は後日発表する。	
3	・研究計画書の作成 ・倫理審査申請書の作成	演習	各指導教員に従い、規定様式にて書類作成に当たる。提出期限は後日発表する。	
4	・研究計画書の作成 ・倫理審査申請書の作成	演習	各指導教員に従い、規定様式にて書類作成に当たる。提出期限は後日発表する。	
5	・研究計画書の作成 ・倫理審査申請書の作成	演習	各指導教員に従い、規定様式にて書類作成に当たる。提出期限は後日発表する。	
6	研究計画発表	発表	・発表時間：7分 ・発表形式：パワーポイントにて発表する。 ・発表時期：適宜お知らせ	
7	研究計画発表	発表	・発表時間：7分 ・発表形式：パワーポイントにて発表する。 ・発表時期：適宜お知らせ	

リハビリテーション学科

【科目名】	卒業研究			【担当教員】	澁井　実
【授業区分】	専門分野(特論)	【授業コード】	4-26-1055-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	通年(後期)	【選択必修】	選択	shibui@nur.ac.jp	
【単位数】	3	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 火～木、12：40～13：30	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

原則として、該当する学生は全員履修することとする。
この科目は、実務経験者対応科目である。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

指導教員の元で、研究計画書の作成、研究の実施、論文の作成、発表を行うこと。

【講義概要】

(目的)

修学期間の大成として、卒業年度に開講する。これまでに修得した演習・実習・学習の中で生じた疑問点や問題点に対して、科学的に検討し、疑問の答えを導くことを目的とする。
当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1,2,3 O-1,2,3

(方法)

専攻の専任教員の指導を受け、研究という形で、自身の作業療法に関する疑問を明確にし、疑問を解決する。具体的には、研究計画書を作成し、計画書に沿って文献検索・調査・実験等を行い、疑問の解決へと導く。導き出された結果を、要旨作成および学内発表をもって公にする。

【一般教育目標(GIO)】

研究とは何かを理解する。
研究計画書の作成について修得する。
研究の進め方について修得する。
得られた結果をまとめ考察することを修得する。

【行動目標(SBO)】

指導教員の元で、研究計画書の作成、研究の実施、論文の作成、発表を行うことができる。

【教科書・リザーブドブック】

指導教員から適宜示される

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。
指導教員（主査）６０％、副査４０％の合計で評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合					100				100
評価指標	取り込む力・知識				30				30
	思考・推論・創造の力				30				30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力				20				20
	学修に取り組む姿勢				20				20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
8	研究実施	演習	各指導教員の指導のもと、研究計画書に基づき、調査・実験・執筆等を進める。	
9	研究実施	演習	各指導教員の指導のもと、研究計画書に基づき、調査・実験・執筆等を進める。	
10	研究実施	演習	各指導教員の指導のもと、研究計画書に基づき、調査・実験・執筆等を進める。	
11	研究実施	演習	各指導教員の指導のもと、研究計画書に基づき、調査・実験・執筆等を進める。	
12	研究実施	演習	各指導教員の指導のもと、研究計画書に基づき、調査・実験・執筆等を進める。	
13	研究実施	演習	各指導教員の指導のもと、研究計画書に基づき、調査・実験・執筆等を進める。	
14	研究実施	演習	各指導教員の指導のもと、研究計画書に基づき、調査・実験・執筆等を進める。	
15	・卒業研究発表 ・卒業研究論文提出	発表	【研究発表会】 ・発表時間：10分 ・発表形式：口述発表（パワーポイントにて発表） ・発表時期：12月上旬	